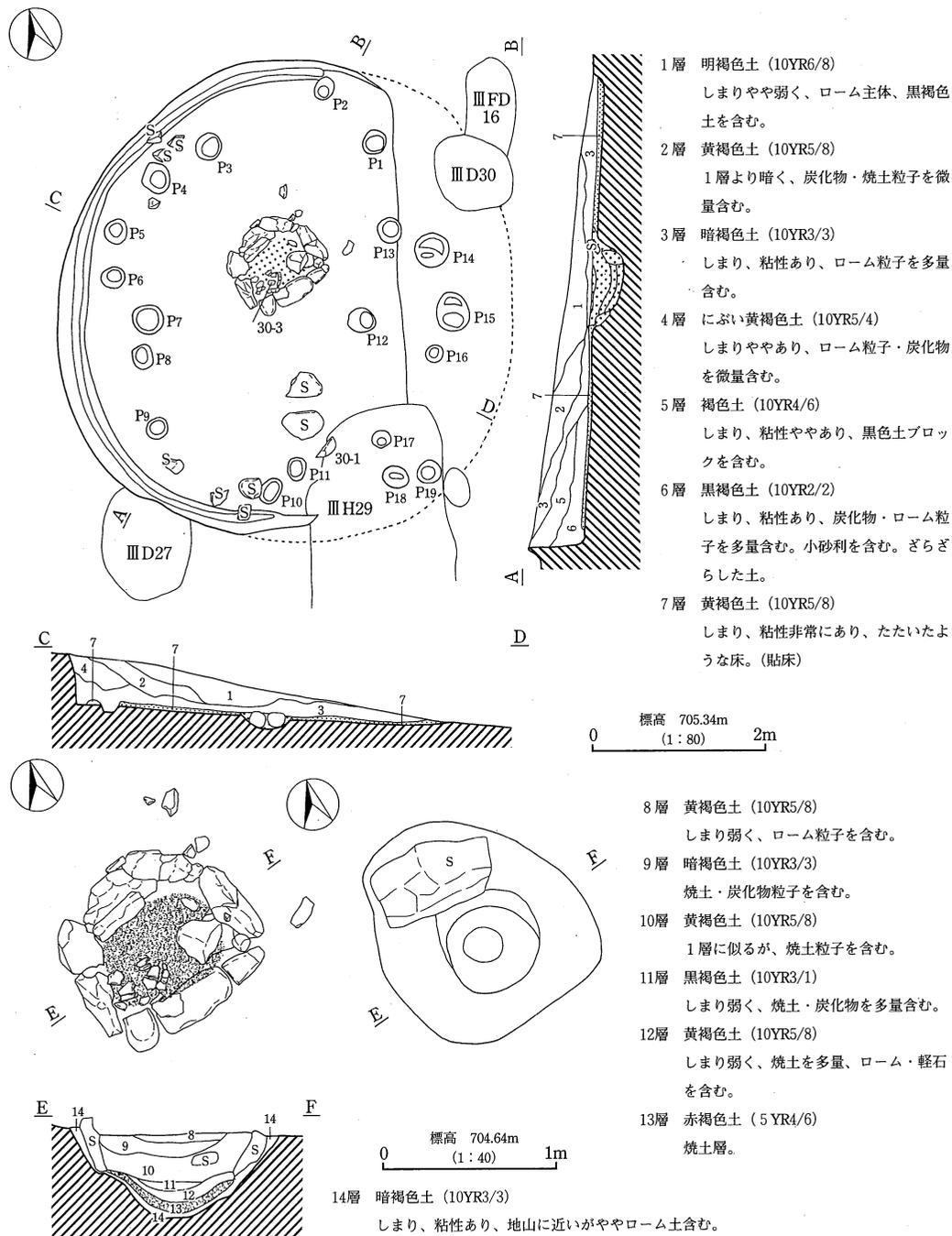


(12)ⅢH30号住居址 (第32~34図、写真図版九)

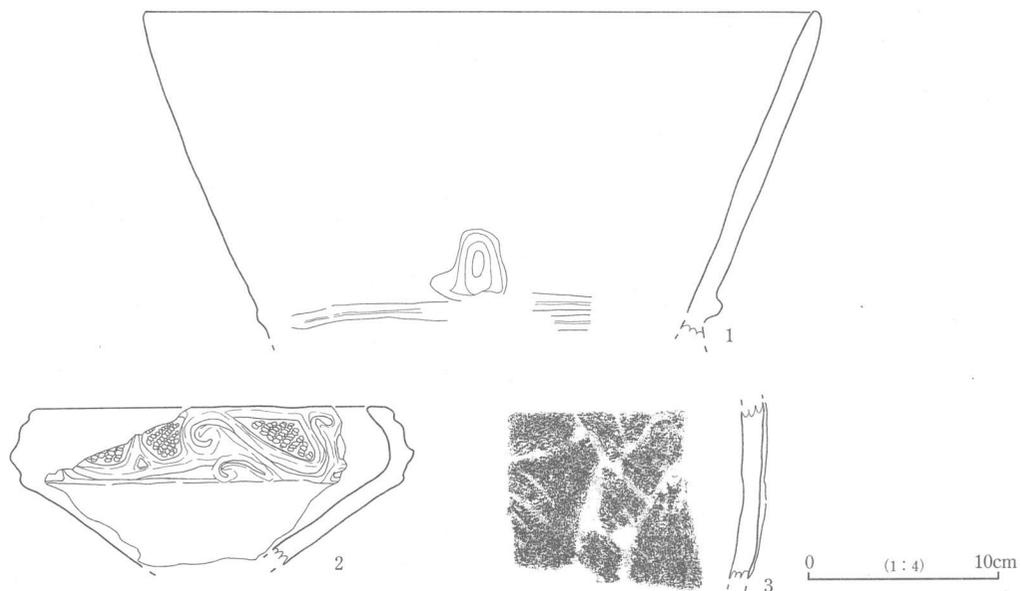
本住居址は、調査区上段の台地中央部であるLーシー4.Lースー3・4.Lーセー3Grに位置する。残存状態は東側半分が地形により削平され、西側半分が「コ」の字状に残るのみであった。



第32図 ⅢH30号住居址実測図

形態はほぼ円形を呈する。炉は住居址中央北よりに検出された。規模は長軸5.5m・短軸3.93m(残存)5.22m(推定)で、壁高さは西側中央で61cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位はN-21°-Eを示す。住居址の床面積は残存で14.7㎡、推定で21.0㎡を測る。床は西側半分が特に硬質であり、厚さ7cmの貼床が薄く施されていた。壁溝は確認された壁全体で検出され、規模は幅17~34cm・深さ13cmで、断面形はU字形を呈する。ピットは19カ所で確認された。規模はP1が径28cm・深さ30cm、P2が径27cm・深さ40cm、P3が径33cm・深さ40cm、P4が径38cm・深さ19cm、P5が径30cm・深さ16cm、P6が径28cm・深さ14cm、P7が径35cm・深さ21cm、P8が径27cm・深さ24cm、P9が径25cm・深さ24cm、P10が径31cm・深さ13cm、P11が径27cm・深さ18cm、P12が径32cm・深さ25cm、P13が径30cm・深さ16cm、P14が径30cm・深さ19cm、P15が径45cm・深さ24cm、P16が径20cm・深さ12cm、P17が径20cm・深さ15cm、P18が径31cm・深さ22cm、P19が径28cm・深さ15cmを測る。

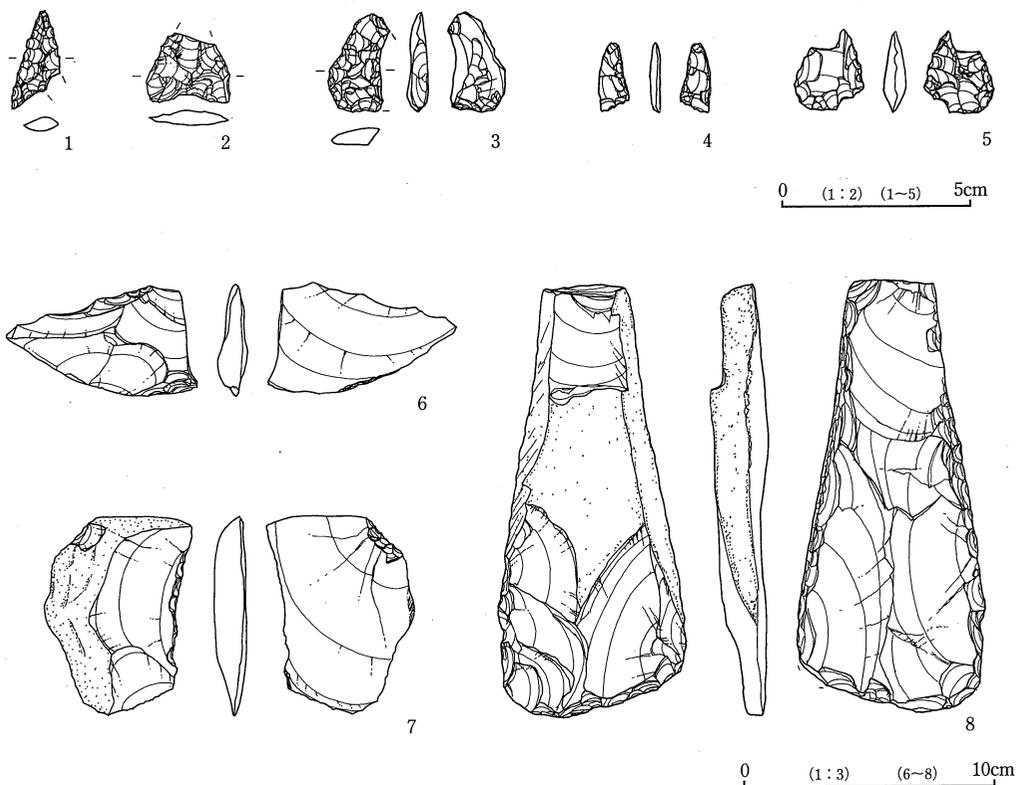
炉は住居址中央北よりに検出された。形態は方形の石囲炉であり、8個の人頭大の自然礫を用いて囲んでいた。石組みの規模は長軸110cm・短軸98cmを測る。炉の火床面は床よりも40cm下で確



第33図 ⅢH30号住居址出土遺物実測図①

挿図番号	器種	法量 (cm)	文様・調整		色調 胎土	備考
			外面	内面		
1	深鉢 口縁部	36.2 <17.4> --	外面	胴部くびれ部に2本の隆帯がめぐり、一部環状につながる	7.5YR 6/6 橙 径1~2mmの長石を多く含む	曾利Ⅱ
			内面	ナデ		
2	深鉢	(19.5) <8.4> --	外面	縄文LRの地文に、渦巻きつなぎ弧文(隆帯・沈線)による区画	7.5YR 6/8 橙 径1~2mmの砂粒を多く含む	加曾利EⅡ
			内面	ナデ		
3	深鉢 胴部	-- <9.4> --	外面	縦位隆帯のわきに斜行する沈線	7.5YR 6/6 橙 径1~2mmの長石を多く含む	
			内面	ナデ		

第17表 ⅢH30号住居址出土遺物観察表①



第34図 III H30号住居址出土遺物実測図②

挿図 番号	器種	法 量(mm・g)				形態	素材	剥 離 方 向	剥離面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
1	石 鏃	19.0	22.0	5.0	0.8	凹基		両 面	平 坦	黒 曜 石	右側カエシ部欠損。
2	石 鏃 ?	18.0	8.5	3.0	1.6	凹基		両 面	平 坦	黒 曜 石	先端部欠損。
3	石 鏃	26.0	13.0	4.0	1.8	平基	横 長	正	平 坦	黒 曜 石	石鏃の未成品?
4	二次加工剥片	26.5	16.5	5.5	0.4			両 面	平 坦	黒 曜 石	石器の断片で、右側辺にはMFが顕著。
5	剥 片	22.0	19.0	6.0	1.7			両 面	平 坦	黒 曜 石	先端部欠損。石匙のミニチュアか?
6	剥 片	44.3	75.8	12.7	26.3		横 長	正	平 坦	安 山 岩 ?	右側欠損。上下端辺に二次加工。
7	剥 片	79.5	59.3	13.5	56.0		横 長			ホルンフェルス	素材端辺をスクレイピングに使用。刃こぼれ顕著。
8	打製石斧	165.8	75.0	22.5	277.9	バチ			平 坦	ホルンフェルス	表面に原礫面を残し、右側面の基部付近は刃潰し加工が顕著。縦斧装着だろう。左側辺に着柄時の摩耗が顕著。

第18表 III H30号住居址出土遺物観察表②

認められ、非常に硬質化していた。炉の掘り方は長軸130cm・短軸118cmの歪な円形となった。

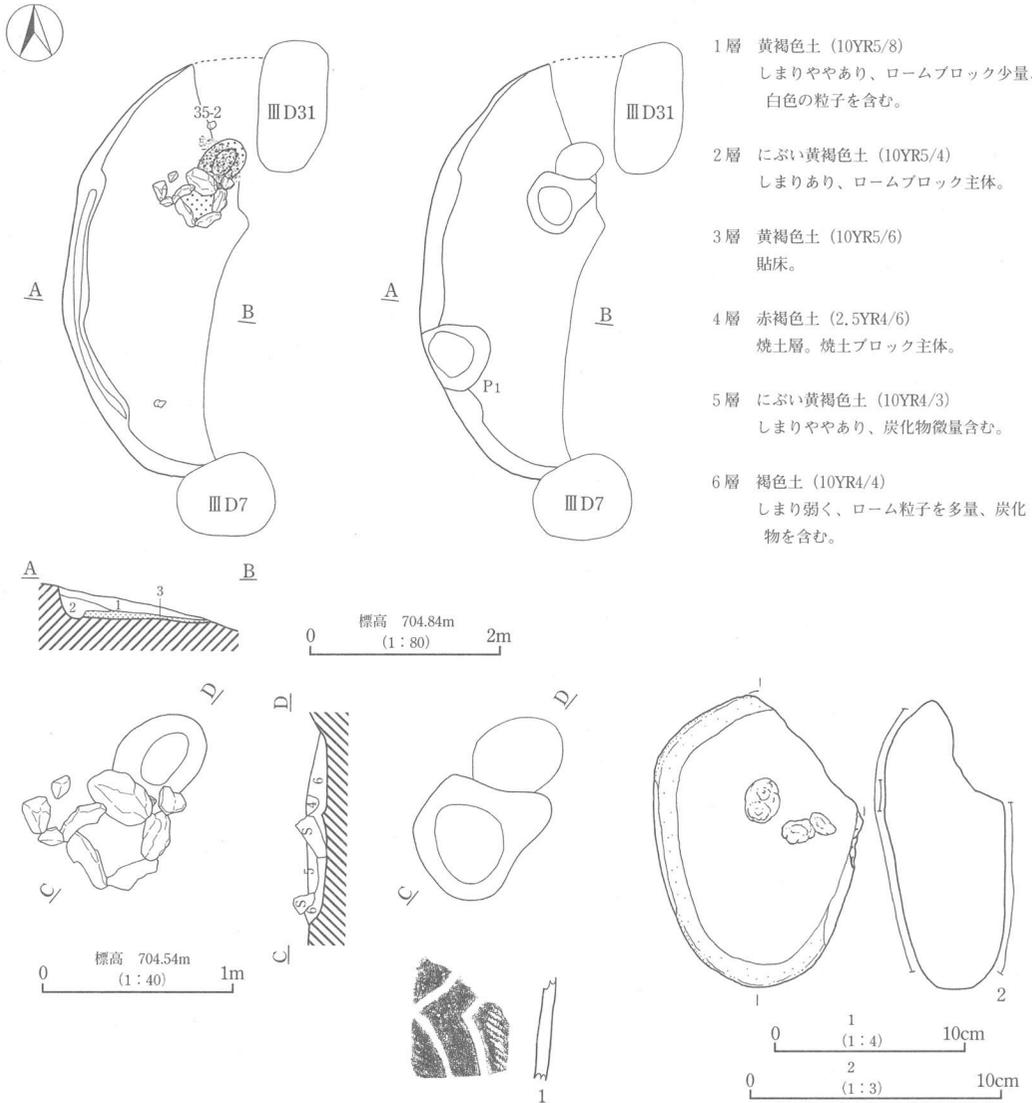
本址からの遺物は覆土及び床面・炉内から出土したが土器に関しては少量であった。図示した土器の出土位置は1がP11脇の床面から、2が炉北側の床面、3が炉内からの出土である。石器類については8がP8脇床面からの出土の他は覆土中からのものである。

これらの遺物より本址は縄文中期後半（加曾利EⅡ平行）に位置づけられると考える。

(13)ⅢH34号住居址 (第35図、写真図版十)

本住居址は、調査区上部台地の東側斜面であるL-シー2、L-セー1・2Grに位置する。残存状態は東側半分が自然地形の傾斜により削平されており、西側半分が「コ」の字状に残るのみであった。

形態はほぼ円形を呈すると考えられる。炉は住居址北壁よりに検出された。住居址規模は西壁5.66m(残存)で、壁高さは西壁中央で32cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位はN-40°-Eを示す。住居址の床面積は残存で4.8㎡を測る。覆土は2層に分れる。床は全体的に硬質



第35図 ⅢH34号住居址及び出土遺物実測図

で、貼床は全体に8cmの厚さで貼られていた。壁溝は西側中央部のみ確認された。規模は幅18～30cm・深さ4cmで、形態は浅いU字形を呈する。ピットは1カ所のみで、規模はP1が径74cm・深さ47cmを測る。炉は住居址北壁よりに検出された。形態は歪な五角形の石囲炉であり、人頭大の礫5つを並べていた。規模は石組み部分で長軸50cm・短軸48cmを測る。この石囲炉内からは焼土は殆ど確認されず、炉北側にある楕円形の掘り込み面に焼土が僅かに検出できた。

本址からの出土遺物のごく僅かで図示した深鉢片と石器類がそれぞれ出土したのみであった。これらの事から本址の帰属時期は不確実ではあるがおおよそ縄文中期後半に位置づけられると考える。

挿図番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
1	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 沈線区画内に縄文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子白色砂粒を少量含む	

挿図番号	器種	法 量 (mm・g)				形態	素材	剥 離 方 向	剥 離 面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
2	磨石+敲石	110.3	84.0	42.0	533.5		長楕円礫			安 山 岩	表面にスリ面が顕著で、表面にタタキ痕あり。右側面には特殊磨石に見られるざらついた機能面がみられる。被熱。

第19表 ⅢH34号住居址出土遺物観察表

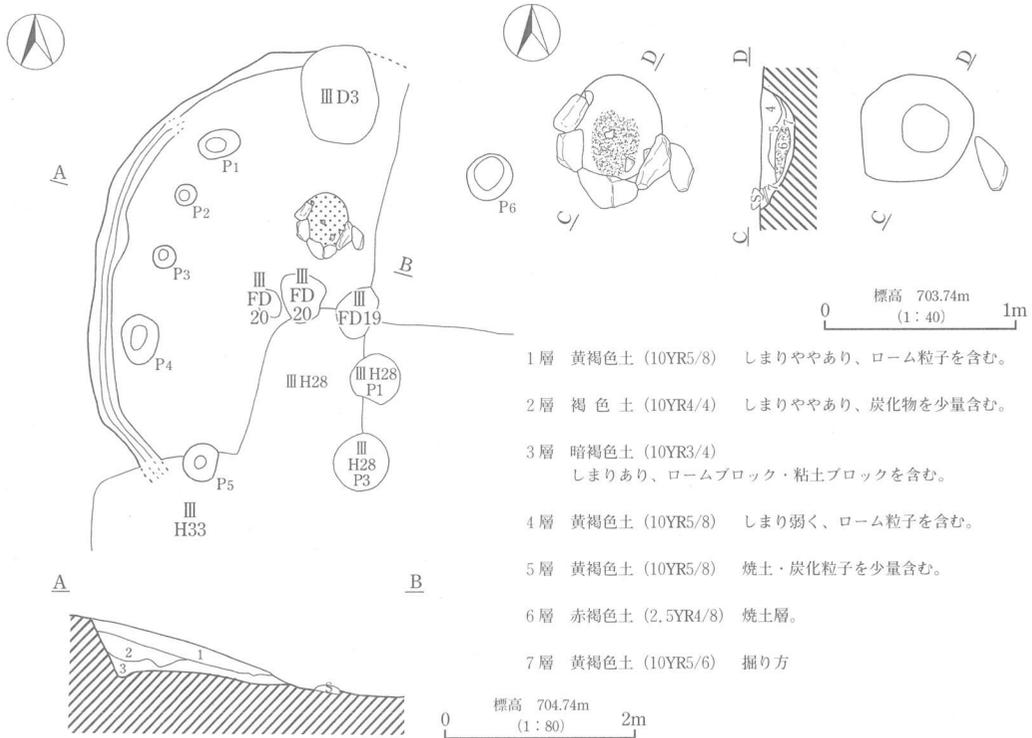
(14)ⅢH35号住居址 (第36～38図、写真図版十一)

本住居址は、調査区最上段の台地北側であるL-セー1・2.L-ソー1Grに位置する。残存状態は東側半分が地形により、南側がⅢH28住居址に削平されている。

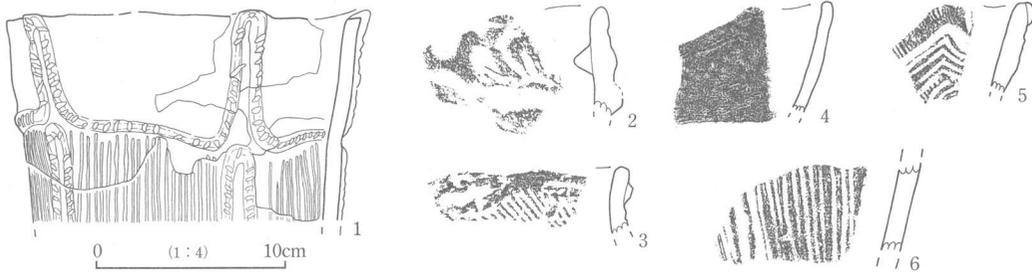
形態はほぼ円形を呈すると考えられる。炉は住居址中央部に検出された。規模は西側長7.10m

挿図番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
1	深 鉢 口縁部	(19.3) <11.3> —	外面 ナデ後、隆帯貼付し、刺突文を隆帯 上に施す。内部を平行沈線で埋める 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子と白色砂粒を多く含む	
2	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 隆帯直下に刺突? 内面 口唇部直下に隆帯	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1～2mmの長石と白色粒子を多く含む	
3	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 集合沈線上に粘土隆帯を貼付 隆帯 上には竹管文を施す 内面 ナデ or ミガキ?	2.5YR 5/8 明赤褐 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
4	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 無文 口縁波状 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子と白色粒子を多く含む	
5	深 鉢 口縁部	— <4.7> —	外面 波状口縁 口唇キャタピラの連続刺 突 胴部山形の平行沈線とキャタピ ラ状の連続刺突を施す 内面 ナデ	2.5YR 4/8 赤褐 径1～2mmの白色粒子を多く含む	初 頭
6	深 鉢 胴 部	— <4.7> —	外面 2本の垂下隆帯と平行沈線を施す 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1～2mmの白色粒子を多く含む	

第20表 ⅢH35号住居址出土遺物観察表①



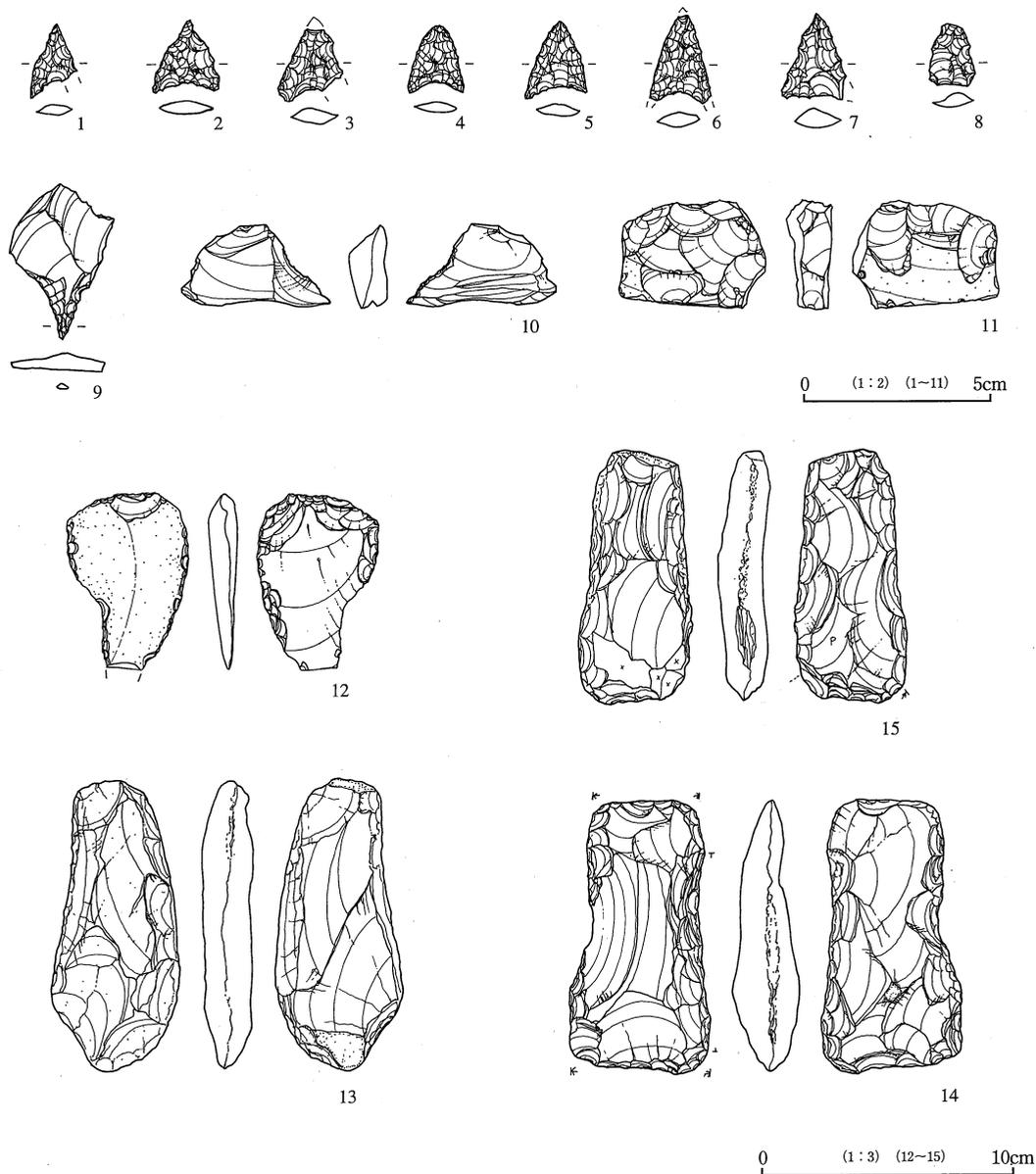
第36図 III H35号住居址実測図



第37図 III H35号住居址出土遺物実測図①

(残存)で、壁高さは南西側で21cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。主軸方位はNを示す。住居址の床面積は残存で8.0㎡を測る。床は全体的に硬質であるが、地山を踏み固めたような床であった。壁溝は西側を中心に確認された。規模は幅17~30cm・深さ13cmを測り、断面形はU字形を呈する。ピットは計6カ所確認された。規模はP1が径46cm・深さ43cm、P2が径22cm・深さ12cm、P3が径24cm・深さ21cm、P4が径53cm・深さ61cm、P5が径41cm・深さ37cm、P6が径52cm・深さ32cmを測る。

炉は住居址中央部で検出された。形態は長軸30cm程の礫を4点使った石囲炉であり、楕円形を呈する。炉規模は石組部分で長軸71cm・短軸57cmを測る。焼土層は床面よりも8cm下で確認され、



第38図 III H35号住居址出土遺物実測図②

よく硬質化していた。

本址からの出土遺物は覆土中からの出土が殆どあり、図示した土器のうち、1が炉内より出土している他は覆土中からの出土である。石器類については6の石鏃が炉内から、9が掘り方より出土している。その他のものについては覆土中からの出土である。

これらの出土遺物より本址は縄文中期後半（曾利I平行）に位置づけられると考える。

挿図 番号	器種	法 量(mm・g)				形態	素材	剥離 方向	剥離 面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
1	石 鏃	20.0	12.0	3.5	0.4	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	先端部とカエシ部一部欠損。裏面平坦。
2	石 鏃	19.0	13.0	3.5	0.8	凹基		両面	平坦	チャート	扱りは浅い。裏面を平坦に加工。
3	石 鏃	20.0	12.0	5.5	1.3	平基		両面	平坦	チャート	基部扱りの剥離がSIの可能性がある。
4	石 鏃	18.0	15.0	3.5	0.6	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	カエシ部欠損。
5	石 鏃	21.0	12.0	4.0	0.8	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	先端部が尖る。
6	石 鏃	23.0	17.0	4.0	1.0	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	先端部欠損。
7	石 鏃	23.0	17.0	6.0	1.7	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	炉跡出土分。先端部、カエシ部欠損。
8	石 鏃	17.0	13.0	4.0	0.7			両面	平坦	黒曜石(茶)	先端部欠損。
9	石 錐	41.0	28.0	6.0	4.3	摘み		両面	急角度	頁 岩	掘り方一括。刃部は断面三角になる。
10	使用痕剥片	29.0	39.0	12.5	5.2					黒曜石(漆黒)	扁平な素材に側面から加工を施す。石器の未成品であろう。
11	石 核	21.5	40.0	11.5	15.3		横 長	反	急角度	黒 曜 石	右側面に素材縁辺に添うように加工を施す。MFが見られる。
12	削 器	47.0	32.5	80.0	35.4		礫 端片	正+反	平坦	頁 岩	素材周縁部に加工がおよぶ。
13	打製石斧	117.0	51.0	14.2	127.8	屈曲		両面		安 山 岩	基部側面の刃潰し顕著。全体がバナナ状に湾曲し、外湾部を刃部とする鈍状のものではないか。
14	打製石斧	110.3	55.5	27.7	143.3	挟入		両面		ホルンフェルス	左側面の扱りが顕著で、摩擦激しい。右側は刃潰し顕著で摩擦も激しい。刃部の刃こぼれが見られる。
15	打製石斧	102.0	45.8	13.5	108.0	短冊		両面		ホルンフェルス	両側面に刃潰し顕著、着柄による摩擦が激しい。刃部がやや傾斜し、刃こぼれが激しい。

第21表 ⅢH35号住居址出土遺物観察表②

(15)ⅢH36号住居址 (第39図)

本住居址は、調査区上段の台地中央であるL-セ-1・2Grに位置する。残存状況は東側が自然地形によって、また南側はⅢH28号住居址に、上部はⅢH35号住居址により削平されている。本址は、西壁際の一部と炉址が確認されたのみでその大部分はH35号住居址と重複関係にある。炉の位置がH35号住居址の炉よりやや南側にずれ、一部H35号住居址石囲炉に覆われていることから、新旧関係を確認してⅢH36号を住居址として把握した。

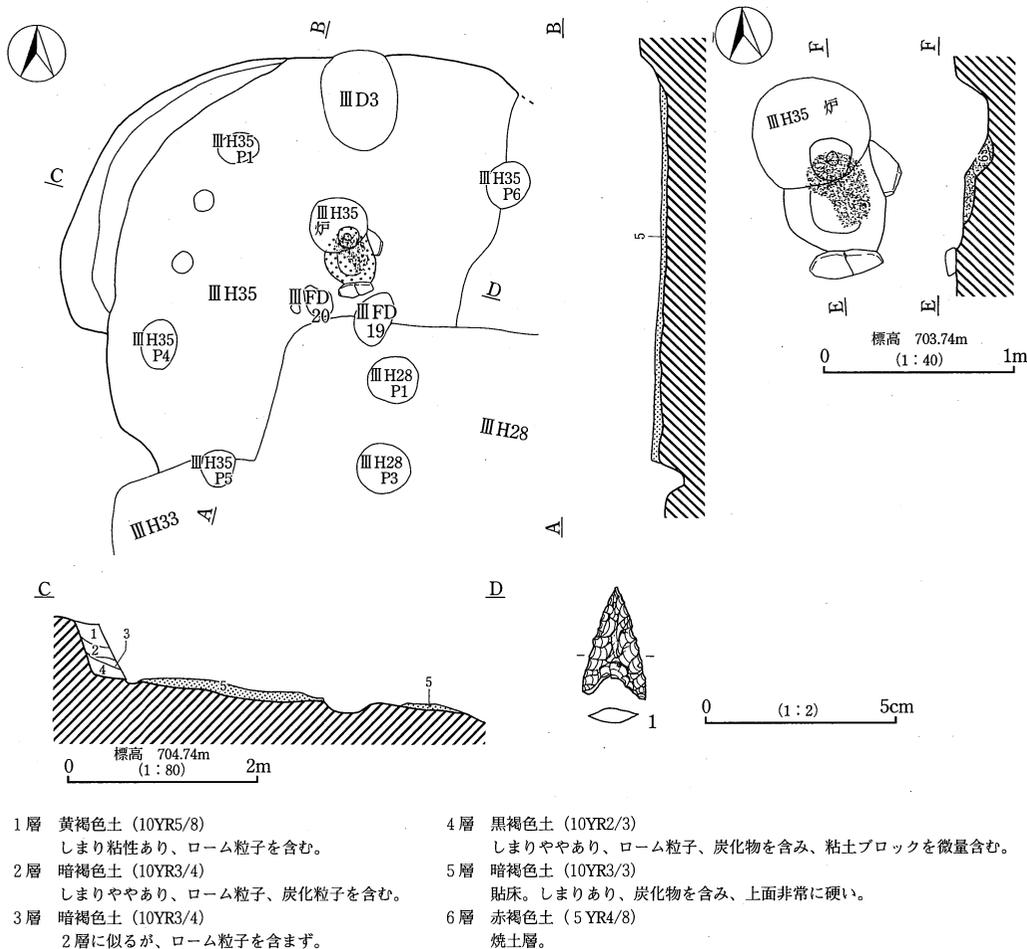
形態はほぼ円形を呈すると考えられる。炉は住居址中央に検出された。規模は西側壁長8.8m(残存)で、壁高さは西壁側で65cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。主軸方位は不明である。住居址の床面積は残存で13.5㎡を測る。覆土は4層に分かれる。床は全体的に硬質であり、一部貼床が確認された。壁溝・ピットは確認されなかった。住居址掘り方は均一であった。

炉は住居址中央に検出された。形態は楕円形の掘り込みを持ち、南側に長軸40cmの扁平な礫を枕石状に設置している。掘り込み面にはやや硬質化した焼土が確認された。

本址の出土遺物は非常に少なく、図示した石鏃1点と縄文土器片2点が出土したのみである。よって本址の帰属時期はⅢH35号住居址(縄文中期後半)よりも古いとする位置づけのみである。

挿図 番号	器種	法 量(mm・g)				形態	素材	剥離 方向	剥離 面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
1	石 鏃	29.0	17.0	4.0	1.1	凹基		両面	平坦	黒 曜 石	基部扱りが深い。

第22表 ⅢH36号住居址出土遺物観察表



第39図 III H36号住居址及び出土遺物実測図

(16) III H37号住居址 (第40図、写真図版八①)

本住居址は、調査区上段台地の中央部であるLーセー2・3Grに位置する。残存状態は東側が自然の地形により削平され、西側部分の一部分しか残存しない。

形態は不整な円形を呈すると考えられる。炉は不明である。規模は北壁側長3.24m(残存)で、壁高さは西側で31cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。住居址の床面積は残存で2.7㎡を測る。床は全体的に硬質であり、貼床が確認された。壁溝は検出されなかった。ピットは2カ所検出された。規模はP1が径40cm・深さ6cm、P2が径40cm・深さ32cmを測る。

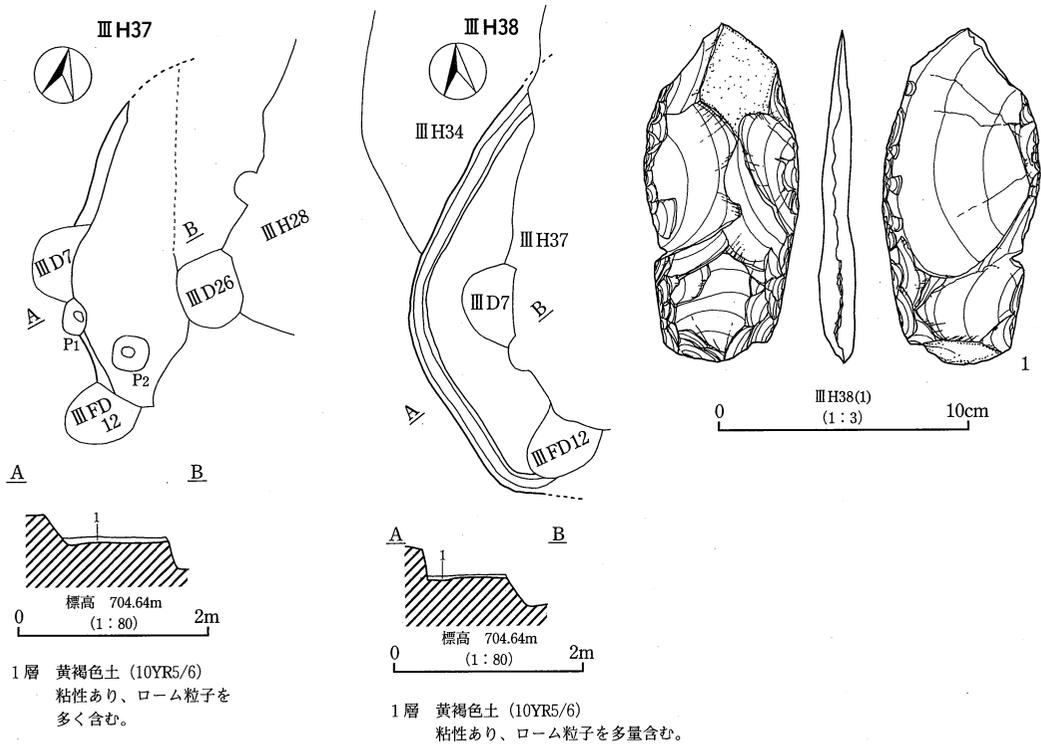
本址からの出土遺物は縄文土器片8点が出土したのみである。土器片はいずれも深鉢片と考えられ、単節縄文のみの模様や、平行沈線を施したものがあり、いずれも中期後半の特徴を持つ。

(17)ⅢH38号住居址（第40図、写真図版八①）

本住居址は、調査区上段台地のほぼ中央であるLーサー2・3.Lーサー2・3Grに位置する。残存状態は東側半分がⅢH37・34号住居址に削平され、住居址西側が「コ」の字状に残るのみである。

形態は不整形を呈すると考えられる。炉は不明である。規模は北壁長5.54m（残存）で、壁高さは西側中央で34cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。住居址の床面積は残存で2.0㎡を測る。床は全体的に軟質であり、貼床が施されていた。壁溝は西側壁全体に確認され、規模は幅16～25cm・深さ9cmであった。ピットは確認されなかった。

本址からの遺物は図示した打製石斧1点の他に6点の縄文土器片が出土したのみである。これら土器片の内1点は繊維を含む物で、その他は褐色の縄文中期後半に特有の胎土をしている。文様の判別できるものはなかった。よって本址の帰属時期は遺物も少量の出土で不確実であるが縄文中期後半と考えられる。



第40図 ⅢH37・38号住居址及び出土遺物実測図

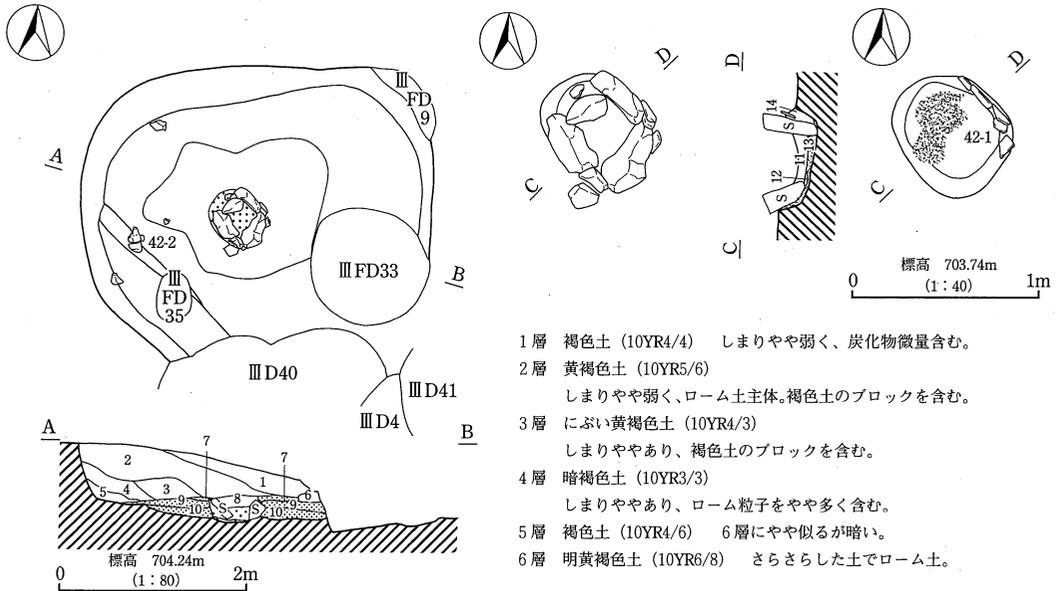
挿図 番号	器種	法 量(mm・g)				形態	素材	剥離 方向	剥離 面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
1	削 器	135.8	63.0	15.0	106.8		横 長	両 面		頁 岩	右側にわずかに使用痕と思われる摩耗が見られる。

第23表 ⅢH38号住居址出土遺物観察表

(18)ⅢH40号住居址 (第41・42図、写真図版十二、十三)

本住居址は、調査区上段の台地北側である H-セー19・20、H-ソー19・20Gr に位置する。残存状態は南側がⅢD40号土坑に、東側がⅢFD33号中世墳墓に削平されている他は良好である。

形態はほぼ円形を呈する。炉は住居址中央に検出された。規模は長軸3.73m・短軸2.90mで、壁高さは西側で58cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位はN-85°-Eを示す。住居址の床面積は検出部分で6.7㎡を測る。床は全体的に硬質であったが、炉周辺は非常に硬化していた。貼床の厚みは21cmを測る。壁溝・ピットは確認されなかった。



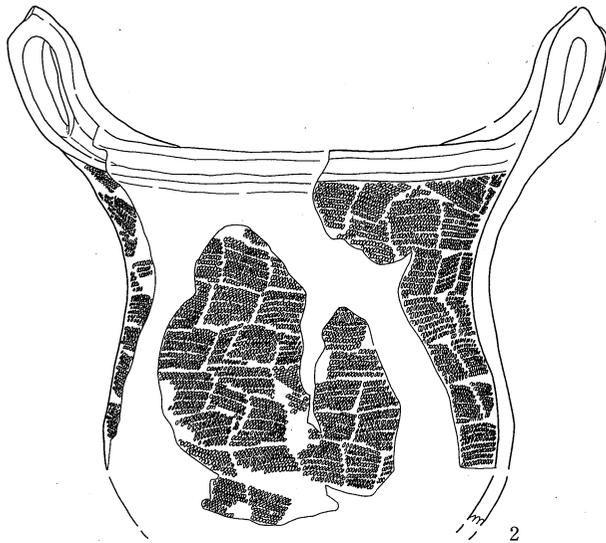
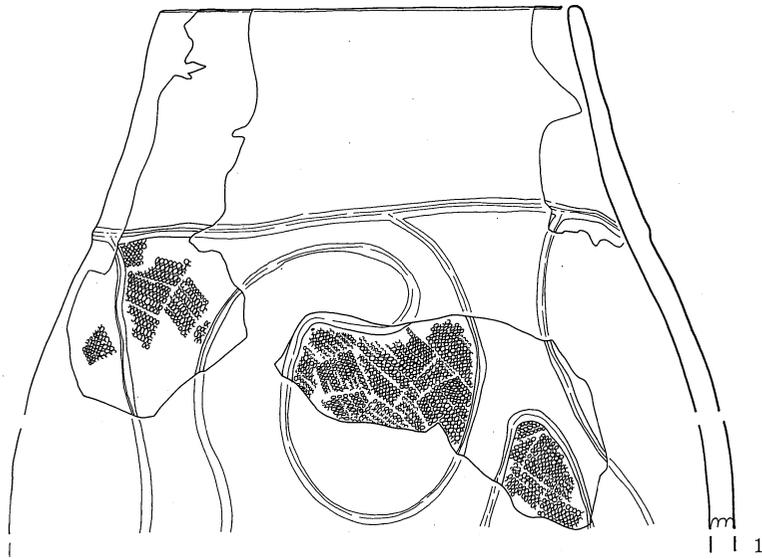
- 1層 褐色土 (10YR4/4) しまりやや弱く、炭化物微量含む。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6) しまりやや弱く、ローム土主体。褐色土のブロックを含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりややあり、褐色土のブロックを含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/3) しまりややあり、ローム粒子をやや多く含む。
- 5層 褐色土 (10YR4/6) 6層にやや似るが暗い。
- 6層 明黄褐色土 (10YR6/8) さらさらした土でローム土。

- 7層 黒褐色土 (10YR3/2) しまりややあり、上面に炭化物を多く含む。(床面)
- 8層 黄褐色土 (10YR5/6) しまり弱く、焼土粒子を微量含む。
- 9層 黄褐色土 (10YR5/6) 貼床。粘性ややあり、褐色土を含み地山に近い。
- 10層 褐色土 (10YR4/4) しまりややあり、焼土、炭化物を含む。
- 11層 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土をブロック状に含む。炭化物・ローム粒子を少量含む。
- 12層 にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 焼土。
- 13層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土・炭化物を含む。
- 14層 暗赤褐色土 (5YR3/2) 焼土少量、炭多量含む。

第41図 ⅢH40号住居址実測図

挿図番号	器種	法量 (cm)	文様・調整 外面・内面	色胎調土	備考	
1	深鉢	(22.0) <27.3> —	外面	渦巻き状の微隆帯区画内に縄文 RL ※煤けている	10YR 7 / 4 にぶい黄橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
			内面	ナデ		
2	深鉢	(25.5) <27.1> —	外面	口縁部に橋状の把手 口唇直下に微隆帯 地文縄文	7.5YR 7 / 6 橙 径1～2mmの赤色粒子と白色砂粒を多く含む	
			内面	ナデ		

第24表 ⅢH40号住居址出土遺物観察表



0 (1:4) 10cm

第42図 III H40号住居址出土遺物実測図

炉は住居址中央部に検出された。形態は長軸40cm程の4つの自然礫を方形に組んだ石囲炉であり、規模は長軸67cm・短軸53cmを測る。また、炉の石組みの外側には図示した1の土器が石に添えるように並べられていた。炉の掘り込みは楕円形で、すり鉢状を呈していた。焼土は硬質化しておらずぼそぼそしていた。

本址よりの出土遺物はさきにも述べたが図示した1の炉体として使用されていた深鉢と西側壁際から出土した2の把手つきの深鉢があった。

これらの出土遺物より本址は縄文中期後半（加曾利EⅣ平行）に位置づけられると考える。

(19)ⅣH12号住居址（第43図、写真図版十四①）

本住居址は、調査区最上段の台地東斜面であるL-ウ-5Grに位置する。残存状態は東側が自然の地形により削平されている。

形態は歪な方形を呈する。炉は不明である。規模は北壁1.44m（残存）・南壁1.52m（残存）・西壁2.25mで、壁高さは西壁中央で22cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。主軸方位は西壁を基準にするとN-34°-Eを示す。覆土は2層に分かれる。住居址の床面積は検出部分で3.3㎡を測る。床は一部に硬質面が確認された。壁溝・ピットは確認されなかった。

本址よりの出土遺物は無く帰属時期も不明であるが、覆土の状態が周辺に広がる縄文前期（諸磯）土坑と似ることから、縄文期と判断した。

(20)ⅣH16号住居址（第43図、写真図版十四②）

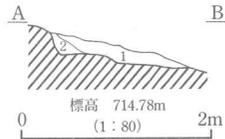
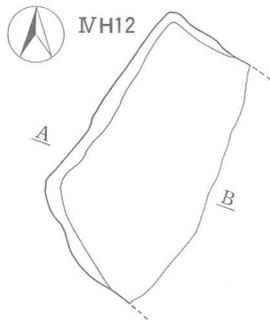
本住居址は、調査区最上段の台地南側であるL-イ-9・10、L-ウ-9・10Grに位置する。残存状態は東側が自然の地形により削平され、西側が「コ」の字状に検出された。

形態は円形を呈すると考えられる。炉は住居址南よりに検出された。規模は検出された壁長が5.8m（残存）で、壁高さは西側で5cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。主軸方位はNを示す。覆土は単層で、炭化物と焼土を多く含む。住居址の床面積は検出部で5.8㎡を測る。床は全体にやや軟質であった。壁溝は確認されなかった。ピットは8カ所が検出された。規模はP1が径20cm・深さ19cm、P2が径40cm・深さ6cm、P3が径22cm・深さ10cm、P4が径26cm・深さ8.5cm、P5が径16cm・深さ10cm、P6が径12cm・深さ11cm、P7が径12cm・深さ13cm、P8が径13cm・深さ13cmを測る。

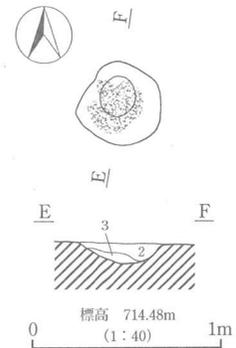
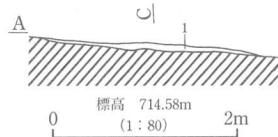
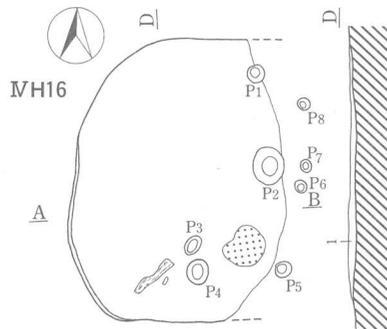
炉は円形の掘り込みを持つ形態で、規模は長軸45cm・短軸43cmを測る。焼土の厚みは5cmを測りやや硬質化していた。

本址よりの出土遺物は覆土中より3点の縄文土器片が出土したのみである。1点は赤褐色で内面が丁寧なナデが施されており諸磯的である。もう1点は胎土が褐色の中期後半の土器片の特徴をもち、地文に単節縄文が施されている。

よって本址の帰属時期は不確実な部分が多いが、周辺部に広がる土坑が前期後半のものが多いことから、これら土坑に関連する時期として捉えておきたい。



- 1層 明黄褐色土 (10YR6/8)
しまり粘性やや弱く、ばさばさしている。
- 2層 褐灰色土 (10YR4/6)
しまり粘性あり。黄色の粒子を含む。粘土化している。

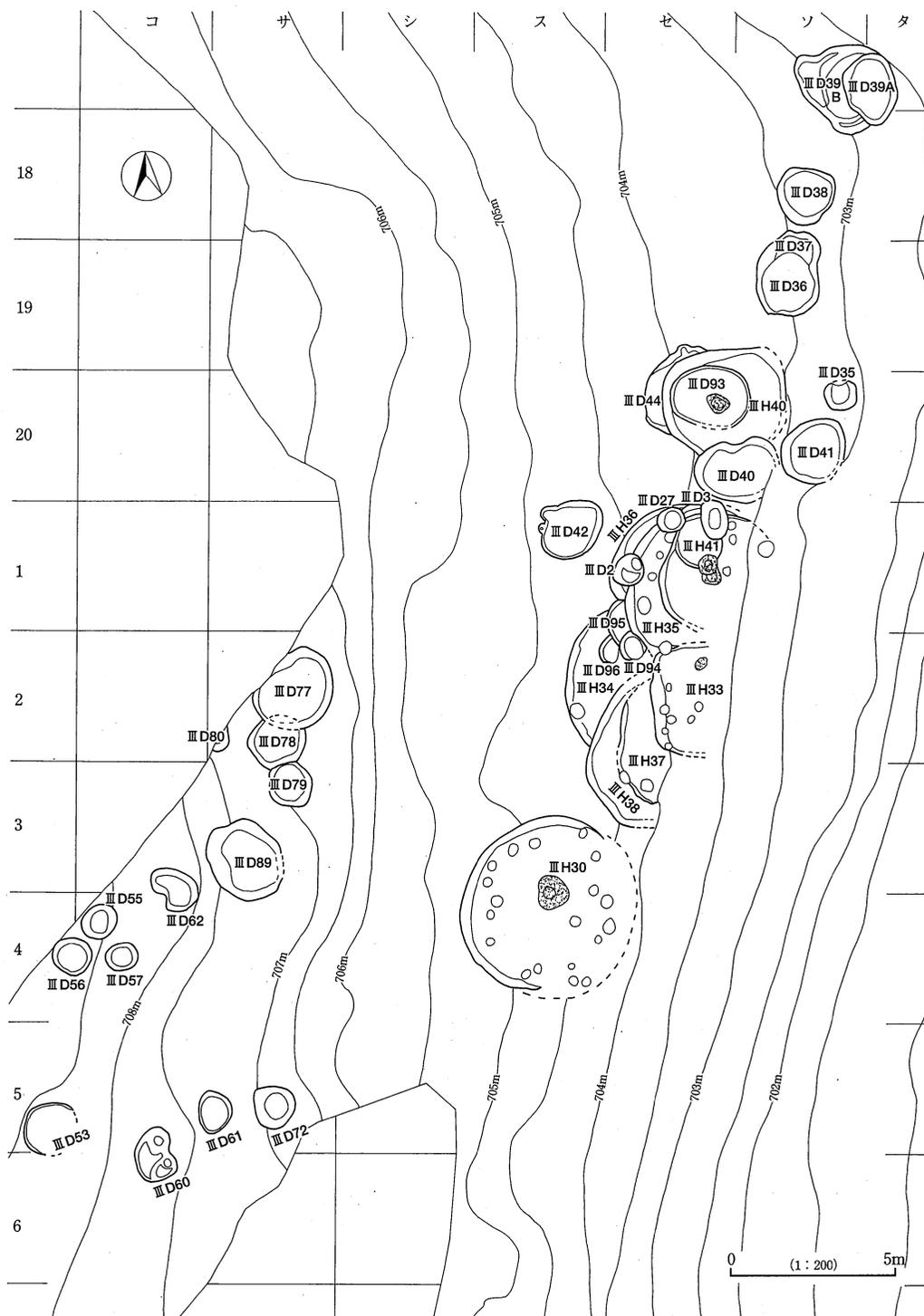


- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性あり、炭化物と焼土粒子を含む。
- 2層 赤黒色土 (2.5YR2/1)
しまり、粘性ややあり。炭化物・焼土粒子を多く含む。
- 3層 赤褐色土 (2.5YR4/8)
しまり、粘性あり。上面よく焼けている。

第43図 IVH12・16号住居址実測図



Ⅲ区縄文時代遺構群全景(南より)



第44図 III区縄文時代遺構全体図

第2節 土坑

本節では縄文時代に帰属する土坑について記載する。時期の認定については調査時の覆土等からの判断を優先し、その他の遺構については出土遺物を加味して決定した。

(1) ID1号土坑 (第45図、写真図版十五①)

本址は、調査区台地先端部の東斜面である G-キー7、G-クー6・7Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-65°-E を示す。規模は長軸1.58m・短軸1.20m・深さ38cmを測る。本址よりの出土遺物は繊維を含む縄文土器片8点と図示した磨製石斧が出土したのみであった。

(2) ID2号土坑 (第45図、写真図版十五①)

本址は、調査区中央台地先端部の東斜面である G-キー7、G-クー7Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-88°-E を示す。規模は長軸1.90m・短軸1.46m・深さ75cmを測る。本址よりの出土遺物は繊維を含む縄文土器片が多数出土しているが図示可能な土器はなかった。また、図示した石鏃1点が出土している。

(3) ID3号土坑 (第45図、写真図版十五①)

本址は、調査区中央台地の先端部である G-カー4Gr に位置する。残存状態は東側を D1号土坑に削平されている。形態は楕円形で、長軸方位は N-88°-E を示す。規模は長軸0.86m (残存)・短軸0.77m・深さ28cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(4) ID4号土坑 (第45図)

本址は、調査区中央台地の先端部である G-カー4Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は方形で、長軸方位は N-64°-E を示す。規模は長軸0.90m・短軸0.84m・深さ39cmを測る。本址よりの出土遺物は中央に人頭大の礫が1点検出された。

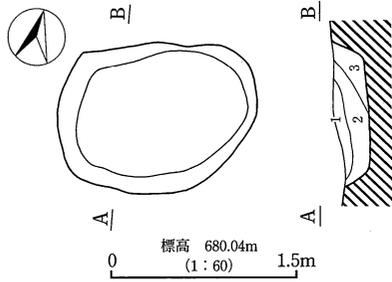
(5) ID6号土坑 (第45図、写真図版十五②)

本址は、調査区中央台地の先端部である G-サー11Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位は N-3°-E を示す。規模は長軸1.42m・短軸1.36m・深さ35cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(6) ID7号土坑 (第46図、写真図版十五③)

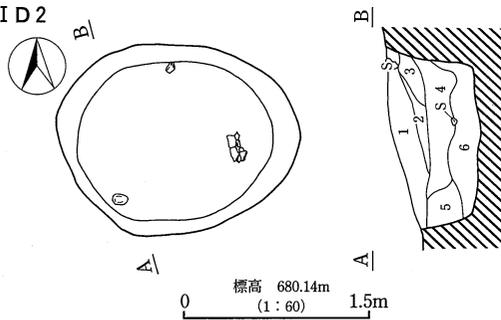
本址は、調査区中央台地の先端部である G-キー13Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-85°-E を示す。規模は長軸1.26m・短軸0.84m・深さ32cmを測る。また本址は中央部に一段深く掘り窪めた円形の落ち込みが確認された。本址からの出土遺物はなかった。

ID1



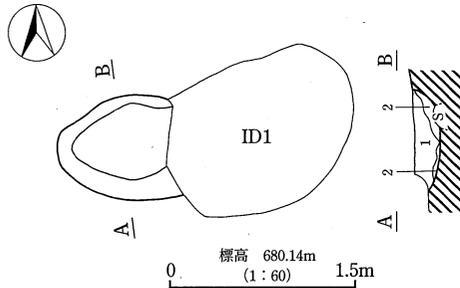
- 1層 褐色土 (10YR4/4)
しまりあり、 $\phi 1 \sim 2$ mmのパミスを多量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりややあり、 $\phi 1 \sim 2$ mmのパミスを含み炭化物を含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまり粘土性あり、パミスが少なくねっとりしている。

ID2



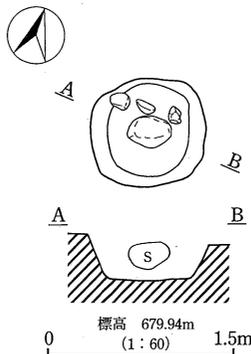
- 1層 灰褐色土 (7.5YR4/2)
しまり非常にあり、白色黄色のパミスを多量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
 $\phi 2 \sim 3$ cmのローム土ブロックを含む。
- 3層 灰褐色土 (7.5YR4/2)
1層に似るがしまりやや弱く、ローム土ブロックを少量含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまり弱く黄色パミスを微量含む。土器片多く含む。
- 5層 褐色土 (10YR4/4)
1層とローム土混合土であるがパミスをほとんど含まない。
- 6層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり弱く、ジャリを多量含む。壁の土とよく似て、崩落土と考えられる。

ID3

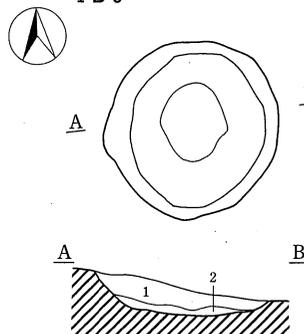


- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりあり、 $\phi 1 \sim 2$ mmの黄色粒子 (パミス) を含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
しまり粘性あり。パミスは少ない。

ID4



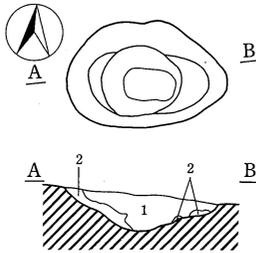
ID6



- 1層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりあり、 $\phi 1 \sim 2$ mmの相浜層の粒子を含む。
白色のパミスをやや多く含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまりやや弱く、粘性ややあり。
黒色の粒子 (パミス) を少量含む。

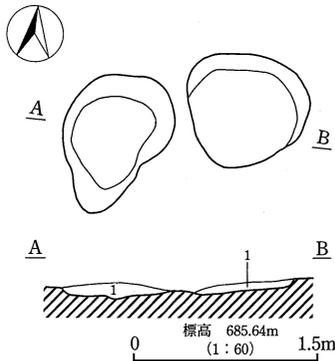
第45図 ID1・2・3・4・6号土坑実測図

I D7



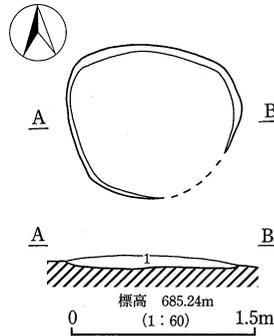
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまり粘性あり、 ϕ 1~2mmの白色のパミスを含む。
土器粉含む。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
地山ローム土の掘り崩れのような土。しまり粘性にとむ。
黒色のパミスを少量含む。

I D11



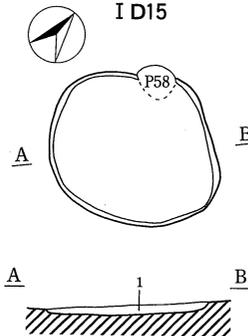
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)
岩盤粒子 ϕ 5mm大、
炭化物を含む。

I D12



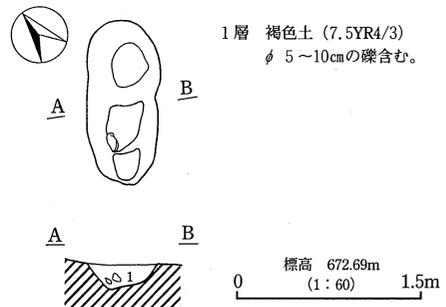
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
岩盤ブロック (ϕ 5
mm以下) 含む。
炭化物少量含む。

I D15



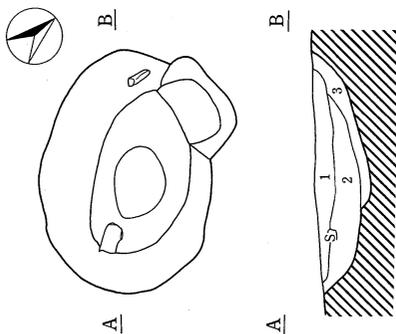
- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
にぶい黄橙色 (10YR7/3)
岩盤ブロック (ϕ 1cm大) を多量
含む。

I D20



- 1層 褐色土 (7.5YR4/3)
 ϕ 5~10cmの礫含む。

I D17



- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
炭化物、にぶい黄橙色 (10YR7/3)
岩盤粒子 (ϕ 1cm大) を含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2)
炭化物を含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)

第46図 I D7・11・12・15・17・20号土坑実測図

(7) I D11A 号土坑 (第46図、写真図版十五④)

本址は、調査区中央台地の東斜面である J-サー-14Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-11°-E を示す。規模は長軸1.14m・短軸0.74m・深さ18cm を測る。本址よりの出土遺物は縄文土器片4点が出土した。

(8) I D11B 号土坑 (第46図、写真図版十五④)

本址は、調査区中央台地の東斜面である J-サー-14Gr に位置する。I D11A 号土坑と東西に並ぶ様に検出された。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-72°-E を示す。規模は長軸0.95m・短軸0.88m・深さ24cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(9) I D12号土坑 (第46図、写真図版十五⑤)

本址は、調査区中央台地の東斜面である J-チ-14Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-88°-E を示す。規模は長軸1.37m・短軸1.23m・深さ14cm を測る。本址よりの出土遺物はない。

(10) I D15号土坑 (第46図、写真図版十五⑥)

本址は、調査区中央部台地の東斜面である K-イ-13Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-68°-E を示す。規模は長軸1.40m・短軸1.20m・深さ18cm を測る。本址よりの出土遺物は縄文片14点と図示した石錐1点が出土している。

(11) I D20号土坑 (第46図、写真図版十五⑧)

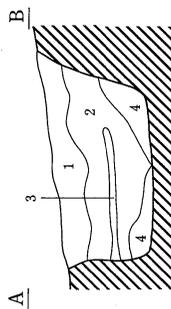
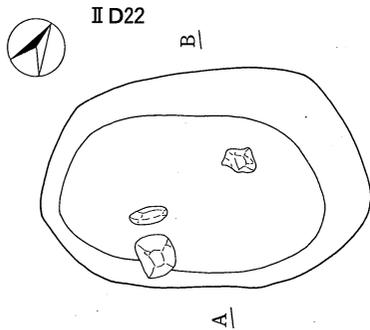
本址は、調査区北側の北斜面である B-ス-13、B-セ-13Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は南北方向に長い楕円形で、長軸方位は N-37°-E を示す。規模は長軸1.30m・短軸0.57m・深さ34cm を測る。本址よりの出土遺物は繊維を含んだ縄文土器片2点が出土している。

(12) I D17号土坑 (第46図、写真図版十五⑦)

本址は、調査区中央台地の先端部である K-コー-2・3、K-サー-3 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-48°-W を示す。規模は長軸1.94m・短軸1.36m・深さ52cm を測る。また北側に一部テラス状の掘り込みがある。本址よりの出土遺物は図示した縄文土器片11点と石器類6点がある。本址は一部に縄文前期前半の土器も含まれるが、おおそ縄文前期中葉の所産と考えられる。

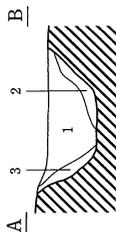
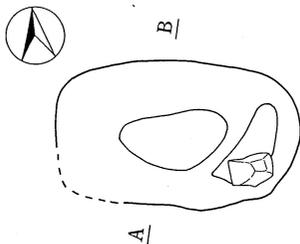
(13) II D22号土坑 (第47図、写真図版十六①)

本址は、調査区南側の東斜面である M-ス-1、M-セ-1 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-56°-E を示す。規模は長軸2.52m・短軸1.66m・深さ110cm を測る。また本址は中層より拳大の礫が出土している。本址よりの出土遺物は図示した縄文土器片2点がある。この遺物により本址は縄文中期後半に位置づけられると考える。



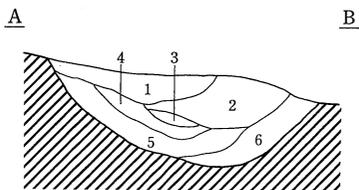
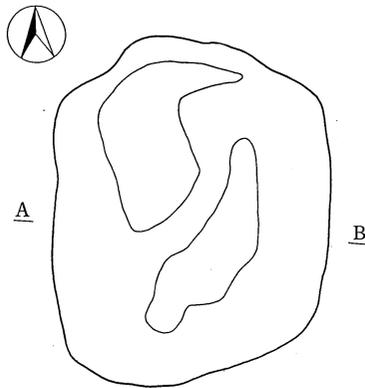
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)
パミスを少量含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR2/3)
パミス、小礫を少量含む。
 - 3層 褐色土 (10YR4/4)
ローム粒子、ロームブロックを多量含む。
 - 4層 褐色土 (10YR4/6)
ローム粒子を多量含む。
- 標高 686.95m
0 (1:60) 1.5m

II D23



- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)
パミス少量含む。
 - 2層 褐色土 (10YR4/4)
ローム粒子多量含む。
 - 3層 黒褐色土 (10YR3/2)
パミス、ロームブロックを少量含む。
- 標高 686.25m
0 (1:60) 1.5m

II D74



- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
粘性強し。砂礫・粘土・ロームを少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)
粘性強し。砂礫微量含む。
粘土、ロームを微量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
粘性強し。粘土、ロームを多量含む。砂礫を微量含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR3/2)
粘性強し。粘土、ローム微量含む。
砂礫を少量含む。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/4)
粘性強し。粘土、ローム少量含む。
砂礫を微量含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/2)
粘性強し。粘土を多量、炭を微量含む。

標高 687.42m
0 (1:60) 1.5m

第47図 II D22・23・74号土坑実測図

(14)ⅡD23号土坑 (第47図、写真図版十六②)

本址は、調査区南側の東斜面である M-セ-2・M-ソー-2・3Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-87°-W を示す。規模は長軸1.90m・短軸1.14m・深さ64cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した縄文土器1点がある。胎土的には神ノ木平行の土器と考えられ、本土坑も縄文前期中葉の所産として捉えられる。

(15)ⅡD74号土坑 (第47図、写真図版十六③)

本址は、調査区中央台地の東斜面である E-サー-15Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位は N を示す。規模は長軸2.67m・短軸2.13m・深さ81cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文土器片3点が出土している。

(16)ⅢD2号土坑 (第48図)

本址は、調査区上部台地の東斜面である L-セ-1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-41°-E を示す。規模は長軸1.04m・短軸0.86m・深さ70cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片が出土している。

(17)ⅢD3号土坑 (第48図、写真図版十六④)

本址は、調査区上部台地の東斜面である L-セ-1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位は N-8°-W を示す。規模は長軸1.18m・短軸0.80m・深さ89cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文前期と考えられる土器片が出土している。

(18)ⅢD35号土坑 (第48図)

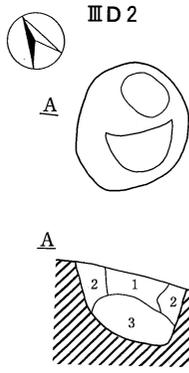
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-ソー-20Gr に位置する。残存状態は北側を FD31号中世墳墓に削平されている。形態は長方形で、長軸方位は N-83°-E を示す。規模は長軸0.98m・短軸0.67m(残存)・深さ52cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(19)ⅢD9号土坑 (第48図)

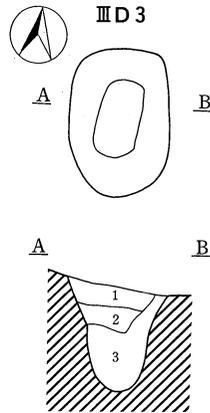
本址は、調査区南側台地のほぼ真ん中である M-イー-5Gr に位置する。残存状態は南側をⅢH9号住居址に削平されている。形態は長方形で、長軸方位は N-10°-W を示す。規模は長軸0.84m(残存)・短軸0.73m・深さ28cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(20)ⅢD27A号土坑 (第48図、写真図版十六⑤)

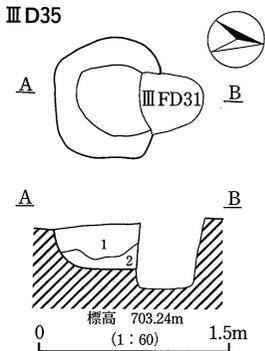
本址は、調査区上部台地の中央である L-セ-1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-78°-E を示す。規模は長軸0.88m・短軸0.74m・深さ51cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した縄文深鉢1点が出土している。



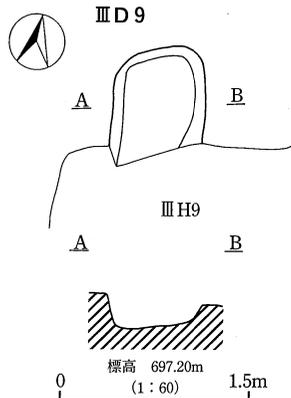
- III D 2
- 1層 褐色土 (10YR4/4)
しまりややあり、粘性あり。
 - 2層 褐色土 (10YR4/6)
しまりややあり、粘性あり。
 - 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりややあり、粘性あり。



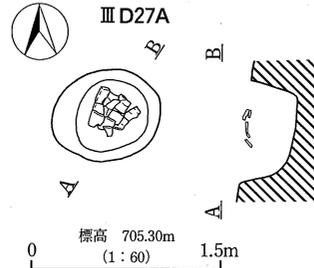
- III D 3
- 1層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりややあり、粘性あり、赤色粒含む。
 - 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまりややあり、粘性あり。
 - 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりややあり、粘性あり。



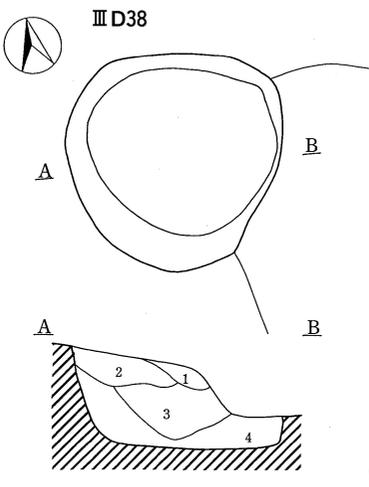
- III D 35
- 1層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまりややあり、ローム粒子を含む。
 - 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまりややあり。



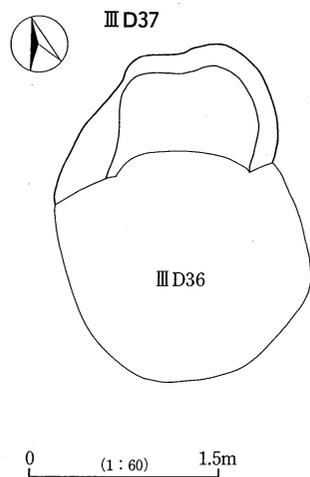
- III D 9
- III H 9
- 標高 697.20m
(1:60)



III D 27A



- III D 38
- 1層 黄褐色土 (10YR8/6)
しまりややあり、さらさらのローム土。
 - 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性あり、白色の粒子を多量含む。
 - 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
2層にくらべさらさらしている。
炭化物粒子を微量含む。
 - 4層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまりややあり、粘性あり、炭化物粒子を微量含む。



III D 37

III D 36

第48図 III D 2・3・9・27A・35・37・38号土坑実測図

(21)ⅢD38号土坑（第48図、写真図版十六⑥）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-ソー18Gr に位置する。残存状態は東側をⅢH2号住居址に削平されている。形態は円形で、長軸方位はN-52°-Wを示す。規模は長軸1.67m（残存）・短軸1.75m・深さ86cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(22)ⅢD37号土坑（第48図、写真図版十六⑥）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-ソー18・19Gr に位置する。残存状態は南側をD36号土坑に削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-79°-Wを示す。規模は長軸1.53m・短軸0.78m（残存）・深さ60cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(23)ⅢD36号土坑（第49図、写真図版十六⑥）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-ソー19Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-6°-Wを示す。規模は長軸2.07m・短軸1.90m・深さ86cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(24)ⅢD39A号土坑（第49図、写真図版十六⑦）

本址は、調査区上部台地の北側である H-ソー17・18、H-ター17・18Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-6°-Wを示す。規模は長軸2.23m・短軸1.73m・深さ57cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した縄文前期中葉の土器片6点と石器類4点がある。

(25)ⅢD39B号土坑（第49図、写真図版十六⑦）

本址は、調査区上部台地の北側である H-ソー17・18、H-ター17・18Gr に位置する。残存状態は東側をD39A号土坑と重複する。形態は不整形で、長軸方位はN-4°-Eを示す。規模は長軸2.74m・短軸1.30m（残存）・深さ71cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(26)ⅢD40号土坑（第50図、写真図版十六⑧）

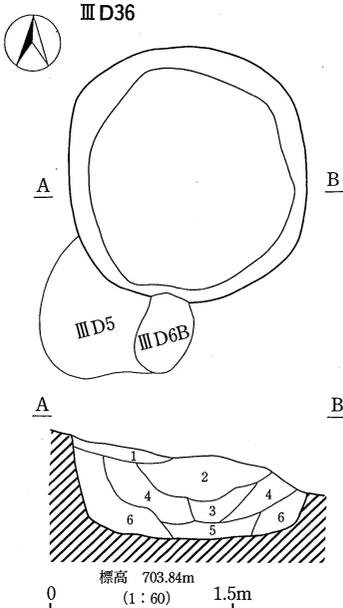
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-セー20、H-ソー20Gr に位置する。残存状態は東側をD4号土坑に削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-86°-Eを示す。規模は長軸2.05m（残存）・短軸1.77m・深さ75cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(27)ⅢD41号土坑（第50図、写真図版十七①）

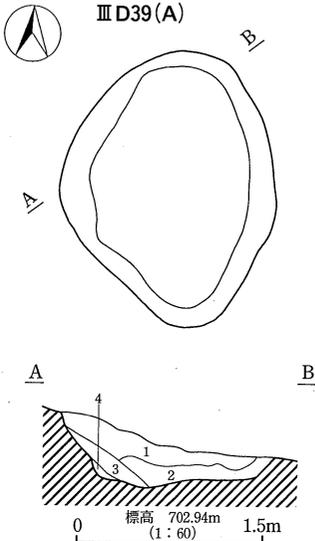
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-ソー20Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-37°-Eを示す。規模は長軸2.19m・短軸1.88m・深さ82cmを測る。本址からの出土遺物はなかった。

(28)ⅢD42号土坑（第50図、写真図版十七②）

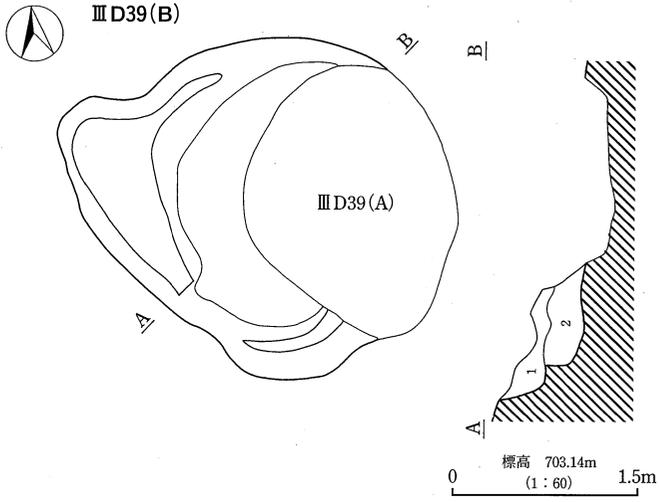
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-スー1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-50°-Eを示す。規模は長軸2.13m・短軸1.78m・深さ67cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。



- III D36
- 1層 黄橙色土 (10YR8/6)
しまりややあり、さらさらのローム土。
 - 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性あり、白色の粒子を多量含む。
 - 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
2層にくらべさらさらしており、炭化物粒子を微量含む。
 - 4層 明黄褐色土 (10YR6/6)
しまりやや弱く、2層と6層の中間層。褐色土のブロック多い。
 - 5層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
4層に似るがやや暗く、褐色土のブロックがやや多い。
 - 6層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまりややあり、粘性あり、炭化物粒子を微量含む。



- III D39(A)
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性あり、白色粒子を多量含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR2/3)
しまり粘性あり。炭化物を含む。
 - 3層 黒褐色土 (10YR2/3)
しまり粘性あり、炭化物を少量含む。
2層より暗い。
 - 4層 にぶい黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性あり、地山の崩れ。



- III D39(B)
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりやや弱く 白色粒子を多量含む。
 - 2層 褐灰色土 (10YR4/1)
しまりあり、白色粒子を含む。

第49図 III D36・39A・39B 号土坑実測図

(29)ⅢD47号土坑（第50図、写真図版十七④）

本址は、調査区南端であるP-チー16・17Grに位置する。残存状態はほぼ良好であるが一部調査区外となる。形態は不整形で、長軸方位はN-3°-Wを示す。規模は長軸2.85m・短軸1.30m・深さ96cmを測る。本址は形態より風倒木跡と考えられる。本址の出土遺物は縄文中期と考えられる土器片2点が出土している。

(30)ⅢD44号土坑（第51図、写真図版十七③）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるH-セー19・20Grに位置する。残存状態は東側と南側がⅢH40号住居址によって削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-23°-Eを示す。規模は長軸2.87m・短軸0.56m（残存）・深さ58cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(31)ⅢD48号土坑（第51図、写真図版十七⑤）

本址は、調査区南端であるP-ソー8・P-ター14・15Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-28°-Wを示す。規模は長軸0.86m・短軸0.67m・深さ51cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(32)ⅢD55号土坑（第51図、写真図版十七⑦）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-コー4Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-34°-Eを示す。規模は長軸1.12m・短軸1.00m・深さ127cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した縄文土器片2点がある。

(33)ⅢD53号土坑（第51図、写真図版十七⑥）

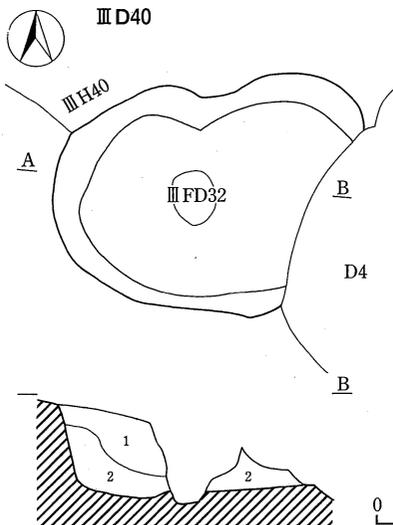
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-ケー5Grに位置する。残存状態は南側をD52号土坑によって削平されている。形態は楕円形で、長軸方位はN-44°-Eを示す。規模は長軸1.72m・短軸0.55m・深さ45cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(34)ⅢD56号土坑（第51図、写真図版十七⑦）

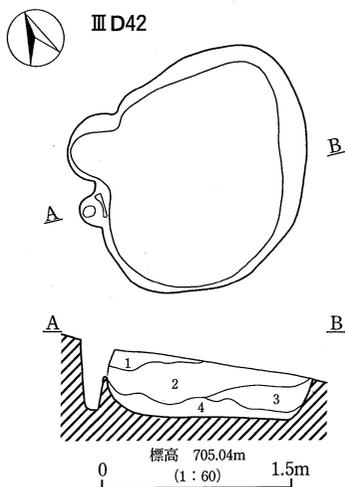
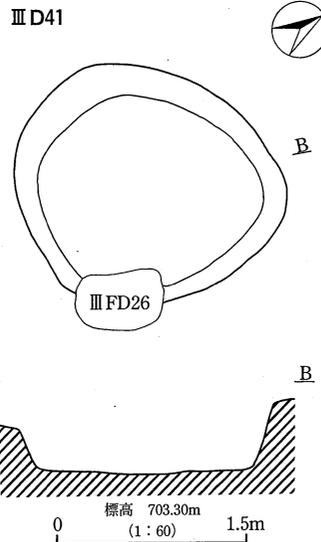
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-ケー4・L-コー4Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-54°-Wを示す。規模は長軸1.17m・短軸1.06m・深さ58cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(35)ⅢD57号土坑（第51図、写真図版十七⑦）

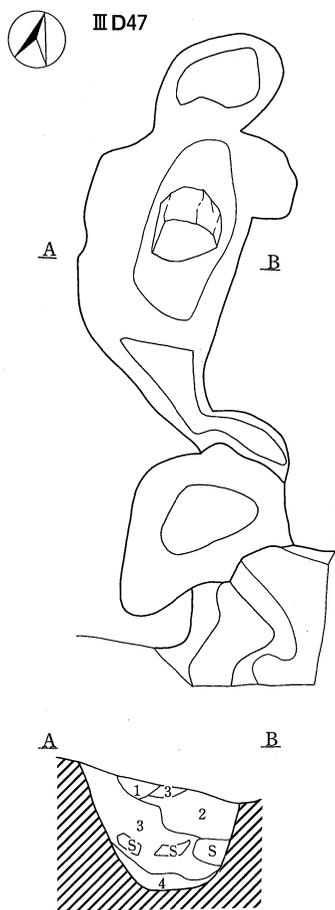
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-コー4Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-85°-Eを示す。規模は長軸0.98m・短軸0.87m・深さ43cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。



- 1層 明褐色土 (10YR6/8)
しまり弱く、炭化物を微量
ローム粒子を含む。
- D4 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり弱く、さらさらして
いる。



- 1層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまりややあり、粘性強い。白色
の粒子を含む。
- 2層 明黄褐色土 (10YR6/6)
しまりやや弱く、炭化物を微量、
白色の粒子を含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
しまり、粘性あり、炭化物を微量、
白色の粒子を含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり、粘性あり、粘土ブロック
を含む。



- 1層 褐灰色土 (10YR4/1)
しまり弱く、ぼそぼそしている。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり弱く 粘性ややあり褐色土
ブロックを含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)
ローム粒子・軽石を多量含む。
- 4層 黄褐色土 (10YR5/6)
地山

第50図 III D40・41・42・47号土坑実測図

(36)Ⅲ D60号土坑 (第52図、写真図版十七⑧)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-コー 5・6 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-26°-W を示す。規模は長軸1.52m・短軸1.04m・深さ91cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片が出土した。

(37)Ⅲ D61号土坑 (第52図、写真図版十八①)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-コー 5・L-サー 5 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-6°-W を示す。規模は長軸1.32m・短軸1.04m・深さ26cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(38)Ⅲ D62号土坑 (第52図、写真図版十八②)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-コー 3・4 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-55°-W を示す。規模は長軸1.60m・短軸は0.90m・深さ46cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(39)Ⅲ D72号土坑 (第52図、写真図版十八③)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 5 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-50°-W を示す。規模は長軸1.39m・短軸1.25m・深さ66cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(40)Ⅲ D77号土坑 (第52図、写真図版十八④)

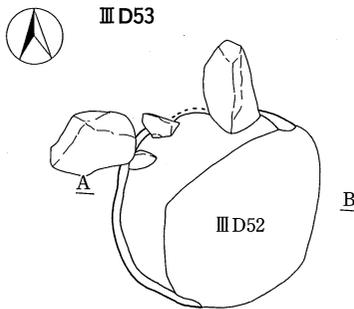
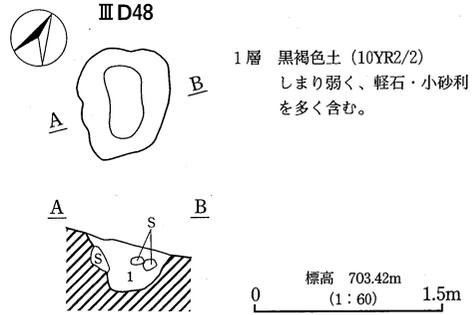
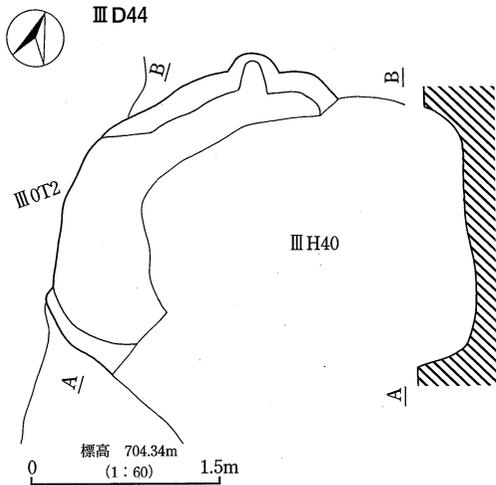
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 2 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好であるが一部西側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位は N-16°-E を示す。規模は長軸2.5m・短軸2.00m(残存)・深さ53cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片1点が出土している。

(41)Ⅲ D78号土坑 (第52図、写真図版十八④)

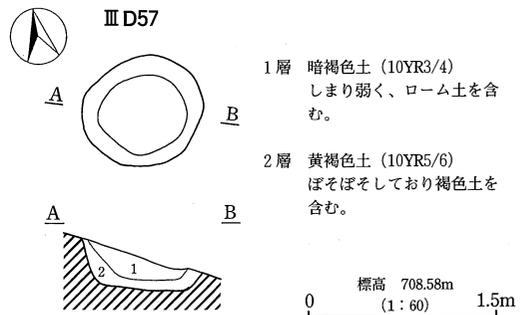
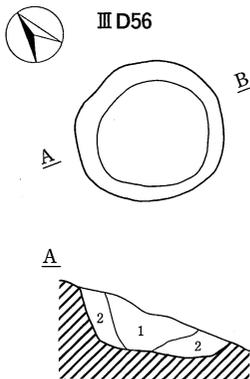
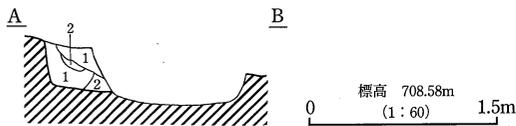
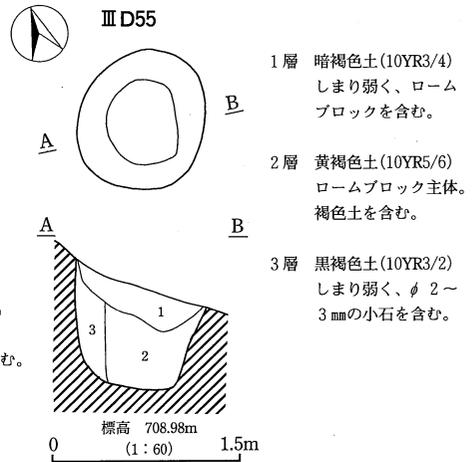
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 2・3 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-50°-E を示す。規模は長軸1.8m(推定)・短軸1.62m・深さ65cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(42)Ⅲ D80号土坑 (第52図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 2 Gr に位置する。残存状態は西側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位は不明。規模は長軸0.82m(推定)・短軸0.32m(残存)・深さ66cmを測る。本址よりの出土遺物は繊維を含む縄文土器片1点が出土している。



- 1層 明黄褐色土 (10YR6/8) しまりあり。黒色土の粒子を少量含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1) しまりあり。黄色粒子を含む。



第51図 III D44・48・53・55・56・57号土坑実測図

(43)ⅢD79号土坑 (第53図、写真図版十八④)

本址は、調査区上部台地の真ん中である L-サー 3 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位は N-35°-W を示す。規模は長軸1.44 m・短軸1.34 m・深さ81 cm を測る。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片 1 点が出土している。

(44)ⅢD89号土坑 (第53図、写真図版十八⑤)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 3 Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-49°-W を示す。規模は長軸2.63 m・短軸2.10 m・深さ97 cm を測る。本址からの出土遺物はなかった。

(45)ⅢD93号土坑 (第53図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である H-セー19・20Gr に位置する。残存状態はほぼ良好であるが、全体が H40号住居内に重なる。形態は楕円形で、長軸方位は N-84°-W を示す。規模は長軸2.28 m・短軸1.86 m・深さ39 cm を測る。本址からの出土遺物はなかった。

(46)ⅢD95号土坑 (第53図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 1・2 Gr に位置する。残存状態は東側がⅢH35号住居址に削平されている。形態は不整形で、長軸方位は不明。規模は長軸0.94 m (残存)・短軸0.75 m (残存)・深さ58 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(47)ⅢD96号土坑 (第53図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 2 Gr に位置する。残存状態は D94・95号土坑に東側を削平されている。形態は不整形で、長軸方位は不明。規模は長軸0.65 m (残存)・短軸0.6 m (残存)・深さ37 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(48)ⅢD94号土坑 (第53図)

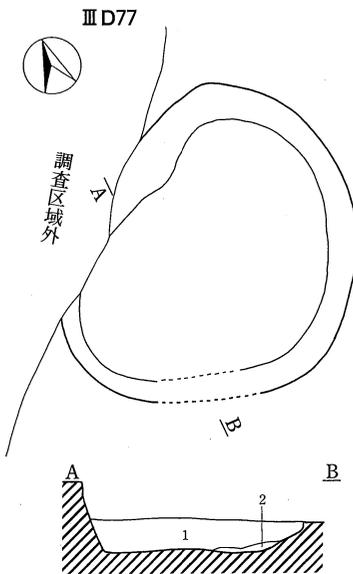
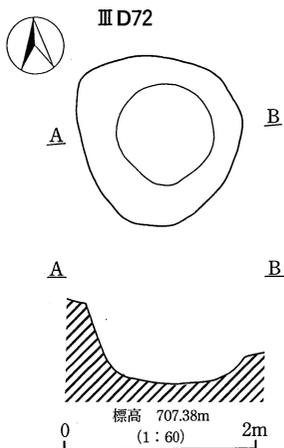
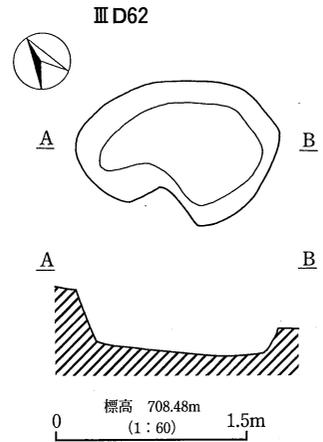
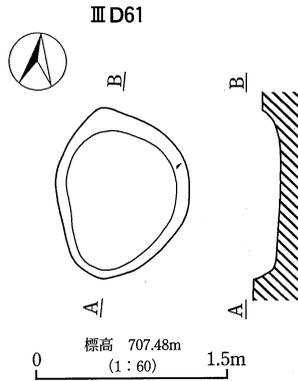
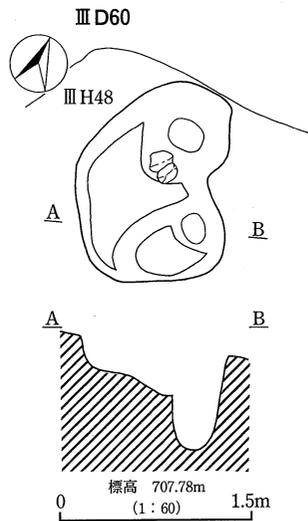
本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー 2 Gr に位置する。残存状態はⅢH33・35号住居址に削平されている。形態は楕円形で、長軸方位は N-18°-W を示す。規模は長軸0.83 m (残存)・短軸0.74 m (残存)・深さ37 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(49)ⅣD 6 号土坑 (第54図、写真図版十八⑥)

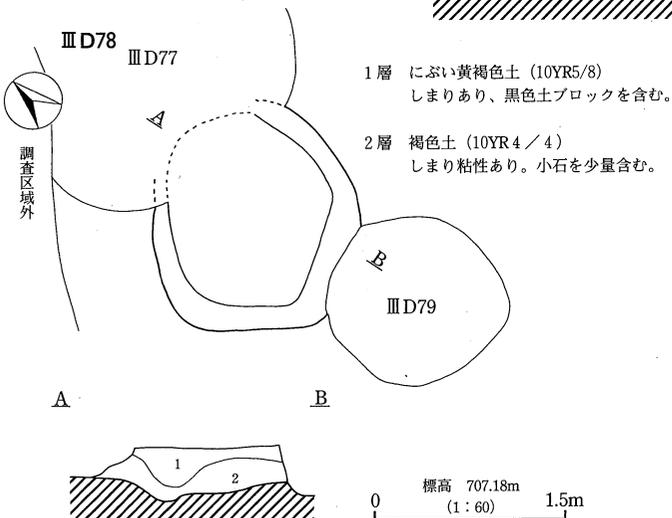
本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-エー 5・6 Gr に位置する。残存状態は東側をⅣD 7 号土坑に削平されている。形態は不整形で、長軸方位は N-21°-E を示す。規模は長軸1.25 m・短軸0.74 m (残存)・深さ38 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(50)ⅣD 7 号土坑 (第54図、写真図版十八⑦)

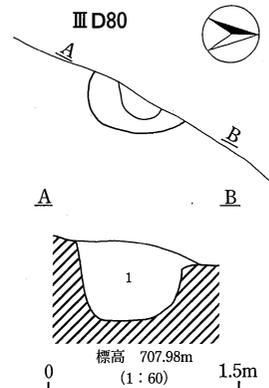
本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-エー 6 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-10°-E を示す。規模は長軸0.95 m・短軸0.84 m・深さ32 cm を測る。本址よりの出土遺物は縄文土器片 2 点が出土している。



- 1層 黄橙色土 (10YR8/6)
しまり弱く、粘性ややあり。
- 2層 明黄褐色土 (10YR6/6)
しまり、粘性あり。

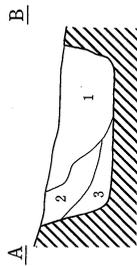
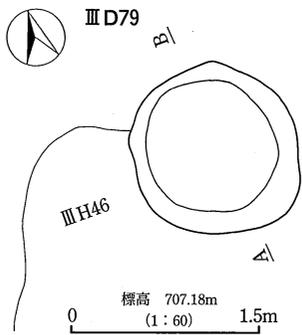


- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/8)
しまりあり、黒色土ブロックを含む。
- 2層 褐色土 (10YR 4 / 4)
しまり粘性あり。小石を少量含む。

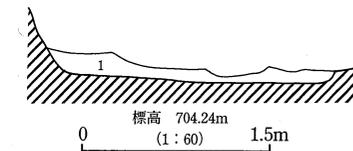
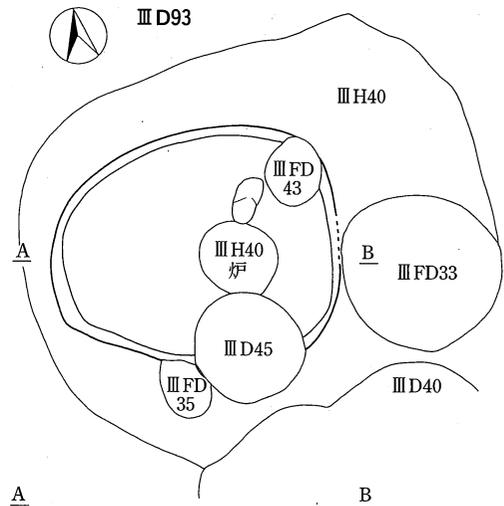
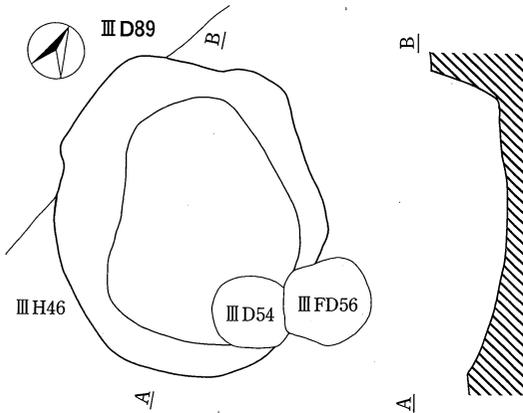


- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
しまり粘性ややあり。ローム粒子、黒色
粒子を多量、炭化物を微量含む。

第52図 III D60・61・62・72・77・78・80号土坑実測図

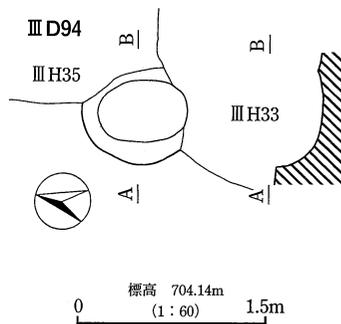
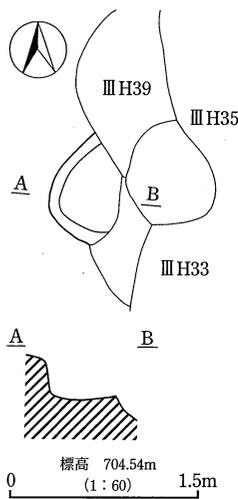
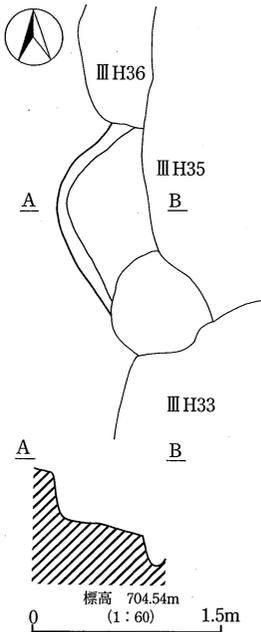


- 1層 明黄褐色土 (10YR6/6)
しまり粘性あり、ローム主体。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり粘性あり、小石を微量含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性あり、褐色土・ローム主体。



- 1層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり弱く、さらさらしている。

III D95 III D96



第53図 III D79・89・93・94・95・96号土坑実測図

(51)IVD 8 号土坑 (第54図、写真図版十八⑧)

本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-ウー 6 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位は E を示す。規模は長軸 1.4 m・短軸 1.36 m・深さ 64 cm を測る。本址からは縄文前期後半(諸磯期)と考えられる土器片 3 点が出土している。

(52)IVD 9 号土坑 (第54図、写真図版十九①)

本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-ウー 6 .L-エー 6 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位は E を示す。規模は長軸 1.17 m・短軸 1.11 m・深さ 34 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(53)IVD10号土坑 (第54図、写真図版十九①)

本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-ウー 6 .L-エー 6 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-75°-E を示す。規模は長軸 1.20 m・短軸 0.96 m・深さ 37 cm を測る。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片が 4 点出土している。

(54)IVD11号土坑 (第54図、写真図版十九②)

本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-ウー 4 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-59°-E を示す。規模は長軸 1.26 m・短軸 1.16 m・深さ 58 cm を測る。本址からの出土遺物は図示した縄文土器片の他に小片 3 点が出土している。

(55)IVD12号土坑 (第55図、写真図版十九②)

本址は、調査区最上部台地の東斜面である L-ウー 4 Gr に位置する。残存状態は南側を IVD11号土坑に削平されている。形態は不整形で、長軸方位は N-51°-E を示す。規模は長軸 1.46 m・短軸 1.3 m・深さ 38 cm を測る。また、土坑底面には薄く焼土が堆積していた。本址からの出土遺物はなかった。

(56)IVD15号土坑 (第55図)

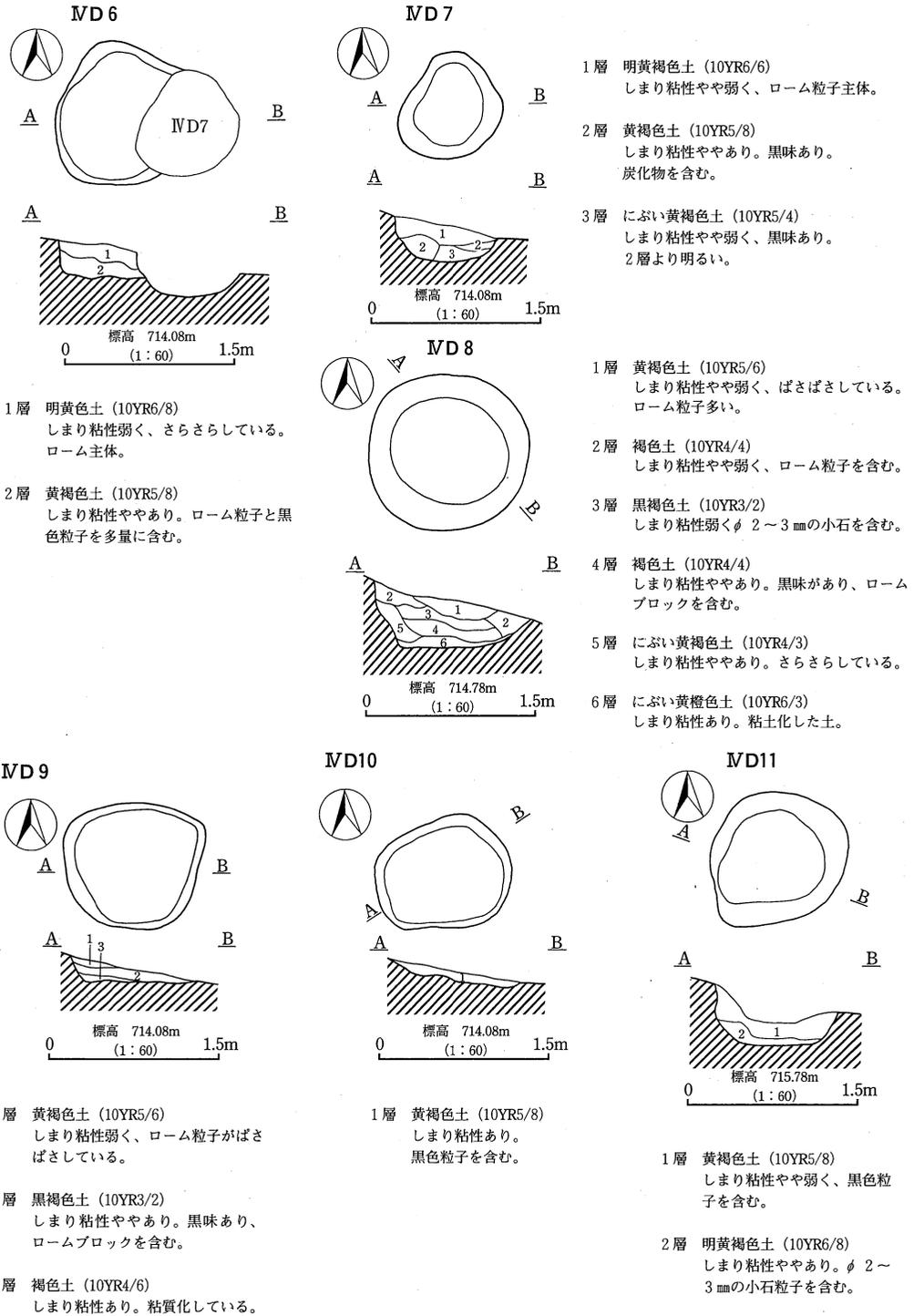
本址は、調査区南端の東斜面である L-エー 5 Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-72°-E を示す。規模は長軸 0.92 m・短軸 0.67 m・深さ 59 cm を測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(57)IVD14号土坑 (第55図、写真図版十九③)

本址は、調査区最上部台地のほぼ真ん中である L-エー 4 Gr に位置する。残存状態は北側が調査区外で南側が IVH13号住居址により削平されている。形態は不整形で、長軸方位は不明。規模は長軸 1.05 m (残存)・短軸 0.87 m・深さ 61.5 cm を測る。また、本址の底面には一部焼土が検出された。本址からの出土遺物はなかった。

(58)IVD16号土坑 (第55図、写真図版十九④)

本址は、調査区最上部の東斜面である L-ウー 8 .L-エー 8 Gr に位置する。残存状態は東側を IVD17号土坑に削平されている。形態は楕円形で、長軸方位は N-88°-W を示す。規模は長



第54図 IV D 6・7・8・9・10・11号土坑実測図

軸0.88m(残存)・短軸0.98m・深さ63cmを測る。本址からの出土遺物はなかった。

(59)IVD18号土坑(第55図、写真図版十九⑤)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-エー8Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-37°-Wを示す。規模は長軸1.15m・短軸0.96m・深さ29cmを測る。本址からは土坑中央部に底面よりやや浮いた状態で拳大の礫が1点検出された。土器類の出土はなかった。

(60)IVD20号土坑(第55図、写真図版十九⑥)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウー6・7Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-54°-Wを示す。規模は長軸1.33m・短軸1.19m・深さ82cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(61)IVD21号土坑(第56図、写真図版十九⑦)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-イー7・L-ウー7Grに位置する。残存状態は東側が畑地の境溝によって削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-40°-Eを示す。規模は長軸2.04m・短軸1.43m・深さ50cmを測る。本土坑は底面に焼土がよく焼けた部分があり、またその焼土周辺は炭化物が薄く広がり、床状に硬質化していた。本址よりの出土遺物は縄文中期と考えられる土器片5点が出土している。

(62)IVD23号土坑(第56図、写真図版十九⑧)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-エー8・9Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-61°-Eを示す。規模は長軸1.64m・短軸1.30m・深さ71cmを測る。本址からの出土遺物は図示した物の他に縄文前期後半(諸磯)と考えられる土器片が多数出土している。

(63)IVD27号土坑(第56図、写真図版二十②)

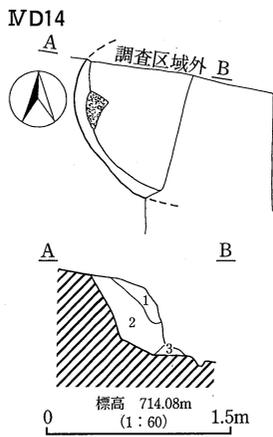
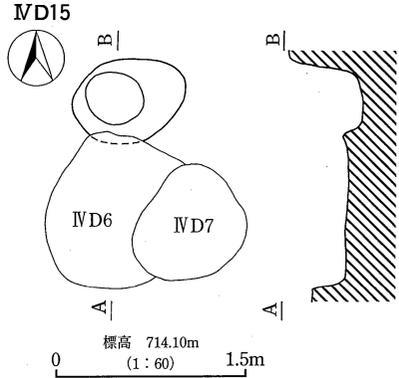
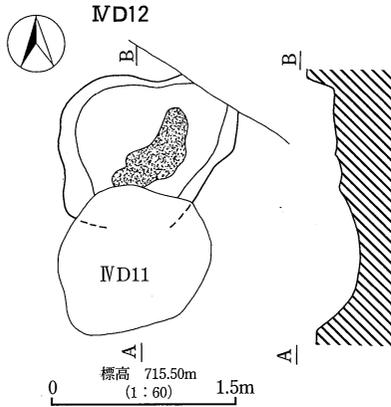
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-エー8Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-9°-Wを示す。規模は長軸0.92m・短軸0.83m・深さ54cmを測る。本址からの出土遺物はなかった。

(64)IVD26号土坑(第56図、写真図版二十①)

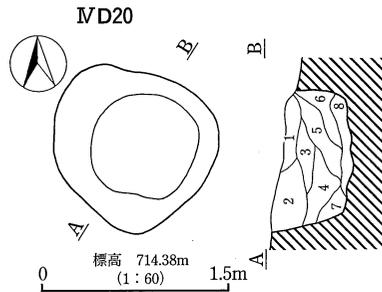
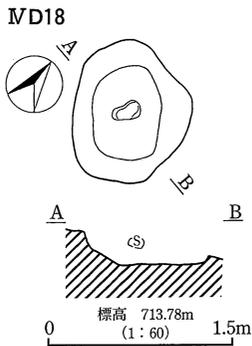
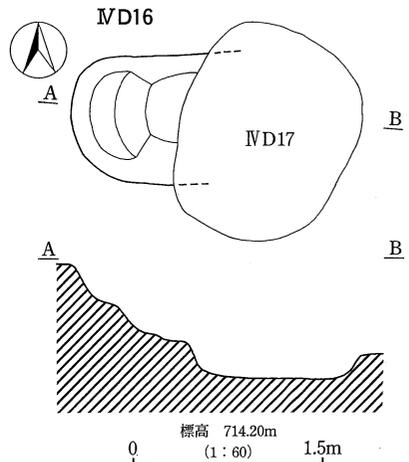
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-イー8・L-ウー8Grに位置する。残存状態は東側をIVD25号土坑に削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-37°-Wを示す。規模は長軸1.43m(残存)・短軸1.30m・深さ41cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(65)IVD25号土坑(第56図、写真図版二十①)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウー8Grに位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位はN-49°-Eを示す。規模は長軸1.7m・短軸1.68m・深さ41cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した物の他に縄文前期後半と考えられる土器片多数がある。



- 1層 褐色土 (10YR4/6)
しまり粘性弱い。
- 2層 褐色土 (10YR4/6)
しまり粘性弱く、炭化物を
微量含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性ややあり。
炭化物、焼土を含む。



- 1層 褐灰色土 (10YR4/1)
しまり粘性弱く、ローム粒子を少量含
む。
- 2層 明黄褐色土 (10YR6/8)
しまり粘性ややあり。φ2~3mmの小
石を含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性ややあり。
炭化物を微量含む。
- 4層 明黄褐色土 (10YR6/8)
しまり粘性弱く、さらさらしている。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性弱く、炭化物を含む。

- 6層 黄褐色土 (10YR5/6) しまり粘性ややあり。ロームブロックを含む。
- 7層 黄褐色土 (10YR5/8) しまり粘性あり。粘土化している。
- 8層 暗褐色土 (10YR3/3) しまり粘性弱く、さらさらしている。

第55図 IVD12・14・15・16・18・20号土坑実測図

(66)IVD22号土坑 (第57図、写真図版十九⑧)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-8・9Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-56°-Eを示す。規模は長軸1.02m・短軸が0.85m・深さ56cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文前期と考えられる土器片が1点出土している。

(67)IVD29号土坑 (第57図、写真図版二十③)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-エ-7Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-34°-Wを示す。規模は長軸1.18m・短軸1.04m・深さ80cmを測る。本址からの出土遺物は縄文前期後半(諸磯)と考えられる土器片3点が出土している。

(68)IVD32号土坑 (第57図、写真図版二十⑤)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-7Grに位置する。残存状態は東側を自然の地形により削平されている。形態は楕円形で、長軸方位はN-14°-Wを示す。規模は長軸1.50m・短軸0.87m・深さ46cmを測る。出土遺物は縄文前期後半(諸磯)と考えられる土器片1点が出土している。

(69)IVD30号土坑 (第57図、写真図版二十④)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-7・8Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-61°-Eを示す。規模は長軸1.04m・短軸0.96m・深さ36cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(70)IVD31号土坑 (第57図)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-8Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-46°-Wを示す。規模は長軸1.26m・短軸1.15m・深さ25cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(71)IVD33号土坑 (第57図、写真図版二十⑤)

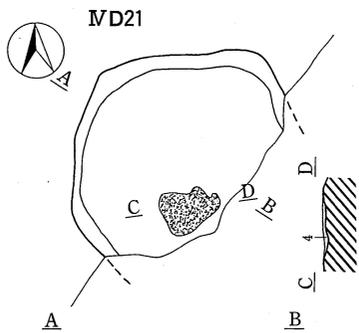
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-7Grに位置する。残存状態は東側が畑地の境溝により削平されている。形態は楕円形で、長軸方位はN-33°-Wを示す。規模は長軸1.44m・短軸1.00m・深さ60cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(72)IVD35号土坑 (第57図)

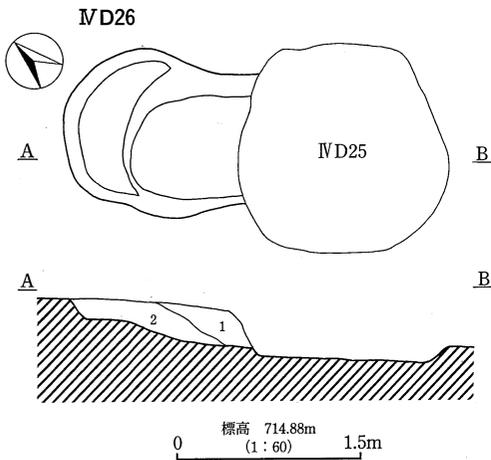
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-5Grに位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位はN-3°-Wを示す。規模は長軸0.62m・短軸0.57m・深さ25cmを測る。本址よりの出土遺物は縄文前期と考えられる土器片3点が出土した。

(73)IVD34号土坑 (第58図)

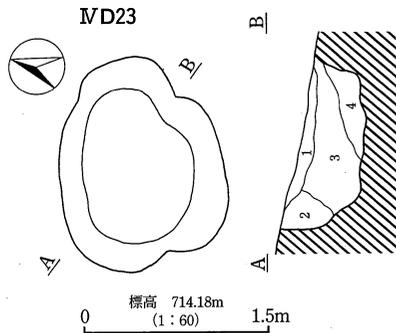
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-6Grに位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位はNを示す。規模は長軸1.43m・短軸1.4m・深さ50cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した縄文前期後半(諸磯C)が1点出土している。



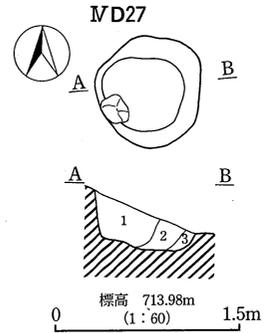
- 1層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性弱くさらさらしている。炭化物を微量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性弱く、炭化物和焼土粒子を多く含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性あり。微量の炭化物和白色粒子を含む。ふみ固めたような土。
- 4層 暗赤褐色土 (2.5YR3/6)
しまり粘性ややあり、ローム土がよく焼けた焼土。



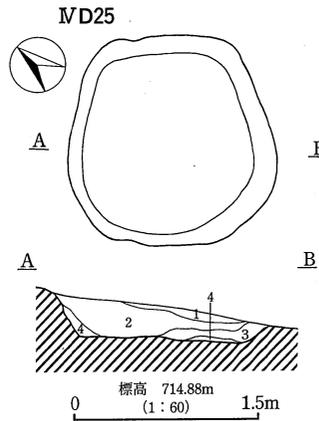
- 1層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまり粘性ややあり。φ 2~3mmの小石を多く含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)
しまり粘性ややあり。ざらざらした土で粘土化している。



- 1層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性ややあり。φ 2~3mmの小石を含む。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性やや弱い。炭化物を微量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性やや弱い。ロームブロック、炭化物を含む。
- 4層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性ややあり。ローム粒子が主体。

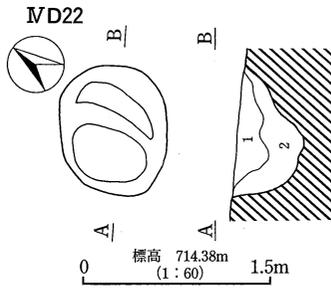


- 1層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまりやや多く、粘性ややあり。
ローム粒子を主体とする。
- 2層 褐色土 (10YR4/6)
しまり、粘性やや弱く粘土化している。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性あり。
粘土化した土。

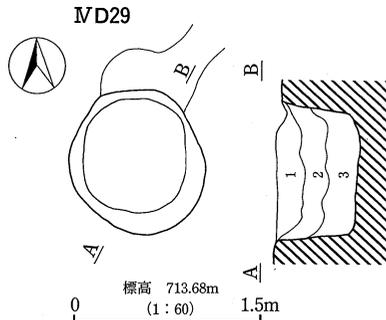


- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性あり。白色の粒子を含み、粘質化している。
- 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性やや弱く、φ 2~3mmのローム粒子を多く含む、炭化物を微量含む
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性やや弱く、黒色土粒子を多く含む。
- 4層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性ややあり。炭化物を微量含む。
ローム粒子を含む。

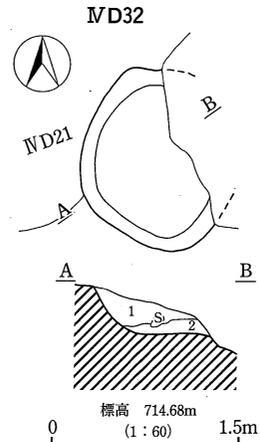
第56図 IVD21・23・25・26・27号土坑実測図



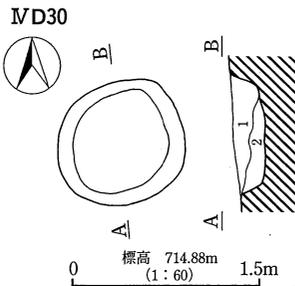
- 1層 褐色土 (10YR4/4)
しまり粘性あり。炭化物を微量含む。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり粘性強い。ローム粒子を多量含む。



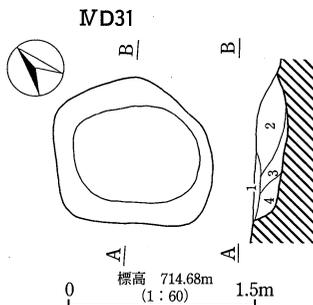
- 1層 明褐色土 (10YR6/8)
しまり粘性あり。粘土化した ϕ 1~2 mmの小石を含む
- 2層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり粘性やや弱く、ローム土主体
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性やや弱く、黒味が強く ϕ 2~3 mmのローム粘土を含む。



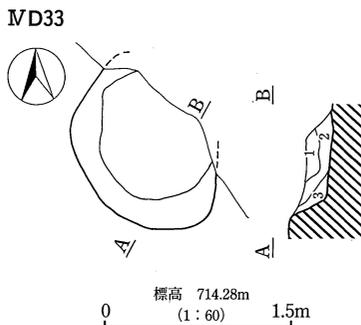
- 1層 黄褐色土
しまり粘性あり。粘質化した土
ローム粘土を含む。
- 2層 暗褐色土
しまり粘性やや弱く、 ϕ 3~4 mmのロームブロックを含む。
やや粘質化している。



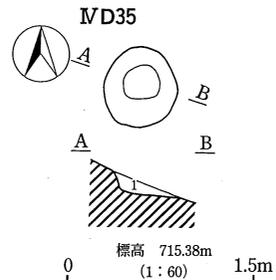
- 1層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性あり。ローム土主体。
- 2層 褐色土 (10YR4/6)
しまり粘性あり。粘土化した土
 ϕ 2~3 cmの小石を含む。



- 1層 褐灰色土 (10YR6/1)
耕作土
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまり粘性ややあり、白色の粒子をふくむ。
- 3層 褐色土 (10YR4/6)
しまり粘性ややあり。
微量の炭化物を含む。
- 4層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性ややあり。 ϕ 2~3 mmのローム粒子を含む。



- 1層 褐色土 (10YR4/6)
しまり粘性あり、ローム主体。
- 2層 黄褐色土 (10YR5/8)
しまり粘性あり。粘土化した土。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり粘性あり。ロームブロックを含む。



- 1層 明黄褐色土 (10YR6/8)
しまり粘性弱く、さらさらしている。
黒色土粒子を含む。

第57図 IVD22・29・30・31・32・33・35号土坑実測図

(74)IVD36号土坑 (第58図、写真図版二十⑥)

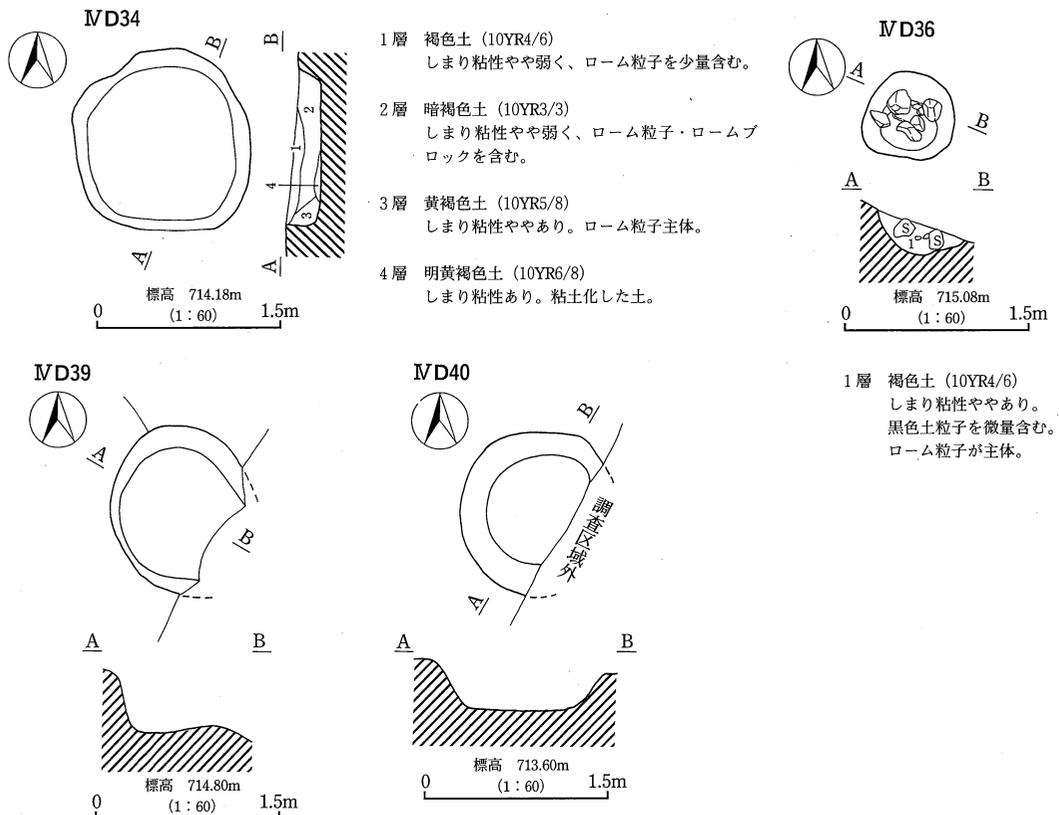
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-5Grに位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位はN-69°-Wを示す。規模は長軸0.7m・短軸0.68m・深さ37cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(75)IVD39号土坑 (第58図、写真図版二十⑦)

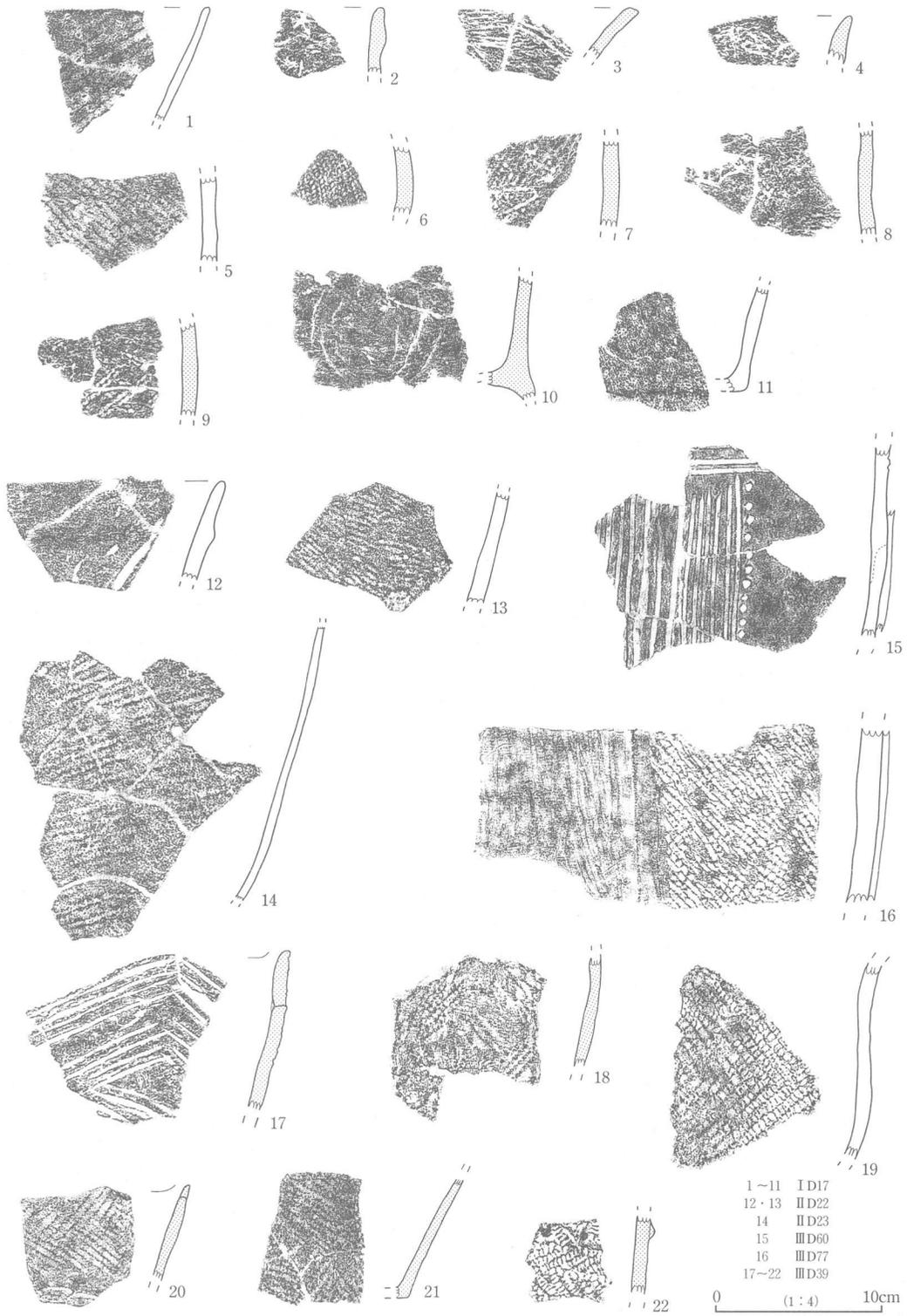
本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-ウ-5Grに位置する。残存状態は東側を畑地の境溝により削平されている。形態は楕円形で、長軸方位はN-39°-Wを示す。規模は長軸0.98m(残存)・短軸1.13m・深さ43cmを測る。本址からの出土遺物はなかった。

(76)IVD40号土坑 (第58図、写真図版二十⑧)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるL-エ-8・9Grに位置する。残存状態は東側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位はN-34°-Eを示す。規模は長軸1.33m・短軸0.9m(残存)・深さ41cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した物の他に縄文前期後半(諸磯)と考えられる土器片5点が出土している。



第58図 IVD34・36・39・40号土坑実測図



第59图 土坑出土遗物实测图①



第60图 土坑出土遺物実測図②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
I D17 1	深 鉢 口縁部	-- <7.0> --	外面 縄文 原体摩耗で不明 内面 ナデ?	5 YR 5/6 明赤褐	神ノ木
				径2~3mmの白色砂粒を多く含む	
I D17 2	深 鉢 口縁部	-- <3.1> --	外面 撚糸? 内面 ナデ ※繊維を多く含む	5 YR 6/6 橙	中 道
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
I D17 3	深 鉢 口縁部	-- <3.1> --	外面 縄文地文?に半截竹管状工具による平行沈線 内面 ミガキ ※繊維を含む	7.5YR 5/4 にぶい褐	有 尾
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を少量含む	
I D17 4	深 鉢 口縁部	<2.9>	外面 撚糸? 内面 ナデ ※繊維を多く含む	5 YR 5/4 にぶい赤褐	
				径2~3mmの赤色粒子と径1~2mmの白色 粒子を少量含む	
I D17 5	深 鉢 胴部	-- <5.2> --	外面 縄文 RL 内面 ナデ	5 YR 7/4 にぶい橙	
				径1~2mmの長石を多く含む	
I D17 6	深 鉢 胴部	-- <5.1> --	外面 組紐 内面 ナデ ※繊維を含む	7.5YR 5/8 明褐	関 山
				径1~2mmの白色砂粒を微量含む	
I D17 7	深 鉢 胴部	-- <5.3> --	外面 羽状縄文? 内面 ナデ ※繊維を多く含む	5 YR 5/6 明赤褐	
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子をやや多 く含む	
I D17 8	深 鉢 胴部	-- <6.3> --	外面 不明 内面 ナデ ※繊維を含む 9・10と同一個体の可能性	5 YR 5/8 明赤褐	
				径2~3mmの赤色粒子と、径1~2mmの白 色砂粒を含む	
I D17 9	深 鉢 胴部	-- <5.8> --	外面 撚糸? 内面 ナデ ※繊維を含む 8・10と同一個体の可能性	5 YR 5/8 明赤褐	
				径1~2mmの赤色粒子を少量含む	
I D17 10	深 鉢 底部	-- <7.5> --	外面 不明 内面 ナデ ※繊維を含む 8・9と同一個体の可能性	5 YR 5/8 明赤褐	
				径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
I D17 11	深 鉢 底部	-- <6.3> --	外面 無文? 内面 ナデ	7.5YR 8/4 浅黄橙	神ノ木?
				径2~3mmの長石と白色砂粒を多く含む	
II D22 12	深 鉢 口縁部	-- <6.0> --	外面 口縁部直下に横位の微隆帯 斜方向 の沈線 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙	
				径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
II D22 13	深 鉢 胴部	-- <6.8> --	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙	関 山
				径1~2mmの赤色粒子を多く含む	
II D23 14	深 鉢 胴部	-- <16.7> --	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	神ノ木?
				径2~3mmの砂粒、径1~2mmの赤色粒子 を多く含む	
III D60 15	深 鉢 胴部	-- <11.7> --	外面 縦位隆帯上に1条の沈線 その両脇 に平行沈線と円形の連続刺突 胴部 上には横位の沈線を施す 内面 ナデ	5 YR 5/4 にぶい赤褐	
				径2~3mmの長石と金雲母を多く含む	
III D77 16	深 鉢 胴部	-- <10.5> --	外面 無節縄文 RL 地文に縦位隆帯を貼付 け、その脇をミガキ 内面 横方向のミガキ	10YR 7/4 にぶい黄橙	
				径1~2mmの白色砂粒と黒雲母を多く含む	
III D39 17	深 鉢 胴部	-- <9.8> --	外面 半截竹管状工具による沈線により菱形を描く 外面 ミガキ ※繊維を含む	7.5YR 6/6 橙	有 尾
				径1~2mmの砂粒を少量含む	
III D39 18	深 鉢 胴部	-- <6.9> --	外面 半截竹管状工具による沈線により菱 形を描き、胴部下半は縄文 内面 ナデ ※繊維を多く含む	7.5YR 4/3 褐	有 尾 ?
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
III D39 19	深 鉢 胴部	-- <12.0> --	外面 羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	
				径1~2mmの白色砂粒と、径2~3mmの砂 粒を多く含む	

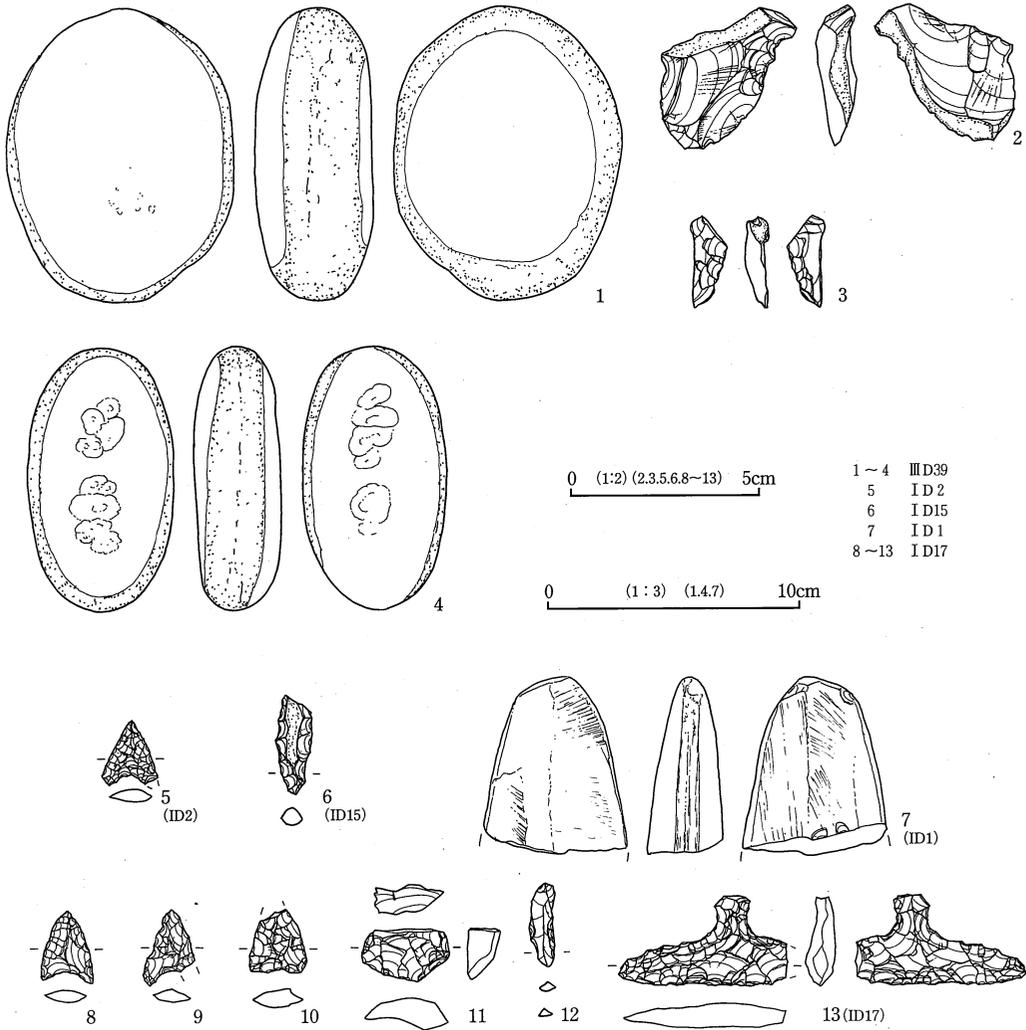
第25表 土坑出土遺物観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
Ⅲ D39 20	深 鉢 口縁部	— <6.0> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ ※繊維を少量含む	5YR4/4 にぶい赤褐	
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
Ⅲ D39 21	深 鉢 底部	— <7.3> —	外面 縄文 内面 剥離著しく調整不明 ※繊維を微量含む	2.5YR5/8 明赤褐	
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
Ⅲ D39 22	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 篋状工具によるはしご状文を施し、円形 貼文を貼付 胴部下半は羽状縄文 内面 ナデ ※繊維を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	関山 I
				径1~2mmの赤色粒子を微量含む	
Ⅲ D55 23	深 鉢 胴部	— <5.2> —	外面 末端にループの付いた縄文 LR 内面 ミガキ ※繊維を少量含む	7.5YR7/6 橙	
				径1~2mmの白色砂粒を少量含む	
Ⅲ D55 24	深 鉢 胴部	— <3.3> —	外面 縦位の沈線脇に斜方向の集合沈線 内面 ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	
				径1~2mmの砂粒を含む	
Ⅲ D79 25	深 鉢 胴部	— <13.7> —	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
Ⅳ D11 26	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 口縁直下に横位微隆帯 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR3/1 黒褐	
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
Ⅳ D21 27	深 鉢 胴部	— <4.6> —	外面 縦位平行沈線、脇に円形連続刺突 内面 ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	中期初頭
				径2~3mmの長石と金雲母を多く含む	
Ⅳ D23 28	深 鉢 胴部	— <5.1> —	外面 半截竹管状工具による横位、縦位の集合沈線 内面 ナデ	5YR6/6 橙	諸磯 c
				径1~2mmの砂粒と黒雲母を含む	
Ⅳ D25 29	深 鉢 胴部	— <8.6> —	外面 半截竹管状工具による綾杉状の集合沈線 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	諸磯 c
				径1~2mmの砂粒と黒雲母を多く含む	
Ⅳ D25 30	深 鉢 胴部	— <5.0> —	外面 半截竹管状工具による入組木葉文 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐	諸磯 a
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
Ⅳ D34 31	深 鉢 胴部	— <3.5> —	外面 半截竹管状工具による綾杉状の集合沈線 内面 ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	諸磯 c
				径1~2mmの赤色粒子と白色粒子を多く含む	
Ⅳ D40 32	深 鉢 胴部	— <3.3> —	外面 半截竹管状工具による集合沈線 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	
				径1~2mmの赤色粒子と砂粒を少量含む	
Ⅱ P20556 33	深 鉢 口縁部	— <4.1> —	外面 入組木葉文 半截竹管状工具による 連続刺突 補修孔 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐	諸磯 a
				径1~2mmの赤色粒子多量と白色砂粒を含む	
Ⅰ P8 34	深 鉢 口縁部	— <7.5> —	外面 口唇部に橢圓状工具による連続刺突 文 胴部条線? 内面 ナデ ※繊維を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙	有 尾
				径2~3mmの赤色粒子と砂粒を多く含む	
Ⅲ P78 Ⅲ P82 35	深 鉢 胴部	— <10.8> —	外面 縄文 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	
				径2~3mmの赤色粒子と径1~2mmの白色 粒子を含む	
Ⅲ P82 36	深 鉢 口縁部	— <7.0> —	外面 縄文 内面 ナデ	5YR4/2 灰褐	
				径1~2mmの赤色粒子と白色粒子を多く含む	
Ⅲ P82 37	深 鉢 口縁部	— <2.0> —	外面 斜横方向の集合沈線と貼文(円形と 環状)を施す 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	諸磯 c
				径2~3mmの赤色粒子を微量含む	
Ⅲ P216 38	深 鉢 胴部	— <4.7> —	外面 渦巻き状の沈線を持つ、こぶ状突起 から横位縦位の刻みを持つ隆帯 而 脇に縦位の平行沈線 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	加曾利E I
				径1~3mmの白色砂粒を含む	

第26表 土坑出土遺物観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
Ⅲ P207 39	深 鉢 胴 部	— <5.6> —	外面 無文 内面 条痕調整 ※繊維を少量含む	5YR5/6 明赤褐	
				径2～3mmの砂粒と雲母系の鉱物を多く含む	
Ⅲ D27 40	深 鉢 胴 部	31.0 <31.5> —	外面 口唇部直下に微隆帯 胴部は単節縄 文地文 内面 ナデ ※口縁部に補修孔あり	2.5Y8/4 淡黄	
				径2～3mmの白色砂粒を多く含む	

第27表 土坑出土遺物観察表③



第61図 土坑出土遺物実測図③

挿図 番号	器種	法 量(mm・g)				形態	素材	剥離 方向	剥離面	石 材	備 考
		長さ	幅	厚さ	重量						
1	磨石+敲石	109.5	90.0	47.2	644.1		長楕円磔			安山岩	表裏にスリ面顕著。表面に敲打痕2対。
2	石匙?	37.0	36.0	11.0	8.4	縦		両面		黒曜石	石匙の未成品と思われる。握み部の挟りはHIで加工。
3	二次加工剥片	24.5	9.5	6.5	1.0			両面		黒曜石	左側折れ。
4	磨石+敲石	105.8	58.5	36.0	288.1		長楕円磔			安山岩	表裏にスリ面と敲打痕2対ある。
5	石 鏃	17.0	15.0	3.5	0.5	凹基		両面	平坦	黒曜石	カエシ部わずかに欠損。
6	石 錐	26.5	9.5	6.5	2.0	棒状		両面	急角度	チャート	先端部わずかに摩耗。
7	磨製石斧	71.3	58.5	30.0	141.7					蛇紋岩	基部破片。
8	石 鏃	19.0	14.0	3.5	0.6	凹基		両面	平坦	チャート?	裏面に素材面を残し、平坦にする。先端部欠損。
9	石 鏃	20.0	14.0	4.0	0.6	凹基		両面	平坦	黒曜石	右側カエシ部欠損。裏面を平坦にする。
10	石 鏃	17.0	15.0	5.0	1.0	平基		両面	平坦	黒曜石	先端部欠損。
11	二次加工剥片	14.5	23.5	9.0	2.4				平坦	黒曜石	
12	石器断片	22.0	7.5	5.0	0.7	棒状		正と反	急角度	黒曜石	先端部わずかに欠損。
13	石 匙	24.0	45.5	8.0	5.5	横		両面	急角度	チャート	左側欠損。

第28表 土坑出土遺物観察表④



F区埋没谷調査風景

写真中央部の発掘り部分とシートに覆われている部分が縄文包含層
縄文包含層は南側台地に添うように検出され、台地側寄りが厚く堆積していた。

第3節 埋没谷及び遺構外出土遺物

本節では埋没谷及び遺構外から出土した遺物について土器・石器・その他の3項目に分け記載する。まず、ここで当遺跡の埋没谷についての概略を述べる。

当遺跡からは調査区の北側と南側に台地を挟むように縄文遺物を包含する埋没谷が検出された(全体図参照)。まず北側の谷は大区画のF区に属し「F区埋没谷」と仮称した。このF区埋没谷は北に傾斜する地形で台地に沿うように湾曲している。包含層の広がりには海拔675～683mの20m×70mの範囲で深さが最大で80cmあった。土層は黒褐色で粘性が強かった。包含層よりの遺物は若干弥生時代の遺物も含まれていたがほぼ縄文時代の遺物のみを包含していた。遺物の多くは台地側から流れ込んだような状態で出土した。次に南側の埋没谷については大区画のJ区とI区に属するため「J区埋没谷」と仮称した。このJ区埋没谷は東に傾斜する地形で、包含層の広がりには682～688mの10m×80mの範囲で深さが最大で約140cm程あった。土層は泥炭化した粘土層であり、水分を多く含んでいた。出土遺物はF区埋没谷と異なり中世の木製品や青磁類、古墳時代須恵器などが縄文土器と混在していた。特に海拔682mのやや平坦な部分には押し流された様な状態でこれらの遺物が多量に出土した。

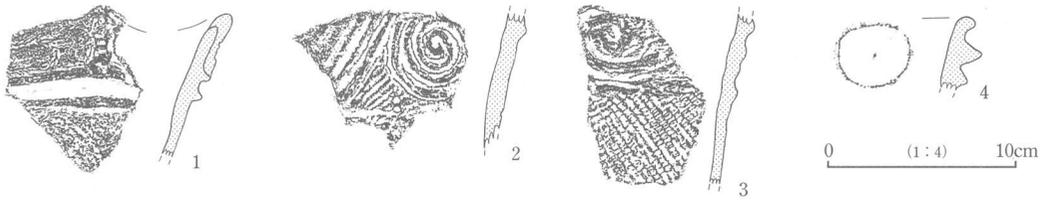
今回遺構外として図示する縄文土器及び石器の殆どはこの2カ所の埋没谷からの出土遺物である。なお、2カ所の埋没谷から出土した縄文土器は第7・8群とした諸磯式においてはJ区埋没谷から多く出土する傾向にあったが、他の型式については出土位置の大きな偏りは確認できなかった。

(1)土器

本項は埋没谷からの出土を中心に遺構外出土の縄文時代の土器について述べる。記載方法は時期別を中心に特徴の把握できるものは群として捉え「榛名平遺跡第1群・第2群～」として大別し観察結果を記載した。ただ、土器の出土状態が強粘土の包含層からの出土という事もあり遺存状態の非常に悪い物が多く存在した。その為に縄文原体や施文具の不確実な物が多くあり、筆者の理解不足も加わり観察表の不完全な部分があることを付記しておきたい。

①第1群土器

4点の土器を取り上げた。特徴としては1～3の撚糸の側面圧痕のあるもの、またその系譜に繋がるであろう物である。遺構外から出土した土器の内明瞭に撚糸の側面圧痕と解るものはこの3点のみである。2と3と4は胎土が似ている。これらの内2と3は御代田町下弥堂遺跡3号住居址出土の土器に類例が求められ、花積下層Ⅱ式に比定されている。1は同じく御代田町塚田遺跡グリット出土遺物の中に近似した土器があり、塚田式の第1群4類b種に分類されている。よってこれら第1群の土器は縄文前期初頭～前半に位置づけられ、花積下層式及び塚田式の範疇として捉えられよう。



第62図 第1群土器実測図

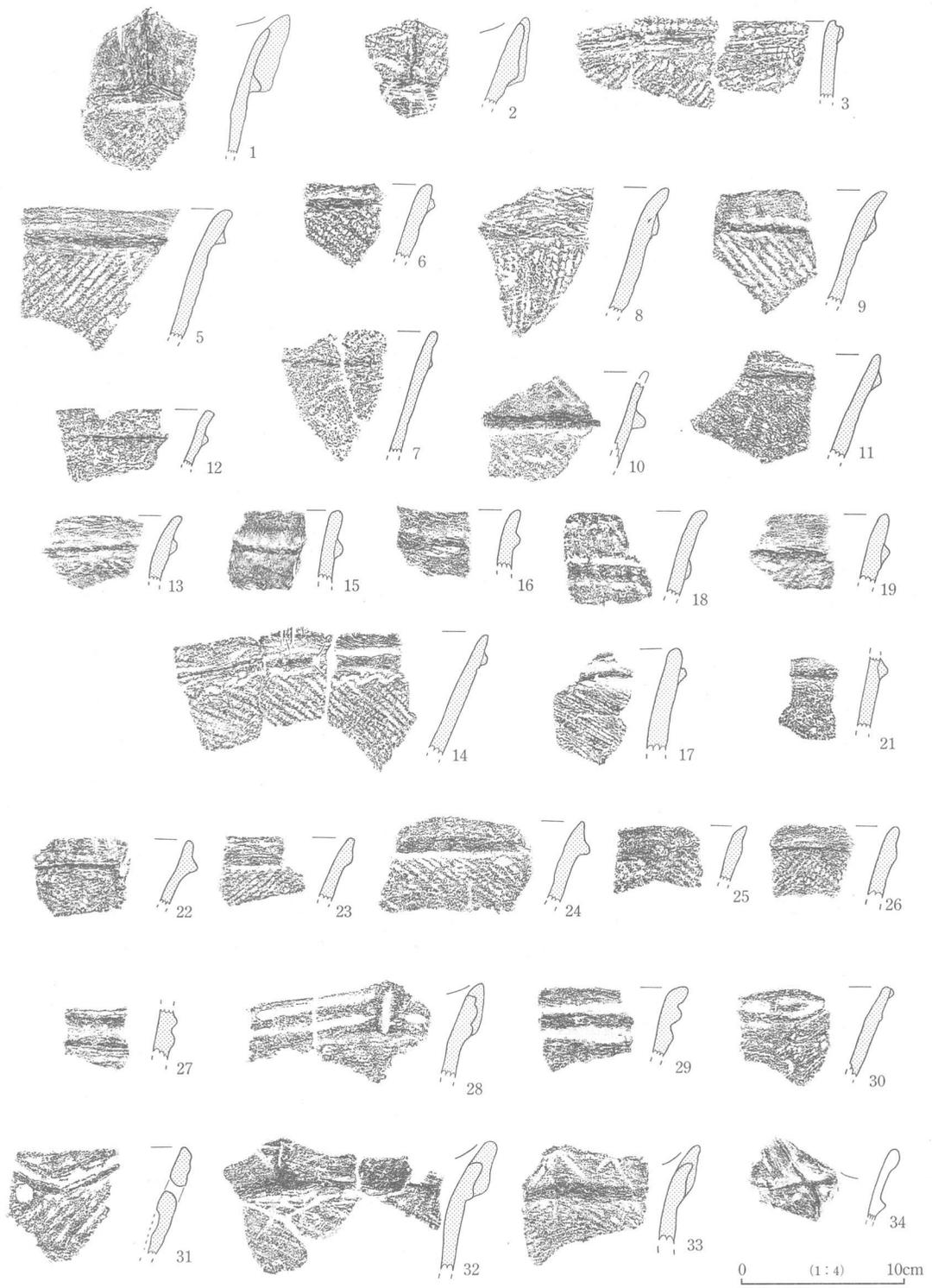
挿図番号	器種	法量 (cm)	文様・調整 外面・内面	色調 胎土	備考
F-ク-12 1	深鉢 口縁部	— <7.5> —	外面 口縁部下に逆T字状の刻みを持つ隆帯と平行に2本の隆帯が巡る。口縁部下には撚糸LとR2本揃えのJ状の側面圧痕 胴部縄文 内面 ナデ	5 YR 5 / 6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を含む
J-オ-17 2	深鉢 胴部	— <7.1> —	外面 地文は縄文 Lr? 渦巻き状の微隆帯内に撚糸LとRの2本揃えの側面圧痕 内面 ナデ	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
F-オ-16 3	深鉢 胴部	— <9.0> —	外面 渦巻き状の微隆帯内に撚糸の側面圧痕 胴部羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 4 / 4 にぶい赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を含む
F区 埋没谷 4	深鉢 口縁部	— <6.5> —	外面 円形の隆帯内に角状の突起 内面 ナデ	5 YR 4 / 2 灰オリーブ 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を含む

第29表 第1群土器観察表

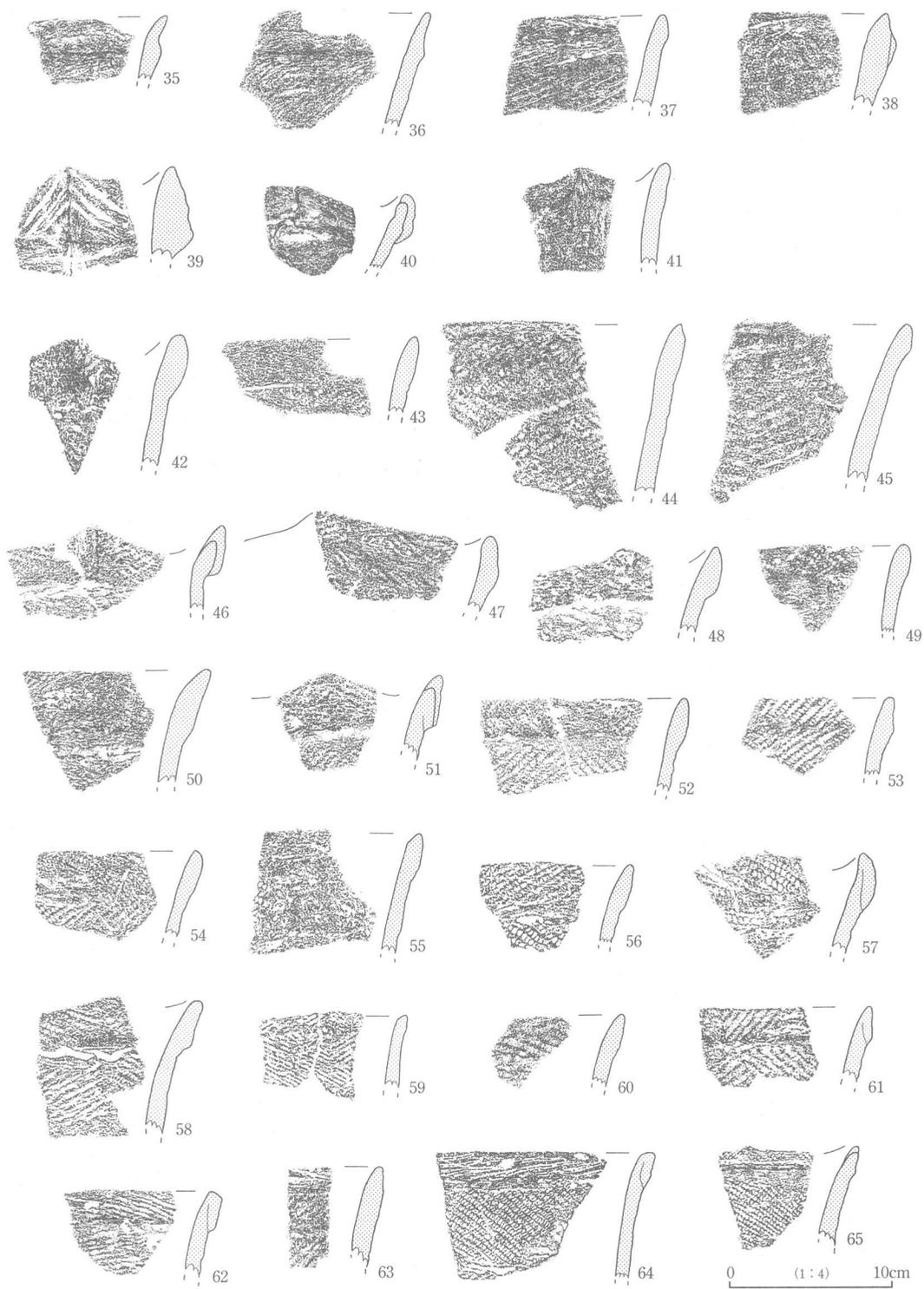
②第2群土器

ここでは胎土に繊維を含み、形態としては口縁部下に隆帯があるもの、また口縁部が肥厚するもの、底部が尖底を呈する物などを中心に151点を記載した。胴部については口縁部や底部と胎土が似るものを選定した。特徴としては口縁部下に明瞭な隆帯を貼付するものとして1・5~24、口縁部がやや肥厚しながらも低く隆帯が意識され盛り上がっている物2・25・26・32・33・36・38・40、口縁部全体が肥厚するもの42~81・86・87などがある。なお、明瞭な隆帯を持つ物の中には隆帯上に刻みを持つ6・9・11などがあり、口縁部全体が肥厚するものについては粘土を折り返して肥厚部を造っていることが観察できた物が多かった。また、隆帯を貼付するのではなく半截竹管状工具のような物で押し引きにより器面に蒲鉾状の隆帯を造り出す27~29、細い粘土紐を湾曲させたりクロスさせて貼付する30・31・34などの種類がある。口縁部においての装飾は隆帯以外のものが少なく、3の口唇部に細い竹管状の工具で円形の刺突を施したもの、33の口縁部下に沈線により山形状の文様を描く物の2点のみである。

施文文様においては大きく縄文と撚糸文がある。縄文は単節のLR・RLのいずれもが存在する。撚糸文は2本揃えのものが多く、矢羽根状の文様となるLとRを2本揃えのものが多いようである。中には80の様に撚糸文による網目状に施文した物、64の撚糸文と縄文どちらも施文したもののなど特異なるものも存在する。また、いずれも小片のため全体の文様が推し量れないが縄文や撚糸文による菱形構成をとるものも僅かだが確認できた。



第63图 第2群土器実測图①



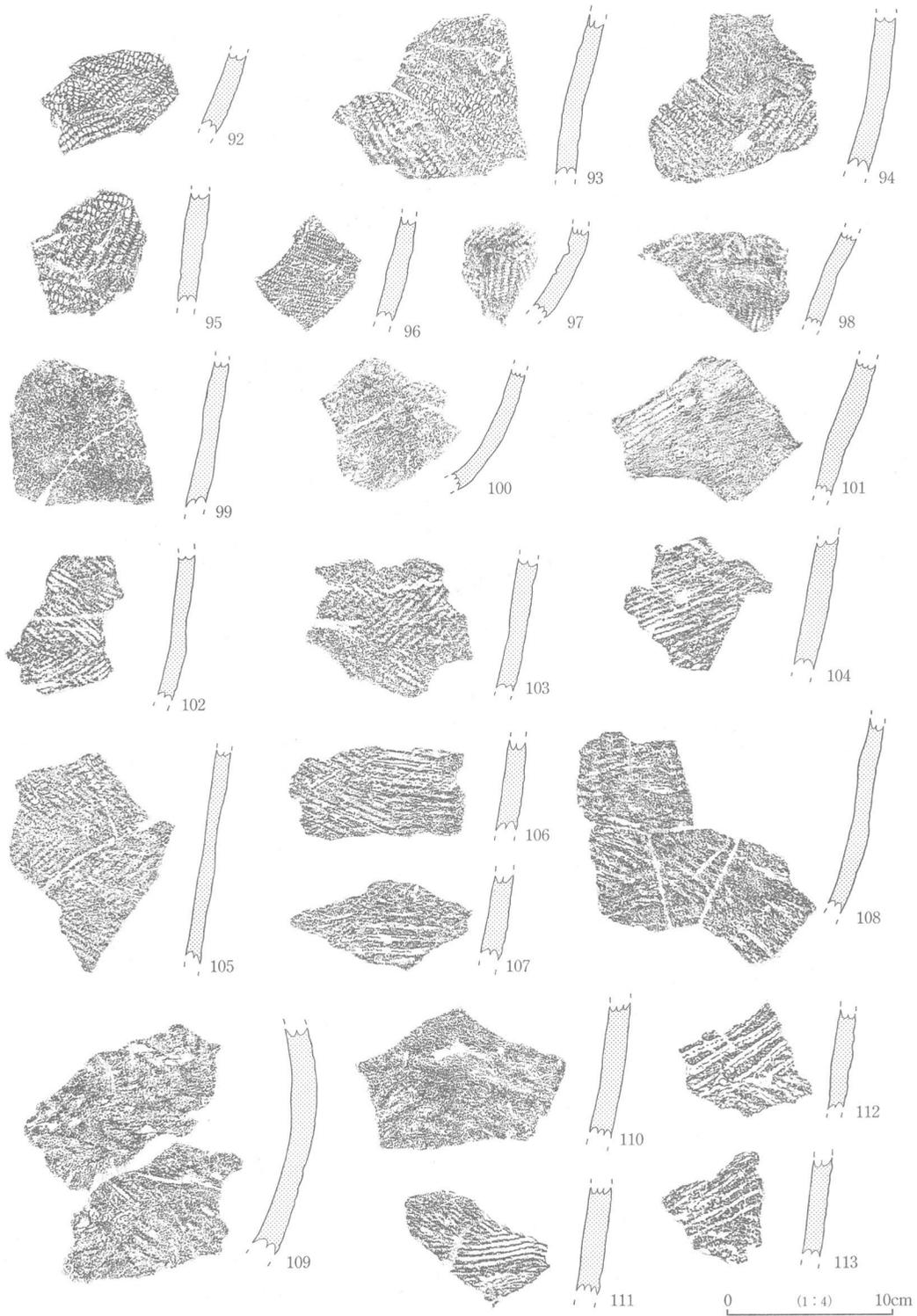
第64图 第2群土器实测图②



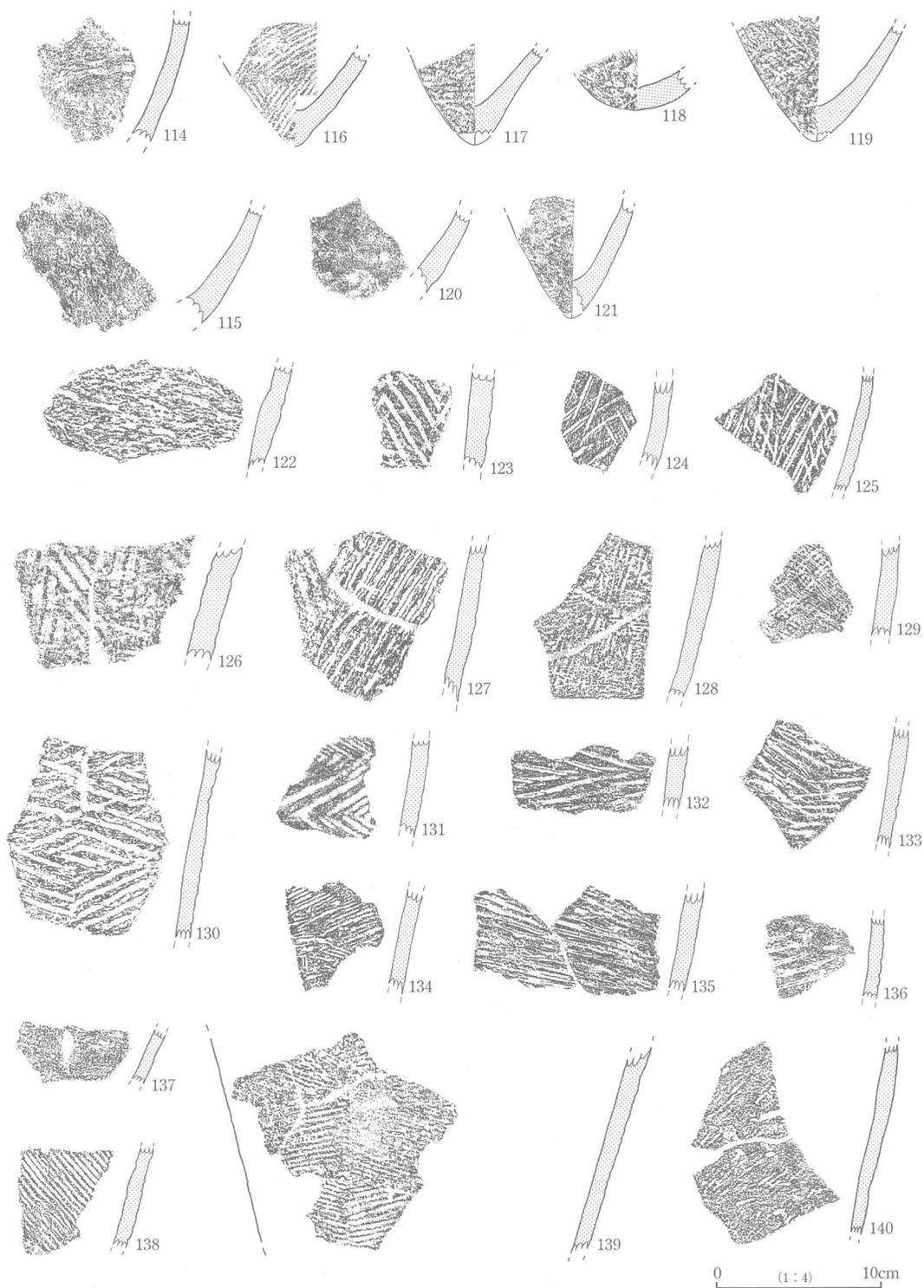
第65図 第2群土器実測図③

胴部については上記した特徴をもつ口縁部と胎土が近似するものや文様構成が同じ物を取り上げた。全体的には赤褐色に焼けている物が多く、胎土に赤色粒子の混入が非常に多いのが特徴である。文様構成は先に述べた縄文や捺糸文と同じであるが、捺糸文の中には123・126・127・144・148のように縦方向に鋭角に羽状状態となる土器片もある。

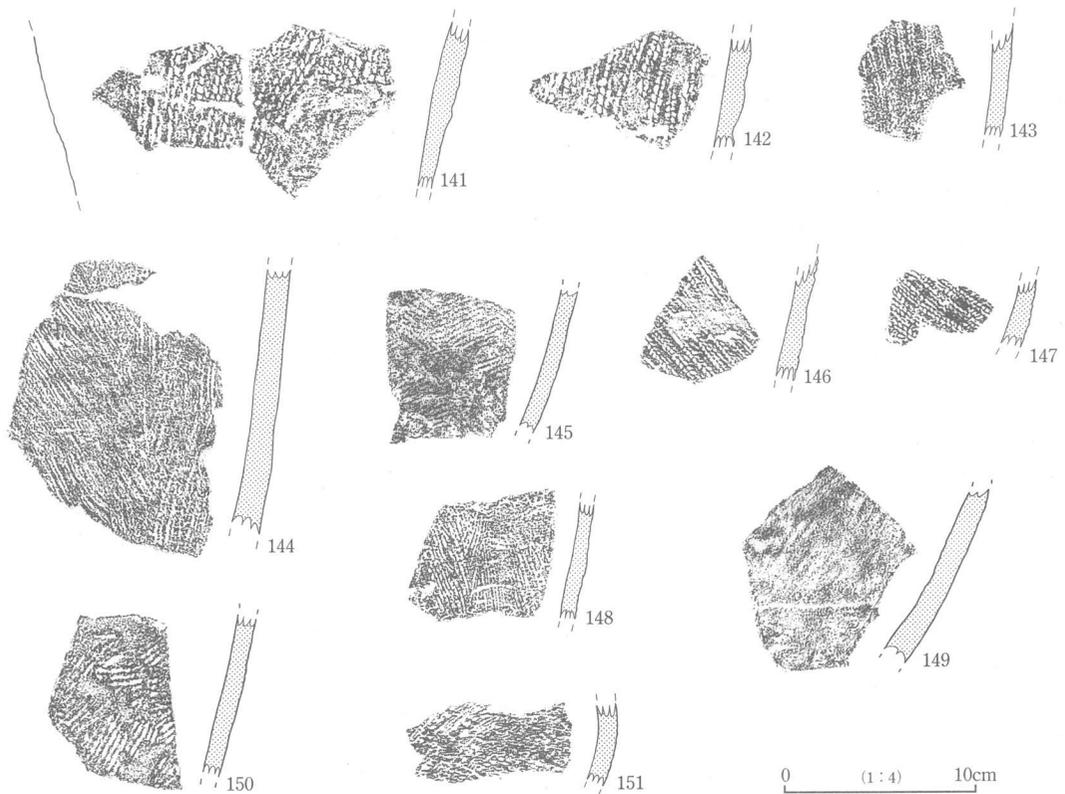
底部については底部付近のものも含め8点を図示した。いずれも尖底状態となる物で胎土は胴部と同じく赤色粒子を多く含み、色調も赤褐色である。文様は116が2本揃えの捺糸文であるがその他については器面の摩耗が激しく読みとれなかった。しかし114・115・120・121は無文と考え



第66图 第2群土器实测图④



第67图 第2群土器实测图⑤



第68図 第2群土器実測図⑥

られる。ただ、土器全体のうちこの底部付近のみが施文されていない部分である可能性はある。

以上、第2群として分類した土器片について概要を述べたが、これら土器の位置づけとしてはまず口縁部下に明瞭な隆帯を貼付する物と口縁部がやや肥厚しながらも低く隆帯が意識され、もりあがっているものは御代田町塚田遺跡を指標とするいわゆる「塚田式」と考えられる。また、口縁部全体が肥厚しているものに関しては長門町中道遺跡を指標とする「中道式」の範疇として捉えられる。ここで塚田式・中道式として捉えられた口縁部の縄文・捺糸文それぞれの施文比率を整理しておきたい。塚田式と考えられる口縁部土器片34点の内捺糸文は5点(14%)、これとは対照的に中道式は48点中23点(48%)であった。このことから榛名平遺跡においては塚田式より中道式の方が捺糸文施文の比率が高いという特徴がある。また、主観的であるが中道式の中において捺糸文施文の土器片は縄文施文のものより繊維の含有量が多く器厚も厚いと言う印象を受けた。

なお、塚田・中道両型式とは異なるであろうものとして、30・31・34・91があげられる。これらは木島Ⅲ式・下吉井式・中越式など周辺部の影響により成立したと考えられるがここでは可能性のみ記しておきたい。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-サ-12 1	深 鉢 口縁部	— <8.6> —	外面 口縁部下に逆T字状の隆帯 胴部は 羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径2～3mmの赤色粒子と径1～2mmの白色 粒子を多く含む	※繊維を 少量 含む
F区 埋没谷 2	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 肥厚口縁 口縁部下に低い逆T字状 の隆帯 隆帯内及び胴部に縄文 内面 ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を 多量に 含む
F-セ-9 3	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 口縁部下に沈線のある隆帯 口唇部 に凹形刺突文 胴部縄文 Lr? 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-12 5	深 鉢 口縁部	— <8.0> —	外面 口縁部下に隆帯 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径1～2mmの砂粒を多く含む	※繊維を 多量に 含む
F-シ-10 6	深 鉢 口縁部	— <4.7> —	外面 口縁部下に刻みを持つ隆帯 縄文 LR 内面 ナデ	10YR 6/6 明黄褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 多量に 含む
F区 埋没谷 7	深 鉢 口縁部	— <7.5> —	外面 口縁部下に隆帯 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径1～2mmの白色粒子を少量含む	※繊維を 多量に 含む
一括 8	深 鉢 口縁部	— <7.8> —	外面 口縁部下に刻みを持つ隆帯 口縁部 と胴部捻糸文 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径2～3mmの赤色粒子と径1 ～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 多量に 含む
一括 9	深 鉢 口縁部	— <7.0> —	外面 口縁部下に刻みを持つ隆帯 胴部縄 文 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 多量に 含む
F-ケ-12 10	深 鉢 口縁部	— <5.4> —	外面 口縁部下に刻みを持つ隆帯 胴部縄 文 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-11 11	深 鉢 口縁部	— <6.5> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径2～3mmの長石を少量含む	※繊維を 含む
F-チ-3 12	深 鉢 口縁部	— <3.6> —	外面 口縁部下に隆帯 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径1～2mmの砂粒を少量含む	※繊維を 多量に 含む
I-チ-11 13	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文? 内面 ナデ	7.5YR 3/2 黒褐 断面黒色 径1～2mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 14	深 鉢 口縁部	— <7.7> —	外面 口縁部下に隆帯 結節縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
I-ス-7 15	深 鉢 口縁部	— <4.4> —	外面 口縁部下に隆帯 口縁波状? 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 多量に 含む
Ⅱ区 一括 16	深 鉢 口縁部	— <3.7> —	外面 口縁部下に隆帯 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 17	深 鉢 口縁部	— <6.4> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 内面 ナデ	7.5YR 4/3 褐 断面黒色 径1～2mmの白色粒子と径2 ～3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-タ-11 18	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部下に隆帯 口唇部下に捻糸? 内面 ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
I-ツ-10 19	深 鉢 口縁部	— <4.4> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 内面 ナデ	7.5YR 3/1 黒褐 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
I-テ-10 21	深 鉢 口縁部	— <4.5> —	外面 口縁部下に隆帯 内面 ナデ	7.5YR 3/1 黒褐 径1～2mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
F-サ-12 22	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を多量に含む	※繊維を 含む
F-キ-14 23	深 鉢 口縁部	— <3.9> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 LR 内面 ナデ	5 YR 4/6 赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
一括 24	深 鉢 口縁部	— <5.0> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 LR 内面 ナデ 5と同一個体の可能性	7.5YR 3/1 黒褐 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む

第30表 第2群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
M-イ-11 25	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 径1~2mmの白色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-シ-11 26	深 鉢 口縁部	— <4.5> —	外面 口縁部下に隆帯 胴部羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-ト-13 27	深 鉢 口縁部	— <3.3> —	外面 2本の隆帯 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む 29と同一個体 の 可 能 性
F-ケ-12 28	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 垂下する1条と平走する2条の沈線 により隆帯を造り出す 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-12 29	深 鉢 口縁部	— <4.3> —	外面 2条の沈線により隆帯を造り出す 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む 27と同一個体 の 可 能 性
F-ク-12 30	深 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 口縁部に湾曲する2本の隆帯 胴部 に燃糸文 LR? 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を微量含む	※繊維を 含む
F-コ-10 31	深 鉢 口縁部	— <6.7> —	外面 口縁部に湾曲する2本の隆帯 胴部 に燃糸文 LR? 内面 ナデ 補修孔あり	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を微量含む	※繊維を 含む
F-コ-12 32	深 鉢 口縁部	— <8.0> —	外面 口縁部肥厚 口縁部下に逆T字状の 低隆帯 胴部燃糸文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-12 33	深 鉢 口縁部	— <6.1> —	外面 やや肥厚した口縁部下に逆T字状の 低隆帯口唇部に「ハ」の字状の沈線 胴部縄文? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-テ-13 34	深 鉢 口縁部	— <4.3> —	外面 「X」字状の隆帯貼付 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-キ-13 35	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 口縁部下に低隆帯 口縁部から胴部 縄文 内面 ナデ	7.5YR7/6 にぶい褐 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-13 36	深 鉢 口縁部	— <7.0> —	外面 口縁部下に低隆帯 口縁部から胴部 縄文 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を少量含む	※繊維を 含む
F-セ-8 37	深 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 口縁部下に低隆帯 口縁部から胴部 燃糸文 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒・長石を微量含む	※繊維を 含む
F-セ-13 38	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部下に低隆帯 口縁部から胴部 燃糸文? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ス-10 39	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部下に逆T字状の隆帯 繊維質 による「ハ」の字状の刻み 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
I-テ-12 40	深 鉢 口縁部	— <4.7> —	外面 口縁部下に逆T字状の低隆帯 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 41	深 鉢 口縁部	— <6.2> —	外面 口縁部下に「ハ」の字状の低隆帯 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ス-12 42	深 鉢 口縁部	— <8.0> —	外面 口縁部に垂下する低隆帯 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-13 43	深 鉢 口縁部	— <4.6> —	外面 口縁部わずかに肥厚 口縁部から胴部縄文 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色粒子と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 44	深 鉢 口縁部	— <10.3> —	外面 口縁部わずかに肥厚 口縁部から胴部羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2 ~3mmの赤色粒子を多量に含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 45	深 鉢 口縁部	— <9.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部燃糸文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 46	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部肥厚 波状口縁の頂部より垂 下隆帯 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む

第31表 第2群土器観察表②

挿図番号	器種	法量 (cm)	文様・調整 外面・内面	色調 胎土	備考
F区埋没谷47	深鉢口縁部	— <4.6> —	外面 口縁部肥厚 波状 口縁部から胴部縄文 ナデ 内面	5 YR 5/8 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
表採48	深鉢口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部肥厚 波状部あり 口縁部から胴部縄文 ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
一括49	深鉢口縁部	— <5.4> —	外面 口縁部肥厚 ナデ 内面	7.5YR 2/1 黒 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-オ-1450	深鉢口縁部	— <6.9> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部羽状縄文 ナデ 内面	7.5YR 6/3 にぶい橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
I-テ-1151	深鉢口縁部	— <5.3> —	外面 口縁部肥厚 波状部あり 口縁部から胴部縄文 ナデ 内面	7.5YR 7/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
F-オ-1552	深鉢口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部羽状縄文 ナデ 内面	7.5YR 6/8 橙 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
I-ツ-1053	深鉢口縁部	— <4.8> —	外面 口縁部下に低肥厚 口縁部から胴部縄文 LR ナデ 内面	7.5YR 6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
I-シ-1054	深鉢口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部やや肥厚 口縁部から胴部縄文 LR と RL による菱形構成 ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-オ-1555	深鉢口縁部	— <7.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文 ナデ 内面	7.5YR 4/3 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を含む
J-ケ-2056	深鉢口縁部	— <4.8> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文 LR と RL による羽状構成 ナデ 内面	7.5YR 6/3 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を少量含む	※繊維を含む
F-オ-1557	深鉢口縁部	— <6.1> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文 RL 結節部あり ナデ 内面	7.5YR 6/4 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を含む	※繊維を含む
F-ク-1358	深鉢口縁部	— <8.2> —	外面 口縁部肥厚 波状部あり 口縁部縄文 RL 胴部結節部あり ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
F-ク-1359	深鉢口縁部	— <4.4> —	外面 口縁部肥厚 口縁部縄文 Rℓ による菱形構成? ナデ 内面	7.5YR 2/1 黒 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
I-テ-1260	深鉢口縁部	— <4.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部擦糸文 ナデ 内面	5 YR 3/6 暗赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
F-ケ-1261	深鉢口縁部	— <4.6> —	外面 口縁部下に低隆帯? 口縁部から胴部羽状縄文 ナデ 内面	5 YR 3/3 暗赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
一括62	深鉢口縁部	— <5.3> —	外面 口縁部肥厚 口縁部縄文 Rℓ ナデ 内面	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
I-タ-1063	深鉢口縁部	— <6.2> —	外面 縄文? ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
J-ク-1764	深鉢口縁部	— <7.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部2本揃えの擦糸文 胴部縄文 RL ナデ 内面	7.5YR 6/3 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
I-ツ-1065	深鉢口縁部	— <6.1> —	外面 口縁部下に低い隆帯 口縁部から胴部縄文 RL ナデ 内面	7.5YR 4/4 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を含む
F-ク-1366	深鉢口縁部	— <4.0> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部2本揃えの擦糸文 ナデ 補修孔2カ所 内面	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
F-ウ-1067	深鉢口縁部	— <5.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部~胴部擦糸文 ナデ 内面	7.5YR 3/3 暗褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
I-テ-868	深鉢口縁部	— <4.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文 L と R の2本揃えの擦糸文 口縁部下に円形刺突あり ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む

第32表 第2群土器観察表③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ス-11 69	深 鉢 口縁部	— <5.4 —	外面 口縁部肥厚 胴部2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-14 70	深 鉢 口縁部	— <7.5 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部山形状の捺糸文? 内面 ナデ	5 YR 4/8 赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 71	深 鉢 口縁部	— <4.6 —	外面 口縁部肥厚 口縁部捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 72	深 鉢 口縁部	— <5.5 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/2 灰褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-カ-14 73	深 鉢 口縁部	— <7.1 —	外面 口縁部から胴部捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 74	深 鉢 口縁部	— <5.7 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-11 75	深 鉢 口縁部	— <4.3 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文L とRの2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J区 埋没谷 76	深 鉢 口縁部	— <4.2 —	外面 口縁部肥厚 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-ト-13 77	深 鉢 口縁部	— <4.0 —	外面 口縁部肥厚 内面 ナデ	7.5YR 7/4 にぶい黄橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-シ-9 78	深 鉢 口縁部	— <3.8 —	外面 捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 79	深 鉢 口縁部	— <7.6 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文R とLの2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色粒子を含む	※繊維を 含む
F-シ-11 80	深 鉢 口縁部	— <7.5 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部縄文R の2本揃えの捺糸文一部網目状に交 差する部分あり 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-ク-18 81	深 鉢 口縁部	— <8.9 —	外面 口縁部肥厚 波状部から垂下する隆帯 口縁部から胴部縄文Rの2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-9 82	深 鉢 口縁部	— <6.2 —	外面 捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-ク-14 83	深 鉢 口縁部	— <5.3 —	外面 口縁部下に低隆帯? 口縁部2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ス-10 84	深 鉢 口縁部	— <4.8 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径2～3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-セ-7 85	深 鉢 口縁部	— <5.1 —	外面 口縁部から胴部2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 4/2 灰褐 断面黒色 径2～3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-セ-12 86	深 鉢 口縁部	— <4.0 —	外面 口縁部肥厚 胴部縄文Rの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-セ-9 87	深 鉢 口縁部	— <7.2 —	外面 口縁部肥厚 口縁部から胴部捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR 3/2 黒褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-12 88	深 鉢 口縁部	— <5.5 —	外面 口縁部から胴部2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-セ-7 89	深 鉢 口縁部	— <3.8 —	外面 口縁部から胴部2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径2～3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-ク-13 90	深 鉢 口縁部	— <4.0 —	外面 縄文地文に円形の孔あり 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2～ 3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む

第33表 第2群土器観察表④

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面		色 調 胎 土		備 考
			外 面	内 面	胎	土	
I-テ-11 91	深鉢 鉢口縁部	<4.2>	外面 内面	網目状の沈線 ナデ	7.5YR 8/6 浅黄橙	径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色 粒子を多く含む	※繊維を 微量含む 木島式?
F-オ-15 92	深鉢 鉢部	<5.0>	外面 内面	縄文 LR と RL の羽状構成 ナデ	7.5YR 6/6 橙	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 93	深鉢 鉢部	<9.7>	外面 内面	縄文 RL (多条?) ナデ	5YR 6/6 橙	断面黒色 径2~3mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む 関山?
F-ク-13 94	深鉢 鉢部	<9.5>	外面 内面	羽状縄文 ナデ	5YR 5/6 明赤褐	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-カ-14 95	深鉢 鉢部	<6.7>	外面 内面	縄文 LR と RL の菱形構成 ナデ	5YR 6/8 橙	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多量に含む	※繊維を 含む
F-セ-9 96	深鉢 鉢部	<6.4>	外面 内面	縄文 ナデ	5YR 6/6 橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
一括 97	深鉢 鉢部	<5.6>	外面 内面	縄文 LR ナデ	5YR 5/6 明赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-コ-19 98	深鉢 鉢部	<5.9>	外面 内面	縄文 ナデ	5YR 5/8 明赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-セ-9 99	深鉢 鉢部	<9.0>	外面 内面	原体不明(組紐?) ナデ	5YR 3/6 暗赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-オ-18 100	深鉢 鉢部	<7.4>	外面 内面	無文? ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-キ-17 101	深鉢 鉢部	<8.3>	外面 内面	無節縄文 ナデ	5YR 5/6 明赤褐	断面黒色 径2~3mmの長石を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-12 102	深鉢 鉢部	<8.9>	外面 内面	無節縄文による羽状構成 ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-オ-14 103	深鉢 鉢部	<8.2>	外面 内面	縄文よる羽状構成 ナデ	7.5YR 6/6 橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 104	深鉢 鉢部	<8.0>	外面 内面	無節縄文 ナデ	5YR 5/6 明赤褐	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-14 105	深鉢 鉢部	<12.9>	外面 内面	無節縄文?による羽状構成 ナデ	5YR 4/4 にぶい赤褐	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-14 106	深鉢 鉢部	<5.4>	外面 内面	2本揃えによる撚糸文 ナデ	5YR 5/6 明赤褐	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-12 107	深鉢 鉢部	<5.2>	外面 内面	撚糸文? ナデ	5YR 5/8 明赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-11 108	深鉢 鉢部	<11.7>	外面 内面	撚糸文 ナデ	5YR 5/8 明赤褐	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-キ-14 109	深鉢 鉢部	<13.7>	外面 内面	撚糸文? ナデ	5YR 4/6 赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-13 110	深鉢 鉢部	<8.3>	外面 内面	不明 ナデ	5YR 4/6 赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-13 111	深鉢 鉢部	<6.6>	外面 内面	無節縄文による撚糸文 ナデ	5YR 4/6 赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 112	深鉢 鉢部	<5.9>	外面 内面	2本揃えの撚糸文による羽状構成 ナデ	5YR 4/6 赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒をふくむ	※繊維を 含む

第34表 第2群土器観察表⑤

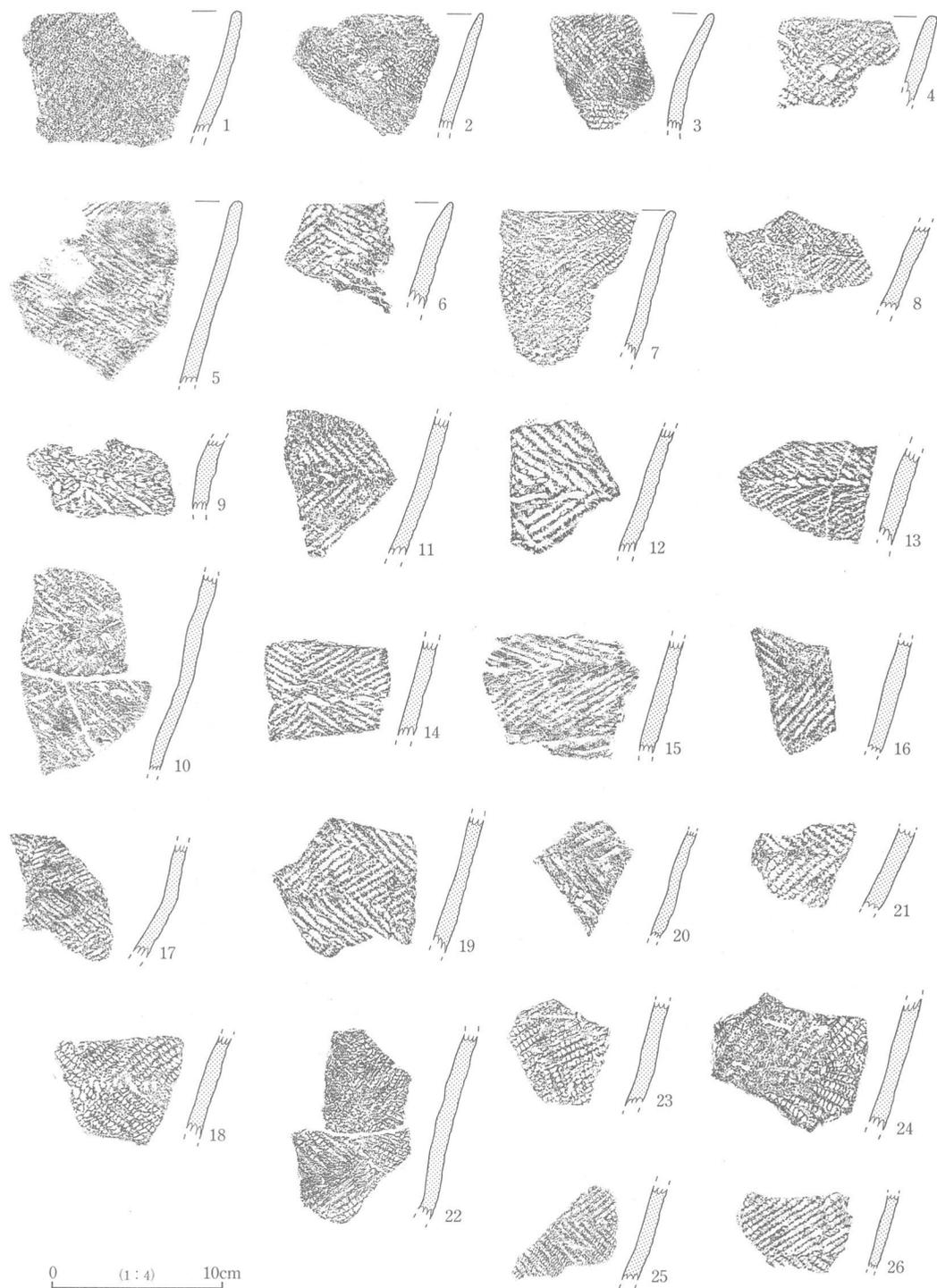
挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-キ-14 113	深 鉢 胴 部	— <6.0> —	外面 捺糸文 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-キ-18 114	深 鉢 胴 部	— <7.7> —	外面 無文 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 内面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-キ-18 115	深 鉢 胴 部	— <7.2> —	外面 無文 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 内面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 116	深 鉢 底 部	— <5.8> —	外面 2本揃えによる捺糸文 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 117	深 鉢 底 部	— <5.2> —	外面 捺糸文? 内面 ナデ	5YR4/8 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 118	深 鉢 底 部	— <2.3> —	外面 不明(無文?) 内面 ナデ	5YR3/6 暗赤褐 内面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-12 119	深 鉢 底 部	— <6.8> —	外面 捺糸文 内面 ナデ	5YR4/8 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
J-オ-17 120	深 鉢 胴 部	— <5.2> —	外面 無文 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-オ-14 121	深 鉢 底 部	— <7.0> —	外面 無文? 内面 ナデ	5YR4/8 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
H-ソ-8 122	深 鉢 胴 部	— <6.4> —	外面 不明 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙(内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 多量に 含む
J-キ-18 123	深 鉢 胴 部	— <5.8> —	外面 捺糸Rの2本揃えによる羽状構成 内面 ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-12 124	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 縄文RとLの2本揃えの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-11 125	深 鉢 胴 部	— <7.1> —	外面 2本揃えの捺糸文 一部網目状の構成となる 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-カ-15 126	深 鉢 胴 部	— <6.9> —	外面 捺糸文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙(内面) 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 多量に 含む
F-ク-11 127	深 鉢 胴 部	— <9.7> —	外面 2本?揃えの捺糸文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙(内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
L-テ-13 128	深 鉢 胴 部	— <9.6> —	外面 捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 内面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-ク-18 129	深 鉢 胴 部	— <5.6> —	外面 縄文Rの捺糸文 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-15 130	深 鉢 胴 部	— <11.6> —	外面 2本揃えの捺糸文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-キ-18 131	深 鉢 胴 部	— <6.1> —	外面 無節縄文Lの捺糸文による羽状構成 内面 ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-13 132	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 縄文LとRの2本揃えの捺糸文による 羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 133	深 鉢 胴 部	— <7.5> —	外面 捺糸文 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-13 134	深 鉢 胴 部	— <6.4> —	外面 捺糸文? 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 砂粒を含む	※繊維を 微量 含む

第35表 第2群土器観察表⑥

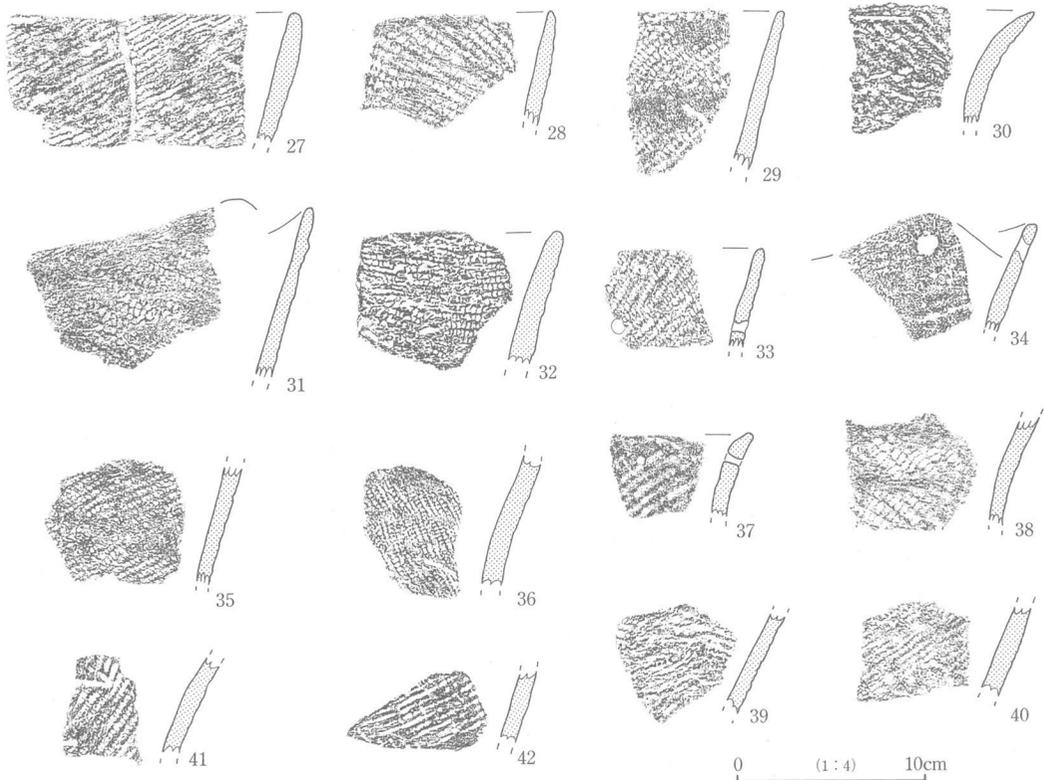
挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ケ-13 135	深鉢 鉢部	〈6.3〉	外面 2本揃えの燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-テ-12 136	深鉢 鉢部	〈4.9〉	外面 縄文LとRの2本揃えによる燃糸文 内面 ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	※繊維を 含む 神ノ木?
				内面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-サ-12 137	深鉢 鉢部	〈3.4〉	外面 燃糸文? 内面 ナデ	5YR 5/8 明赤褐 (内面)	※繊維を 含む
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-コ-12 138	深鉢 鉢部	〈6.2〉	外面 無節?の燃糸文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ケ-14 139	深鉢 鉢部	〈13.7〉	外面 無節の燃糸文による菱形構成 内面 ナデ	5YR 4/4 にぶい赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ス-11 140	深鉢 鉢部	〈11.5〉	外面 無節?の縄文 内面 ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				内面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-キ-12 141	深鉢 鉢部	〈8.8〉	外面 縄文Lによる燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
F-ク-15 142	深鉢 鉢部	〈5.7〉	外面 縄文Lによる燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-ク-14 143	深鉢 鉢部	〈6.0〉	外面 縄文LとRの2本揃えによる燃糸文? 内面 ナデ	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
I-ソ-9 144	深鉢 鉢部	〈12.6〉	外面 縄文LとRによる2本揃えの燃糸文で 羽状構成 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 多量に 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-キ-12 145	深鉢 鉢部	〈7.6〉	外面 縄文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
F-ス-10 146	深鉢 鉢部	〈6.6〉	外面 縄文LとRの2本揃えの燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 4/1 褐灰	※繊維を 含む
				断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
F-シ-10 147	深鉢 鉢部	〈3.8〉	外面 縄文Lの2本揃えによる燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐 (内面)	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ク-16 148	深鉢 鉢部	〈6.2〉	外面 燃糸文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 多量に 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-ウ-16 149	深鉢 鉢部	〈9.5〉	外面 燃糸文による羽状構成? 内面 調整不明	5YR 4/6 赤褐	※繊維を 含む
				径3~4mmの赤色粒子と小石を多く含む	
F-ク-14 150	深鉢 鉢部	〈8.7〉	外面 燃糸文? 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 (内面)	※繊維を 微量 含む
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-エ-15 151	深鉢 鉢部	〈4.3〉	外面 縄文Lの燃糸文 内面 ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	

第36表 第2群土器観察表⑦

③第3群



第69图 第3群土器实测图①



第70図 第3群土器実測図②

第3群として捉えた土器群は胎土に繊維を含み単節・無節の斜走縄文や撚糸文施文を基本とし、一部羽状或いは菱形構成をなすものを取り上げた。なお、第2群で取り上げた胴部破片と第3群は内容的に重複する部分もあるが、第2群の土器は口縁部と胎土が近似するものを選択してある。1～26は羽状或いは菱形構成をとる破片であり、27～42は斜走縄文の施文を行っているものである。

1～7は単節・無節の縄文により羽状あるいは菱形構成をとる口縁部の破片である。4のみ口唇部が面取りした様な状態で、他の口唇部と形状が異なる。27～34・37は縄文施文の口縁部破片であり34以外は縄文施文である。34は器面が荒れており不確実であるが無文のようである。

胴部については口縁部と同じく縄文と撚糸文があり、羽状或いは菱形構成をとるものである。羽状構成の物の中には12・13・14のように結節部が明瞭に観察できるものがあつた。縄文原体はLRとRLのいずれも存在した。

これら土器片は胎土に繊維を含み、羽状或いは菱形構成をとるなどの特徴から、前期前半～中葉に位置づけられるものと考えられる。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-サ-12 1	深 鉢 口縁部	— <8.6> —	外面 羽状縄文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐	※繊維を 微量 含む
				断面黒色 径2~3mmの砂粒を含む	
F区 埋没谷 2	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を少量含む	
F-シ-11 3	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-テ-12 4	深 鉢 口縁部	— <8.0> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-キ-12 5	深 鉢 口縁部	— <4.7> —	外面 羽状構成 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-コ-13 6	深 鉢 口縁部	— <7.5> —	外面 無節縄文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と小石を含む	
F-ス-10 7	深 鉢 口縁部	— <7.8> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	5YR3/2 暗赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	
F-コ-14 8	深 鉢 胴部	— <7.0> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-カ-15 9	深 鉢 胴部	— <5.4> —	外面 撚糸文?による菱形構成 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-ツ-10 10	深 鉢 胴部	— <6.5> —	外面 縄文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	
F-オ-15 11	深 鉢 胴部	— <3.6> —	外面 縄文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	
F-キ-12 12	深 鉢 胴部	— <5.2> —	外面 縄文による羽状構成 結節あり 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	
F区 埋没谷 13	深 鉢 胴部	— <7.7> —	外面 縄文による羽状構成 結節あり 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 (内面)	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-コ-12 14	深 鉢 胴部	— <4.4> —	外面 撚糸文?による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
J区 埋没谷 15	深 鉢 胴部	— <3.7> —	外面 撚糸文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR4/3 褐	※繊維を 多く 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
J区 一括 16	深 鉢 胴部	— <6.4> —	外面 羽状構成 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-ク-12 17	深 鉢 胴部	— <5.2> —	外面 無節縄文 RL の羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径2~3mmの長石を微量含む	
F-キ-13 18	深 鉢 胴部	— <4.4> —	外面 縄文 LR と RL の菱形構成 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの長石を微量含む	
F-ケ-13 19	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 撚糸文?による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR3/4 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ト-13 20	深 鉢 胴部	— <4.2> —	外面 縄文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を微量含む	
F-チ-9 21	深 鉢 胴部	— <3.9> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR2/1 黒褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-シ-10 22	深 鉢 胴部	— <5.0> —	外面 縄文 LR と 無節?による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1~2mmの長石を微量含む	

第37表 第3群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 胎 調 士 胎 土	備 考
一括 23	深 鉢 胴 部	— <3.5> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR 4/2 灰褐	※繊維を 微量 含む
				径 2 ~ 3 mm の赤色粒子を多量に含む	
F-オ-13 24	深 鉢 胴 部	— <4.5> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と赤色粒子を含む	
F-サ-10 25	深 鉢 胴 部	— <3.3> —	外面 縄文 LR と RL による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR 2/1 黒	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	
F-キ-12 26	深 鉢 胴 部	— <5.8> —	外面 縄文による羽状構成 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を多く含む	
J-カ-18 27	深 鉢 口縁部	— <7.0> —	外面 無節縄文 L 内面 ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	
F-キ-12 28	深 鉢 口縁部	— <6.2> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を微量含む	
F-サ-11 29	深 鉢 口縁部	— <8.5> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	
F-サ-12 30	深 鉢 口縁部	— <6.8> —	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR 4/4 褐	※繊維を 含む 中道式?
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を多く含む	
F-コ-13 31	深 鉢 口縁部	— <9.2> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 6/2 灰褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と径 2 ~ 3 mm の赤色粒子を含む	
I-チ-10 32	深 鉢 口縁部	— <7.1> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 2 ~ 3 mm の赤色粒子を含む	
F-ケ-11 33	深 鉢 口縁部	— <5.3> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ 補修孔あり	7.5YR 7/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	
F-サ-10 34	深 鉢 口縁部	— <5.0> —	外面 無文? 内面 ナデ 補修孔あり	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 2 ~ 3 mm の白色砂粒を含む	
F-シ-10 35	深 鉢 胴 部	— <6.4> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と径 2 ~ 3 mm の赤色粒子を含む	
I-ト-11 36	深 鉢 縁 部	— <6.9> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を微量含む	
I-ト-13 37	深 鉢 口縁部	— <4.4> —	外面 縄文? 内面 ナデ 補修孔あり	7.5YR 7/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を多く含む	
F-ケ-12 38	深 鉢 胴 部	— <6.0> —	外面 縄文 RL? 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	
一括 39	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 不明 内面 ナデ	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	
I-ト-13 40	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 3/1 黒褐	※繊維を 含む
				径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を多く含む	
I-テ-12 41	深 鉢 胴 部	— <5.2> —	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	
J-チ-10 42	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 縄文 Lr 内面 ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙	※繊維を 含む
				径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	

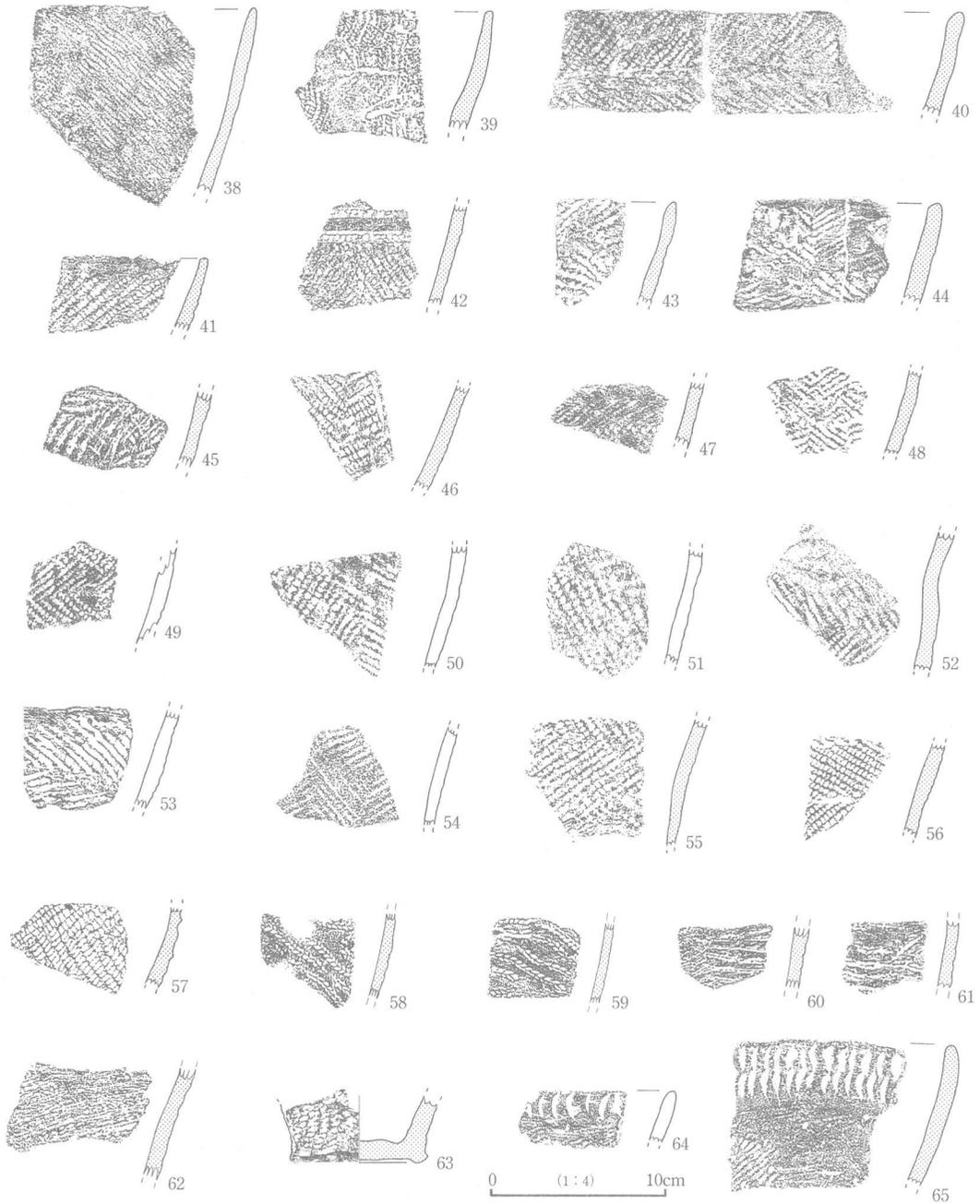
第38表 第3群土器観察表②



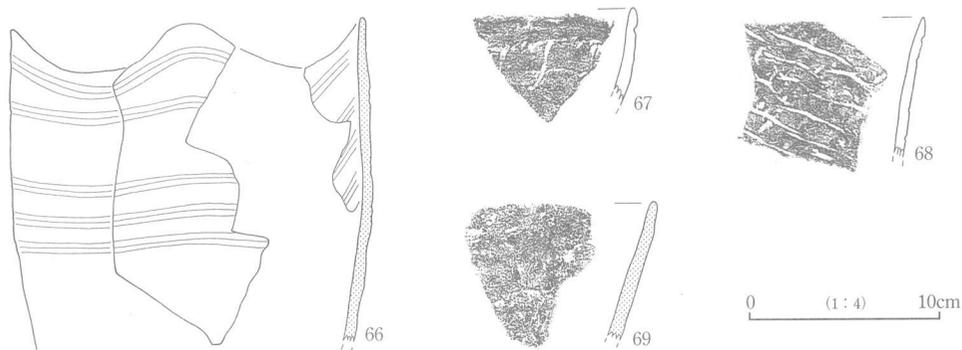
第71图 第4群土器实测图①

④第4群土器

本群は施文方法として口縁部或いは胴部に、いわゆる櫛歯状工具による縦位の連続刺突或いは横位の刺突、また同工具を使つての条線などが施文されている土器片及びそれと胎土が近似する土器片を第4群として捉えた。なお、第4群の土器片の内で観察表に「繊維微量含む」の記載し



第72図 第4群土器実測図②



第73図 第4群土器実測図③

たものは、土器片に繊維は混入しているが意図的な混入なのか疑わしい物について「微量」の言葉を使用した。

まず、橢圓状工具使用の口縁部については24点を図示した。この内口唇部に2対の小突起があるものとして6・7・28・32がある。いずれも肥厚した口縁部を粘土帯を張り付ける形で作りだしている。これら4点はいずれも波状を呈すると考えられる。ただ、32は橢圓ではなく筥状のような工具による刺突であり突起部分にも刺突している。次に同じく口唇部に突起をつけるものとして20と21があげられる。この2点は突起の形状が円環状を呈し、円環の縁や内面にも橢圓状工具による連続刺突が行われている。なお、31はこの円環部分が口縁部より剥落した部分と考えられる。また1点のみであるが24の様に、垂下する隆帯を貼付する形態の土器片もあった。その他の口縁部については口縁部が肥厚し段を形成するものと、15・23・27のようにそのまま立ち上がるものがある。ただ、橢圓状工具による連続刺突文を施す物については前者の形態が当遺跡では主体的と考えられる。

施文具であるが主体をなすのは橢圓状工具である。ただ筥状の工具を使用した可能性のあるものとしては14と32があげられる。次に施文方法であるが、工具を「突き刺して引きずる」という行為が確実に解るものは2・4・24・33～36である。1・5～8・10～14・16・18～21・23・25・28・29は工具を器面に対して「斜め方向から突き刺す」という行為が顕著である。よってこれらの土器片は前者が工具痕内に細い条線が走るのに対し、後者は工具痕の底に列点状の穴が付くのみである。詳細に観察すると工具の動かし方で2種類の方法が観察できたが程度の問題と部位による施文方法の違いともとれる為、観察表にはいずれも連続刺突文の語句を使用した。次に横位の刺突については22・27・26いずれも「垂直に突き刺す」行為が観察された。条線については横位の刺突と組み合わせられるものが多く21・22・26・27がそれに当たる。この条線は橢圓状工具による横引きの結果と考えられる。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ク-14 1	深 鉢 口縁部	— <9.0> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による連続刺突文 胴部無節縄文 ナデ 内面	7.5YR6/4 にぶい橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を含む	
J-キ-18 2	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR7/3 にぶい橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
J-ク-20 3	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に縄文の側面圧痕による列点状の施文 胴部縄文 LR ナデ 内面	7.5YR7/3 にぶい橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-サ-17 4	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部刺突文 ナデ 内面	7.5YR6/3 にぶい橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	※繊維を 微量 含む
I-キ-8 5	深 鉢 口縁部	— <3.2> —	外面 口縁部肥厚 口縁部と口縁直下に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR6/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ケ-12 6	深 鉢 口縁部	— <3.0> —	外面 口縁部肥厚 口唇部に2対の小突起 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	5YR7/4 にぶい橙 径1～2mmの白色粒子と赤色粒子を含む	
F-ク-11 7	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に2対の小突起 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部縄文? ナデ 内面	5YR7/4 にぶい橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
F-コ-12 8	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-キ-12 9	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に縄文の側面圧痕による列点状の施文 胴部無節縄文 ナデ 内面	7.5YR7/6 橙 径2～3mmの長石と径1～2mmの白色砂粒を多量に含む	
J-ク-18 10	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位2段の連続刺突文 胴部縄文 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径2～3mmの長石と径1～2mmの白色砂粒を多量に含む	
F-セ-9 11	深 鉢 胴部	— <4.1> —	外面 櫛歯状工具による連続刺突文と条線 胴部は縄文 ナデ 内面	7.5YR7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を含む	口縁部 付近
I-チ-9 12	深 鉢 胴部	— <3.6> —	外面 櫛歯状工具による連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR7/4 にぶい橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-エ-16 13	深 鉢 口縁部	— <3.9> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部に横位の刺突文内に条線 ナデ 内面	7.5YR3/1 黒褐 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ク-17 14	深 鉢 口縁部	— <8.5> —	外面 口縁部肥厚 口縁部篋状工具による連続刺突文 胴部縄文 ナデ 内面	7.5YR2/1 黒 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
I-テ-12 15	深 鉢 口縁部	— <6.5> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR2/1 黒 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ケ-12 16	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位2段の連続刺突文 胴部は横位の連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ケ-14 17	深 鉢 胴部	— <4.7> —	外面 半隆帯的な表出で円形及び平行線を施す ナデ 内面 内外面化粧土を施す	5YR3/3 暗赤褐 径1～2mmの白色粒子を含む	他時期?
F-サ-12 18	深 鉢 胴部	— <3.7> —	外面 櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 山形の沈線文 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を少量含む	
J-オ-17 19	深 鉢 口縁部	— <3.3> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部に横位の刺突文 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
J-ケ-18 20	深 鉢 口縁部	— <3.4> —	外面 口唇部に円環状の小突起 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
I-サ-8 21	深 鉢 口縁部	— <5.3> —	外面 口唇部に円環状の小突起 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部に横位の刺突文間に条線 ナデ 内面	5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
I-コ-19 22	深 鉢 口縁部	— <5.9> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 胴部に横位の刺突文と条線 ナデ 内面	5YR6/6 にぶい橙 径1～2mmの白色粒子を含む	

第39表 第4群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ケ-13 23	深 鉢 口縁部	---	外面 口縁部小突起 口縁部に条線を施した後 櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	5 YR 6/4 にぶい橙	
		<4.4> ---		径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を少量含む	
F-コ-13 24	深 鉢 口縁部	---	外面 口縁部より垂下降帯 隆帯上と口縁 部・口唇部に櫛歯状工具による連続 刺突文と条線 ナデ 内面	5 YR 6/4 にぶい橙	
		<5.0> ---		径1~2mmの長石と白色砂粒・赤色粒子を 多く含む	
F-ケ-13 25	深 鉢 胴部	---	外面 櫛歯状工具による連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR 7/6 橙	
		<6.3> ---		径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
J-ケ-19 26	深 鉢 胴部	---	外面 櫛歯状工具による横位の刺突文間に条 線による菱形構成 交点には渦巻き ナデ 内面	5 YR 7/6 橙	
		<5.1> ---		径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
J-コ-18 27	深 鉢 口縁部	---	外面 櫛歯状工具による横位の刺突文間に 条線 ナデ 内面	5 YR 7/6 橙	
		<8.0> ---		径1~2mmの長石と赤色粒子を少量含む	
J-キ-17 28	深 鉢 口縁部	---	外面 口唇部に2対の小突起 口縁部に櫛 歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR 7/2 明褐灰	
		<4.1> ---		径1~2mmの白色粒子を少量含む	
J-ケ-18 29	深 鉢 底部	---	外面 底部付近に櫛歯状工具による縦位の 連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR 4/3 褐灰	
		<3.7> ---		径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-キ-13 30	深 鉢 底部	---	外面 底部付近に櫛歯状工具による縦位の 連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR 7/4 にぶい橙	
		<1.3> <7.2>		径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-オ-14 31	深 鉢 口縁部	---	外面 口唇部の円環状の突起部分 横位の刺突文あり ナデ 内面	7.5YR 7/6 橙	※繊維を 含む
		<2.8> ---		断面黒色 径2~3mmの長石を含む	
F-ケ-12 32	深 鉢 口縁部	---	外面 口唇部肥厚 口唇部に小突起 口唇部に櫛歯状工具?による刺突文 ナデ 内面	7.5YR 5/1 褐灰	
		<3.0> ---		径1~2mmの白色粒子を少量含む	
F-カ-13 33	深 鉢 口縁部	---	外面 櫛歯状工具による横位の刺突文間に 条線 ナデ 内面	7.5YR 7/4 にぶい橙	※繊維を 含む
		<4.5> ---		断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	
F-コ-10 34	深 鉢 胴部	---	外面 櫛歯状工具による横位の刺突文間に 条線 ナデ 内面	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
		<5.3> ---		断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
J-カ-18 35	深 鉢 胴部	---	外面 櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 ナデ 内面	7.5YR 7/4 にぶい橙	※繊維を 含む
		<8.2> ---		断面黒色 径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
F区 埋没谷 36	深 鉢 胴部	---	外面 櫛歯状工具による縦位の連続刺突文 条線は菱形構成? ナデ 内面	7.5YR 4/3 褐	※繊維を 含む
		<6.0> ---		断面黒色 径1~2mmの長石を含む	
F-セ-7 37	深 鉢 底部	---	外面 底部付近に櫛歯状工具による縦位の 連続刺突文 ナデ 内面	5 YR 4/6 赤褐	※繊維を 含む
		<3.8> ---		断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を微量含む	
J-エ-17 38	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文 RL ナデ 内面	10YR 7/3 にぶい黄橙	※繊維を 含む
		<10.7> ---		断面黒色 径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
F区 埋没谷 39	深 鉢 口縁部	---	外面 束の縄文 ナデ 内面	7.5YR 6/6 橙	※繊維を 含む
		<7.1> ---		断面黒色 径1~2mmの長石を含む	
J-カ-17 40	深 鉢 口縁部	---	外面 結節羽状縄文 ナデ 内面	5 YR 7/6 橙	※繊維を 微量 含む
		<6.0> ---		径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
F-オ-13 41	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文 LR ナデ 内面	10YR 5/3 にぶい黄褐	※繊維を 微量 含む
		<4.4> ---		径1~2mmの白色砂粒を少量含む	
F-キ-14 42	深 鉢 胴部	---	外面 平行沈線間に横位の刺突文 胴部は縦位の羽状縄文? ナデ 内面	10YR 7/4 にぶい黄褐	※繊維を 含む
		<5.8> ---		断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~ 3mmの赤色粒子を含む	
I-チ-10 43	深 鉢 口縁部	---	外面 羽状縄文 ナデ 内面	10YR 7/4 にぶい黄褐	※繊維を 含む
		<5.9> ---		径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-ト-11 44	深 鉢 口縁部	---	外面 縦位の無節縄文による羽状構成 擦痕状のナデ 内面	10YR 7/4 にぶい黄褐	※繊維を 含む
		<5.8> ---		断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	

第40表 第4群土器観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-サ-12 45	深 鉢 胴 部	— <4.5> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を含む	
J-カ-17 46	深 鉢 胴 部	— <6.2> —	外面 羽状縄文 内面 擦痕状のナデ	10YR 7/4 にぶい橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 微量 含む
F-シ-9 47	深 鉢 胴 部	— <4.0> —	外面 結節羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-コ-19 48	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 羽状縄文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR 7/6 にぶい褐 (内面) 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
I-ツ-10 49	深 鉢 胴 部	— <5.8> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く含む	
J-ケ-18 50	深 鉢 胴 部	— <7.1> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1～2mmの白色粒子と長石を多く含む	
J-ケ-18 51	深 鉢 胴 部	— <6.8> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
J-ケ-18 52	深 鉢 胴 部	— <8.0> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 微量 含む
I-チ-9 53	深 鉢 胴 部	— <5.8> —	外面 無節縄文による羽状構成 内面 擦痕状のナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1～2mmの白色砂粒を少量含む	
I-タ-8 54	深 鉢 胴 部	— <5.8> —	外面 羽状縄文による菱形構成 内面 擦痕状のナデ	7.5YR 6/6 橙 径1～2mmの長石と白色砂粒を少量含む	
N-ク-1 55	深 鉢 胴 部	— <7.5> —	外面 羽状縄文 内面 擦痕状のナデ	5 YR 6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-コ-19 56	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 結節羽状縄文 内面 ナデ	5 YR 3/1 黒褐 断面黒色 径1～2mmの長石と白色砂粒を含む	※繊維を 微量 含む
H-ソ-19 57	深 鉢 胴 部	— <4.6> —	外面 羽状縄文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 径1～2mmの白色砂粒を微量含む	※繊維を 含む
F-ウ-14 58	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 縄文LとRの擦糸文 内面 ナデ	5 YR 3/2 暗赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-ク-11 59	深 鉢 胴 部	— <4.7> —	外面 縄文LとRの擦糸文 内面 ナデ	5 YR 4/4 にぶい赤褐 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-コ-10 60	深 鉢 胴 部	— <3.5> —	外面 縄文LとRの擦糸文 内面 ナデ	7.5YR 4/1 灰褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-ト-13 61	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 縄文LとRの擦糸文 内面 ナデ	7.5YR 3/1 黒褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 62	深 鉢 胴 部	— <6.7> —	外面 付加条縄文? 内面 ナデ	7.5YR 5/3 にぶい橙 断面黒色 径1～2mmの長石を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 63	深 鉢 底 部	— <3.9> <8.0>	外面 縄文 内面 擦痕状のナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-12 64	深 鉢 口縁部	— <3.1> —	外面 口縁部に篋状工具による刺突 内面 擦痕状のナデ	10YR 7/6 明黄褐 径1～2mmの白色砂粒を微量含む	
F-ク-13 65	深 鉢 口縁部	— <8.2> —	外面 口縁部に篋状工具による刺突 内面 胴部条線? ナデ	10YR 3/1 黒褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F区 埋没谷 66	深 鉢 口縁部	18.8 <17.0> —	外面 波状口縁 竹管状工具?による沈線文 内面 ナデ	10YR 4/2 灰黄褐 径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む

第41表 第4群土器観察表③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-コ-19 67	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 撚糸文? 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	
				径1～2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
I-テ-10 68	深 鉢 口縁部	— <7.5> —	外面 撚り戻しの縄? 内面 擦痕状のナデ	7.5YR4/2 灰褐	
				径1～2mmの白色砂粒を少量含む	
F-カ-13 69	深 鉢 口縁部	— <7.3> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	※繊維を 微量 含む
				径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	

第42表 第4群土器観察表④

次に特異なものとして3があげられる。形態的には他の口縁部と同じであるが、口縁部への施文が縄文?による側面圧痕による列点状の刺突である。

次に胎土が近似するものとして選んだ38～63は主に縄文・撚糸文施文されている土器片である。胎土の特徴としては、径1～3mmぐらいの白色の砂粒や長石が含まれる点が上げられる。縄文施文の内特徴的なものとしては39の束の縄文がある。また、観察表において内面「擦痕状のナデ」と表現した行為は、胎土砂粒が横方向に激しく動いている現象で、「ケズリ」のような状態を指し示す。当遺跡においては第4群とした土器には顕著にみられる現象であった。

なお、当群の中では特異なものであるが64～68を上げた。64と65は口縁部に篋状工具による斜め方向からの刺突が行われ、一見すると爪形文の形状に似ている。この2点は当群のなかでは特異な土器であるが、宮田村中越遺跡98号住居や御代田町塚田遺跡縄文前期中葉の土器分類2・3類等に類例があたると考えられる。66～69は胎土的に第4群に似るが文様構成の共通項を見いだせない。特徴としては他の土器片に比べ薄く、67・68は非常に硬質な感を受けることからいわゆる東海系のオセンヘ土器と呼ばれる一群の系譜も考えられるのかもしれない。

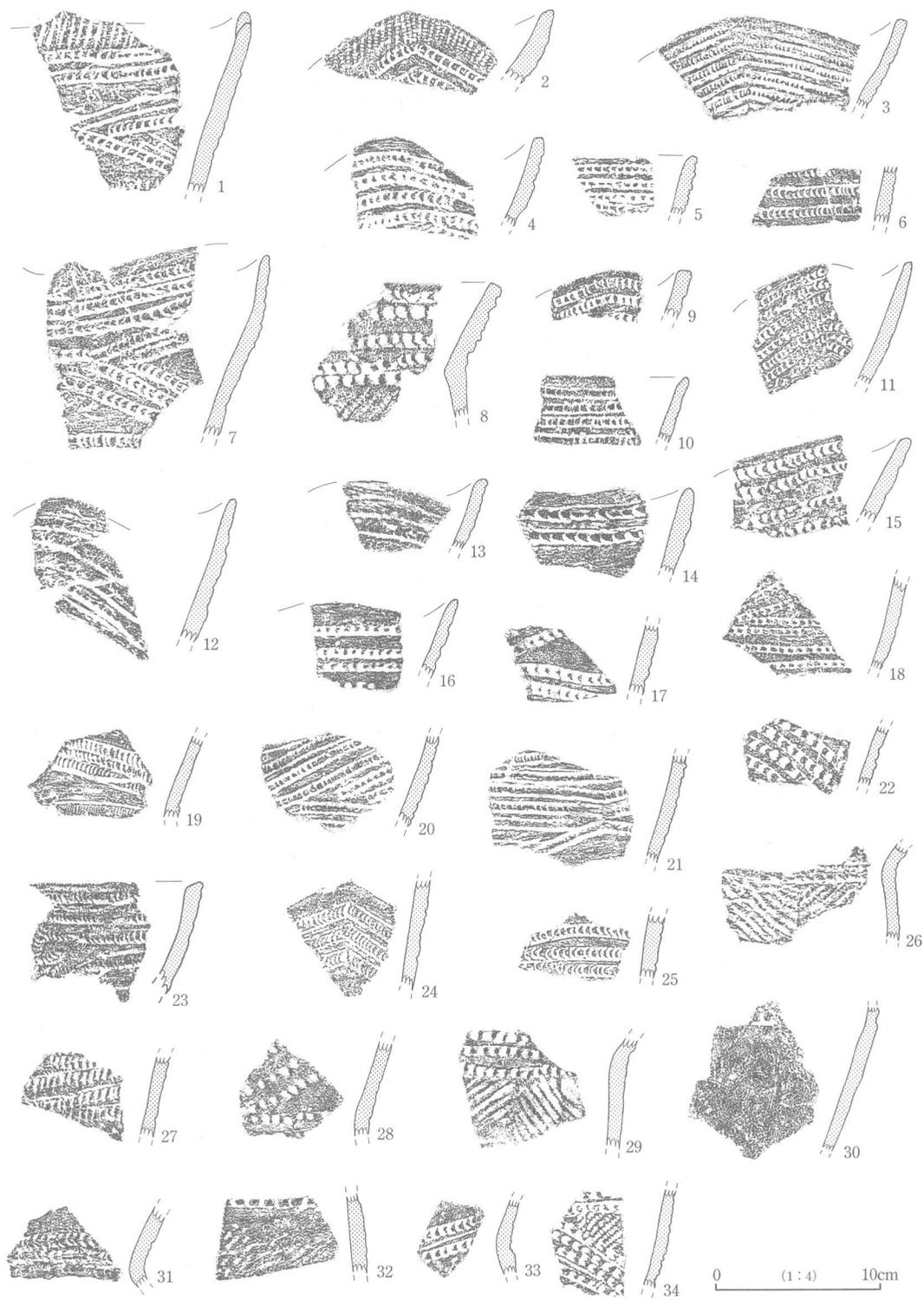
以上、第4群として捉えた土器について述べてきたが、これら土器の位置づけとしては、櫛歯状工具の多用や、施文方法として連続刺突文「刺して引きずる」等の行為より、いわゆる縄文前期中葉の神ノ木式に比定されよう。最後に当群の繊維を含む土器と含まない土器について触れたい。第4群として図示した土器片69点の内、繊維を含む物は23点で33%を示す(微量は含まない)。また、神ノ木式として特徴の顕著な1～37の37点では繊維の含む物6点で全体の16%である。他遺跡における神ノ木式についての含繊維土器と無繊維土器の比率データが無いため単純に比較できないが、榛名平遺跡における典型的な神ノ木式においては含繊維が1割強の比率であり、少ないと言えそうである。ただ、繊維を含む・含まないについては「神ノ木式の型式内において古い様相のものは無繊維傾向が強く、新しい様相になると繊維を含む傾向にある。」という指摘もあることから、当遺跡の神ノ木式についても型式内の時期差による比率の相違も考えに入れておく必要がある。

⑤第5群土器

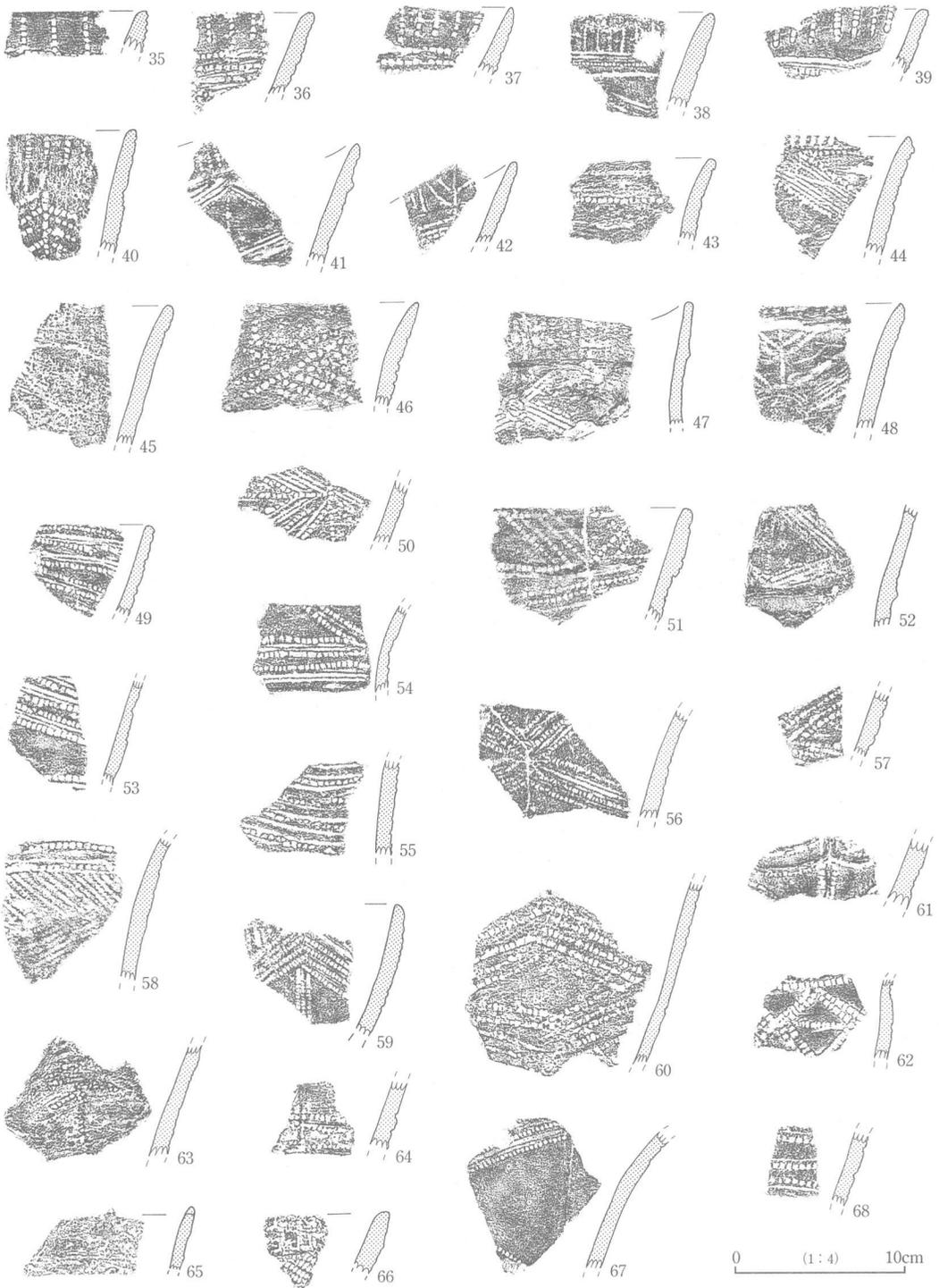
本群としては施文具として橢円状工具により列点状の刺突(突き刺す)或いは条線(押し引く)を行うもの、また半截竹管の刺突により爪形文(突き刺す)を施す、或いは平行沈線(押し引く)を表出するものを第5群として捉えた。なお、施文文様の語句については、2本以上の沈線で橢円状工具によると考えられるものは「条線」、2本単位が確認できるものは基本的に半截竹管による押し引きで「平行沈線」の語句を用いた。しかし、2本単位ではあるが橢円状工具を用いたともとれる施文もあり、不明確なものは工具を観察表に記載していない。

口縁部の形態としては、51・71・73のような口縁部が肥厚するもの、41・47・48のように口縁部下に微隆帯を施すもの、1・7のように口縁部の大きな波状の中に小突起を施すものなどがある。全体的には波状口縁になるのが多い。胴部は土器全体の器形が把握できないため詳細は不明であるが、26・29・31は口縁部につながる胴部のくびれ部分と考えられる。

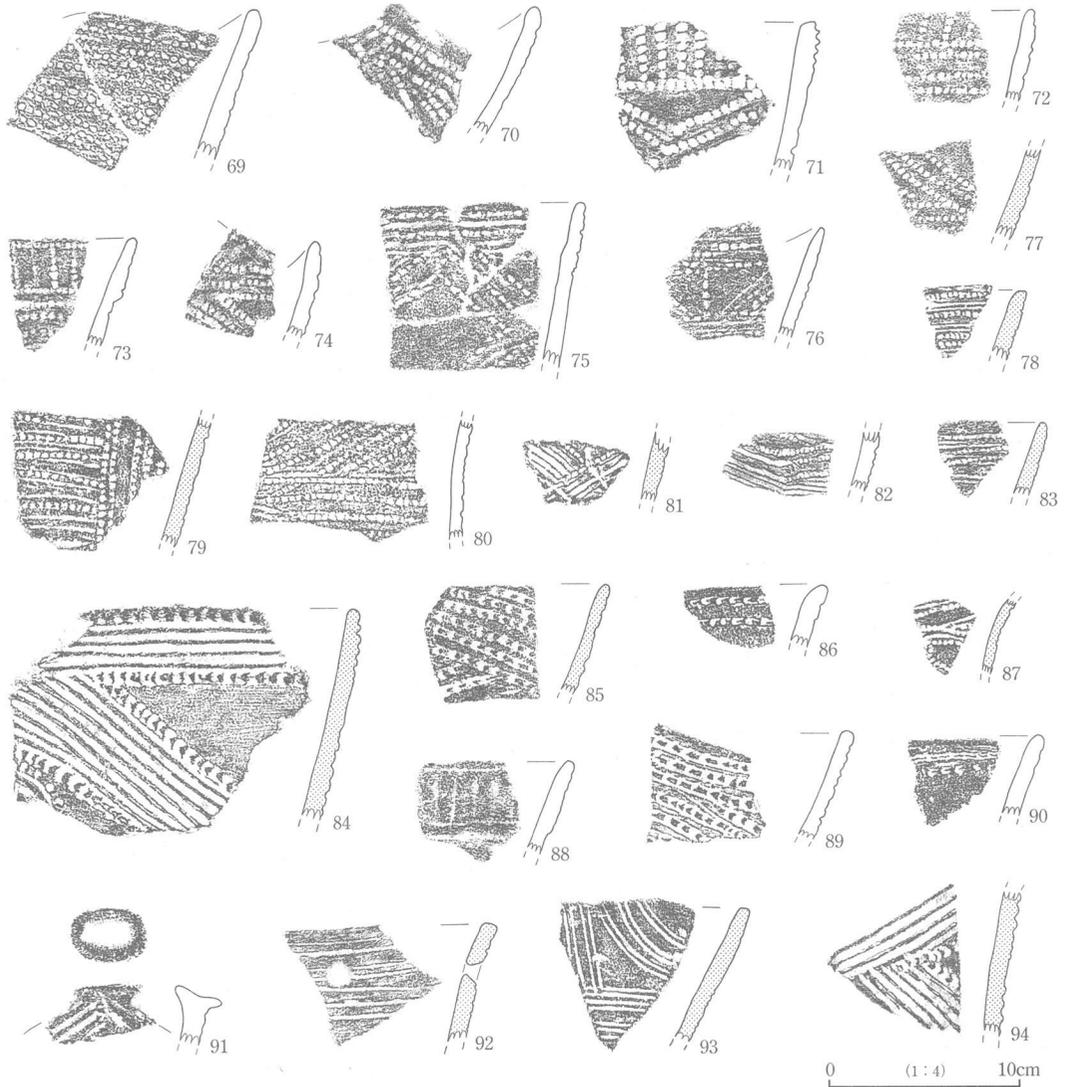
施文の特徴としては、先に挙げた橢円状工具と半截竹管によるそれぞれの施文か或いは少数であるが二つの組み合わせによる施文がある。まず、二つの組み合わせによる施文としては1と2の2点がある。いずれも口縁部に橢円状工具の列点状刺突文を縦位に施し、口縁部下に半截竹管による平行間に爪形文を施している。これら2点はいずれも繊維を含む。次に半截竹管による施文は3～19などの爪形文のみを施文、84・94の爪形文と平行沈線を施文、91～93の平行沈線のみを施文の3種類がある。この内、爪形文のみを施文は詳細に観察すると、竹管により平行沈線を描いた後、線間に爪形文を施文する3・7・20・21・25などの土器片と、竹管による刺突で爪形文を描きながら、竹管を器面からはなさず「横に引きずる」状態で平行線も描いてしまう4・5・8・15～18などの2種類がある。また、いずれの種類の爪形文も刺突方向は器面に対し右斜めより刺突しているものが殆どで、特に「横に引きずる」爪形文はその傾向が強い。第5群において半截竹管を使用する土器片は繊維を含む物が90%以上を占める。次に橢円状工具による施文の土器は、69～72のような縦位或いは横位の列点状刺突文のみで施文するものと、36・38・41・47などの列点状刺突文と条線を組み合わせる2種類がある。列点状刺突文は5～6個の単位を一組とする橢円状工具を一行に施文しているものが殆どであるが、まれに62の様に横位に2段重ねのものもある。大きさは71の様に大型のものから、83の様に小型の物まで種々にとむ。刺突の方法は神ノ木式と異なり垂直に突き刺している。列点状刺突文と条線を組み合わせるものは、41・47・48の条線の両脇に横位の列点状刺突文を添えるタイプと、49・53の様に条線と列点状刺突を交互に施文するタイプの2種類がある。特に先にも述べたが、後者の交互に施文するタイプの条線は2本の物が多く、橢円状工具によるものか半截竹管によるものか判断がしにくい物が存在する。橢円状工具による施文の土器は繊維を含む物と含まないものの比率は半々位であるが、口縁部下に微隆帯を持つ物はすべて繊維を含み、口縁部肥厚のものは繊維を含んでいない。



第74图 第5群土器实测图①



第75图 第5群土器实测图②



第76図 第5群土器実測図③

以上、第5群とした土器の概要を述べたがこれら土器の位置づけとしては、施文具がまず櫛歯状工具と半截竹管による施文で、施文方法も第4群とした「神ノ木式」と異なり櫛歯状工具による刺突の後の引きずりが確認できず、垂直の刺突のみを最大の特徴とする。また、胎土においては繊維を含む物・含まない物の2者が存在する。これらの事から縄文前期中葉の有尾式の範疇として捉えておきたい。また、施文の組み合わせ変化と口縁部の肥厚や微隆帯の有無は当遺跡における時期差として捉えられるか。なお、66については「有尾式」の系譜とは異なると思われる、東北地方の影響も考えられるのかもしれない。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-エ-15 1	深 鉢 口縁部	— <11.0> —	外面 口縁部小突起 口縁部楕圓状工具による縦位の列点状刺突文 胴部は半截竹管による平行沈線と爪形文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの小石を多く含む	※繊維を含む
F-エ-15 2	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 口縁部波状 口縁部に楕圓状工具による縦位の列点状刺突文 胴部は半截竹管による平行沈線と爪形文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの長石と径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-ケ-18 3	深 鉢 口縁部	— <5.9> —	外面 口縁部波状 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を多く含む
F-サ-12 4	深 鉢 口縁部	— <5.4> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管を横方向にずらしながら爪形文を施す 内面 ナデ	2.5YR6/8 橙 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を微量含む
I-ト-13 5	深 鉢 口縁部	— <3.6> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管を横方向にずらしながら爪形文を施す 内面 ナデ	5YR6/8 橙 断面黒色 径2~3mmの長石と白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
I-ス-6 6	深 鉢 胴 部	— <3.5> —	外面 半截竹管による沈線と爪形文 内面 ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と砂粒を多く含む	
F-カ-15 7	深 鉢 口縁部	— <11.0> —	外面 口縁部小突起 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文による菱形構成 内面 ナデ	10YR7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの砂粒を微量含む	※繊維を多く含む
J-ケ-18 8	深 鉢 口縁部	— <8.2> —	外面 口縁部に半截竹管を横方向にずらしながら爪形文を施す 胴部縄文? 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-サ-11 9	深 鉢 口縁部	— <3.0> —	外面 口縁部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	2.5RY4/6 赤褐 径2~3mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
F-ク-13 10	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	2.5YR4/4 にぶい赤褐 径1~2mmの砂粒を多く含む	
F-カ-14 11	深 鉢 口縁部	— <7.4> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径2~3mmの長石を多く含む	※繊維を含む
F-サ-11 12	深 鉢 口縁部	— <8.7> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を多く含む
F-エ-15 13	深 鉢 口縁部	— <4.5> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	10RY7/4 にぶい黄褐 断面黒色 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を含む
M-ウ-15 14	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 口縁部に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径2~3mmの長石を微量含む	※繊維を含む
J-キ-17 15	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 半截竹管を横方向にずらしながら爪形文 内面 ナデ	5YR7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-シ-10 16	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 半截竹管を横方向にずらしながら爪形文 内面 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を含む
J-カ-18 17	深 鉢 胴 部	— <4.3> —	外面 半截竹管を横方向にずらしながら爪形文 内面 ナデ	5YR7/6 橙 径2~3mmの赤色粒子を多量に含む	※繊維を含む
F-コ-11 18	深 鉢 口辺部	— <5.6> —	外面 半截竹管を横方向にずらしながら爪形文を施し菱形構成 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙 断面黒色 径2~3mmの長石を多く径1~2mmの赤色粒子を少量含む	※繊維を含む
F-コ-11 19	深 鉢 口辺部	— <5.0> —	外面 半截竹管による平行沈線と細かな爪形文 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
F-コ-11 20	深 鉢 口辺部	— <5.6> —	外面 半截竹管による平行沈線と細かな爪形文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む 21と同一固体の可能性
J-ク-18 21	深 鉢 胴 部	— <6.5> —	外面 半截竹管による平行沈線と細かな爪形文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む 20と同一固体の可能性
F-ケ-11 22	深 鉢 口辺部	— <3.5> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色粒子と赤色粒子を含む	※繊維を含む

第43表 第5群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ク-14 23	深 鉢 口縁部	— <6.9> —	外面 口縁部~胴部に半截竹管による平行 沈線と細かな爪形文 一部「J」字 状に曲がる 内面 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-オ-17 24	深 鉢 胴 部	— <6.8> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 断面黒色 径2~3mmの白色砂粒・長石を多く含む	※繊維を 含む
I-ツ-11 25	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	2.5YR4/8 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を少量含 む	※繊維を 含む
F-サ-11 26	深 鉢 頸 部	— <6.0> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 胴部羽状縄文 内面 ナデ	10YR8/4 浅黄橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 27	深 鉢 胴 部	— <5.0> —	外面 半截竹管か篋状工具による平行沈線 と爪形文 内面 ナデ	10YR4/2 灰黄褐 断面黒色 径2~3mmの長石を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-10 28	深 鉢 頸 部	— <5.7> —	外面 櫛歯状工具?による列点状刺突文と 平行沈線? 内面 ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 径1~2mmの白色粒子と径2~3mmの赤色 粒子を多く含む	※繊維を 微量 含む
J-カ-17 29	深 鉢 胴 部	— <6.6> —	外面 半截竹管による爪形文と羽状縄文 内面 ナデ	5YR6/6 橙 径1~2mmの赤色粒子と白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-カ-14 30	深 鉢 胴 部	— <8.8> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-11 31	深 鉢 胴 部	— <5.0> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	10YR8/6 黄橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-13 32	深 鉢 胴 部	— <5.0> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を多く含む	※繊維を 含む
I-チ-8 33	深 鉢 胴 部	— <4.5> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-ト-13 34	深 鉢 胴 部	— <6.0> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文施 文の後 地文縄文LR 内面 ナデ	5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含 み、長石を含む	※繊維を 含む
J-コ-19 35	深 鉢 口縁部	— <2.5> —	外面 櫛歯状工具による縦位と横位の列点 刺突文 内面 ナデ	7.5YR5/2 灰褐 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を含む	※繊維を 含む
I-テ-11 36	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の列点 状刺突文 胴部に条線と横位の列 点状刺突文 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-サ-11 37	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の列点 状刺突文 胴部に横位の列点状刺 突文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を 含む
F-ツ-12 38	深 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の列点 状刺突文と沈線 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子と長石と 白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-オ-15 39	深 鉢 口縁部	— <3.7> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の列点 状刺突文 胴部に横位の列点状刺 突文と条線 内面 ナデ	2.5YR4/6 赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-キ-18 40	深 鉢 口縁部	— <7.4> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位の列点 状刺突文 胴部に菱形構成の列点状 刺突文の交点に縦位の列点状刺突 文 内面 ナデ	10YR6/1 褐灰 径1~2mmの白色砂粒と長石を非常に多く 含む	※繊維を 含む
F-セ-10 41	深 鉢 口縁部	— <7.1> —	外面 口縁部波状 口縁部に櫛歯状工具に よる縦位の列点状刺突文 口縁部下 に微隆帯 胴部に条線と列点状刺 突文による菱形構成内に縦位の列点状 刺突文 内面 ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む 52と 同一固体 の可能性
F-サ-11 42	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 口縁部に櫛歯状工具による縦位と菱 形構成の列点状刺突文 胴部に横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 (内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-オ-15 43	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 櫛歯状工具による横位の列点状刺突 文 内面 ナデ	5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-サ-13 44	深 鉢 口縁部	— <7.0> —	外面 口唇部に櫛歯状工具?による縦位の 列点状刺突文 口唇部下に微隆帯 胴部に条線と横位の列点状刺突 文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む

第44表 第5群土器観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 土	備 考	
F-キ-14 45	深 鉢 口縁部	-- <8.3> --	外面	口縁部に橢圓状工具による縦位2段の列点状刺突文 胴部に菱形構成の列点状刺突文 内に縦位の列点状刺突文 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの長石を含む	※繊維を含む
			内面			
F-キ-14 46	深 鉢 口縁部	-- <4.9> --	外面	口縁部に橢圓状工具による縦位の列点状刺突文 胴部に菱形構成の列点状刺突文 ナデ	10YR7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を含む
			内面			
J-ク-18 47	深 鉢 口縁部	-- <7.2> --	外面	口縁部に橢圓状工具による縦位の列点状刺突文 口縁部下と胴部に微隆帯 胴部に条線と列点状刺突文による菱形構成で交点に円形の文様 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を含む
			内面			
F-セ-8 48	深 鉢 口縁部	-- <7.4> --	外面	口縁部に橢圓状工具による縦位の列点状刺突文 口縁部下に横位の列点状刺突文が脇に施された微隆帯 胴部に条線と列点状刺突文による菱形構成で交差部に円形の文様 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
			内面			
F-コ-10 49	深 鉢 口縁部	-- <5.4> --	外面	平行沈線と橢圓状工具による横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR7/8 黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を含む
F-キ-14 50	深 鉢 胴部	-- <3.7> --	外面	橢圓状工具による縦位と横位の列点状刺突文と条線 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 (内面) 断面黒色 径3~4mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-コ-12 51	深 鉢 口縁部	-- <6.8> --	外面	口縁部肥厚 口縁部に橢圓状工具による縦位と横位の列点状刺突文 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を微量含む 57と同一個体の可能性
			内面			
F-ケ-14 52	深 鉢 胴部	-- <7.2> --	外面	胴部に微隆帯 橢圓状工具による縦位と横位の列点状刺突文 条線と列点状刺突文による菱形構成で交差部に円形の文様 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を微量含む 41と同一個体の可能性
			内面			
F-サ-12 53	深 鉢 胴部	-- <6.1> --	外面	縦位状工具による条線と横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
F-キ-11 54	深 鉢 頸部	-- <5.0> --	外面	平行沈線と橢圓状工具による横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
			内面			
J-エ-17 55	深 鉢 胴部	-- <5.6> --	外面	半截竹管?による平行沈線 橢圓状工具による横位の列点状刺突文 擦痕状のナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの白色粒子を含む	※繊維を微量含む
			内面			
F-サ-12 56	深 鉢 胴部	-- <6.4> --	外面	橢圓状工具による条線と横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を含む
			内面			
F-ケ-13 57	深 鉢 胴部	-- <3.9> --	外面	橢圓状工具による横位の列点状刺突文 ナデ	7.5YR5/6 明赤褐 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を微量含む
F-エ-15 58	深 鉢 胴部	-- <8.4> --	外面	平行沈線と橢圓状工具による横位の列点状刺突文 羽状縄文 擦痕状のナデ	5YR5/6 明赤褐 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	※繊維を微量含む
			内面			
F-ス-9 59	深 鉢 口縁部	-- <5.1> --	外面	口縁部に橢圓状工具による縦位の列点状刺突文 胴部に縦位と横位の列点状刺突文による菱形構成 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を含む
			内面			
J-ウ-18 60	深 鉢 胴部	-- <10.7> --	外面	橢圓状工具による横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を含む
			内面			
F-サ-11 61	深 鉢 胴部	-- <4.0> --	外面	橢圓状工具による横位と縦位の列点状刺突文を曲線状に刺突 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を含む	※繊維を含む
			内面			
J-ケ-20 62	深 鉢 胴部	-- <4.7> --	外面	橢圓状工具による横位と縦位の列点状刺突文で菱形構成 ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を微量含む
			内面			
F-コ-11 63	深 鉢 胴部	-- <6.6> --	外面	橢圓状工具による横位の列点状刺突文と条線で菱形構成 ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
			内面			
F-サ-13 64	深 鉢 胴部	-- <4.0> --	外面	橢圓状工具による横位の列点状刺突文と条線で菱形構成 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を含む
			内面			
I-テ-11 65	深 鉢 口縁部	-- <3.8> --	外面	口唇部に小突起 口縁部に橢圓状工具による縦位の列点状刺突文 ナデ	7.5YR4/4 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を含む
			内面			
F-ケ-12 66	深 鉢 口縁部	-- <3.6> --	外面	口縁部に絡条体圧痕?による連続刺突文状の文様 胴部に縄文 RL ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子と長石を含む	※繊維を含む
			内面			

第45表 第5群土器観察表③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ケ-14 67	深 鉢 胴 部	— <8.5> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文と沈線による菱形構成 内面 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-シ-10 68	深 鉢 胴 部	— <4.3> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文と沈線 内面 ナデ	5YR6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-キ-18 69	深 鉢 口縁部	— <8.0> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文で菱形構成 内面 擦痕状のナデ	5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
J-ク-18 70	深 鉢 口縁部	— <6.8> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文で菱形構成 内面 ナデ	10YR8/3 残黄橙 径1～2mmの白色砂粒と径2～3mmの赤色 粒子を多く含む	
J-ター-16 71	深 鉢 口縁部	— <7.8> —	外面 口縁部に橢圓状工具による縦位の列 点状刺突文 胴部に横位の列点状刺 突文で菱形構成 内面 ナデ	2.5YR5/8 明赤褐 径1～2mmの白色砂粒と径2～3mmの赤色 粒子と長石を多く含む	
I-ター-10 72	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 口縁部に橢圓状工具による縦位の列 点状刺突文 胴部に横位の列点状刺 突文 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙 径1～2mmの白色粒子と赤色粒子と長石を 含む	
F 区 埋没谷 73	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口縁部肥厚 口縁部に橢圓状工具に よる縦位と横位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR4/3 褐 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ケ-18 74	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 橢圓状工具による縦位と横位の列点 状刺突文 内面 擦痕状のナデ	5YR7/4 にぶい褐 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子と長石を 多く含む	
I-テ-12 75	深 鉢 口縁部	— <8.8> —	外面 口縁部に橢圓状工具による横位の列 点状刺突文と平行沈線 胴部に横位 の列点状刺突文による菱形構成 内面 ナデ	7.5YR7/3 橙 径1～2mmの白色砂粒、赤色粒子、長石を 多く含む	
F-ク-12 76	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文と平行沈線 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐 径1～2mmの長石と白色砂粒を含む	
F-シ-9 77	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-サ-11 78	深 鉢 口縁部	— <3.7> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文と平行沈線 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい橙 断面黒色 径1～2mmの長石と白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-カ-15 79	深 鉢 胴 部	— <6.9> —	外面 橢圓状工具による横位と縦位の列点 状刺突文と平行沈線 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-イ-16 80	深 鉢 胴 部	— <6.3> —	外面 橢圓状工具による横位と縦位の列点 状刺突文 内面 ナデ	5YR2/1 黒褐 径1～2mmの白色砂粒と砂粒を多く含む	
F-シ-10 81	深 鉢 胴 部	— <3.7> —	外面 橢圓状工具による列点状刺突文と条 線 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径1～2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
J-エ-17 82	深 鉢 胴 部	— <3.2> —	外面 橢圓状工具による列点状刺突文と条 線 内面 ナデ	5YR6/6 橙 (内面) 径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
F-コ-13 83	深 鉢 口縁部	— <3.9> —	外面 橢圓状工具による列点状刺突文と平 行沈線 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 84	深 鉢 口縁部	— <11.2> —	外面 口縁部に半截竹管による爪形文 胴部に平行沈線と爪形文 内面 擦痕状のナデ	5YR6/6 橙 径1～2mmの白色粒子と径2～3mmの赤色 粒子と長石を含む	※繊維を 含む
F-コ-13 85	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 半截竹管による横方面にずらしなが らの爪形文 内面 ナデ	5YR6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く、長石を含む	※繊維を 微量 含む
F-ク-12 86	深 鉢 口縁部	— <3.3> —	外面 半截竹管による横方向にずらしなが らの爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	90と同一 個体の 可能性
F-コ-12 87	深 鉢 縁 部	— <4.0> —	外面 橢圓状工具による横位の列点状刺突 文と沈線 胴部条線? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-オ-12 88	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 口縁部肥厚 橢圓状工具による横位 と縦位の列点状刺突文 内面 ナデ	7.5YR5/8 明褐 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	

第46表 第5群土器観察表④

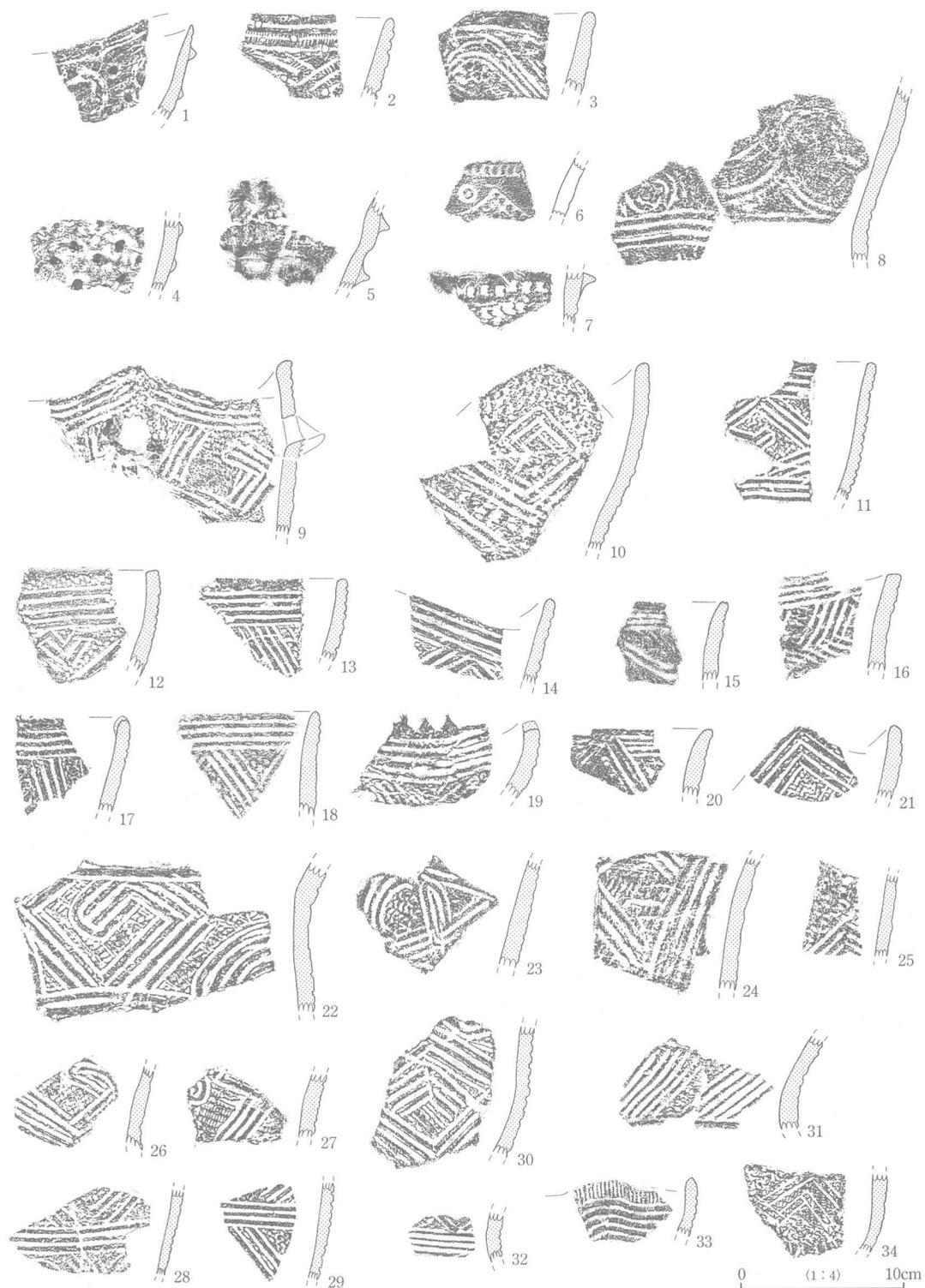
挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 胎 調 土	備 考
H-ツ-20 89	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 半截竹管による爪形文と平行沈線 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径1～2mmの白色粒子を含む	
一括 90	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 半截竹管による横方向にずらしなが らの爪形文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 径1～2mmの白色砂粒を含む	86と同一 個体の 可能性
F-カー-13 91	深 鉢 口縁部	— <3.1> —	外面 口縁部に円環状の突起 沈線?による菱形構成 内面 擦痕状のナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙 径1～2mmの白色砂粒と少量含む	
J-ク-18 92	深 鉢 口縁部	— <6.8> —	外面 半截竹管?による平行沈線 内面 ナデ 補修孔有り	7.5YR 5/1 褐灰 断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-ター-16 93	深 鉢 口縁部	— <7.8> —	外面 半截竹管による平行沈線 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
I-ター-10 94	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 半截竹管による爪形文と平行沈線 内面 ナデ	7.5YR 7/3 にぶい橙 (内面) 径1～2mmの白色粒子と径2～3mmの赤色 粒子を多く含む	※繊維を 含む

第47表 第5群土器観察表⑤

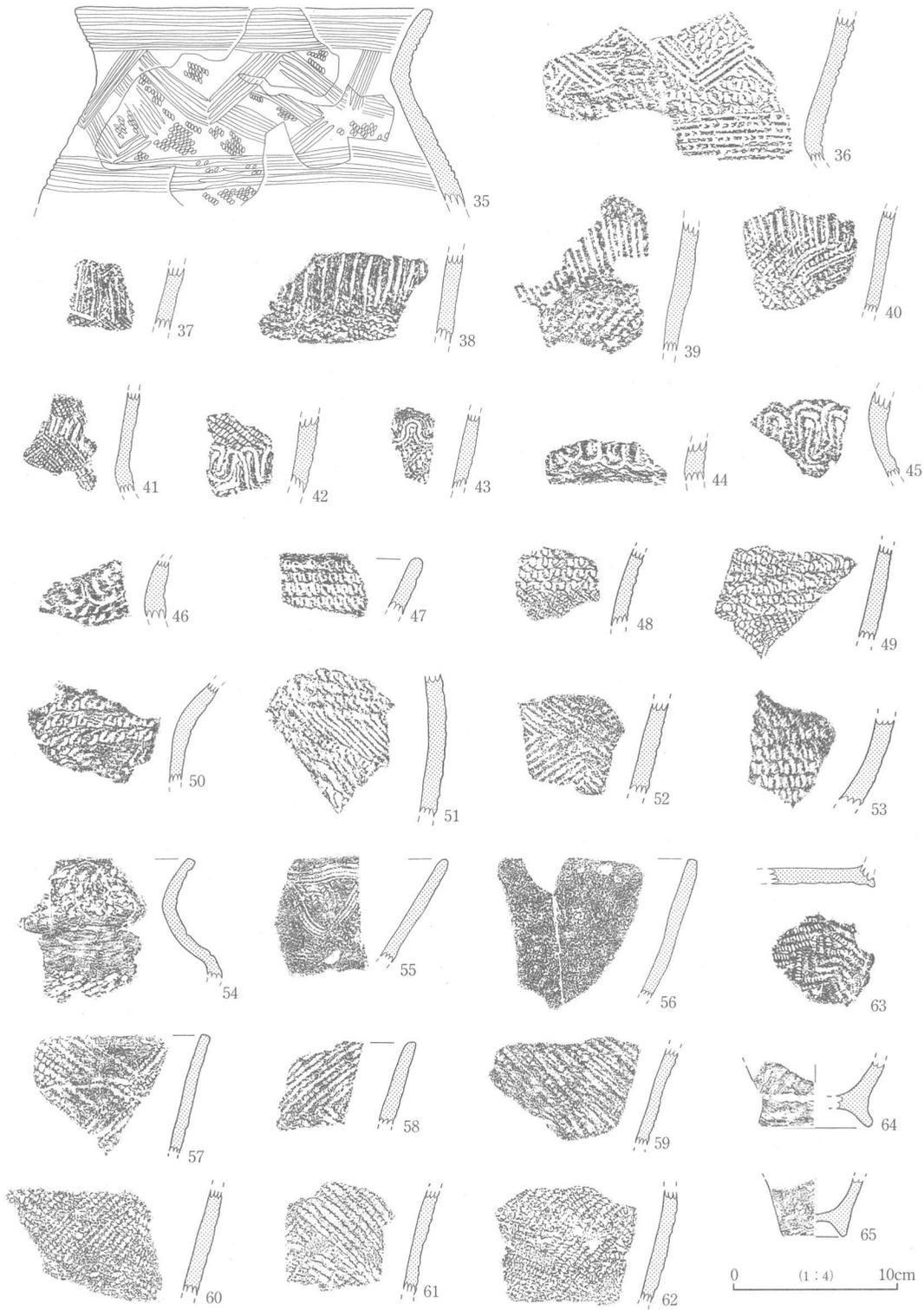
⑥第6群土器

本群は繊維を含み、施文具として主に半截竹管による刺突や押し引きによる文様構成をとる物、また、地文縄文として、付加条・正反の合・ループ文・組紐・コンパス文等の特殊な縄文を用いる物、またそれらと胎土が似る物を第6群として捉えた。なお、施文文様の語句については、第5群と同様に2本以上の沈線で橢園状工具によると考えられるものは「条線」、2本単位が確認できるものは基本的に半截竹管による押し引きで「平行沈線」の語句を用いた。しかし、2本単位ではあるが橢園状工具を用いたともとれる施文もあり、不明確なものは工具を観察表に記載していない。また、半截竹管による押し引きによる文様で全体像が把握できないものは「幾何学的文様」とした。口縁部の形態としては、平口縁、波状口縁、19のような小突起を持つ口縁などが存在した。胴部は土器全体の器形が把握できないため詳細は不明であるが、口縁部は逆「ハ」字状に広がり、胴部の部分でややくびれると考えられる。底部は上げ底が主体を占め、底部径が小さいのが特徴である。

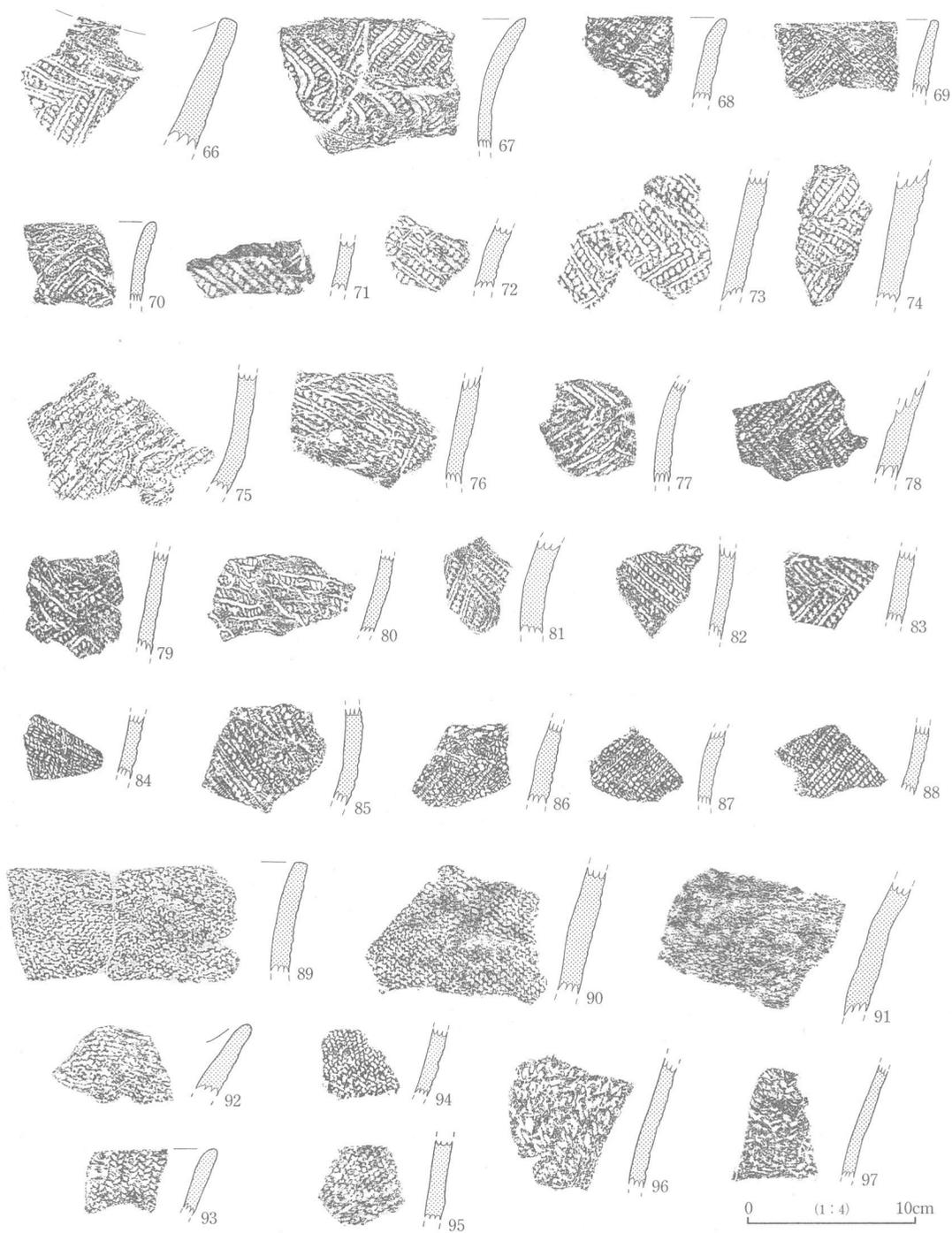
施文の特徴としては、まず、1・4・5・7の瘤状貼付文を施したものがある。1は貼付文の下に刺突?による蕨手状の文様を持つ。次に半截竹管による平行沈線で幾何学文様を描くものとして3・8～36がある。この文様は当群の主体を占める。ただ3と8は曲線による文様であり9以降の直線的描き方と施文が異なる。また、33は口唇部に篋状工具による刺突を行い、口縁部下には半截竹管状の工具により曲線を描いておりやや趣を異にする。37～41は半截竹管の半截側或いは外皮側による縦方向の連続した沈線を描いている。42～46はコンパス文でやや縦長に描かれている。47～51・53はループ文を施した土器片である。54は非常に太い「合攪り」?の縄文原体による施文と考えられるが、原体構成は読みとれなかった。55は「束の縄文」を地文に橢園状工具による沈線が描かれており「神ノ木式」の様相を含んでいる。



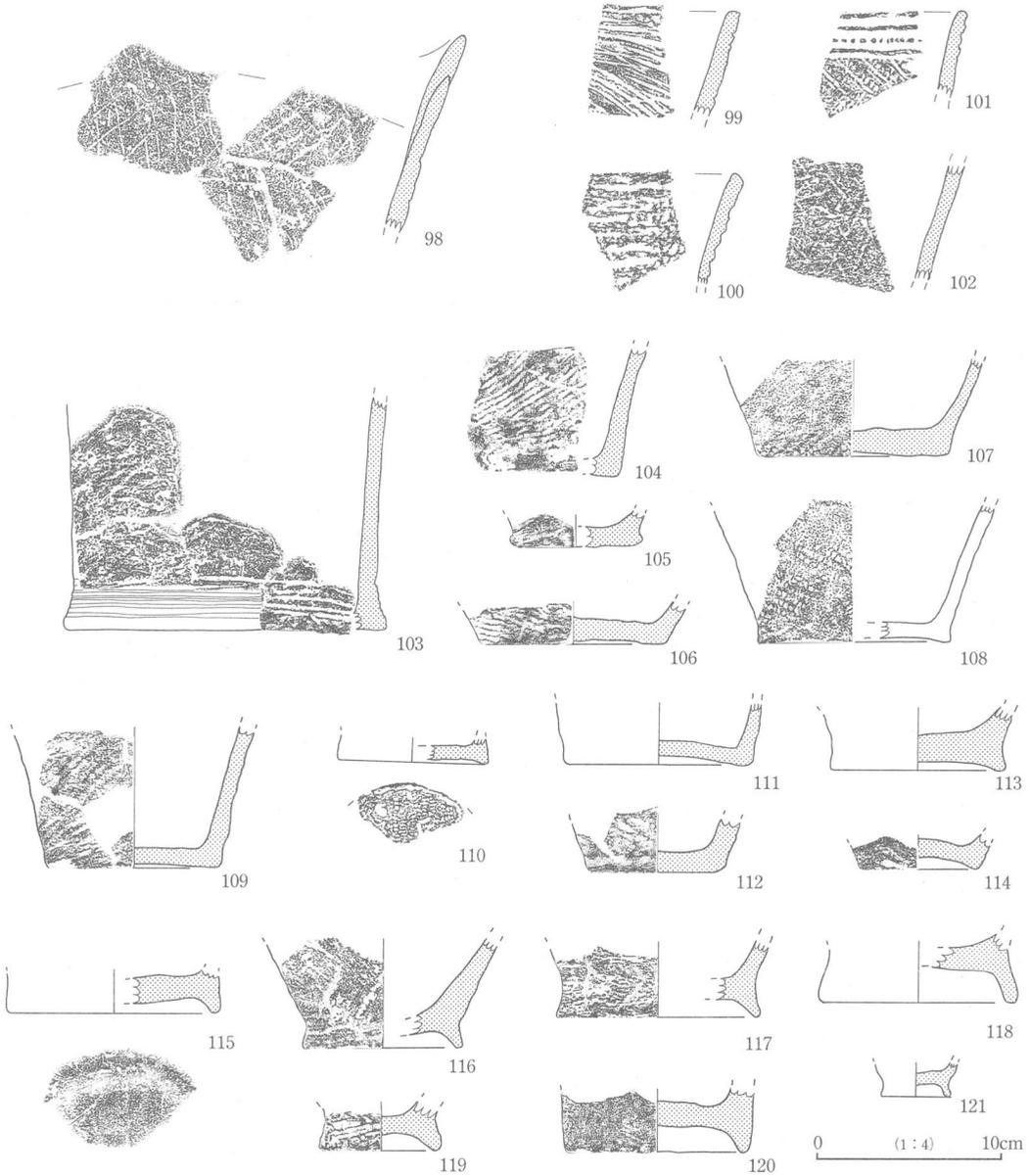
第77图 第6群土器类测图①



第78图 第6群土器实测图②



第79图 第6群土器实测图③



第80図 第6群土器実測図④

66~88は正反の合と付加条を地文文様とする土器である。正反の合については土器表面の残存状態が不良で良好に確認できた土器片は少なかった。撚りについては観察表に示したものがあるが、当遺跡においては前々段合撚りのものは確認されなかった。89~95・97は組紐である。98は細い篋状工具?により1本ずつ沈線を格子状に描いている。100は太い原体巻き付けによる付加条と考えられる。103~121は底部であり、110は底面に原体の施文がある。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
一括 1	深 鉢 口縁部	— <6.0> —	外面 蔵手状の平行沈線 瘤状貼付文 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径2～3mmの白色砂粒を含む	
F-セ-8 2	深 鉢 口縁部	— <5.0> —	外面 平行沈線間に梯子状の沈線文 凹形刺突文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
F-ケ-13 3	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 半截竹管による平行沈線(蔵手状) 地文不明 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-ス-10 4	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 瘤状貼付文 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径2～3mmの長石と砂粒を含む	
F-ク-11 5	深 鉢 胴部	— <5.9> —	外面 瘤状貼付文 内面 ナデ	10YR7/6 暗黄褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
I-チ-8 6	深 鉢 胴部	— <3.5> —	外面 半截竹管による凹形刺突と爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	
				径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
F-ケ-12 7	深 鉢 胴部	— <3.2> —	外面 瘤状貼付文 地文ループ文? 内面 ナデ	10YR7/6 明黄褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
F-ケ-13 8	深 鉢 胴部	— <10.7> —	外面 半截竹管による平行沈線(蔵手状) 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
J-コ-18 9	深 鉢 片口付 口縁部	— <10.7> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蔵手 状) 地文縄文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙(内面)	※繊維を 含む
				断面黒色 径2～3mmの長石を含む	
F-ケ-13 10	深 鉢 口縁部	— <11.6> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蔵手 状) 地文組紐 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-コ-10 11	深 鉢 口縁部	— <8.6> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蔵手 状) ナデ 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの長石を含む	
I-ス-6 12	深 鉢 口縁部	— <6.7> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(山形) 地文組紐? 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
一括 13	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
F-シ-11 14	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 半截竹管による幾何学文様 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
I-タ-8 15	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 半截竹管による幾何学文様 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒・長石を含む	
J-カ-17 16	深 鉢 口縁部	— <6.0> —	外面 半截竹管による幾何学文様 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を含む	
F-サ-12 17	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 口唇部に小突起 半截竹管による幾 何学文様 地文縄文? 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
J-コ-20 18	深 鉢 口縁部	— <6.3> —	外面 半截竹管による幾何学文様 地文? 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と砂粒 を多く含む	
F-コ-11 19	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 口唇部に3つの小突起 半截竹管による平行沈線 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
F-カ-12 20	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 半截竹管による幾何学文様 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒を少量含む	
F-ク-12 21	深 鉢 口縁部	— <4.6> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蔵手 状) 地文組紐 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と径2 ～3mmの赤色粒子を含む	
J-コ-18 22	深 鉢 頸部	— <9.3> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蔵手 状) 地文正反の合 R 内面 ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	※繊維を 含む
				断面黒色 径1～2mmの白色砂粒と長石を多く含む	

第48表 第6群土器観察表①

挿図番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-エ-15 23	深 鉢 胴 部	— <6.7> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蕨手状) 地文半截竹管による刺突 内面 ナデ	5 YR 3/4 暗赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 24	深 鉢 胴 部	— <8.3> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 地文? 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
I-タ-8 25	深 鉢 胴 部	— <5.0> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 地文ループ文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
I-ケ-18 26	深 鉢 胴 部	— <5.2> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(蕨手状) 地文縄文? 内面 ナデ	7.5YR 6/2 灰褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 27	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 地文縄文 内面 ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-11 28	深 鉢 胴 部	— <5.4> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 内面 ナデ	10YR 7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色粒子と長石を含む	※繊維を 含む
F-ケ-10 29	深 鉢 胴 部	— <6.0> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 地文縄文 内面 ナデ	10YR 7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を少量含む	※繊維を 含む
F-コ-12 30	深 鉢 胴 部	— <8.1> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(菱形) 内面 ミガキ	7.5YR 3/3 暗褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 31	深 鉢 胴 部	— <5.7> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径2~3mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
I-チ-8 32	深 鉢 頸 部	— <3.1> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 内面 ナデ	7.5YR 6/1 褐灰 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を含む	※繊維を 含む
J-ウ-17 33	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 口縁部に篋状工具による縦位の刺突 胴部に半截竹管による平行沈線(爪 形に見える) 内面 ナデ	7.5YR 6/2 灰褐 断面黒色 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 34	深 鉢 胴 部	— <4.8> —	外面 半截竹管による幾何学的文様(山形) と縦位の沈線 地文ループ文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 (内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J区 埋没谷 35	深 鉢 口縁部	(21.8) <12.1> —	外面 半截竹管による幾何学的文様 地文縄文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 断面黒色 径2~3mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
F-イ-16 36	深 鉢 胴 部	— <8.9> —	外面 半截竹管による幾何学的文様と横位 の爪形文 地文ループ文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-サ-10 37	深 鉢 胴 部	— <3.8> —	外面 半截竹管?による縦位の沈線 地文正反の合 R { L-R・R } と L { R-L・L } 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 38	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 半截竹管による縦位の沈線 地文縄文 内面 擦痕状のナデ	10YR 6/2 灰黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-イ-15 39	深 鉢 胴 部	— <8.0> —	外面 半截竹管による縦位の沈線 地文縄文 内面 ナデ	5 YR 5/8 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-キ-18 40	深 鉢 胴 部	— <6.3> —	外面 半截竹管による縦位の沈線 地文正反の合 R { L-R・R } と L { R-L・L } 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-11 41	深 鉢 頸 部	— <6.0> —	外面 半截竹管による縦位の沈線 地文正反の合 R { L-R・R } と L { R-L・L } 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 42	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 支点が上下に移動する縦長のコンパ ス文地文縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 (内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-オ-15 43	深 鉢 胴 部	— <4.6> —	外面 支点が上下に移動する縦長のコンパス文 地文正反の合 L { R-L・L } 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-ク-12 44	深 鉢 胴 部	— <2.5> —	外面 コンパス文 内面 ナデ	10YR 7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む

第49表 第6群土器観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-ケ-18 45	深 鉢 胴 部	— <5.2> —	外面 支点が上下に移動する縦長のコンパ ス文 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石・赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-サ-10 46	深 鉢 胴 部	— <3.5> —	外面 胴部コンパス文 地文ループ文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 47	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 多段ループ文 内面 ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-13 48	深 鉢 胴 部	— <4.9> —	外面 多段ループ文 地文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-15 49	深 鉢 胴 部	— <5.9> —	外面 多段ループ文 地文 内面 ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	※繊維を 含む
一括 50	深 鉢 口辺部	— <6.1> —	外面 多段ループ文 内面 ナデ	7.5YR4/3 褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 51	深 鉢 胴 部	— <8.8> —	外面 多段ループ文 竹管による施文? 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 52	深 鉢 胴 部	— <5.7> —	外面 平行沈線? 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径3~4mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
I-ツ-11 53	深 鉢 胴 部	— <5.5> —	外面 多段ループ文 地文縄文 内面 ナデ	10YR7/6 明黄褐 断面黒色 径2~3mmの長石と砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 54	深 鉢 口縁部 ~胴部	— <8.4> —	外面 合燃り? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-カ-15 55	深 鉢 口縁部	— <6.2> —	外面 櫛歯状工具による条線 地文 束の縄文 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-12 56	深 鉢 口縁部	— <8.5> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-ト-13 57	深 鉢 口縁部	— <7.2> —	外面 単節縄文による羽状構成 内面 ナデ	5YR5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む 神の木?
I-ト-11 58	深 鉢 口縁部	— <5.0> —	外面 無節縄文による羽状構成 擦痕状のナデ 内面	10YR7/6 明黄褐 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む 神の木?
I-ト-11 59	深 鉢 胴 部	— <6.1> —	外面 正反の合? 内面 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 断面黒色 径2~3mmの長石と砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ス-10 60	深 鉢 胴 部	— <6.5> —	外面 単節縄文による縦位の羽状構成 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐 断面黒色 径2~3mmの長石と砂粒を含む	※繊維を 含む 花積的
F-ケ-12 61	深 鉢 胴 部	— <6.5> —	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 (内面) 断面黒色 径1~2mmの白色粒子と長石を多く含む	※繊維を 含む
F 区 埋没谷 62	深 鉢 胴 部	— <6.9> —	外面 単節縄文?による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-13 63	深 鉢 底 部	— <6.2> —	外面 底部に単節縄文による羽状構成 内面 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を微量含む	※繊維を 含む
I-ス-11 64	深 鉢 ~底部	— <4.0> (7.0)	外面 無文部分? 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-ク-20 65	深 鉢 ~底部	— <3.6> 3.9	外面 無文部分? 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 断面黒色 径2~3mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
J-キ-17 66	深 鉢 口縁部	— <7.9> —	外面 正反の合 $L \begin{cases} R-L \cdot L \\ L-L \cdot L \end{cases}$ と $R \begin{cases} L-R \cdot R \\ R-R \cdot R \end{cases}$ で羽状構成 内面 ナデ	10YR4/1 褐灰 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	※繊維を含む 74と同一個体 の可能性

第50表 第6群土器観察表③

挿図番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-シ-10 67	深 鉢 口縁部	— <7.8> —	外面 正反の合 R { L-R・R R-R・R 口縁部のみ縦方向施文? 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 断面黒色 径 2 ~ 3 mm の砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 68	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 付加条 RLに l と r の 4 本組を L 方向に巻く 内面 擦痕状のナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 2 ~ 3 mm の赤色粒子を少量含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 69	深 鉢 口縁部	— <4.6> —	外面 付加条 R と L の縄文に 4 本の付加 条 内面 擦痕状のナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-12 70	深 鉢 口縁部	— <4.8> —	外面 正反の合? 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
I-チ-9 71	深 鉢 胴部	— <3.0> —	外面 正反の合? 内面 ナデ	2.5YR 4/8 赤褐 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
I-ウ-11 72	深 鉢 胴部	— <3.8> —	外面 正反の合 L { R-L・L と R { L-R・R L-R・R と R { R-L・L 内面 ナデ	5 YR 4/4 にぶい赤褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色粒子と径 2 ~ 3 mm の長石を含む	※繊維を 含む
J-コ-15 73	深 鉢 胴部	— <7.5> —	外面 正反の合 L { R-R・R と R { L-L・L L-R・R と R { R-L・L を結束? 内面 ナデ	5 YR 5/3 にぶい赤褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を少量含む	※繊維を 含む
J-ト-19 74	深 鉢 胴部	— <8.0> —	外面 正反の合 L { R-L・L と R { L-R・R L-L・L と R { R-R・R を結束 内面 ナデ	10YR 3/2 黒褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	※繊維を 含む
I-ウ-17 75	深 鉢 胴部	— <7.2> —	外面 正反の合 L { R-L・L L-L・L 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の長石と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-コ-13 76	深 鉢 胴部	— <6.6> —	外面 正反の合 L { R-R・R と R { L-L・L L-R・R と R { R-L・L を結束? 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-12 77	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 正反の合 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-18 78	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 正反の合 L { R-L・L と R { L-R・R L-L・L と R { R-R・R を結束 内面 ナデ	7.5YR 6/8 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-コ-19 79	深 鉢 胴部	— <6.2> —	外面 正反の合 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
L-サ-4 80	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 正反の合 L { R-1・1 L-r・r 末端結節部あり 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 81	深 鉢 胴部	— <5.6> —	外面 正反の合 L { R-L・L と R { L-R・R L-L・L と R { R-R・R を結束 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-11 82	深 鉢 胴部	— <5.7> —	外面 正反の合 R { L-R・R R-R・R 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-13 83	深 鉢 胴部	— <4.3> —	外面 正反の合 L { R-L・L と R { L-R・R L-R・R と R { R-L・L の結束 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 (内面) 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-13 84	深 鉢 胴部	— <3.8> —	外面 正反の合 R { L-R・R R-R・R 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 85	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 正反の合 R { L-R・R R-L・L 内面 ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 86	深 鉢 胴部	— <5.0> —	外面 正反の合 L { R-L・L L-R・R 内面 ナデ	7.5YR 4/1 褐灰 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-10 87	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 付加条 RLに l と r の 4 本組を L 方向に巻く 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-セ-8 88	深 鉢 胴部	— <4.1> —	外面 正反の合 L { R-L・L L-R・R 内面 擦痕状のナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む

第51表 第6群土器観察表④

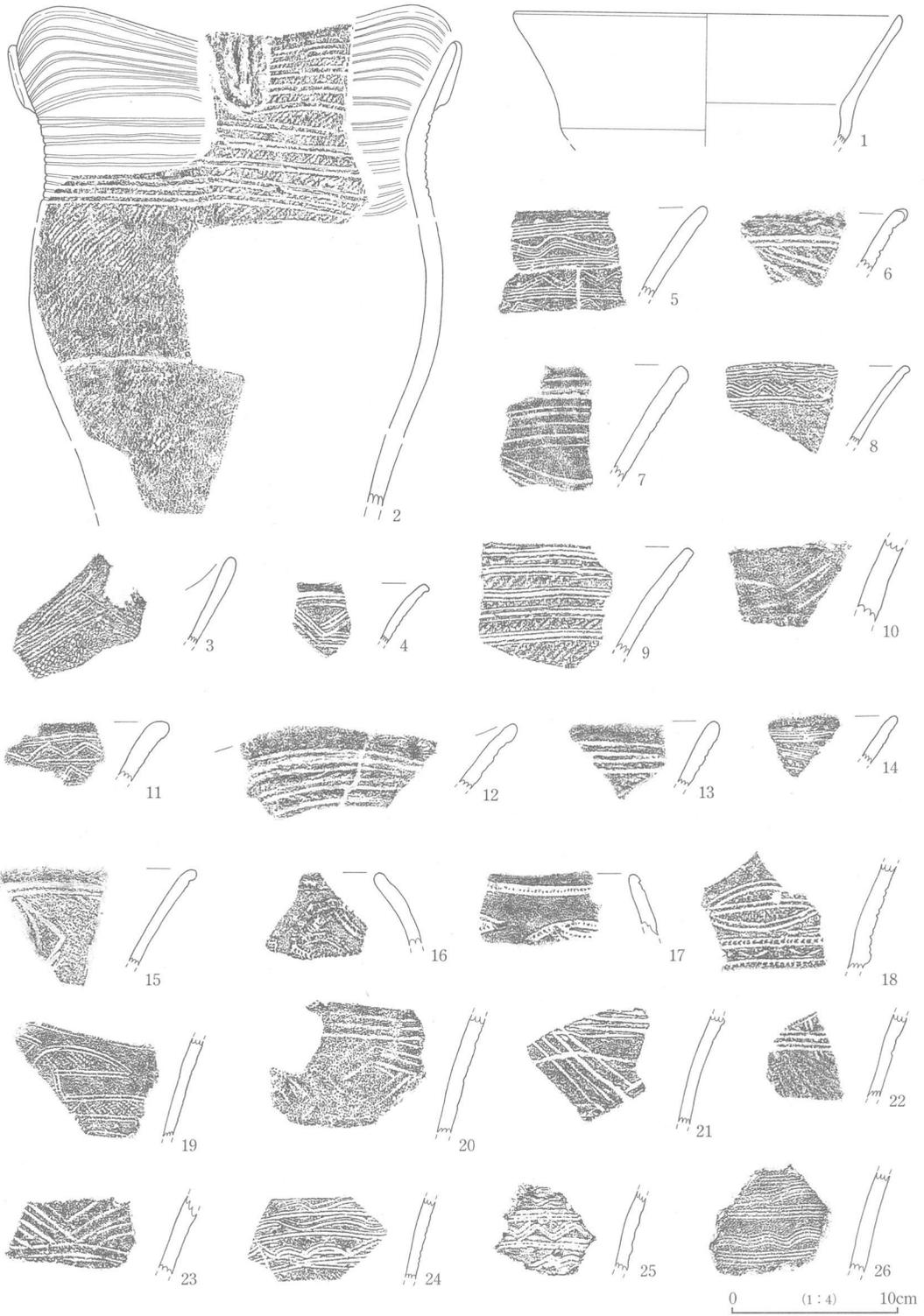
挿図番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-ウ-18 89	深 鉢 口縁部	— <6.7> —	外面 組紐 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 90	深 鉢 胴部	— <7.5> —	外面 組紐 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径3~4mmの長石と径1~2 mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 91	深 鉢 胴部	— <8.0> —	外面 組紐 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径2~3mmの砂粒と径1~2 mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
J-ク-19 92	深 鉢 口縁部	— <4.4> —	外面 組紐 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの長石と赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-セ-7 93	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 組紐 内面 ナデ	7.5 YR 5/2 灰褐 断面黒色 径1~2mmの長石と白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-セ-7 94	深 鉢 胴部	— <4.1> —	外面 組紐 内面 ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい橙 断面黒色 径2~3mmの赤色粒子を微量含む	※繊維を 含む
I-タ-10 95	深 鉢 胴部	— <4.8> —	外面 組紐 内面 ナデ	7.5 YR 6/6 橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2 ~3mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-カ-14 96	深 鉢 胴部	— <7.9> —	外面 合攪り? 内面 ナデ	10 YR 7/6 明黄褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-サ-12 97	深 鉢 胴部	— <6.7> —	外面 組紐? 内面 ナデ	2.5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-コ-12 98	深 鉢 口縁部	— <10.6> —	外面 口縁部波状 格子目状の沈線 内面 ナデ	7.5 YR 4/2 灰褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と径2 ~3mmの赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-カ-15 99	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 半截竹管による平行沈線 内面 ナデ	7.5 YR 4/2 灰褐 断面黒色 径2~3mmの白色砂粒と長石を含む	※繊維を 含む
F-カ-15 100	深 鉢 口縁部	— <6.0> —	外面 付加条? 内面 ナデ	7.5 YR 4/2 灰褐 断面黒色 径2~3mmの白色砂粒と長石を多く含む	※繊維を 含む
J-カ-17 101	深 鉢 口縁部	— <5.7> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 地文 正反の合 R L-R・R R-R・R	7.5 YR 7/6 橙 (内面) 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-チ-2 102	深 鉢 胴部	— <6.2> —	外面 格子目状の沈線? 内面 ナデ	7.5 YR 5/6 明褐 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ク-12 103	深 鉢 ~底部	— <12.7> <17.4>	外面 底部付近に半截竹管による平行沈線 内面 ナデ	5 YR 5/6 明褐 断面黒色 径2~3mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
I-ト-14 104	深 鉢 ~底部	— <6.9> —	外面 縄文 Lr 内面 擦痕状のナデ	10 YR 6/6 明黄褐 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 微量含む 神ノ木?
I-ク-1 105	深 鉢 底部	— <1.9> (7.2)	外面 無文部分 内面 ナデ	7.5 YR 7/6 橙 断面黒色 径2~3mmの砂粒を含む	※繊維を 含む
J-ク-18 106	深 鉢 底部	— <2.3> (9.9)	外面 縄文 R1 内面 擦痕状のナデ	10 YR 7/6 にぶい黄橙 断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む 神ノ木?
F-ク-13 107	深 鉢 ~底部	— <5.3> (10.4)	外面 底部付近に縄文? 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-サ-12 108	深 鉢 ~底部	— <7.4> (10.5)	外面 縄文 RL 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙 径1~2mmの長石と石英を多く含む	諸磯?
I-チ-9 109	深 鉢 ~底部	— <7.7> (9.3)	外面 無節縄文? 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐 断面黒色 径1~2mmの赤色粒子と白色粒子を含む	※繊維を 含む
F-オ-13 110	深 鉢 底部	— <1.3> (8.2)	外面 底面に単節縄文 内面 擦痕状のナデ	7.5 YR 6/3 にぶい褐 断面黒色 径1~2mmの砂粒を含む	※繊維を 含む

第52表 第6群土器観察表⑤

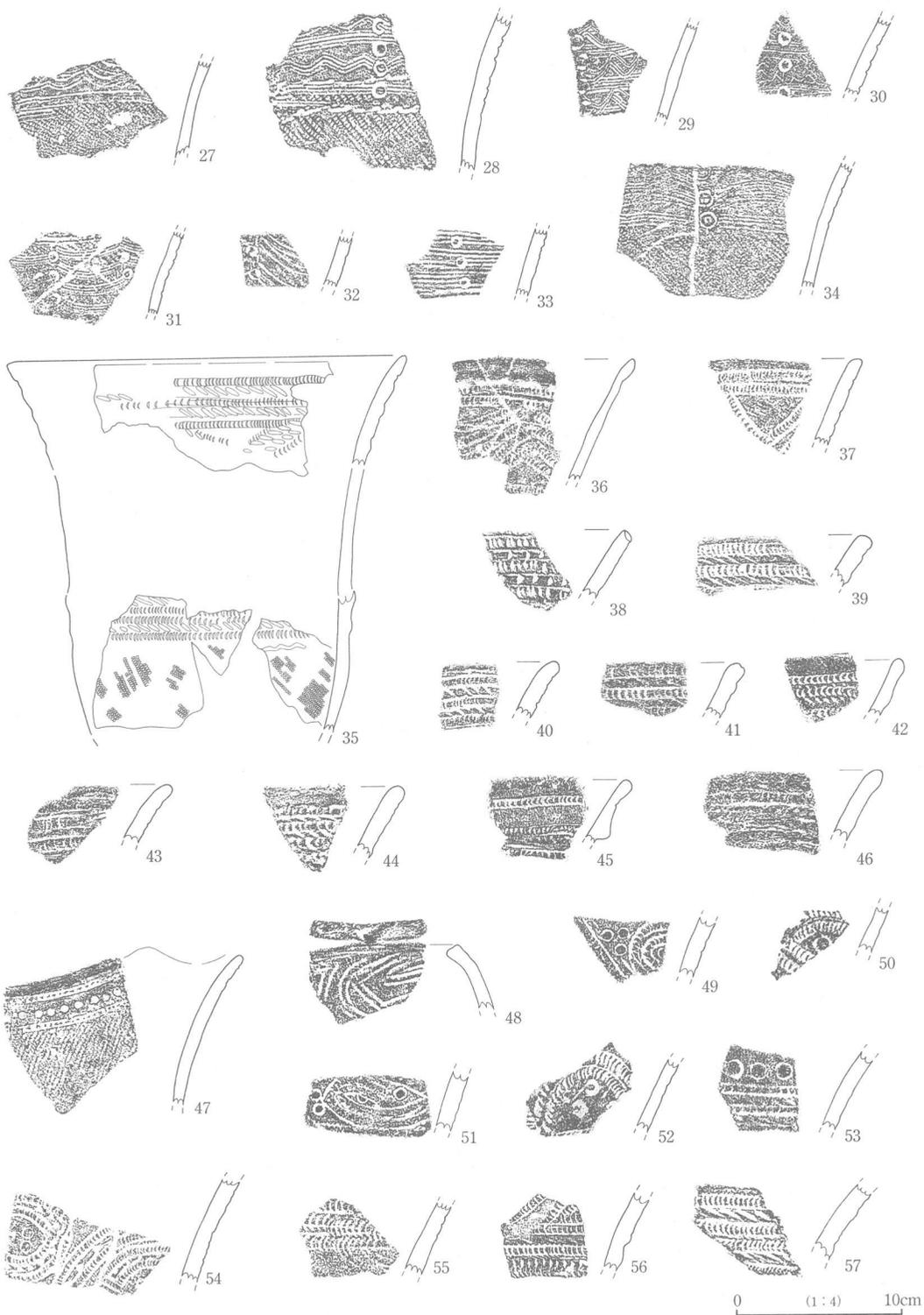
挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 外 面	様 面	・ 調 整 面	色 胎	調 土	備 考
F-オ-15 111	深鉢 胴 ~ 底部	-- <3.3> (10.2)	外面 内面	無文部分 ナデ		7.5YR7/6 橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒と砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-キ-12 112	深鉢 胴 ~ 底部	-- <2.9> (7.5)	外面 内面	単節縄文 ナデ		5YR6/4 にぶい橙	断面黒色 径2~3mmの赤色粒子と径1~ 2mmの白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-ク-13 113	深鉢 底	-- <3.4> (9.5)	外面 内面	無文部分 ナデ		5YR6/6 橙	断面黒色 径1~2mm白色砂粒や赤色粒子 を多く含む	※繊維を 含む
J-ク-18 114	深鉢 底	-- <1.9> (6.4)	外面 内面	無文部分 ナデ		2.5YR5/8 明赤褐	断面黒色 径1~2mm赤色粒子を多く、径 3~4mmの長石を少量含む	※繊維を 含む
一括 115	深鉢 底	-- <2.4> (11.2)	外面 内面	無文部分 ナデ	上げ底	7.5YR6/6 橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒や赤色粒子を多く含む	※繊維を 含む
F-ケ-12 116	深鉢 胴 ~ 底部	-- <3.4> (8.7)	外面 内面	無文部分 ナデ	上げ底	2.5YR5/6 明赤褐	断面黒色 径1~2mmの赤色粒子や白色砂粒を多く含む	※繊維を 含む
F-シ-11 117	深鉢 底	-- <4.2> 11.2	外面 内面	無文部分 ナデ	上げ底	5YR5/6 明赤褐	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
F-ケ-13 118	深鉢 底	-- <3.7> (10.8)	外面 内面	無文部分 ナデ	上げ底	7.5YR7/4 にぶい橙	断面黒色 径1~2mm白色砂粒と径2~3 mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-カ-15 119	深鉢 底	-- <2.7> (6.6)	外面 内面	無節縄文? ナデ	上げ底	5YR6/6 橙	断面黒色 径1~2mmの白色砂粒を含む	※繊維を 含む
J-ケ-18 120	深鉢 底	-- <3.5> (9.7)	外面 内面	上げ底 ナデ		2.5YR5/6 明赤褐	断面黒色 径1~2mm白色砂粒と径2~3 mmの赤色粒子を含む	※繊維を 含む
F-ク-19 121	深鉢 底	-- <1.9> (3.8)	外面 内面	上げ底 ナデ		5YR5/6 明赤褐	内面黒色 径2~3mmの長石を含む	※繊維を 含む

第53表 第6群土器観察表⑥

以上、第6群とした土器の概要を述べたがこれら土器の位置づけとしては、施文具がまず橢圓状工具と半截竹管による施文で、主体は半截竹管が占める。地文文様としては組紐・ループ文・コンパス文・正反の合や付加条などが施されていることから、概ね関山式として捉えられると考える。ただ微細にみると時間差や系譜の異なると思われるものもある。まず、6は竹管による円形の刺突と爪形文の特徴からいわゆる二ツ木式の範疇として捉えた方が良いのかもしれないが、当遺跡では本土器1点のみであり位置づけに苦慮する。次に1・2・4・5・7は瘤状貼付文の特徴から関山Ⅰ式、3と8は曲線を描く文様構成などから関山Ⅱ式でもやや古い様相か、9以降は関山Ⅱ式或いは平行期と考えられるが、32の様に刺突による文様構成や55の束の縄文と橢圓状工具による沈線の描き方は神ノ木式からの影響であり、98の小突起状の口縁部形態や格子目の沈線による文様構成は中越式を繊維土器に置き換えたような状況である。また、99や100は全体像が把握できないが黒浜式として捉えられるのかもしれない。この様に当群は他型式からの影響も多くみられるが、主体を関山Ⅱ式におく縄文前期中葉の関山~黒浜期にかけての土器群として捉えておきたい。



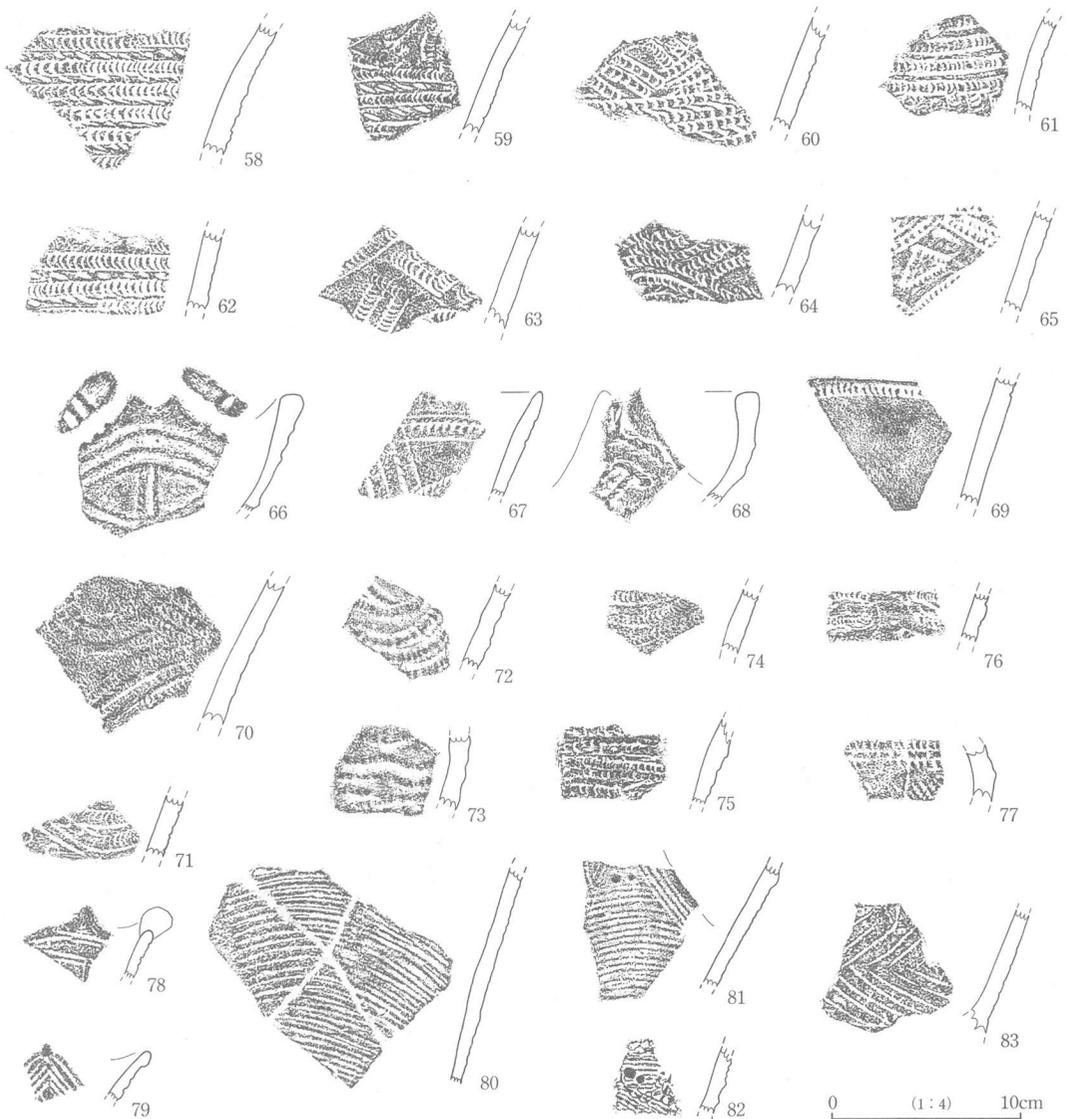
第81图 第7群土器实测图①



第82图 第7群土器实测图②

⑦第7群土器

本群は胎土に繊維を含まないものを基本とし、施文具としては半截竹管や一部楕円状工具による沈線、或いは半截竹管の刺突により爪形文を施すもの等を第7群として捉えた。なお、施文文様の語句については、2本以上の沈線は楕円状工具によると考えられるが、中には半截竹管を重ね引きしているような土器もあり明瞭な区別はつかなかった。また土器全体の文様構成が把握できないものは「平行沈線」の語句をもちい、また2本単位であることが確認できるものは半截竹管による押し引きとし「平行沈線」の語句を用いた。



第83図 第7群土器実測図③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 胎 調 土	備 考
I-ツ-10 1	浅 鉢 口縁部	(23.5) <8.8> ---	外面 ナデ 赤彩?	5 YR 4/6 赤褐	
			内面 ナデ	径 2 ~ 3 mm の砂粒や黒雲母を含む	
J-ケ-18 2	深 鉢 口縁部 ~胴部	(26.6) <29.4> ---	外面 口縁部に「U」字形の隆帯 半截竹管 による平行沈線 地文無節縄文 L	10YR 6/2 灰黄褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の赤色粒子と砂粒を含む	
J-カ-17 3	深 鉢 口縁部	<5.1> ---	外面 半截竹管による平行沈線 地文縄文 LR	10YR 5/1 褐灰	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と雲母を含む	
J-ケ-17 4	深 鉢 口縁部	<3.6> ---	外面 半截竹管による平行沈線	7.5YR 6/6 橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の赤色粒子と長石を含む	
J-ア-13 5	深 鉢 口縁部	<5.4> ---	外面 半截竹管 2 本による横位の直線と波 状沈線の交互施文	5 YR 4/8 赤褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の白色砂粒を含む	
I-イ-12 6	深 鉢 口縁部	<4.0> ---	外面 口唇部に小突起	5 YR 4/4 にぶい赤褐	
			内面 半截竹管による平行沈線 ナデ	径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と長石を含む	
E-ソ-9 7	深 鉢 口縁部	<7.0> ---	外面 半截竹管による筋骨文?	5 YR 4/4 にぶい赤褐	23と 同一個体の 可能性
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒と長石を含む	
J-ケ-8 8	深 鉢 口縁部	<4.8> ---	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状 沈線の交互施文	7.5YR 7/3 にぶい橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒と石英、長石、雲母を微量 含む	
I-セ-6 9	深 鉢 口縁部	<6.6> ---	外面 櫛歯状工具による横位の直線	5 YR 3/6 暗赤褐	
			内面 地文 縄文 LR ナデ	径 1 ~ 2 mm の白色砂粒、長石、雲母を含む	
I-ス-8 10	深 鉢 胴部	<5.0> ---	外面 半截竹管による木葉文と同一工具に よる横位の爪形文	5 YR 5/6 明赤褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒を多く、雲母を微量含む	
F-キ-13 11	深 鉢 口縁部	<3.6> ---	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状 沈線の交互施文	10YR 7/4 にぶい黄橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の白色砂粒と雲母を微量含む	
J-ウ-15 12	深 鉢 口縁部	<3.9> ---	外面 半截竹管による横位の直線?	7.5YR 6/6 橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒と長石を微量含む	
I-ト-13 13	深 鉢 口縁部	<4.1> ---	外面 半截竹管による平行沈線	7.5YR 7/6 橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の長石と雲母を多く含む	
I-ト-13 14	深 鉢 口縁部	<2.9> ---	外面 櫛歯状工具による平行沈線	5 YR 4/4 にぶい赤褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒、長石を含む	
I-ツ-12 15	深 鉢 口縁部	<5.8> ---	外面 半截竹管による木葉文?	5 YR 4/6 赤褐	
			内面 地文 縄文 ナデ	径 1 ~ 2 mm の赤色粒子と長石を含む	
J-ケ-18 16	深 鉢 口縁部	<4.3> ---	外面 半截竹管による平行沈線内に同工具 による爪形文	5 YR 3/2 暗赤褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の赤色粒子と長石、雲母を含む	
J-ク-18 17	深 鉢 口縁部	<3.7> ---	外面 半截竹管による平行沈線内に同工具 による爪形文	5 YR 6/6 橙	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の赤色粒子と石英を含む	
J-ク-18 18	深 鉢 胴部	<6.4> ---	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管に よる爪形文 同工具による木葉文	10YR 8/3 浅黄橙	
			内面 地文縄文? ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒と長石、石英、雲母を含む	
F-エ-15 19	深 鉢 胴部	<6.1> ---	外面 半截竹管による入組木葉文内に縄文 RL	10YR 7/6 明黄褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の長石を多く含む	
E-ソ-9 20	深 鉢 胴部	<7.2> ---	外面 半截竹管による筋骨文?と横位の直 線	7.5YR 3/3 暗褐	
			内面 ナデ	径 2 ~ 3 mm の砂粒と赤色粒子を多く含む	
J-イ-16 21	深 鉢 胴部	<6.6> ---	外面 半截竹管による平行沈線	10YR 7/4 にぶい黄橙	
			内面 ミガキ	径 1 ~ 2 mm の長石、石英を微量含む	
I-タ-9 22	深 鉢 胴部	<5.1> ---	外面 半截竹管による平行沈線	7.5YR 5/6 明褐	
			内面 ナデ	径 1 ~ 2 mm の砂粒を多く、長石を含む	

第54表 第7群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
E-ソ-9 23	深 鉢 胴 部	— <4.7> —	外面 半截竹管による筋骨文? 横位の直線	5YR4/4 にぶい赤褐	7と 同一個体の 可能性あり
			内面 ナデ	径1~2mmの砂粒と長石を含む	
J-カ-17 24	深 鉢 胴 部	— <5.0> —	外面 半截竹管による横位の直線と波状沈線の交互施文 地文縄文 RL	10YR7/6 明黄褐	
			内面 ミガキ	径1~2mmの長石、雲母を微量含む	
I-チ-8 25	深 鉢 胴 部	— <4.8> —	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の交互施文	5YR3/4 明赤褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	
I-チ-8 26	深 鉢 胴 部	— <6.2> —	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の交互施文	2.5YR3/4 暗赤褐	
			内面 ミガキ?	径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
J-ケ-18 27	深 鉢 胴 部	— <6.0> —	外面 櫛歯状工具?による横位の直線と波状沈線の交互施文 縄文 RL	10YR7/2 にぶい黄橙	
			内面 ナデ	径2~3mmの白色砂粒、長石、石英、雲母を含む	
J-タ-18 28	深 鉢 胴 部	— <9.5> —	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の交互施文 円形刺突文 結節縄文 RL	5YR4/4 にぶい赤褐	
			内面 ナデ	径2~3mmの白色粒子と長石を多く含む	
J-ケ-20 29	深 鉢 胴 部	— <5.9> —	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の交互施文 円形刺突文	5YR4/6 赤褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	
F-カ-15 30	深 鉢 胴 部	— <4.7> —	外面 櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の交互施文 円形刺突文	5YR3/4 暗赤褐	
			内面 ミガキ	径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子と石英を含む	
F-カ-16 31	深 鉢 胴 部	— <5.1> —	外面 櫛歯状工具による筋骨文と円形刺突文 地文 縄文	5YR3/4 暗赤褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒を含む	
I-タ-9 32	深 鉢 胴 部	— <3.2> —	外面 半截竹管による筋骨文と同工具による円形の刺突文	10YR7/3 にぶい黄橙	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	
J-ケ-18 33	深 鉢 胴 部	— <4.0> —	外面 半截竹管による横位の直線と円形刺突文	2.5YR3/4 暗赤褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ケ-18 34	深 鉢 胴 部	— <7.6> —	外面 櫛歯状工具による筋骨文と円形刺突文 胴部下半 縄文 RL	10YR6/3 にぶい黄橙	
			内面 ナデ	径1~2mmの長石、石英を含む	
F区 埋没谷 35	深 鉢 口縁部	(24.3) <22.7> —	外面 刻みをもつ隆帯の上下に半截竹管による連続刺突文 胴部中位は三角形を基調 地文 縄文 RL	7.5YR3/3 暗褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
一括 36	深 鉢 口縁部	— <7.3> —	外面 半截竹管による連続刺突で入組木葉文を描く	7.5YR3/3 暗褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの長石、石英、雲母を含む	
J-イ-16 37	深 鉢 口縁部	— <5.3> —	外面 半截竹管による連続刺突で三角形を区画	7.5YR3/4 暗褐	
			内面 ナデ	径2~3mmの長石と雲母を含む	
J-イ-15 38	深 鉢 口縁部	— <4.1> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 (竹管の外皮側による刺突)	7.5YR7/4 にぶい橙	
			内面 ナデ	径1~2mmの赤色粒子と長石を多く含む	
I-テ-12 39	深 鉢 口縁部	— <3.1> —	外面 刻みをもつ隆帯の上下に半截竹管による爪形文	7.5YR3/4 暗褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの砂粒、長石、金雲母を多量に含む	
I-ト-13 40	深 鉢 口縁部	— <3.4> —	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管による爪形文	7.5YR7/6 橙	
			内面 ナデ	径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	
I-ト-13 41	深 鉢 口縁部	— <3.4> —	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管による爪形文	7.5YR4/3 褐	
			内面 ナデ	径2~3mmの長石と石英を多く含む	
F区 埋没谷 42	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管による爪形文	7.5YR3/3 暗褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの砂粒を多く含む	
I-テ-12 43	深 鉢 口縁部	— <3.5> —	外面 半截竹管による平行沈線間に爪形文	7.5YR5/6 明褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの赤色粒子と径2~3mmの長石を多く含む	
I-ト-13 44	深 鉢 口縁部	— <4.3> —	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管による爪形文	7.5YR5/6 明褐	
			内面 ナデ	径1~2mmの長石と赤色粒子を多く含む	

第55表 第7群土器観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-ク-12 45	深 鉢 口縁部	— <3.8> —	外面 半截竹管による平行沈線間に爪形文 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの砂粒と長石を多く、赤色粒子 を含む	
I-ト-13 46	深 鉢 口縁部	— <4.3> —	外面 半截竹管による平行沈線間に爪形文 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径2~3mmの砂粒と長石を含む	
J-エ-17 47	深 鉢 口縁部	— <8.9> —	外面 半截竹管による爪形文と円形刺突文 内面 縄文 LR ナデ	5 YR3/2 暗赤褐 径2~3mmの砂粒と石英を多く含む	
I-オ-12 48	深 鉢 口縁部	— <4.0> —	外面 口唇部に浮線文? 口縁部に半截竹 管による入組木葉文? 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 径2~3mmの長石、金雲母を多く含む	
F-サ-12 49	深 鉢 胴部	— <3.7> —	外面 半截竹管による爪形文と円形刺突文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含 む	
J-ク-18 50	深 鉢 胴部	— <2.9> —	外面 半截竹管による爪形文と円形刺突文 内面 ナデ	2.5YR4/6 赤褐 径1~2mmの長石、白色粒子、赤色粒子を 含む	
F-ケ-11 51	深 鉢 胴部	— <3.6> —	外面 半截竹管による爪形文と円形刺突文 内面 ナデ	10YR7/6 明黄褐 径1~2mmの長石、赤色粒子を多く含む	
I-チ-9 52	深 鉢 胴部	— <4.4> —	外面 半截竹管による平行沈線?内に爪形 文 円形刺突文 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	
F-ク-13 53	深 鉢 胴部	— <4.9> —	外面 刻みある文様帯と半截竹管による平 行沈線間に爪形文 円形刺突文 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 径1~2mmの赤色粒子と白色砂粒を多く含 む	
I-ス-6 54	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 半截竹管による爪形文と竹管の外皮 側?による刺突文を交互に施文 廠 内面 手状の文様を描く 円形刺突文 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含 む	
I-ト-13 55	深 鉢 胴部	— <4.4> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐 径1~2mmの白色粒子、長石、金雲母を多 く含む	
I-テ-12 56	深 鉢 胴部	— <4.8> —	外面 刻みのある隆帯の上下に半截竹管に よる平行沈線間に爪形文 内面 ナデ	7.5YR3/3 暗褐(内面) 径1~2mmの白色砂粒と長石、金雲母を多 く含む	
I-ト-13 57	深 鉢 胴部	— <4.7> —	外面 刻みのある隆帯の上下に半截竹管に よる平行沈線間に爪形文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む	
J-エ-17 58	深 鉢 胴部	— <7.0> —	外面 刻みのある隆帯の上下に半截竹管に よる平行沈線間に爪形文 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	
F-ク-13 59	深 鉢 胴部	— <6.1> —	外面 刻みのある文様帯と半截竹管による 爪形文の交互施文 内面 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの砂粒、長石を多く含む	
F-エ-17 60	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 刻みのある文様帯と半截竹管による 爪形文の交互施文 木葉文的構成 内面 ナデ	5 YR3/4 暗赤褐 径1~2mmの砂粒、長石を含む	
J-キ-18 61	深 鉢 胴部	— <5.0> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 円形刺突文 ナデ	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの白色粒子を多く含む	
I-ツ-11 62	深 鉢 胴部	— <4.2> —	外面 刻みのある文様帯と半截竹管による 爪形文 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 径1~2mmの白色砂粒、赤色粒子を多く含 む	
I-テ-12 63	深 鉢 胴部	— <5.4> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐 径1~2mmの砂粒と径2~3mmの赤色粒子 を多く含む	
F-カ-12 64	深 鉢 胴部	— <4.1> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの長石を含む	
I-チ-8 65	深 鉢 胴部	— <5.4> —	外面 半截竹管による爪形文により三角形 を区画 内面 ナデ	7.5YR3/2 黒褐 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ケ-18 66	深 鉢 口縁部	— <6.3> —	外面 口唇部と胴部に浮線文 内面 ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	

第56表 第7群土器観察表③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 胎 調 士	備 考
F-コ-11 67	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 沈線と半截竹管による爪形文 内面 ナデ	7.5YR 2/2 黒褐	
				径1～2mmの白色砂粒と長石、金雲母を含む	
F-ケ-12 68	深 鉢 口縁部	— <5.8> —	外面 上面に刻みを持つ浮線文 内面 ナデ	5 YR 3/6 暗褐	
				径1～2mmの白色砂粒、長石を多く含む	
J-ク-18 69	深 鉢 胴部	— <6.8> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 地文 縄文 RL 内面 ナデ	5 YR 3/4 暗赤褐	
				径1～2mmの長石、石英、雲母を多く含む	
F-キ-13 70	深 鉢 胴部	— <7.7> —	外面 刻みを持つ隆帯の上下に半截竹管による平行沈線と爪形文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	
				径1～2mmの砂粒と長石を少量含む	
I-チ-8 71	深 鉢 胴部	— <3.3> —	外面 半截竹管による平行沈線と爪形文 円形刺突文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙	
				径1～2mmの赤色粒子を多く含む	
I-ソ-6 72	深 鉢 胴部	— <4.5> —	外面 半截竹管による押引状の施文により 爪形文が浮線文状になる 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐	73と 同一個体の 可能性あり
				径1～2mmの赤色粒子と長石を多く含む	
I-ソ-6 73	深 鉢 胴部	— <3.9> —	外面 半截竹管による押引状の施文により 爪形文が浮線文状になる 内面 ナデ	5 YR 7/6 明褐	72と 同一個体の 可能性あり
				径1～2mmの赤色粒子と長石を多く含む	
一括 74	深 鉢 胴部	— <3.5> —	外面 半截竹管による爪形文 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 (内面)	
				径2～3mmの長石、砂粒を多く含む	
一括 75	深 鉢 胴部	— <4.6> —	外面 刻みのある隆帯の上下に半截竹管による爪形文 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙	
				径2～3mmの砂粒を多く含む	
I-テ-12 76	深 鉢 胴部	— <2.6> —	外面 半截竹管による沈線?と爪形文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐	
				金雲母を多く含む	
I-テ-12 77	深 鉢 胴部	— <3.0> —	外面 半截竹管の背側による刻みの文様帯 の上下に爪形文 地文 縄文 RL 内面 ナデ	5 YR 5/6 明赤褐	
				径1～2mmの砂粒を多く含む	
F-サ-12 78	深 鉢 口縁部	— <3.9> —	外面 半截竹管による平行沈線 内面 ナデ	7.5YR 7/8 黄橙	
				径1～2mmの長石を含む	
I-ツ-11 79	深 鉢 口縁部	— <2.8> —	外面 口縁波状頂部に円形貼付文 山形の沈線文 内面 ナデ	7.5YR 7/6 橙	
				径1～2mmの白色砂粒を含む	
F-カ-12 80	深 鉢 胴部	— <11.4> —	外面 半截竹管?による集合沈線文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙	
				径1～2mmの赤色粒子を含む	
J-カ-19 81	深 鉢 口辺部	— <6.8> —	外面 橢圓状工具?による集合沈線文 円形貼付文 内面 ナデ	7.5YR 4/1 褐灰	
				径1～2mmの白色砂粒を多く含む	
I-サ-2 82	深 鉢 胴部	— <3.5> —	外面 半截竹管による平行沈線と押引き状 の浮線文 円形貼付文 内面 ナデ	5 YR 6/6 橙	
				径1～2mmの赤色粒子と長石を含む	
I-オ-13 83	深 鉢 胴部	— <6.7> —	外面 横方向の沈線による羽状構成? 内面 ナデ	10YR 7/1 灰白	後期後葉?
				径1～2mmの赤色粒子と砂粒を含む	

第57表 第7群土器観察表④

口縁部の形態としては、2・47のような波状、35・36のような平縁、66・68のような小突起を付ける物などがある。胴部は土器全体の器形が把握できないため詳細は不明であるが、2の様に腰の部分で一段くびれるものや、35のようにそのまま広がるものがある。

施文文様の特徴は、2～15・18～34の半截竹管による平行沈線により波状文・筋骨文・菱形文・木葉文・横線文を描くものがある。これらの中には、2・9のように地文に縄文を持つものと持たない物の大きく二つに分かれ、尚かつ19の沈線区画内に縄文が充填される物、28・30・31・33・34のように竹管による円形刺突文が縦位に並ぶものなどがある。次に半截竹管による爪形文により主

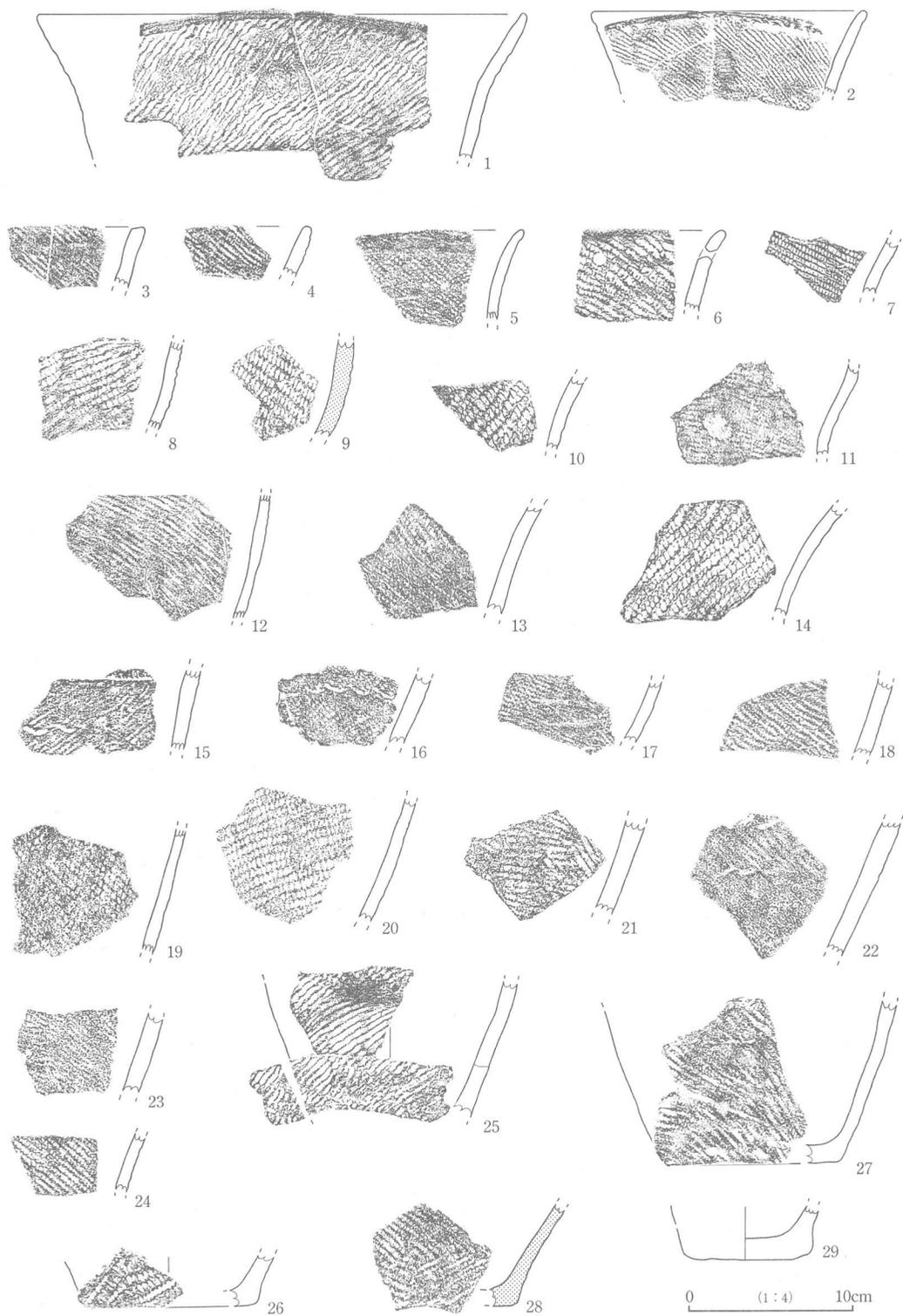
文様を描く一群として35・46・49～65・67・69・71・74～77がある。これらの内の多くは横方向の微隆帯上に刻みを持つ物が多い。文様構成は半截竹管による連続刺突により35の三角形・51・54の木葉文・60の菱形等を描く。また49・51～53のように竹管による刺突文がある。次に土器器面に微隆帯上のいわゆる浮線文が施されたものとして66・68・70・72・73がある。この内、70・72・73については半截竹管を器面に強く押し当てることにより隆帯状に浮き上がらせている。68は細い粘土帯を貼り付け、表面に刻みを施している。最後に集合沈線が描かれたものとして79～81がある。特に80は沈線を観察すると2本単位の沈線が一部重なる様に施文されており、櫛歯状の工具ではなく半截竹管を丁寧に重ね描きした可能性がある。

以上、本群の概要を述べたがこれら土器の位置づけとしては、まず胎土に繊維を含まない。施文具として半截竹管が主流を占めること。施文された文様構成が半截竹管を利用したの平行沈線・波状文・木葉文などであること、また、半截竹管による連続刺突で爪形文を施文し、竹管などにより円形刺突文があることなどから「諸磯式」の範疇に含まれる土器群であり、文様構成などから細分すると1～15・18～34は諸磯a式、16・17・35～74が諸磯b式、79～82が諸磯c式の範疇として考えられよう。83については胎土も白く諸磯式とは非常に異なる部分を持っているため、他地域か他時期の土器とも考えられる。よって第7群は諸磯aとbに主体をおく縄文前期後葉の諸磯式として捉えられる。なお、本群は先にも述べたが、83点の土器をサンプリングしたがこの内74%がJ区埋没谷より出土しており、諸磯式の出土位置については偏在性が指摘できよう。

⑧ 第8群土器

本群は胎土に繊維を含まず、文様として縄文を施文するものを一群として捉えた。土器の形態はいずれも口縁部が逆「ハ」字状に開く形態と考えられる。口唇部は3が面とりしている他は丸みを帯びた状態であった。施文された縄文の種類は1の無節と2・4・5等の単節があり、単節はLRとRLのいずれも存在する。なお、9は多条縄文の可能性もある。また、15・16・22の様に結節部が明瞭に観察できる土器片もあった。

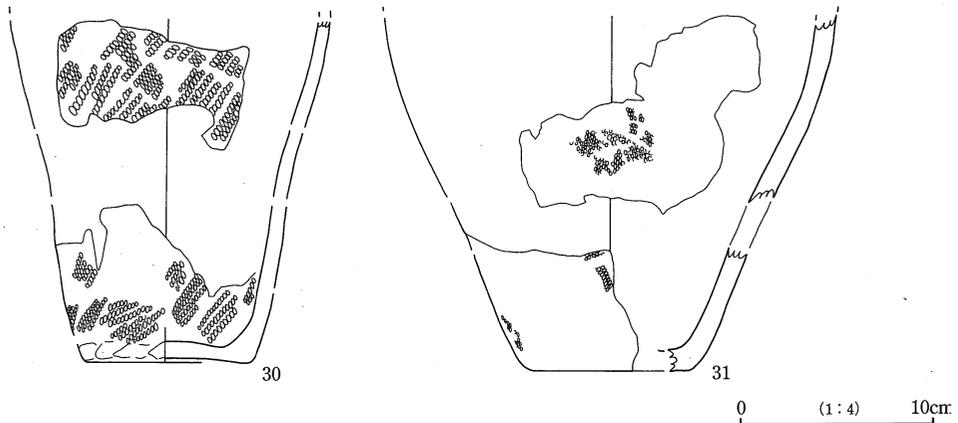
これらの施文文様や胎土に繊維を含まないことなどから、本群は縄文前期後葉の諸磯式平行の土器群として捉えられよう。なお、本群も図示した31点の内24点(77%)がJ区埋没谷からの出土であり、第7群と同じような傾向にある。よって第7群と合わせ、当遺跡における縄文前期後葉「諸磯式」期における活動エリアはF区埋没谷よりもJ区埋没谷やその周辺上部の方が主であったことが推測される。



第84图 第8群土器实测图①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-ケ-19 1	深 鉢 口縁部	(29.9) <8.9> ---	外面 無節縄文L 内面 擦痕状のナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含む	
J-ク-18 2	深 鉢 口縁部	(16.8) <5.1> ---	外面 縄文RL 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	
				径2~3mmの赤色粒子と径1~2mmの長石を含む	
I-ス-8 3	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	
				径1~2mmの赤色粒子と長石を含む	
I-ト-13 4	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐	
				径1~2mmの白色粒子を含む	
F-セ-3 5	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	10YR6/6 明黄褐	
				径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
J-コ-19 6	深 鉢 口縁部	---	外面 縄文RL? 内面 ナデ 補修孔あり	10YR7/3 にぶい黄橙	
				径1~2mmの白色砂粒を含む	
I-チ-8 7	深 鉢 胴部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	中期?
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を少量含む	
F-ケ-12 8	深 鉢 胴部	---	外面 半截竹管による爪形文 内面 縄文LR ナデ	7.5YR6/6 橙	
				径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色粒子を多く含む	
I-ツ-10 9	深 鉢 胴部	---	外面 多条縄文? 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	※繊維を 微量 含む
				径1~2mmの白色砂粒を多く含む	
I-ス-6 10	深 鉢 胴部	---	外面 縄文LR? 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
				径1~2mmの赤色粒子と長石を含む	
一括 11	深 鉢 胴部	---	外面 縄文 内面 ナデ	7.5YR4/4 褐	
				径1~2mmの白色砂粒、長石を含む	
F-カ-14 12	深 鉢 胴部	---	外面 縄文? 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
				径1~2mmの白色砂粒と長石、石英を含む	
I-ケ-1 13	深 鉢 胴部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	2.5YR4/8 赤褐	
				径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ク-18 14	深 鉢 口辺部	---	外面 縄文LR 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
				径1~2mmの赤色粒子と長石、石英を含む	
F-オ-14 15	深 鉢 胴部	---	外面 結節縄文LR 内面 半截竹管による平行沈線と爪形文 ナデ	7.5YR4/4 褐	
				径2~3mmの砂粒を多く含む	
I-チ-11 16	深 鉢 胴部	---	外面 結節縄文 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐	
				径1~2mmの砂粒を多く含む	
I-チ-8 17	深 鉢 胴部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐	
				径1~2mmの長石を多く含む	
I-チ-9 18	深 鉢 胴部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	7.5YR4/1 褐灰(内面)	
				径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	
F-コ-12 19	深 鉢 胴部	---	外面 縄文RL 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	
				径1~2mmの白色粒子と長石を多く含む	
I-ス-17 20	深 鉢 胴部	---	外面 縄文LR 内面 ナデ	7.5YR6/8 橙	
				径1~2mmの長石、石英を多く含む	
I-カ-14 21	深 鉢 胴部	---	外面 無節縄文? 内面 ミガギ	10YR7/3 にぶい黄橙	
				径1~2mmの砂粒と長石を含む	
I-ス-8 22	深 鉢 胴部	---	外面 結節縄文 内面 ナデ	2.5YR4/6 赤褐	
				径1~2mmの砂粒と長石を多く含む	

第58表 第8群土器観察表①



第85図 第8群土器実測図②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
I-サ-14 23	深 鉢 胴 部	—	外面 縄文 RL? 内面 ナデ	5YR6/6 橙	
		<5.0> —		径1～2mmの白色砂粒と長石を多く含む	
I-チ-8 24	深 鉢 胴 部	—	外面 縄文 RL 内面 ミガキ	10YR7/4 にぶい黄橙	
		<3.6> —		径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
J-ケ-18 25	深 鉢 胴 部	—	外面 無節縄文 L 内面 擦痕状のナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
		<8.3> —		径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を含む	
I-ト-13 26	深 鉢 部 ～底部	—	外面 縄文 LR 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
		<3.1> (10.7)		径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
J-ケ-18 27	深 鉢 部 ～底部	—	外面 縄文 RL 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	
		<9.9> (10.6)		径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
I-ト-13 28	深 鉢 部 ～底部	—	外面 縄文 RL と LR による羽状構成? 内面 ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	※繊維を 含む 前期中葉?
		<9.5> —		径1～2mmの白色砂粒と長石を含む	
M-ク-5 29	深 鉢 底 部	—	外面 無文部分 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙	
		<3.3> 7.8		径1～2mmの白色砂粒と長石と赤色粒子を 多く含む	
J-ケ-18 30	深 鉢 部 ～底部	—	外面 縄文 LR 内面 ナデ	7.5YR4/3 褐	
		<18.2> (8.9)		径1～2mmの長石、砂粒を多く含む	
J-ケ-18 31	深 鉢 部 ～底部	—	外面 縄文 RL 内面 ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	
		<5.1> (8.4)		径1～2mmの赤色粒子と白色砂粒を多く含 む	

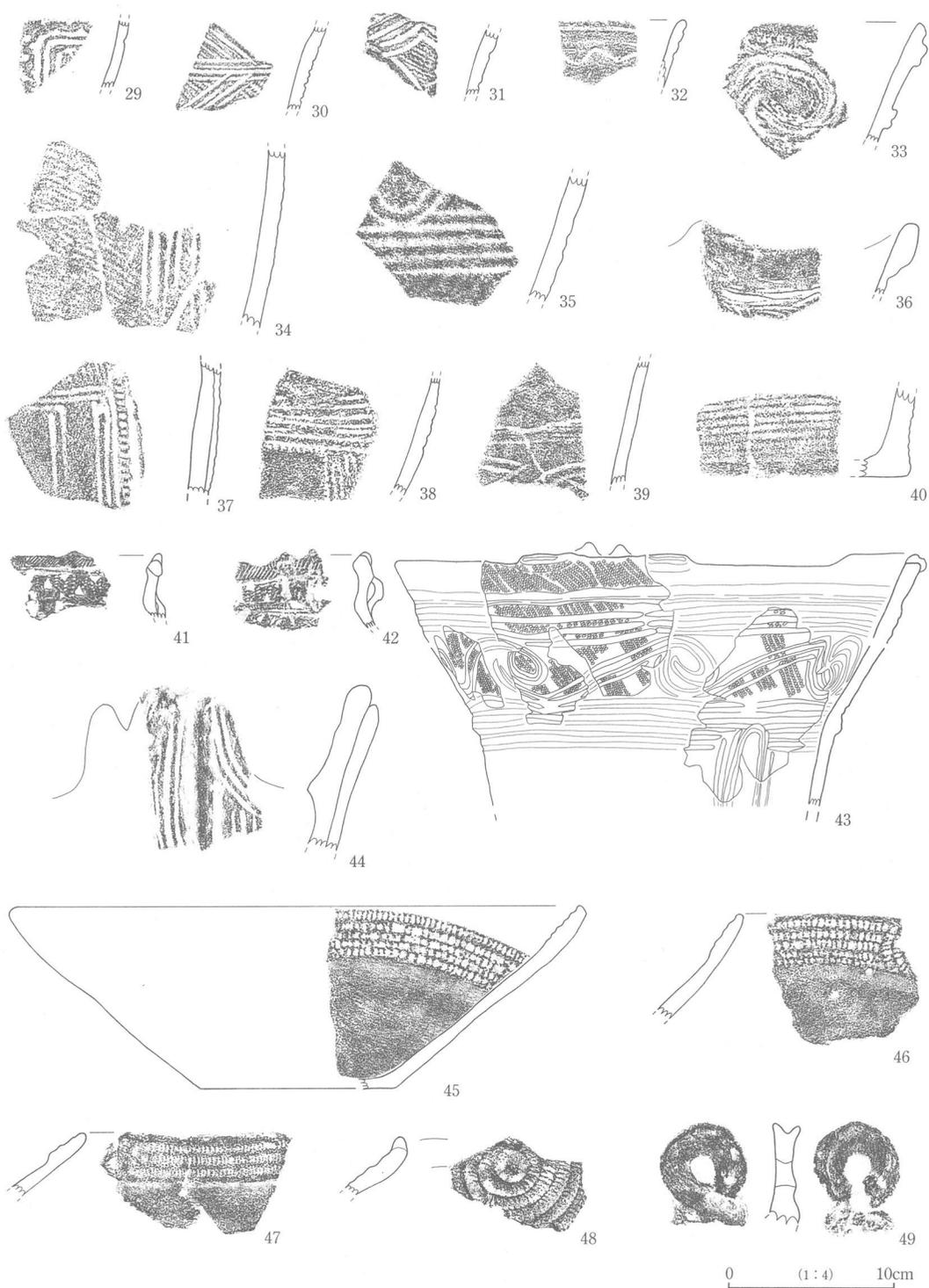
第59表 第8群土器観察表②

⑨第9群土器

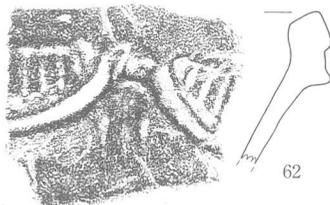
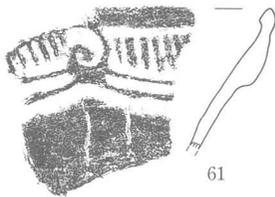
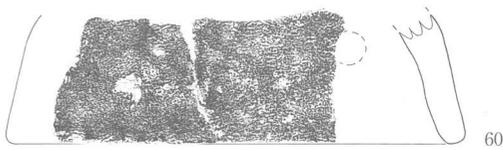
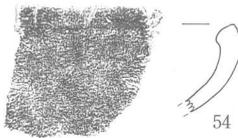
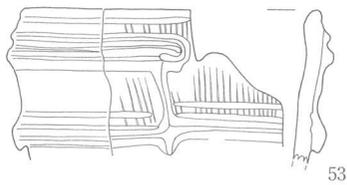
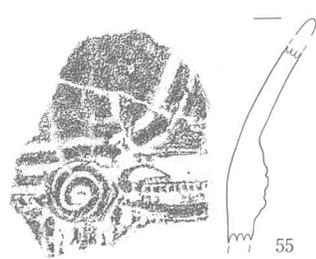
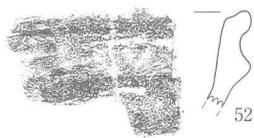
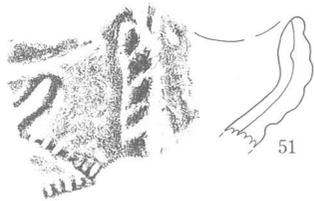
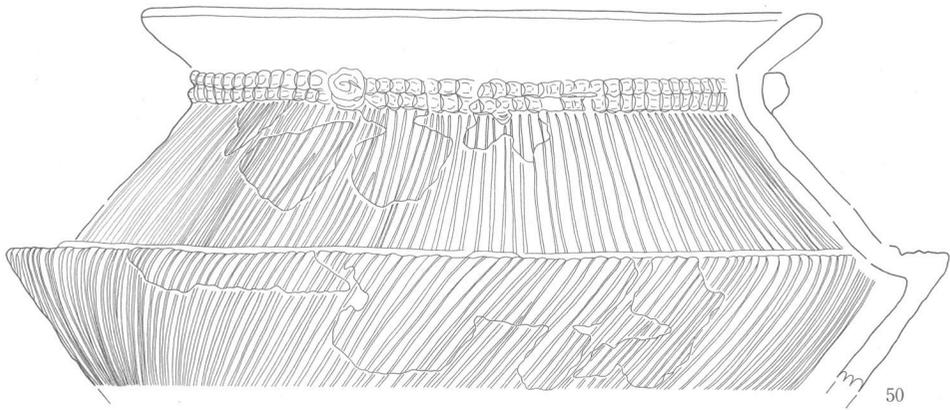
本群は1～8群と異なり、胎土・施文具などから中期に比定しうると考えられる土器群を扱う。なお、いずれも破片のため土器全体が把握できる物は少なく型式等は全てにおいて言及できなかった。また、文様構成についても一部のみのため全体が推測しうるものは、「～文」の名称を使用したものもあるが、全体としては表出された状態を観察表に記載した。以下、おおよその時期



第86图 第9群土器实测图①

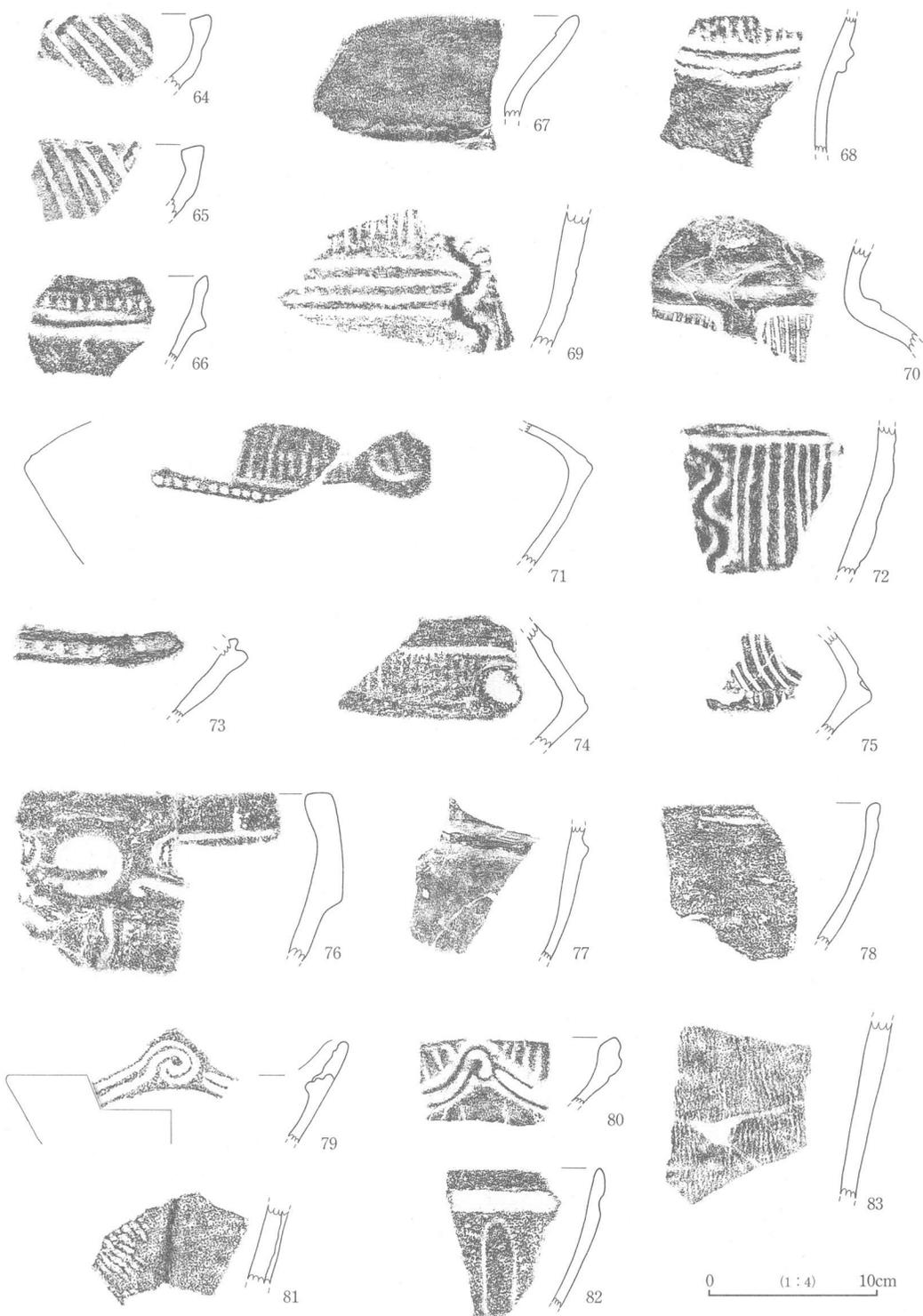


第87图 第9群土器实测图②

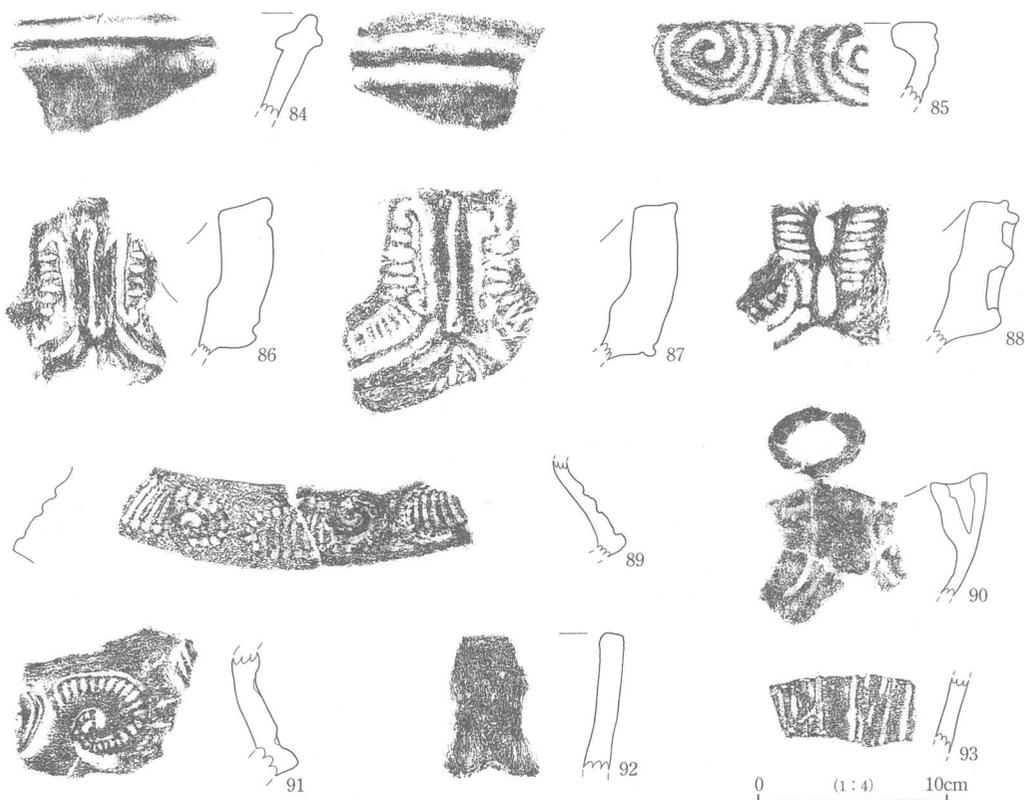


0 (1:4) 10cm

第88图 第9群土器实测图③



第89图 第9群土器实测图④



第90図 第9群土器実測図⑤

区分により個々の土器について触れたい。

まず1～43までは中期初頭～前葉に比定されると考える土器である。胎土はその主が石英・長石を多量に含み、ざらざらとした質感のものと、16・17・21・41・42の様な前期後半の土器胎土によく似る赤色粒子を含み、さらさらとした質感のもの2種類が認められた。土器色調も石英・長石の含む土器片は赤褐色であり、赤色粒子の含むものは黄橙色であった。施文具の特徴としては半截竹管と櫛歯状工具が主である。施文方法としては半截竹管や櫛歯状工具による平行沈線や集合沈線を縦・横位に施文する10・14・18・26などや、竹管による半隆起状の沈線を交互に刺突することにより鋸歯状にした1・5・9・29、粘土を切り取りして形を表出するいわゆる印刻文をつけるものとして28・41・42などがある。また、半截竹管の先を加工して2点の刺突が施文された角押文として12・13・33、ヘラ状工具或いは半截竹管による連続刺突として4・10・11・23、櫛歯状工具の刺突として41・42がある。縄文施文のものは少なく1・16・17・30・31・43がある。また16・17・21は先に述べたが胎土も異なり、口縁部への縄文施文や半截竹管による微隆起線状の沈線など他の土器群とおもむきが異なるため、或いは他時期を想定するべきなのかもしれない。これら胎土や施文の特徴から、この土器群は中期初頭の五領ヶ台式平行の範疇に含まれると考える。

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-ケ-18 1	深 鉢 口縁部	— <10.0> —	外面 口縁部小突起 半截竹管による微隆 帯上の平行沈線と交互刺突による鋸 歯状文 地文縄文? 内面 ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 径2~3mmの長石と石英を多量に含む	中期初頭 ~前葉
I-ト-11 2	深 鉢 口縁部	— <4.2> —	外面 口縁部に斜行沈線 交互刺突による 鋸歯状文と格子目文 内面 ナデ	5YR6/6 橙 径1~2mmの長石、石英、雲母を含む	中期初頭 ~前葉
I-ケ-1 3	深 鉢 胴部	— <6.0> —	外面 半截竹管による微隆帯状の平行沈線 地文 斜行沈線 内面 ナデ	5YR6/6 橙 径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	中期初頭 ~前葉
F-コ-13 4	深 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 半截竹管による平行沈線と連続刺突 文 格子目文 内面 ナデ	2.5YR3/6 暗赤褐 径2~3mmの石英、長石を多く含む	中期初頭 ~前葉
F-ケ-12 5	深 鉢 胴部	— <4.2> —	外面 縦位の集合沈線と横位の隆帯下に交 互刺突による鋸歯状文 内面 ナデ	5YR4/8 赤褐 径2~3mmの白色砂粒と長石、石英を含む	中期初頭 ~前葉
F-オ-18 6	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口縁部に「U」字形の隆帯 内面 ナデ	5YR6/4 赤褐 径1~2mmの白色砂粒と長石、石英を少量 含む	中期初頭 ~前葉
I-チ-11 7	深 鉢 口縁部	— <4.6> —	外面 肥厚した「U」字形の口縁部に沈線 口縁部下に連続刺突文 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 径1~2mmの長石、石英を多く含む	中期初頭 ~前葉
I-テ-12 8	深 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 口縁部内面やや肥厚 連続刺突文 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐 (内面) 径1~2mmの石英を多く含む	中期初頭 ~前葉
J-イ-16 9	深 鉢 口縁部	— <4.7> —	外面 口唇部に小突起 半截竹管による微 隆帯状の平行沈線 交互刺突による 鋸歯状文 内面 ナデ	5YR2/1 黒褐 径2~3mmの石英、長石、雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
J-コ-19 10	深 鉢 口縁部	— <5.1> —	外面 口唇部に縦位の刻み 胴部 T字状文? 内面 ナデ	7.5YR7/2 明褐灰 径1~2mmの石英、長石、雲母を多量に含 む	中期初頭 ~前葉
I-ツ-12 11	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 口唇部に縦位の刻み 胴部 T字状文 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 径1~2mmの石英と金雲母を多量に含む	中期初頭 ~前葉
F-エ-15 12	深 鉢 口縁部	— <5.2> —	外面 口唇部に小突起 角押文的な刺突 内面 ナデ	7.5YR5/6 明褐 径1~3mmの長石、砂粒を多く含む	中期初頭 ~前葉
F-オ-13 13	深 鉢 胴部	— <5.0> —	外面 角押文的な刺突により渦巻き状の文 様? 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 径1~3mmの長石と金雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
J-ク-17 14	深 鉢 口縁部	— <4.9> —	外面 半截竹管による平行沈線と縦位の集 合沈線 内面 ナデ	5YR3/4 暗赤褐 径1~2mmの石英を多量に含む	中期初頭 ~前葉
J-ケ-18 15	深 鉢 口縁部	— <5.5> —	外面 平行沈線とT字状文 内面 ナデ	2.5YR3/6 明赤褐 径1~2mmの石英と長石を多く含む	中期初頭 ~前葉
F-カ-13 16	深 鉢 口縁部	— <6.2> —	外面 口縁部 縄文LR 半截竹管による 微隆帯状の平行沈線 地文は細かい 半截竹管による集合沈線 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	17と 同一個体
F-カ-13 17	深 鉢 口縁部	— <6.6> —	外面 口縁部 縄文LR 半截竹管による 微隆帯状の平行沈線 地文は細かい 半截竹管による集合沈線 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	16と 同一個体
J-エ-17 18	深 鉢 口縁部	— <6.7> —	外面 横位の平行沈線と縦位の集合沈線 内面 ナデ	5YR3/6 暗赤褐 径1~3mmの石英と雲母を多量に含む	中期初頭 ~前葉
J-ウ-16 19	深 鉢 口縁部	— <6.5> —	外面 横位の連続刺突文と平行沈線 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 径1~3mmの石英と長石を多量に含む	中期初頭 ~前葉
J-イ-16 20	深 鉢 口縁部	— <9.0> —	外面 口縁部に縦位の刻みと横位の沈線 胴部 連続刺突文と横位のT字状文 と沈線 内面 ナデ	5YR5/8 明赤褐 径1~2mmの石英を多量、金雲母を少量含 む	中期初頭 ~前葉
J-オ-14 21	深 鉢 口縁部	— <6.5> —	外面 半截竹管による微隆帯状の平行沈線 地文は細かい半截竹管による集合沈線 内面 ミガキ	7.5YR6/8 橙 径1~2mmの赤色粒子と白色砂粒を含む	中期初頭 ~前葉
F-ク-18 22	深 鉢 口縁部	— <7.2> —	外面 平行沈線とT字状文? 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐 径1~2mmの石英、長石、金雲母を含む	中期初頭 ~前葉

第60表 第9群土器観察表①

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
Iト-13 23	深 鉢 胴 部	<5.2> ---	外面 平行沈線と連続刺突文 内面 ナデ	5YR4/6 赤褐 径1~2mmの石英、長石と金雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
Jオ-14 24	深 鉢 胴 部	<4.8> ---	外面 隆帯側面に角押文 内面 ミガキ	2.5YR3/6 暗赤褐 径1~2mmの石英と金雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
Jイ-16 25	深 鉢 胴 部	<11.7> ---	外面 刻みのあるY字状の縦位隆帯が垂下 地文は平行沈線と斜行沈線、連続刺 突文 ナデ 内面	5YR3/4 暗赤褐 径1~3mmの金雲母を多量に含む	中期初頭 ~前葉
Jイ-15 26	深 鉢 胴 部	<10.0> ---	外面 平行沈線と一部にT字状文、角押文 内面 ミガキ?	5YR5/6 明赤褐 径1~2mmの長石、石英を多量に含む	中期初頭 ~前葉
Jエ-17 27	深 鉢 胴 部	<4.3> ---	外面 平行沈線と角押文? 内面 上部は斜行沈線? ナデ	5YR2/1 黒褐 径1~4mmの石英、長石を多く含む	中期初頭 ~前葉
Iト-13 28	深 鉢 口縁部	<3.2> ---	外面 三角印刻文と三角構成?の沈線 内面 ナデ	7.5YR6/6 橙 (内面) 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期初頭 ~前葉
Iト-13 29	深 鉢 胴 部	<4.0> ---	外面 平行沈線と幅の広い交互刺突 内面 ナデ	5YR2/1 黒褐 径2~3mmの長石と石英を多く含む	中期初頭 ~前葉
Jク-18 30	深 鉢 胴 部	<4.9> ---	外面 半截竹管による平行・斜行沈線 内面 地文 縄文 RL 擦痕状のナデ	5YR3/3 暗赤褐 径1~2mmの長石と赤色粒子を多く含む	諸磯 a?
Jク-18 31	深 鉢 胴 部	<3.9> ---	外面 半截竹管による平行沈線 内面 地文 燃糸文 擦痕状のナデ	5YR3/2 暗赤褐 径1~2mmの長石、赤色粒子を多く含む	中期初頭 ~前葉
Iス-9 32	深 鉢 口縁部	<4.0> ---	外面 波状の沈線? 内面 ナデ	5YR2/2 黒褐 径1~3mmの長石、石英を多く含む	中期初頭 ~前葉
Jオ-17 33	深 鉢 口縁部	<7.3> ---	外面 渦巻状の隆帯に添って上面と横に角 押文 ナデ 内面	5YR4/6 赤褐 径1~4mmの白色砂粒、石英、長石を多く 含む	中期前葉
Jケ-19 34	深 鉢 胴 部	<10.8> ---	外面 縦位の平行沈線 内面 地文 縄文 ナデ	5YR6/6 橙 内面黒色 径1~2mmの長石、石英、雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
Fキ-13 35	深 鉢 胴 部	<7.6> ---	外面 平行沈線と一部曲線を描く 内面 ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 径1~2mmの石英、雲母を多く含む	中期初頭 ~前葉
Fケ-12 36	深 鉢 口縁部	<4.4> ---	外面 口縁部肥厚 内面 半截竹管による沈線? ナデ	5YR3/4 暗赤褐 径2~3mmの長石や砂粒を多く含む	中期前葉
Iチ-12 37	深 鉢 胴 部	<7.7> ---	外面 刻みを持つ垂下隆帯の脇に沈線と刻 み ナデ 内面	5YR6/4 にぶい橙 径1~2mmの長石、石英を多量に含む	中期初頭 ~前葉
Fオ-11 38	深 鉢 胴 部	<7.1> ---	外面 半截竹管によるT字状の沈線と脇に 連続刺突文 ナデ 内面	5YR5/6 明赤褐 径1~2mmの石英と金雲母を含む	中期初頭 ~前葉
Iセ-9 39	深 鉢 胴 部	<7.4> ---	外面 半截竹管による沈線 内面 ナデ	5YR3/3 暗赤褐 径1~2mmの白色粒子と金雲母を多量に含 む	中期初頭 ~前葉
Fサ-12 40	深 鉢 底 部	<5.4> ---	外面 平行沈線 内面 ナデ	5YR3/6 暗赤褐 径1~2mmの石英、長石を多量に含む	中期初頭 ~前葉
一括 41	深 鉢 口縁部	<3.4> ---	外面 口唇部に小突起 楕円状工具による 斜行沈線 三角印刻文と4点1単位 の刺突文 小取っ手 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 (内面) 径1~2mmの長石と砂粒を含む	中期初頭 ~前葉 42と同一個体
Lサ-2 42	深 鉢 口縁部	<4.3> ---	外面 口唇部に小突起 楕円状工具による 斜行沈線 三角印刻文と4点1単位 の刺突文 小取っ手 内面 ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの長石を多く含む	中期初頭 ~前葉 41と同一個体
一括 43	深 鉢 口縁部 ~胴部	(34.4) 11.0 (11.8)	外面 口唇部に小突起 沈線により渦巻文 と平行沈線 地文縄文 RL 内面 ナデ	5YR3/6 暗赤褐 径1~2mmの石英、金雲母を含む	中期初頭 ~前葉
Jケ-18 44	深 鉢 口縁部	<6.3> ---	外面 縦位の垂下する隆帯と半截竹管によ る平行沈線 内面 ナデ	5YR4/1 褐灰 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期前葉 ~中葉

第61表 第9群土器観察表②

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
I-テ-12 45	浅 鉢 口縁部 ~底部	--- <3.7> ---	外面 ミガキ 内面 5段の横位角押文	5 YR 3/3 暗赤褐 径1~2mmの砂粒と長石、石英を多く含む	中期前葉 ~中葉
F-エ-12 46	浅 鉢 口縁部	--- <3.4> ---	外面 ナデ 内面 5段の横位角押文 一部に渦巻状の 刺突	5 YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの砂粒と長石を多く含む	中期前葉 ~中葉
J-ケ-18 47	浅 鉢 口縁部	--- <3.7> ---	外面 口唇部に角押文 内面 3段の横位角押文、一部渦巻き状の 刺突	5 YR 4/6 赤褐 径1~2mmの長石を多量、金雲母を含む	中期前葉~中葉 48と同一個体 の可能性
J-ケ-18 48	浅 鉢 口縁部	--- <3.4> ---	外面 口縁部突起 ナデ 内面 横位の角押文が渦巻き状を呈する	5 YR 5/8 明赤褐 径1~2mmの長石を多量と、金雲母を含む	中期前葉~中葉 47と同一個体 の可能性
J-エ-17 49	深 鉢 口縁部	--- <6.2> ---	外面 ミガキ 環状突起部分 内面 ミガキ	5 YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの赤色粒子を多量に含む	中期前葉 ~中葉
H-ソ-19 50	深 鉢 口縁部 ~胴部	(36.2) <20.0> ---	外面 口辺部に渦巻き状の貼付文 半截竹 管による押し引き風の隆帯 胴部 内面 平行沈線 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの赤色粒子を多く含む	中期後半
F-ク-19 51	深 鉢 口縁部	--- <6.9> ---	外面 縦位のねじりを加えた隆帯が垂下 刻みを持つ三角形の区画隆帯? 内面 ナデ	5 YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの長石、石英を含む	中期中葉
I-テ-12 52	深 鉢 口縁部	--- <5.0> ---	外面 二本の横位隆帯 内面 ナデ	5 YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの白色砂粒と雲母を含む	中期後半
一括 53	深 鉢 口縁部 ~胴部	(15.8) <8.2> ---	外面 横位の「U」字状隆帯と平行沈線 内面 地文 縦位の平行沈線 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と赤色粒子を微量含 む	中期後半
F-エ-15 54	浅 鉢 口縁部	--- <4.6> ---	外面 無文部分 内面 ナデ?	10YR 7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期後半
L-セ-2 55	深 鉢 口縁部 ~胴部	--- <10.6> ---	外面 渦巻き状の隆帯より横位の「U」字 状隆帯 一部に隆帯上には半截竹管 による爪形文 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石、赤色粒子を 多く含む	中期後半
一括 56	深 鉢 口縁部	--- <3.3> ---	外面 斜行の集合沈線上に細い粘土紐を左 上から右下に貼付 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐 径1~2mmの石英、長石を多く、金雲母を 含む	中期後半
一括 57	深 鉢 口縁部	--- <5.0> ---	外面 渦巻き状の隆帯 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径1~2mmの長石、雲母、赤色粒子を多く 含む	中期後半
J-キ-18 58	深 鉢 胴部	--- <6.3> ---	外面 半截竹管による左右逆方向の爪形文 をつけた 2本の隆帯下に同工具に よる平行沈線 内面 ナデ	5 YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	中期後半
I-ツ-11 59	深 鉢 胴部	--- <4.8> ---	外面 横位の平行沈線と渦巻き状の隆帯 内面 ナデ	2.5YR 3/6 暗赤褐 径1~2mmの長石、雲母を含む	中期後半
F-コ-12 60	器 台 底 部	--- <6.7> ---	外面 円形?の透かし孔あり 内面 ナデ	5 YR 4/8 赤褐 径2~3mmの赤色粒子を多く含む	中期後半
J-ウ-11 61	深 鉢 口縁部	--- <8.2> ---	外面 渦巻き状の隆帯をつなぐ区画内に平 行沈線 内面 ナデ	10YR 7/6 明黄褐 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期後半
F-カ-13 62	深 鉢 口縁部	--- <8.0> ---	外面 渦巻き状の隆帯をつなぐ区画内に平 行沈線 垂下する3本の沈線 内面 ナデ	10YR 6/6 明黄褐 径1~2mmの長石、白色砂粒を含む	中期後半
J-ク-18 63	深 鉢 口縁部	--- <5.3> ---	外面 低隆帯による楕円区画内に縦位の平 行沈線と斜行する粘土紐を貼付する 内面 ナデ	10YR 8/3 浅黄橙 径1~2mmの長石、石英、赤色粒子を多く 含む	中期後半
J区 埋没谷 64	深 鉢 口縁部	--- <4.6> ---	外面 斜行する平行沈線上に口唇部より細 い粘土紐を貼付 内面 ナデ	7.5YR 3/4 暗褐 径1~2mmの石英、長石を多く含む	中期中葉? 65と 同一個体
J-キ-19 65	深 鉢 口縁部	--- <4.3> ---	外面 斜行する平行沈線上に口唇部より細 い粘土紐を貼付 内面 ナデ	7.5YR 4/6 褐 径1~2mmの石英、長石を多く含む	中期中葉? 64と 同一個体
F-オ-13 66	深 鉢 口縁部	--- <5.0> ---	外面 横位の隆帯間にへら状工具?による 連続刺突文 地文 縄文 RL 内面 ナデ	10YR 8/4 浅黄橙 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期後半

第62表 第9群土器観察表③

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-コ-18 67	深 鉢 口縁部	<6.0> ---	外面 無文部分 内面 ミガキ	10YR 8/3 浅黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	中期後半
J-ウ-16 68	深 鉢 胴部	<6.5> ---	外面 平行沈線と2本の弧状の隆帯を横位 に巡らす 地文 縄文 RL 内面 5段の横位角押文 一部に渦巻状の刺突	7.5YR 7/6 橙 径2~3mmの白色砂粒と長石を多く含む	中期後半
J-オ-17 69	深 鉢 胴部	<8.0> ---	外面 隆帯による蛇行懸垂文と縦位と横位 の平行沈線 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの長石、白色砂粒を多く含む	中期後半
J-キ-19 70	深 鉢 胴部	<6.5> ---	外面 T字状の隆帯か楕円区画内に平行沈線 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの長石と白色砂粒を含む	中期後半
F-ケ-13 71	鉢 胴部	<8.5> ---	外面 楕円区画内に平行沈線 一部に連続刺突部あり 内面 ミガキ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒、長石、赤色粒子を 含む	中期後半
J-カ-17 72	深 鉢 胴部	<8.7> ---	外面 隆帯による蛇行懸垂文と縦位の平行 沈線 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	中期後半
J-ク-18 73	鉢 胴部	<4.7> ---	外面 隆帯と円形の連続刺突 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石を含む	中期後半
F-オ-13 74	深 鉢 胴部	<7.3> ---	外面 低隆帯による楕円形区画内に平行沈 線 隆帯の一部に渦巻き状 内面 ナデ	10YR 8/4 浅黄橙 径1~2mmの長石、石英、白色砂粒を多く 含む	中期後半
L-セ-2 75	鉢 胴部	<6.3> ---	外面 弧を描く平行沈線と一部に刺突 内面 ナデ	5YR 4/6 赤褐 径1~2mmの砂粒と径2~3mmの長石を含 む	中期後半
F-ケ-10 76	深 鉢 口縁部	<10.0> ---	外面 一部渦巻き状の隆帯による楕円区画 内に平行沈線 2本の垂下する隆帯 内面 ナデ	10YR 6/6 明黄橙 径1~2mmの白色砂粒と長石を多く含む	中期後半
L-サ-2 77	深 鉢 胴部	<7.9> ---	外面 一本の隆帯 内面 ナデ	10YR 6/4 にぶい黄橙 (内面) 径1~2mmの白色砂粒を多く含む	中期後半
M-ウ-12 78	深 鉢 口縁部	<8.5> ---	外面 沈線? 内面 ナデ	10YR 7/6 明黄褐 径1~2mmの砂粒と径2~3mmの赤色粒子 を多く含む	中期後半
F-オ-14 79	浅 鉢 口縁部	(21.4) <6.0> ---	外面 2本の沈線により口縁突起部に渦巻 きを描く 内面 ナデ	10YR 8/4 浅黄橙 径1~2mmの砂粒と長石を多く含む	中期後半
J-ク-19 80	深 鉢 口縁部	<4.0> ---	外面 渦巻き状の隆帯をつなぐ区画内に平 行沈線 内面 ナデ	10YR 7/1 灰白 径1~2mmの長石と白色砂粒を多く含む	中期後半
M-ウ-3 81	深 鉢 胴部	<4.7> ---	外面 垂下する隆帯と縄文 内面 ナデ	7.5YR 4/6 褐 径1~2mmの砂粒、長石、雲母を多く含む	中期後半
F-ス-9 82	深 鉢 口縁部	<8.2> ---	外面 逆「U」字形の沈線区画外に縄文を 施文 内面 ナデ	7.5YR 4/4 褐 径1~2mmの白色砂粒と径2~3mmの赤色 粒子を含む	中期後半
J-コ-18 83	深 鉢 胴部	<10.6> ---	外面 地文 擦糸 内面 ナデ	7.5YR 7/1 明褐灰 径1~2mmの白色砂粒と砂粒を多く含む	中期後半
F-ク-11 84	鉢 口縁部	<5.5> ---	外面 口縁部に横位の隆帯 内面 口縁部に横位の隆帯 ナデ	7.5YR 4/4 褐 径1~2mmの長石、石英を多く含む	中期後半
J-ケ-19 85	深 鉢 口縁部	<4.3> ---	外面 沈線による渦巻き文 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの長石、径2~3mmの砂粒を多 く含む	中期後半
F-コ-11 86	深 鉢 突起	<8.3> ---	外面 逆「Y」字状の隆帯上に「J」字状の 沈線 隆帯脇に連続刺突 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1~2mmの長石、赤色粒子含む	中期後半
F-シ-10 87	深 鉢 突起	<8.3> ---	外面 逆「Y」字状の隆帯上に「J」字状の 沈線 隆帯脇に平行沈線 内面 ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙 径1~2mmの長石と赤色粒子を多く含む	中期後半
J-ケ-18 88	深 鉢 突起	<7.6> ---	外面 逆「Y」字状の隆帯上に「J」字状の 沈線 隆帯脇に平行沈線 内面 ナデ	10YR 8/2 灰白 径1~2mmの白色砂粒を多量に含む	中期後半

第63表 第9群土器観察表④

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
J-エ-17 89	深 鉢 胴 部	— <5.2> —	外面 一部に渦巻き状を呈する楕円区画内 に平行沈線と円形の刺突文 内面 ナデ	10YR 8/4 浅黄橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	中期後半
一括 90	深 鉢 突 起	— <6.5> —	外面 一部中空の突起に2本の平行沈線を 「ハ」の字状に施す 内面 ナデ	10YR 6/2 灰黄褐 径1～2mmの砂粒と長石を含む	中期後半
F-シ-10 91	深 鉢 胴 部	— <6.6> —	外面 渦巻き状の隆帯内にヘラ状工具によ る連続刺突 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径1～2mmの白色砂粒と赤色粒子を多く含 む	中期後半
N-シ-1 92	深 鉢 突 起	— <7.3> —	外面 ナデ 内面 ナデ	7.5YR 4/4 褐 径1～2mmの長石、砂粒を少量含む	※繊維を 微量含む 前期?
M-エ-14 93	深 鉢 胴 部	— <3.9> —	外面 沈線 内面 ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙 径1～2mmの長石、径2～3mmの赤色粒子 を多く含む	中期後半

第64表 第9群土器観察表⑤

なお、12・13・25・33・36は施文方法などから中期前葉の段階に下る可能性もある。またこの土器群中にはいわゆる「深沢タイプ」について考えなければならない土器も存在する。

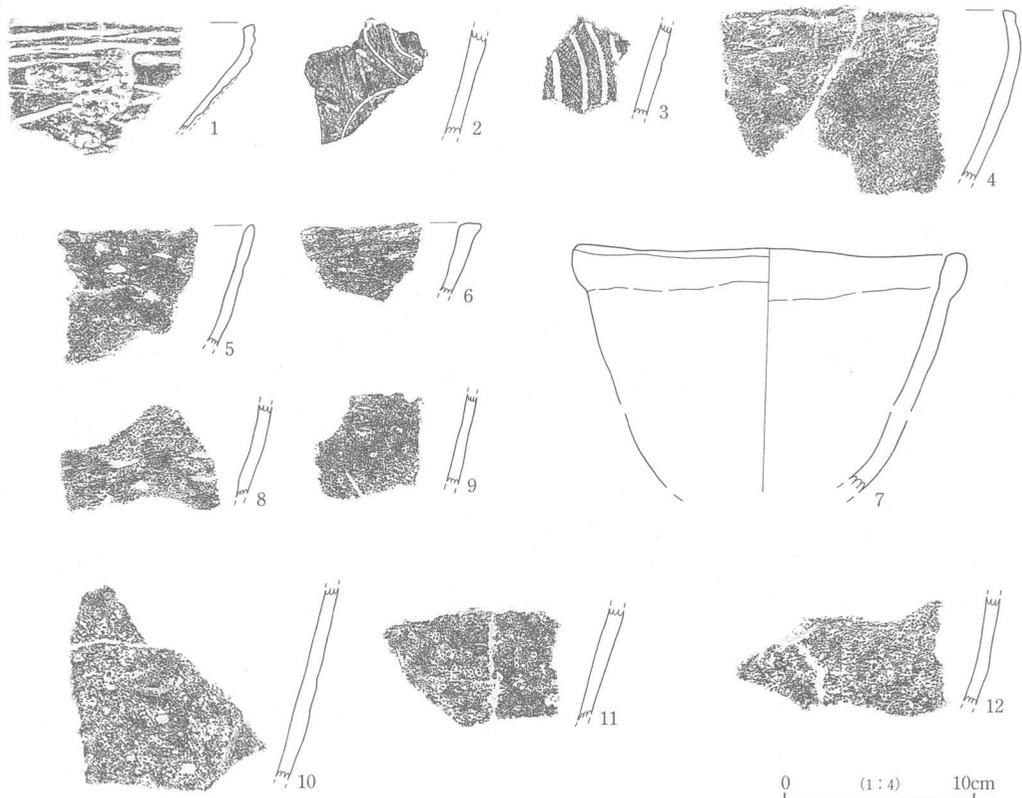
44～49と51・58は中期前葉～中葉と考えられる土器である。胎土は石英・長石を含むが、先きに述べた中期初頭～前葉の土器群に比べると混入量が非常に少ない。長石を含む44は3つの頂部をもつ口縁部であり、垂下する1本の隆帯がある。45～48は浅鉢であり、いずれも口縁部内面に5～3段の篋と思われる工具による角押文が巡っている。また、口縁部の一部には突起があり、その部分は角押文が渦巻き状に巡っている。49は土器口縁部の突起と考えられ環状を呈する。丁寧なナデが施されており、いわゆる「焼町式」と考えられる。51はねじりを加えた隆帯が垂下し、その横には粘土紐による文様が描かれていると考えられるが全体像をつかめない。ただ、文様構成から「勝坂式」の範疇として捉えられると考える。

最後に50・52～93は中期中葉～後葉(後半)として捉えた土器である。胎土は赤色粒子を含むさらさらした質感であり、土器色調も黄橙色のものが多い。施文は沈線と隆帯による組み合わせのものも多く、縄文施文のものは62・81・82と非常に少なかった。文様構成としては、まず61～63・68・71・74・76・80の楕円形区画を持つ土器が上げられる。この内61・62・68・80は完全な区画というよりいわゆる渦巻つなぎ弧文による区画である。ただ、いずれも区画内は縦位の平行沈線が充当されている。次に56・64・65は斜行沈線に細い(ソーメン状)粘土紐を沈線とは反対方向に貼付したもので、69・72は隆帯による蛇行懸垂文を表出するもの、85・59は隆帯により渦巻きを表出する物などがある。この土器群については、中期初頭と同様に時期差は存在するが、文様構成などから59・85～88・91が唐草文系土器、81～83が加曽利式、その他については曾利式の範疇として考えられよう。

⑩第10群土器

本群は後期に属すると考えられる土器及び無文土器を扱う。まず、文様のあるものとして3点あり、1は浅鉢で口縁部に竹管の背側と考えられる3本の沈線があり、胴部には同工具による羽状の沈線がある。2は弧を描く沈線が2本あり、3は沈線間に縄文を施文する。これらの特徴より1は「安行式」、2と3は「称名寺式」にそれぞれ比定されると考える。本遺跡からはこれら後期と考えられる土器片は3点のみであり、前期・中期に比べ圧倒的に少量である。

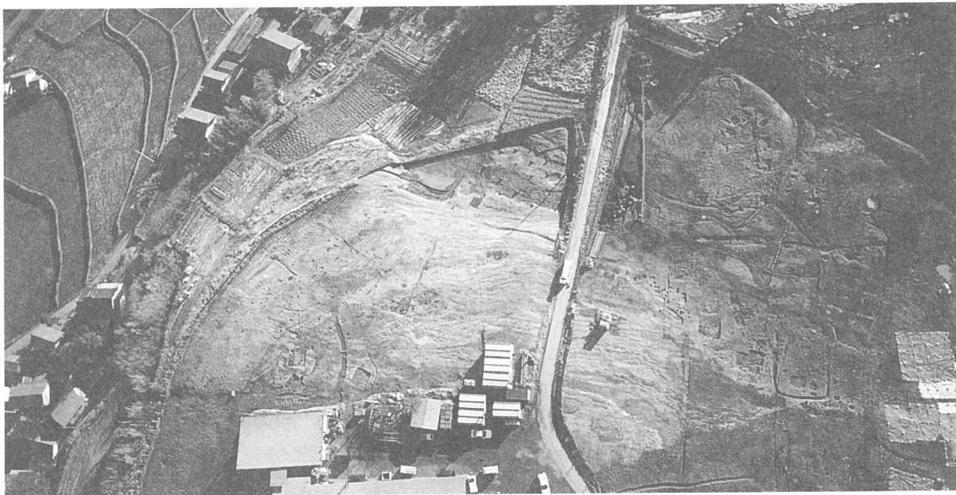
次に無文土器についてであるが、時期を比定できなかったため本群で扱うこととした。8点を図示したが、胎土的には3種類で4～6・8・9と7と10～12に分かれる。4～6・8・9のグループはやや軟質の質感で、内外面に輪積み痕が残る。4の形態からすると浅鉢とも考えられる。7は浅鉢であり、口縁部が肥厚する。内外面ナデの成形を施しているが、焼成が良好であり或いは土師器とも考えられるが確証を得ず、縄文の無文土器として今回は報告しておく。10～12は同一個体の可能性があり、胎土はいずれも大粒の砂粒を含みざらざらしている。この土器群は後期の粗製土器群とも捉えられるが、今後の周辺地域での類例の増加を待ちたい。



第91図 第10群土器実測図

挿図 番号	器種	法量 (cm)	文 様 ・ 調 整 外 面 ・ 内 面	色 調 胎 土	備 考
F-コ-10 1	浅 鉢 口縁部	— <5.6> —	外面 口縁部に平行沈線 胴部に横位の羽状沈線？ 内面 ナデ	10YR 4/1 褐灰 径1～2mmの白色砂粒と砂粒を含む	後期中葉 ～後葉
L-サ-2 2	深 鉢 胴部	— <5.3> —	外面 弧を描く沈線 内面 ナデ	10YR 8/3 浅黄橙 径1～2mmの白色砂粒を含む	後期初頭
L-セ-7 3	深 鉢 胴部	— <4.8> —	外面 沈線区画内に縄文 内面 ナデ	7.5YR 6/6 橙 径1～2mmの長石、砂粒を含む	後期初頭 ～中葉
F-ケ-11 4	鉢 口縁部	— <9.1> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 3/3 暗褐 径1～2mmの長石、砂粒を多く含む	輪積み痕 あり
F-ケ-11 5	鉢 口縁部	— <6.2> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 径1～2mmの砂粒、赤色粒子を含む	輪積み痕 あり 8と同一個体
F-コ-13 6	鉢 口縁部	— <3.7> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 径1～2mmの赤色粒子を多く含む	
J-カ-18 7	鉢 口縁部 ～胴部	— <12.8> —	外面 口縁部肥厚 無文 内面 ナデ	7.5YR 7/3 にぶい橙 径1～2mmの白色砂粒を多く含む	土師器？
F-ケ-12 8	鉢 胴部	— <4.9> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 径1～2mmの赤色粒子と径2～3mmの砂粒 を多く含む	5と 同一個体
F-ケ-11 9	鉢 胴部	— <4.8> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 5/6 明褐 径1～2mmの赤色粒子、砂粒を多く含む	
F-コ-11 10	鉢 胴部	— <10.1> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 2/1 黒 径2～3mmの砂粒を多量に含む	11・12と 同一個体
F-コ-11 11	鉢 胴部	— <6.8> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 3/2 黒褐 径2～3mmの砂粒を多量に含む	10・12と 同一個体
F-コ-11 12	鉢 胴部	— <5.6> —	外面 無文 内面 ナデ	7.5YR 2/1 黒(内面) 径2～3mmの砂粒を多量に含む	10・11と 同一個体

第65表 第10群土器観察表



J区埋没谷全景

道路を挟んで左側は完掘、右側のベルコン設置場所を調査中縄文包含層は写真右端に向かって台地に添うように検出された。

(2)石器

株式会社 アルカ

石器の記載の凡例とデータの記述の方法

①整理の手順

榛名平遺跡の石器の整理は次のような手順で行った。最初に加工や使用痕のある石器すべてを観察し、そのなかで遺構内の遺物を優先的に図化した。次に遺構外の石器を選択し、図化した。石器は1440点あり、そのうち900点余を図化し、記述をした。

②データの種類とその特性

石器実測図の役割

ここ数十年来の石器実測図は、測量的な精度の正確さを求めてきた。しかし、このような図は考古学的にはほとんど意味をもたない。実測図に実現される一部として、有る程度の測量的正確さは必要な属性だが、長さ10センチをはるかに越える打製石斧に数ミリを許さないのは考古学の程度を越えている正確さである。しかし長さ10数mmの細石刃には、その数ミリはできるだけ実現されるべき正確さである。つまり、石器製作者によって実現されている許容範囲が石器実測図の正確さの範囲であり、技法を反映しない正確さは考古学の求める正確さではない。この点を考古学の目的に沿って理解せず、現代の「正確さ」で寸法だけを取り上げると、偏執的で手段と目的を取り違えることになりかねないことになる。

また写真のような絵柄の正確さも同様である。石の表面にくっついている「しわ」や「模様」などを絵にするのは無意味である。かといって、極端に模式的になり、打製石斧や礫器、石核などの剥離面に丸ペンでスダレのようなフィッシャーを覆うように書く「スダレ技法」？ともよべる絵柄がしばしば見受けられるが、剥離技術の特徴を表現しているわけではない。

本来の石器実測図とは、それは剥離技術の属性を表現し、特定の剥離技術で構成される辺の組み合わせを示す図である。技法理解を第三者に伝える視覚的な役割を果たすのが実測図のあるべき姿である。

実測図に表現する5つの主要属性

一枚の剥離面に示される剥離技術の基本属性とは、打点、コーン、バルブ、剥片の末端形状、剥離軸の捻れの5種類の属性である。これを実際の剥離面を観察し、整理して記述するのが石器実測図のあるべき姿といえる

属性表の役割

属性表は視覚効果ではなく、計測値と記号によって技術を記述する表である。属性表に記載されている数値や記号は、なんらかの強い相関をもつ。その相関性が技法を構成するプログラムの

一部なのである。たとえば石鏃の長さや幅に一定性があるならば、それは石鏃の大きさの規格を示している。さらに、その大きさの規格と剥離技術に一定性があれば、特定の石鏃の規格が現代日本語で記述できるのである。

属性の種類

属性は計測値の属性と記号の属性がある。それぞれの特徴を以下に記す。

計測値の属性

長さ：石器の形態の軸の計測値。幅；長さに直交する計測値。

厚さ：真横からの見通しの計測値。

加工の長さ：加工の剥離面で最も長い剥離面の計測値。加工の幅；加工の剥離面の剥離軸に直交する計測値。

記号の属性

剥離技術の記号：記号の意味を以下に記す。詳細は考察を参照していただきたい。

剥離技術の基本記述

HD：硬質ハンマーの直接打撃 SD：軟質ハンマーの直接打撃

HI：硬質ハンマーの間接打撃 SI：軟質ハンマーの間接打撃

HP：硬質ハンマーの押圧剥離 SP：軟質ハンマーの押圧剥離

以上の記号に、剥離角や剥離面の状態を「/」のあとに続けた。

/平 坦：剥離角が130度以上の平らな剥離面。

/急角度：剥離角が110度から90度の急斜な剥離面。

/刃潰し：縁辺が潰されている剥離面。

榛名平遺跡の凡例

ハンマーの前に付いたNとWの意味

NHI：径の細い硬質ハンマーの間接打撃。Nは「狭い」の意味でハンマーの前に付した。

WHI：径の広い硬質ハンマーの間接打撃。Wは「広い」の意味でハンマーの前に付した。

この「N」と「W」は、あとに続く記号が変化しても同じ意味である。

また、この記号は相対的な記号である。数値として必要であれば、加工の剥離面の長さや幅を参照されたい。

押圧剥離を示すPの前についた「M」と「H」

押圧剥離で規則正しく剥離面を付けるためには、工夫された器具で石器を固定する必要がある。そこで規則正しい押圧剥離で、明らかに固定具を用いる押圧剥離を「MP」(Mは器具の意味でつかっている)とした。一方でのひらで押圧剥離を行うと、手のひらでの固定の不安定さ、片手で行う押圧剥離の不安定さで、不規則な押圧剥離ができる。これを固定具を用いる押圧剥離と区別

するために、「HP」（ハンド・プレッシャー）として記述した。

③遺構内の石器

はじめに

本稿は榛名平遺跡の石器の事実記載である。記述の手順は時期ごと住居址ごとに行い、そのあとに包含層の石器について説明を行う。本文中に剥離技術の記号があるが、それは凡例を参照していただきたい。なお凡例の詳しい解説は、付編「榛名平遺跡の剥片石器の考察」に執筆した。

縄文前期の石器

概要

榛名平遺跡の縄文前期は、I区に集中し、その時期区分は土器型式で3段階に区分される。関山Ⅱ式・神ノ木式並行の段階、有尾・黒浜式並行の段階、有尾・諸磯式土器の段階である。このうち関山Ⅱ式並行の5住居址、黒浜式並行が1住居址、諸磯式並行が1住居址である。石器は関山Ⅱ式に伴うものが多い。

関山Ⅱ式・神ノ木並行の石器

H1住居址 石器総数31点。石鏃20点、小形尖頭器2点、石錐1点、削器2点、縦形石匙1点、敲き石2点、接合資料3個体。

石鏃は黒曜石に偏在する。間接打撃で整形された小形の尖頭器(19・25)がある。20は縦形石匙で、摘みは間接打撃、刃部は押圧剥離である。縦長剥片の末端辺を石器の基部にしているのが特徴である。接合資料は黒曜石の間接打撃の資料。27・28・29はHIで縦長剥片を剥離している資料。石鏃の目的剥片を剥離している。原石は小形の転石。

H4住居址 石器総数38点。石鏃25点、石錐4点、縦形石匙2点、黒曜石石核2点、大形削器1点、小形削器1点、異形石器1点、打製石斧断片1点、礫器1点、くぼみ石1点。34の大形削器は片岩製。直接打撃で刃部を形成してうるが、摘み的な基部をもつのが特徴である。35は珪岩の両極剥片を素材にしてHPで刃部を形成している、基部にも加工があるものの摘みにはなっていない。異形石器は黒曜石製。縦形石匙のミニチュアか、もしくは両尖七首の模造品の可能性がある。石核2点はいずれもHIの剥離技術。石鏃の目的剥片をとる石核であろう。

H6住居址 関山Ⅱ並行だが、型式名不明の土器が出土している住居。石鏃13点、石匙未製品1点(11・19)石錐3点、不明石器3点、小形尖頭器1点。

石鏃は1から13と15。15は断片だが石鏃であろう。1の石鏃は五角形鏃である。西日本に特徴的な石鏃形態である。押圧剥離は径の細いSPの可能性もある。また11

は 石鏃ではなく、摘みを欠いた両面加工の石匙である。不明石器 3 点の説明を行う。14 は硬質頁岩製の二次加工剥片で、縦長石匙の模造品の可能性がある。素材は両極剥片である。16は黒曜石の加工痕のある剥片。加工は HI である。

21は黒曜石製の石器で、加工は HI である。摘みをつくっている。

H12住居址 関山Ⅱと神ノ木式並行の土器にともなう住居址である。

石器総数は 9 点。石鏃 6 点、小形尖頭器の未製品 1 点、石錐 1 点、くぼみ石 1 点である。石鏃は H6 住居の石鏃に近似し、五角形鏃(6)がある。石錐も摘み付きであり、H6 に近い。

H14住居址 石器総数は珪岩製石鏃 2 点。1 は基部欠損。押圧剥離は SP。2 は SP で加工の石鏃。珪岩の石鏃が残っていることが特筆される。

有尾から黒浜並行の石器

H33住居址 石器総数 2 点。棒状の礫が 2 点出土している。1 が凝灰岩、2 が硬質砂岩である。

有尾から諸磯式並行の石器

H16住居址 石器総数 2 点。石鏃 1 点、くぼみ石 1 点。石鏃は珪岩製。厚みが 7 ミリに近く分厚い。おそらく素材が間接打撃の剥片であろう。

縄文中期の石器

概要

縄文中期の住居はⅢ区に集中し、その時期区分は土器型式で 3 段階に区分される。中期初頭(型式名不明)の段階、加曾利 EⅡ式・曾利 I 式の段階、加曾利 EⅣ式の段階である。このうち中期初頭の H33住居址には石器は出土していない。また加曾利 EⅡ式は H30住居址、曾利 I 式は 35 住居址、加曾利 EⅣ式が H40住居址である。

縄文中期になると打製石斧が組成するようになる。榛名平の前期と中期をわける大きな指標であろう。なお石器の出土していない住居が 2 軒ある。

加曾利 EⅡ式・曾利 I 式の石器

H30住居址 加曾利 EⅡ式の住居址。石器総数 8 点。石鏃 2 点。石鏃未製品 3 点、削器 2 点、打製石斧 1 点である。石鏃の押圧剥離はすべて WHP。6 は二次加工剥片。打製石斧と同じ石材、同じ剥離技術。正面上面に曲げの剥離で二次加工がされている。7 は二次加工剥片(削器)。石材は頁岩。H35の 13 と同一母岩の可能性もある。打製石斧は属性表を参照されたい。

H35住居址 曾利Ⅱ式の住居。石器総数 13 点。石鏃 8 点、石錐 1 点、二次加工剥片 1 点、削器 2 点、打製石斧 3 点である。石鏃は珪岩 2 点 (5・7)、残りは黒曜石 6 点である。8 は色のついた黒曜石。前期の H6 にも同じ黒曜石がある。3 の石鏃は裏面に素材の

主要剥離面を残し、間接打撃の剥片が素材ということがわかる。加工は径の細い軟質ハンマーの押圧剥離。基部は抉りを深くするために間接打撃で成形加工をしたのち、押圧剥離で整形している。石錐は素材の面を摘みに残すのが特徴である。横長剥片の側辺を刃部に設定し、石鏃と同じ剥離面で刃部を形成している。9は矩形の連続剥離された剥片を素材にして、打面と末端辺を折取り、側辺を刃部にしている。珪岩製。10は二次加工剥片であるが、右側辺に尖頭部をつくるようにHPで加工がなされている。9の石錐の変形形式の可能性が高い。11は間接打撃の石核。石鏃の素材剥片を剥離する石核で在ろう。13は削器。頁岩。打製石斧の石材と加工技術で作られている。加工はHvD/平坦である。裏面に打面を除去する加工がある。正面右側辺に顕著な不規則剥離（使用痕であろう）がみられる。打製石斧3点は属性表を参照されたい。

石器の出土していない住居

H41住居址……中期初頭

H40住居址……加曾利EIV式

時期不明の縄文住居の石器

概要

時期が明らかでない住居は5軒ある。そのうち2軒は前期、残りの3軒は中期に帰属すると思われる。以下に石器の説明を行う。

H9住居址 石鏃1点、剥片1点。石皿片1点。石鏃は関山Ⅱ式にともなう黒曜石の石鏃。剥片は珪岩製で間接打撃の剥片。石皿は小形の搔き出し口のあるもの。石鏃からみると関山Ⅱ並行に相当する。

H27住居址 くぼみ石1点出土。前期の可能性がある。

H34住居址 磨石が1点出土している。中期の可能性がある。

H36住居址 Ⅲ区の遺構。石鏃1点が出土している。黒曜石製。径の細い軟質ハンマーの押圧剥離で整形している。これまでの所見から加曾利EⅡの石鏃に該当する可能性が高い。

H38住居址 打製石斧が1点出土している。側辺の加工はHD。縄文中期。

縄文時代の土坑の石器

土坑の石器の概要

縄文時代の土坑の石器は13点出土している。このうち、2点が磨石、1点が磨製石斧の基部断片である。残りの10点が剥片石器となっている。土坑の石器組成と数量は、器種が2種類以上で石器も2点以上の土坑と、1点1器種の土坑のがある。前者はD39(Ⅲ区)とD17(I区)で、後者はD2、D15、D1で、すべてI区の土坑である。

I区の土坑内の石器は石鏃4点、石錐2点、石器未製品1点、石匙1点、磨製石斧1点である。

Ⅲ区の土坑

D39土坑の石器 D39は磨石2点、間接打撃の粗製石匙1点、石鏃未製品1点である。Ⅲ区という地区割りと磨石類の出土は他の土坑とは異質である。剥片石器2点は黒曜石である。2は分厚い剥片にHIで加工をしている。横形石匙の未製品の可能性がある。また3は石鏃の押圧剥離で加工されている。石鏃の押圧剥離は幅が広く、榛名平遺跡の縄文中期の剥離面である。この土坑はおそらく縄文中中期に帰属する。

I区の土坑

概要

I区の土坑内の石器は石鏃4点、石錐2点、石器未製品1点、石匙1点、磨製石斧1点である。

D2土坑の石器 石鏃1点の出土である。黒曜石製。

D1土坑の石器 磨製石斧の基部が1点の出土である。敲打痕のない磨製石斧で、東北地方の技法の磨製石斧である。縄文前期に相当すると推定できる。

D17土坑の石器 石鏃3点、二次加工剥片1点、石錐1点、石匙1点である。石鏃の1は頁岩製で、これは諸磯式土器にともなうH16の珪岩製石鏃とつくりが同じである。石匙は関山Ⅱ式にともなうものでなく、経験的には諸磯式土器にともなう石匙である。よってこの土坑は諸磯式土器にともなう土坑と推定できる。

④遺構外の石器

石鏃

分析にもちいたものは395点で図示したものは132点である。

石鏃は、基部形態から凹基鏃が主体をしめ、わずかに円基鏃、有茎鏃がある。剥離技術はソフトハンマーの固定具を用いた押圧剥離(SMP)で加工されるものが主体で、一部ハードハンマーの押圧剥離(HMP)が存在する。剥離技術と基部形態の相関関係を見てみると、凹基鏃のものは、大半がSMPで加工され、有茎鏃はHMPで加工される。石材は黒曜石が主体をしめ、次いでチャートが用いられる。時期の判明している住居跡出土資料を見てみると、縄文時代前期の住居跡出土石鏃のほとんどのものが凹基鏃でSMPで加工されている。また、弥生時代後期の住居跡出土石鏃をみてみると有茎鏃が入り、HMPで加工されている。このことから、榛名平遺跡の縄文時代前期の石鏃は、形態的に凹基で二次加工ではSMPが採用され、弥生時代の石鏃は、有茎鏃でHMPが用いられるという特徴が指摘できる。

小形両面加工石器 (図 2・32~120、図 4・125,140,141)

この石器の特徴をあげると、長・幅の大きさは、石鏃とほぼ同じくらいであるが、厚みがありごろっとしたものが主体的で、石鏃のように左右対称形ではないものがおおく、底辺に石鏃様の挟りがない。形態的には、石鏃様の三角形にちかいものから楕円形まで多様である。また、石器の一辺以上に微細剥離痕(MF)が観察されるものがある。二次加工は表裏両面に施され、SMPが主体で、わずかにハードハンマーによる加工(HMP、HHPなど)がみられる。石材は、黒曜石が主体で、わずかにチャートが用いられる。

削器 (図 4・121~124,126~139、図 5・42~173、図14・320)

小形のものから長さ10cm程度のものである。素材剥片の一側辺に片面加工の押圧剥離を施し、刃部とする石器である。二次加工はSMPが採用され、わずかにハードハンマーの押圧剥離(HMP、HHPなど)がみられる。石材は、小形のものについては黒曜石が主体で中形のものになるとホルンフェルス、安山岩、頁岩などが用いられる。

石錐 (図 8・174~231)

長さ16~30mm程度で棒状の小形のものから、両端部が尖って、紡錘形になるもの、やや大形で刃部のみを作出し、上部は素材部を多く残り摘み部をもつものがある。二次加工は、ハードハンマー(HMPとHHP)があり、同じぐらいの割合でソフトハンマー(SMP)が存在する。

石材は、黒曜石が主体で次いでチャートが用いられ、わずかに頁岩が混じる。

石匙 (図 9・232~305)

石鏃、小形両面加工石器に次いで、量的にまとまって出土している石器である。形態では、摘みの位置により横形と縦形に分類できる。その分類法は、摘みの位置が石器のどの辺に作出されるかに着目し、縦形か横形かを区別する。摘み部を除いた石器の長軸あるいは対称軸を設定し、その軸に対して摘みがどの辺に作出されるかを検討する。

横形石匙は、軸に対して平行する辺に摘み部が作出される。

縦形石匙は、軸に対して直交あるいは45度以内に斜交する辺の範囲内に摘み部が作出される。

榛名平遺跡では、横形石匙が主体を占める。剥離技術と横・縦形との相関関係を見てみると、横形、縦形ともにソフトハンマーの押圧剥離が比較的多く採用されているので、石匙については剥離技術と摘み部の位置に有意な相関がないようである。

また、縦形、横形ともに長さ15mm程度で幅が25mm程度のミニチュアと呼んでもいいような非常に小形の石匙がみられる。それらは、摘み部をしっかりと作出し全体の形も大きい石匙の縮小コピーといって良いものである。こういうミニチュア石器の存在は注目してよいと思われる。

さらに、石材についても他の小形石器類とは違う特徴がみられる。その特徴は、頁岩への選択性が強く、次いで黒曜石とチャートが用いられる。チャートの中でも赤チャート製の石匙が混じる

ことについては、注目される。

搔器 (図14・306～319)

小形のものが多く、長さ、幅とも3cm程度の大きさの石器である。刃部は、主要剥離面側から剥離がなされる傾向があり、刃角が急角度に整形されるのが特徴である。二次加工は大半のものがソフトハンマー(SMP、SHP)である。

石筥 (図14・323)

本調査では、1点だけであるが注目される石器である。1/2破損しているが、剥離技術はHDで成形され、HIも採用されている可能性がある。石材は、頁岩である。このような石筥は東北地方のものによく似ており、榛名平遺跡の石器群のなかでは、異質な存在である。

異形石器 (図14・321、322)

非常に小形の石器で、長さが3cm未満である。2点だけの出土であるが、321は、両側に抉りを入れ、上下端部にも浅い抉りを入れる。322は、両側に抉りを入れただけで、残りは素材部分を残す。二次加工は、ともにSMPで、石材は黒曜石である。

二次加工剥片 (図15～19・323～433)

剥片素材になんらかの二次加工が認められる石器である。それらは、石鏃、両面加工石器、削器などの未成品あるいは、破損品である。石材の傾向も一致し、黒曜石とチャートである。

使用痕剥片 (図20・434～470)

剥片の縁辺に微細剥離痕(MF)がみられる石器である。素材は、大半が縦長剥片でHDで剥離されている。

ピエスエスキュー (図21・471～478)

HDの垂直打撃によって剥離された両極剥片である。小形の二次加工剥片にもみられる素材で、石鏃、小形両面加工石器などの素材と考えられる。

打製石斧 (図22～42・479～655)

本遺跡の中で、もっとも多く出土しており遺跡を特徴づける石器である。形態からおおよそ短冊形、バチ形、屈曲形、抉入形、分銅形、鈍形、扇形の6つに分類できる。大きさは、長さ5cm程度のものから17cm程度の大形のものまでである。石材は、ホルンフェルスが大半を占め、次いで頁岩系の石材が用いられる。

打製石斧分類について

短冊形：両側辺がほぼ平行で、長方形を呈するもの。

バチ形：下端部の刃部に向けて、両側が開いていくもの、バチの形状を呈するもの。

屈曲形：どちらかの側辺がもう一方の辺によりかかるような形のもので、刃部が偏刃になるもの。全体形が非対称形でいびつである。

抉入形：どちらかの側辺に抉りが入るもの。

分銅形：両側辺に抉りが入り、分銅の形状を呈するもの。

鉞形：一側辺に加工が顕著に施され、反対側の側辺は刃潰し加工あるいは、自然面を残す。

扇形：基部が短く、刃部が扇のように丸く広い形状のもの。

打製石斧については、以下の考察でさらに詳しく述べることとする。

礫器 (図42・657～661)

河原礫を素材とし、一端部にHDで刃部を作出するものである。長楕円礫の短辺に刃部を作出するタイプ(657～658)と厚みのあるごろっとした礫を素材として、刃幅が長く成形されるタイプ(659～661)がある。

磨製石斧 (図43・662～682)

大半が破損品で、完形品はわずかに1点である(662)。形態的に、4面を丁寧に研磨し、各面の稜線が明瞭な定角石斧、断面形が楕円形で乳棒状を呈するものと断面形が比較的偏平な長楕円形になるものがある。石材は、緑色岩が用いられ、蛇紋岩製のものが若干存在する。蛇紋岩製のものは、非常によく使用され刃部の減り具合、摩耗状況が激しい。

また、磨製石斧の破断面を利用して、敲石として転用しているものがある(679,681,682)。

磨石・敲石類 (図45・693、図47～52・705～754)

スリ面をもつ石器を磨石とした。小形の円礫を利用したものから長楕円礫を利用したものまで多様である。磨石だけのものは、量的に少なく、主体を占めるのは敲石と敲石+磨石と表現される、一つの石器にスリ面と敲打痕などの複数の使用痕が複合する石器である。

敲石は、長楕円礫の端部に敲打痕をもつもの、平らな表裏面に敲打痕をもつものと周縁部に敲打痕をもつものがある。黒曜石の小形の敲石(714)は、注目される。

敲石+磨石は、敲打痕とスリ面が複合する石器で、敲石と磨石の機能をあわせもつ石器である。

スリ面は、表裏の広い面に形成され、敲打は、両端部あるいは側縁に形成される敲打痕と表裏に凹みを形成する敲打痕の2種類がある。この表裏に形成される敲打痕は、2対形成されているものが目立つ。

石皿・台石・多孔石類 (図53～55・755～768)

石皿は、縁をもちスリ面がゆるやかにすりくぼみ一端に掃出し口を設けるものと、偏平な板状礫を用い、スリ面が平坦になるものの2種類がある。中でも装飾石皿(758)は、注目される。石材は、安山岩と凝灰岩が用いられる。

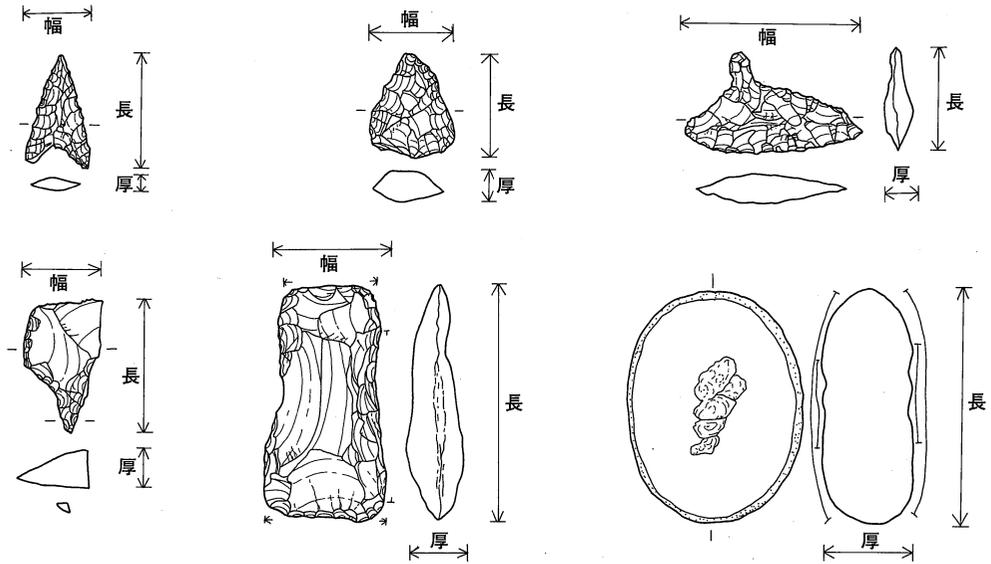
台石(755)は、楕円礫の表面にわずかに敲打痕をもつものである。

多孔石(763)は、大形の礫の表裏にランダムに径が1cm程度で深さ1cm～1.5cm程度の孔が多数あけられた石器である。1点のみの出土である。孔どうしの間の平坦面は、スリ面のようであ

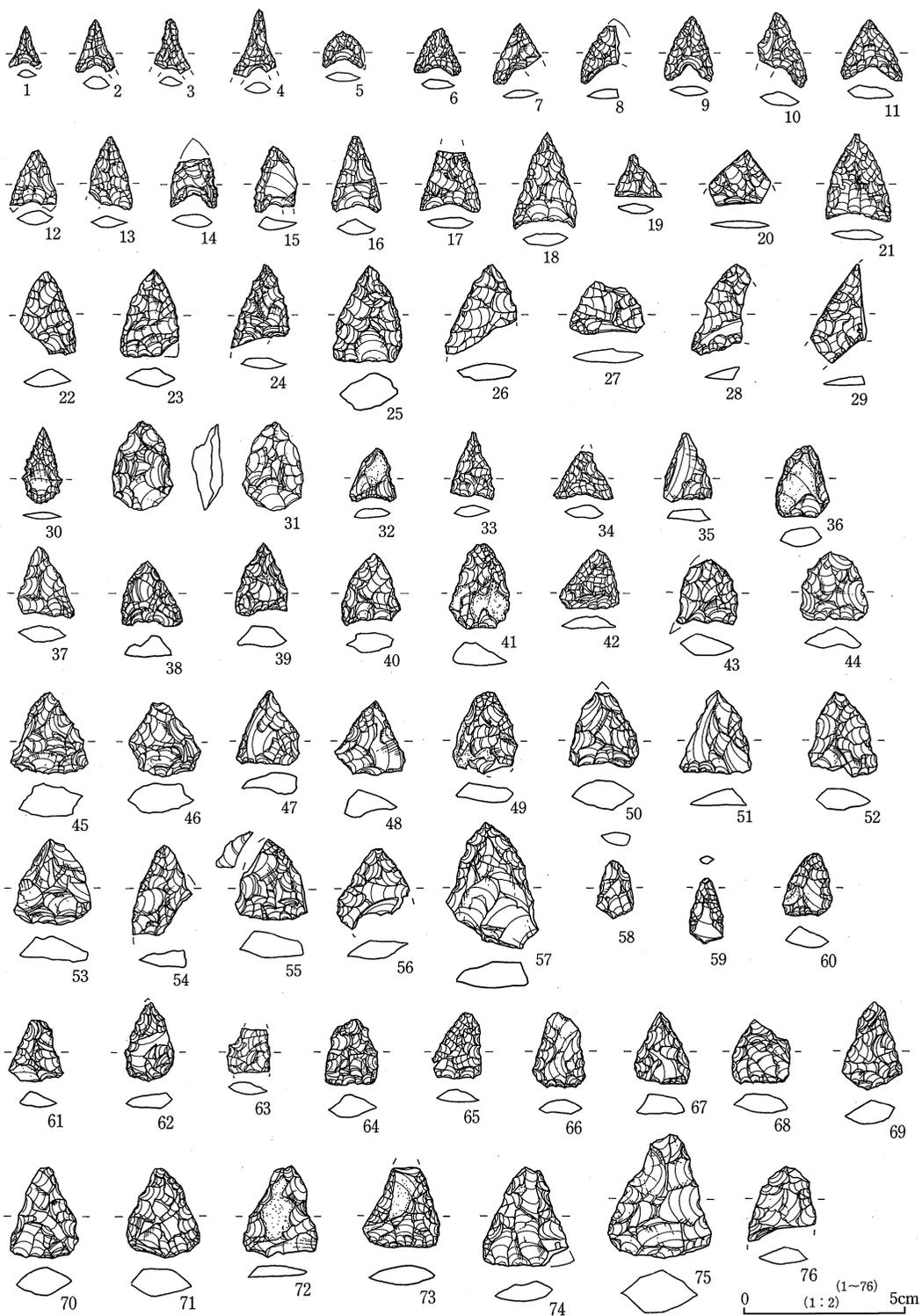
る。孔が加工されたあとにそのスリ面が形成されているようである。孔の多数あいた面上で何かしらの磨る行為がなされた結果であろう。

摩耗礫・自然礫類 (図45・683~692)

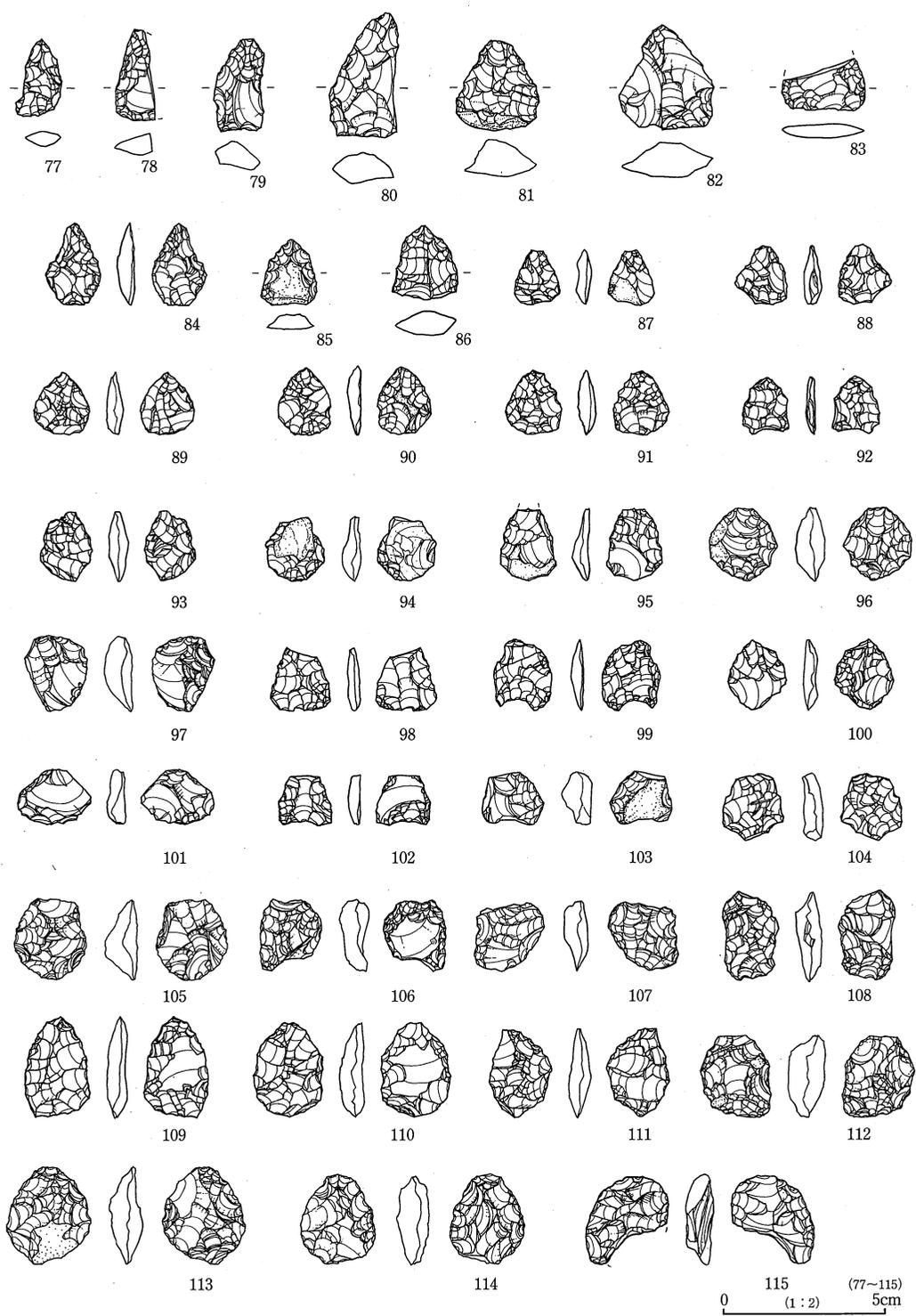
摩耗礫としたものは、長楕円礫のものが大半で、全面あるいは一部に摩耗がみられるものである。また、自然礫として図示したのも、何らかの意図で遺跡内に持ち込まれた河原礫で長楕円のもの大半である。可能性として考えられるのは、石錘である。



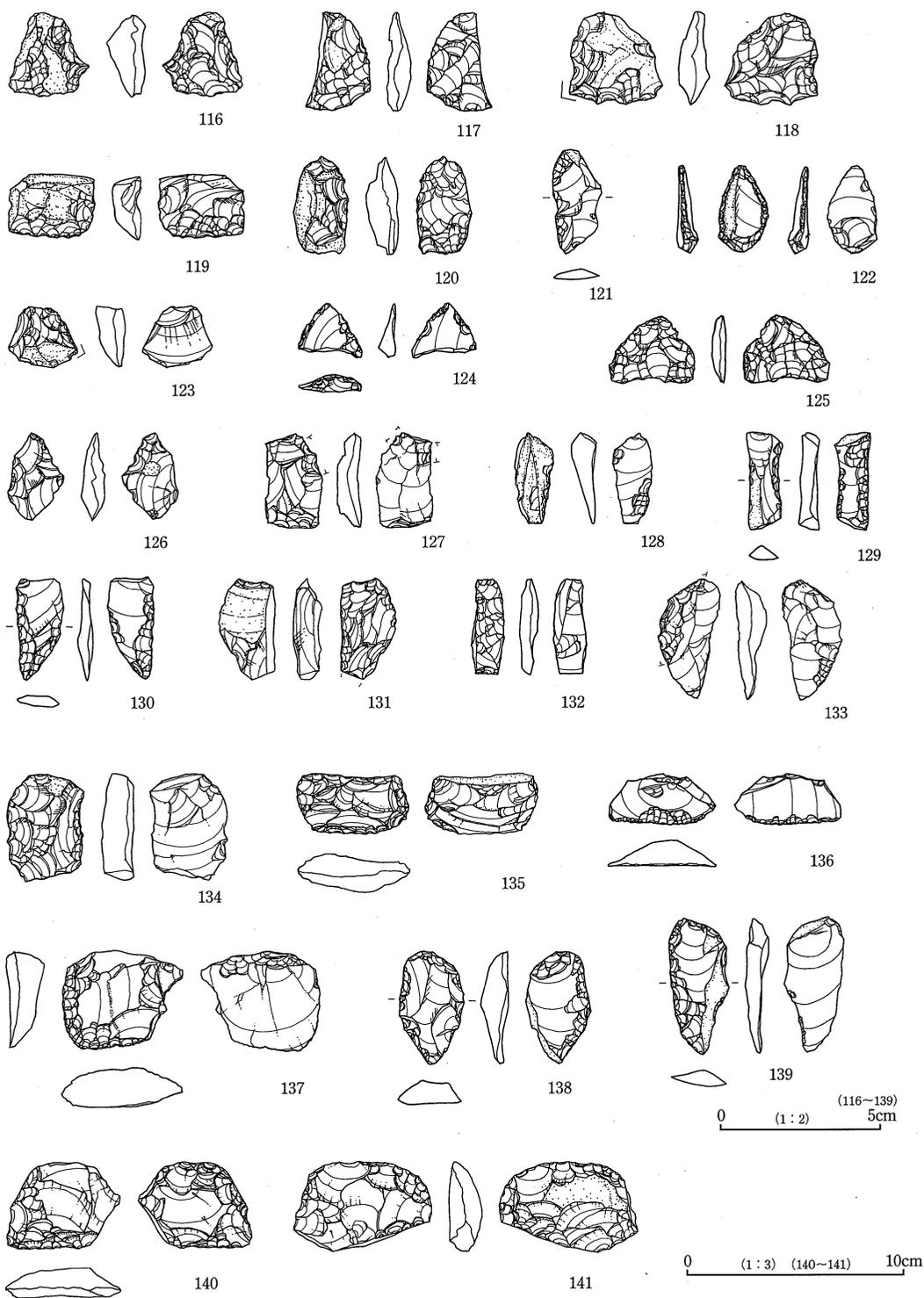
第92図 石器凡例図



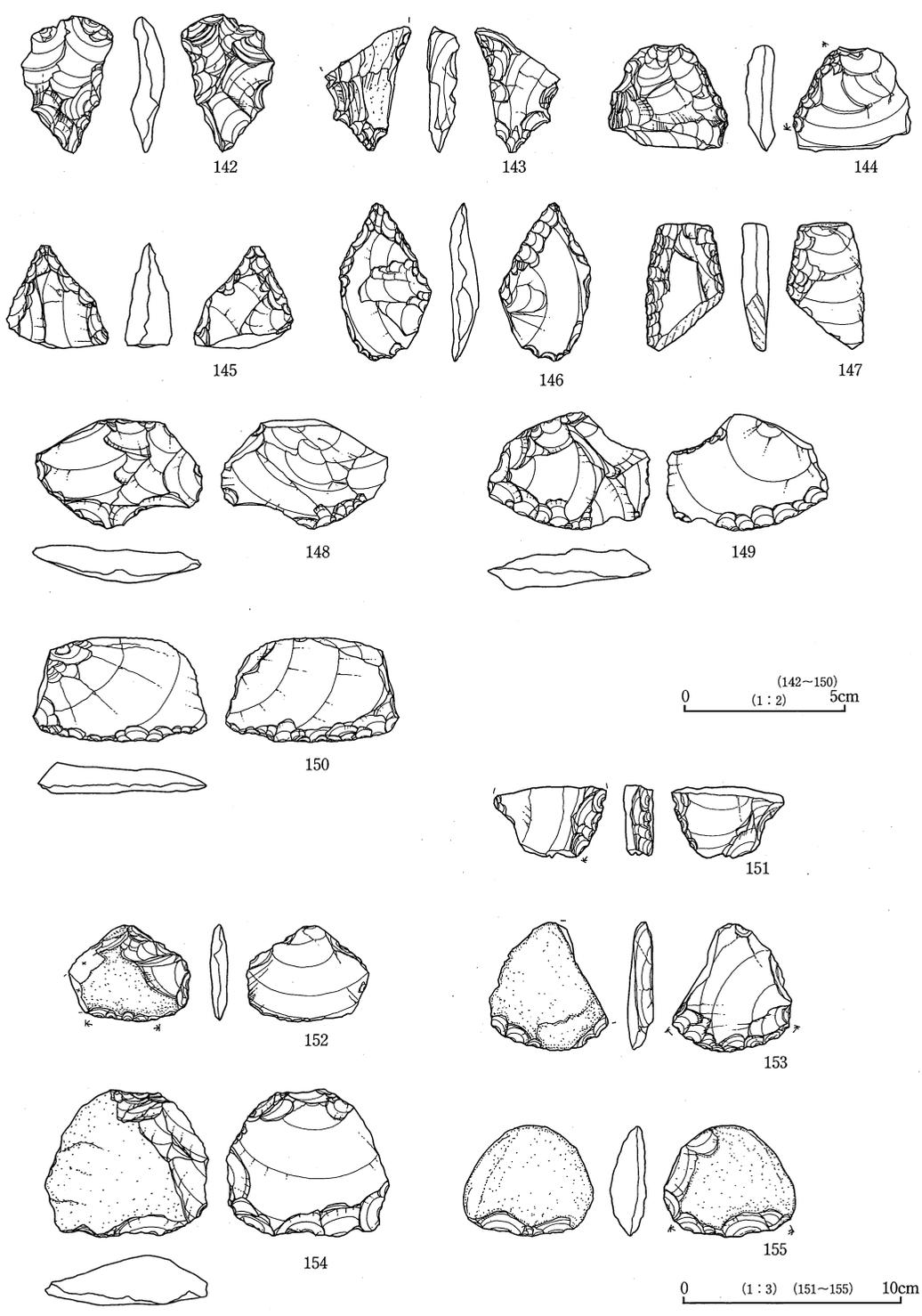
第93図 遺構外出土石器①



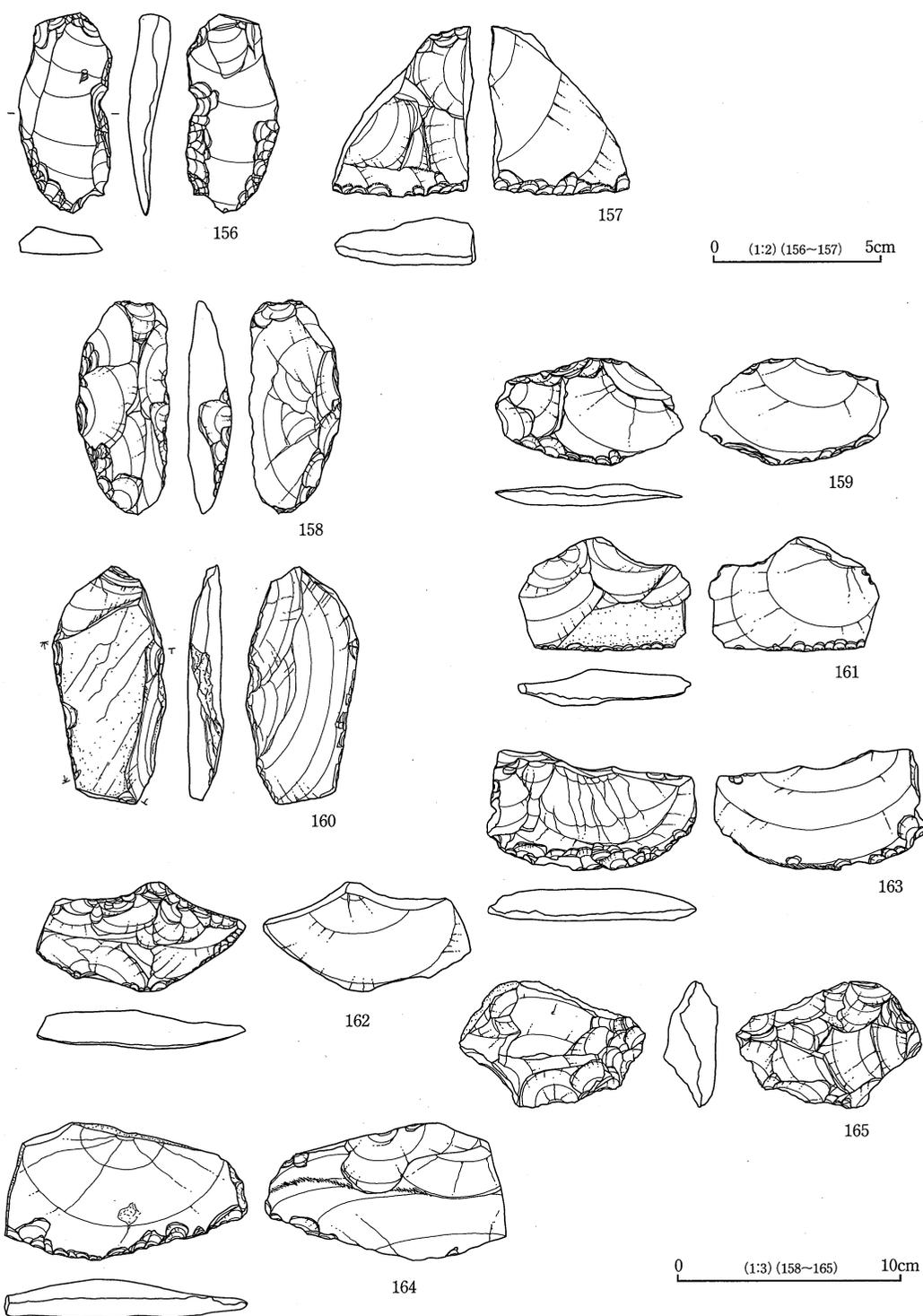
第94図 遺構外出土石器②



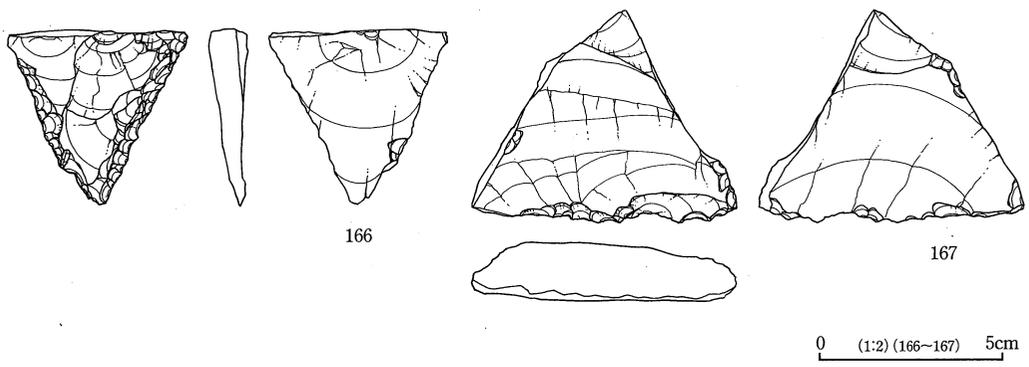
第95图 遺構外出土石器③



第96図 遺構外出土石器④



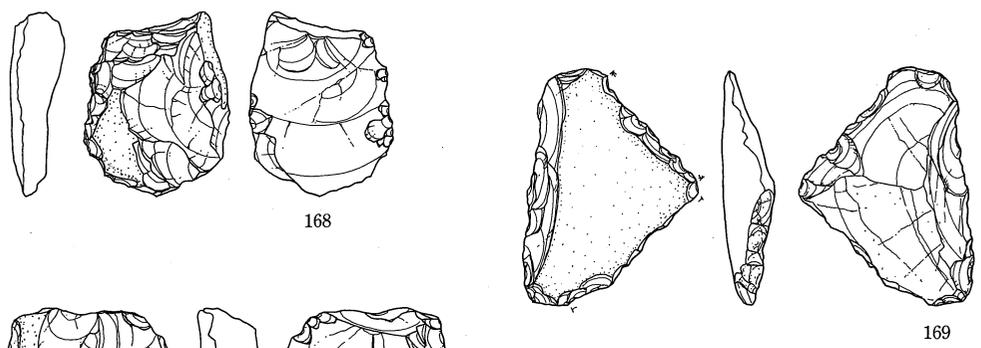
第97図 遺構外出土石器⑤



166

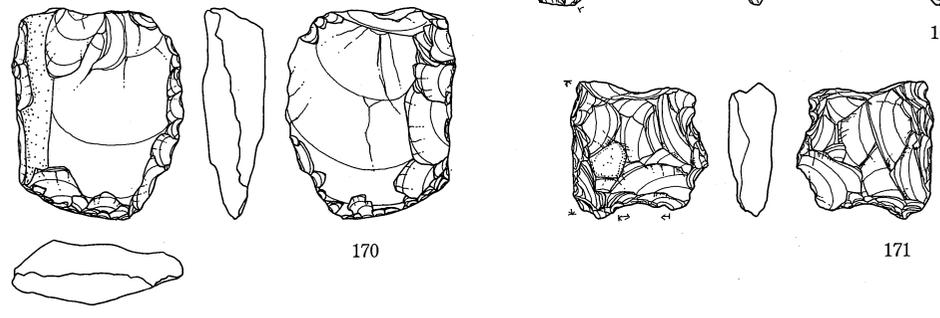
167

0 (1:2) (166-167) 5cm



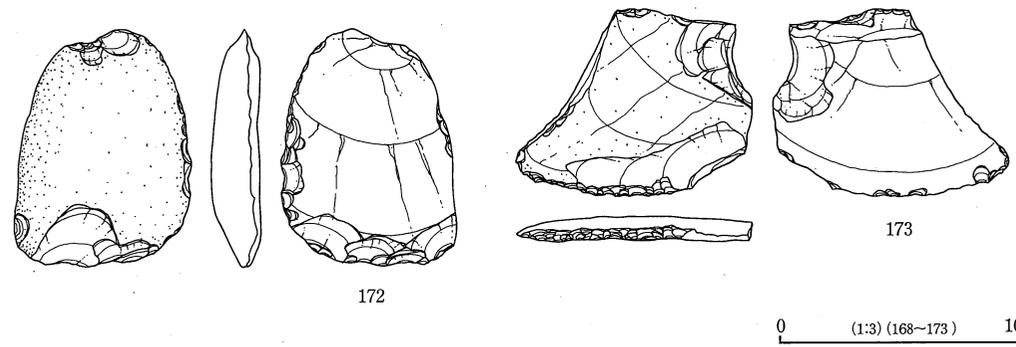
168

169



170

171

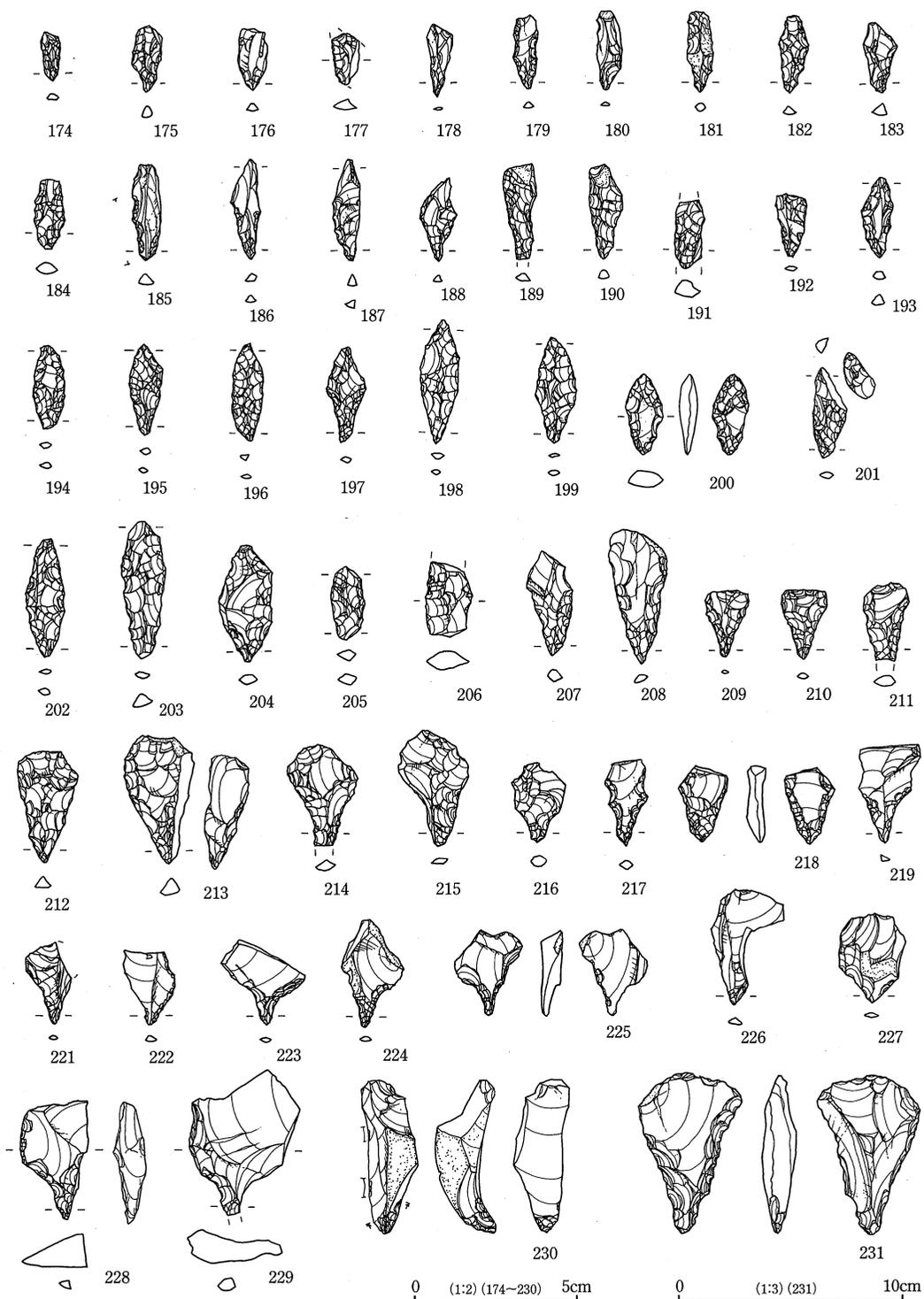


172

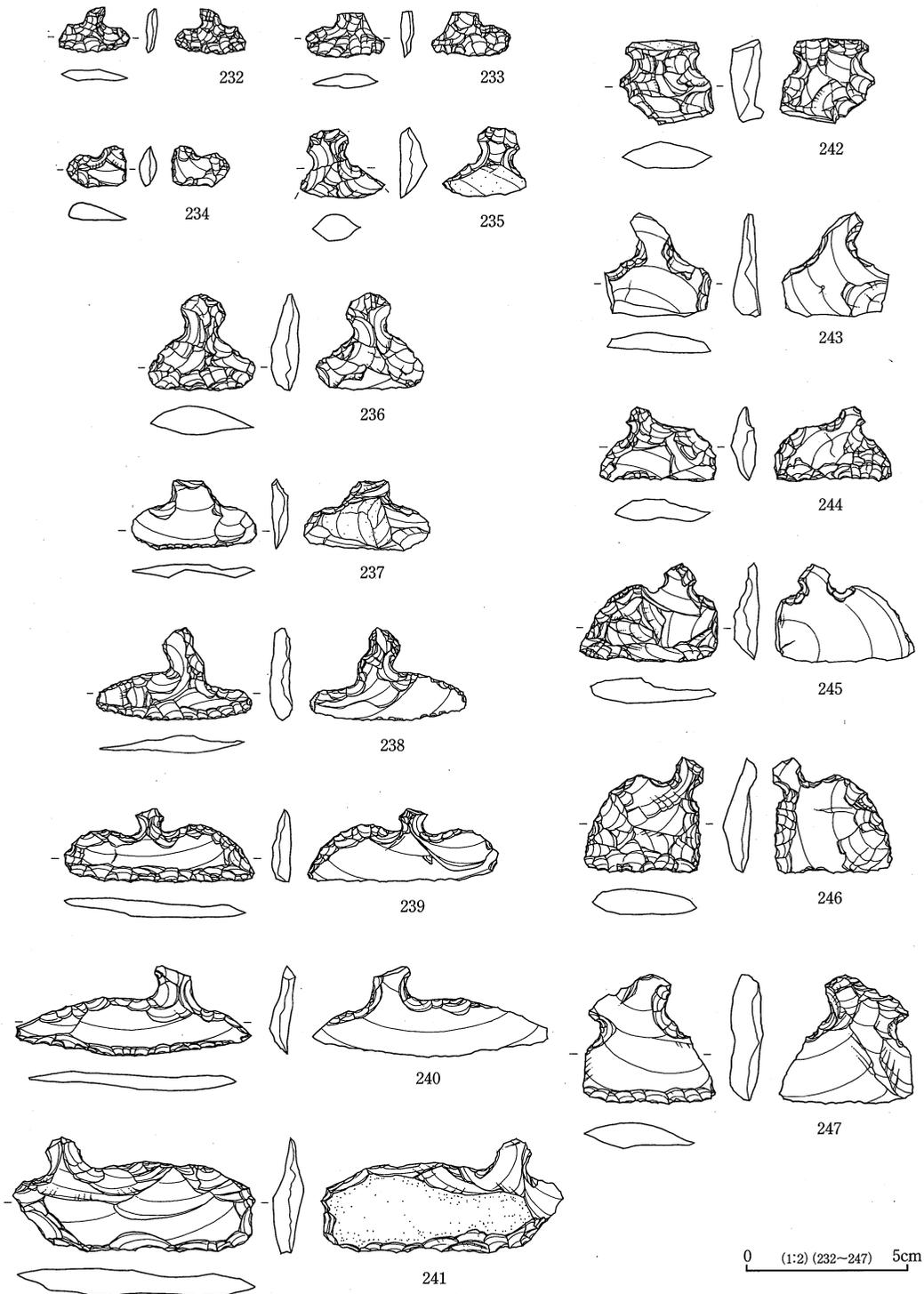
173

0 (1:3) (168-173) 10cm

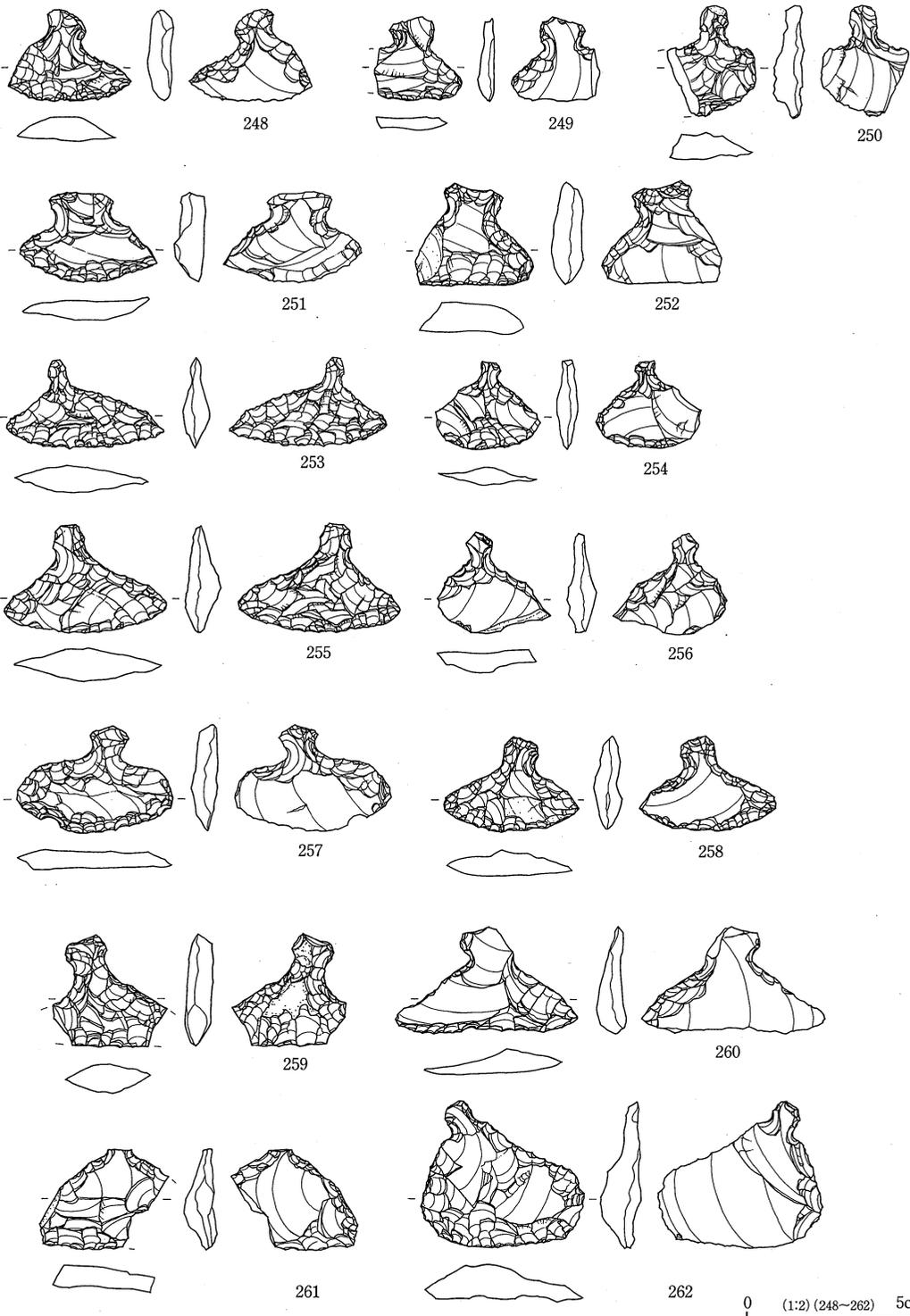
第98図 遺構外出土石器⑥



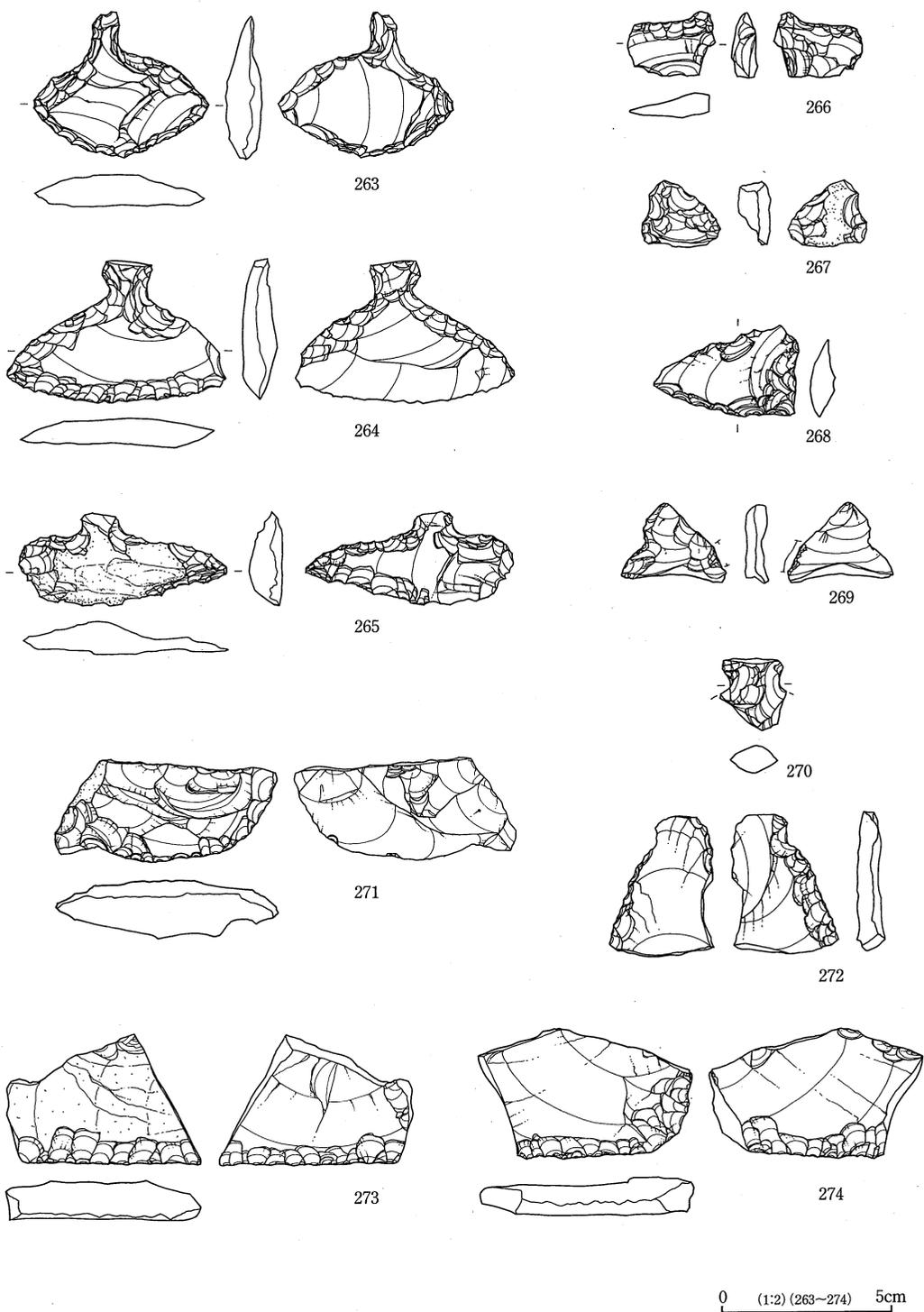
第99図 遺構外出土石器⑦



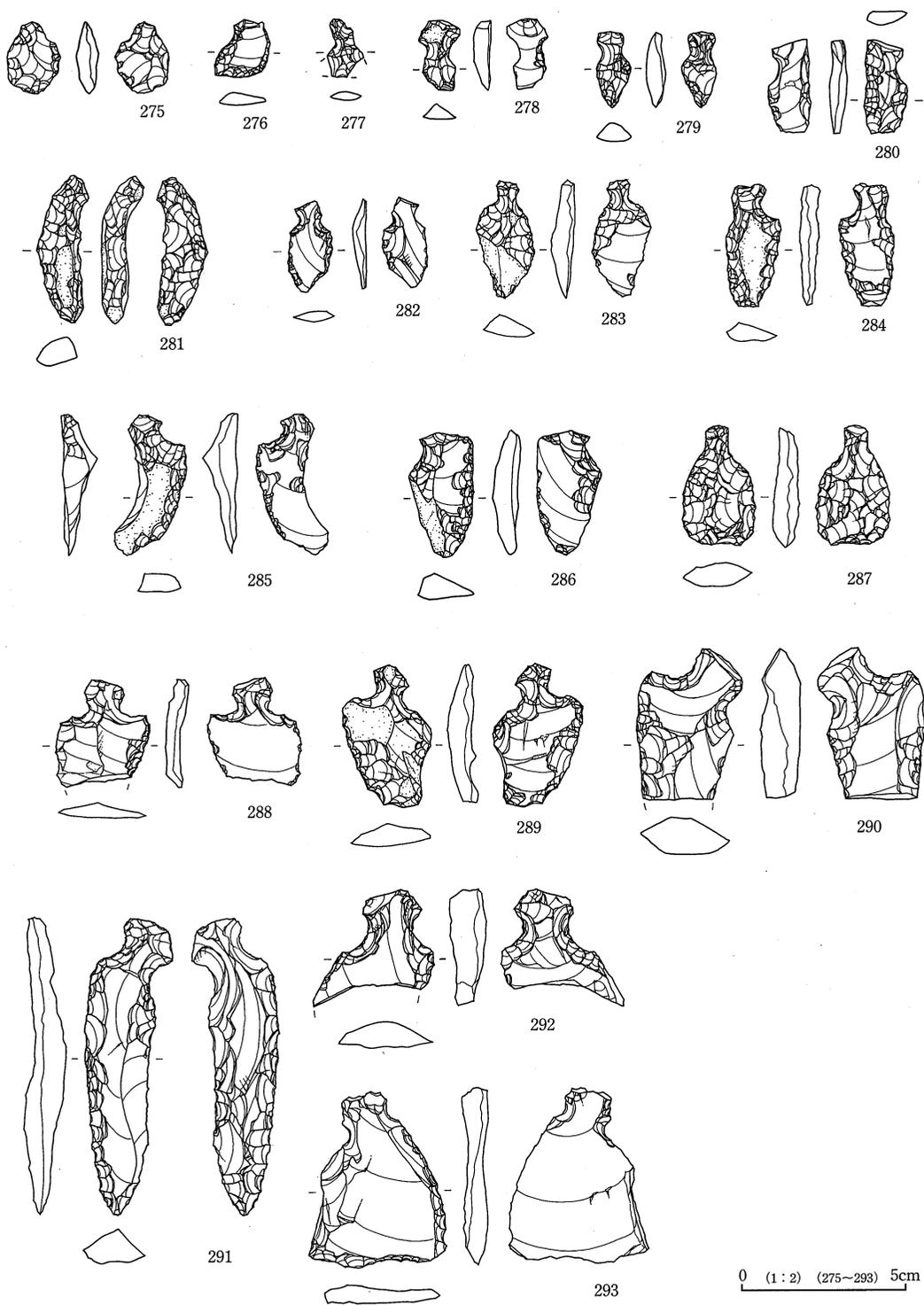
第100图 遺構外出土石器⑧



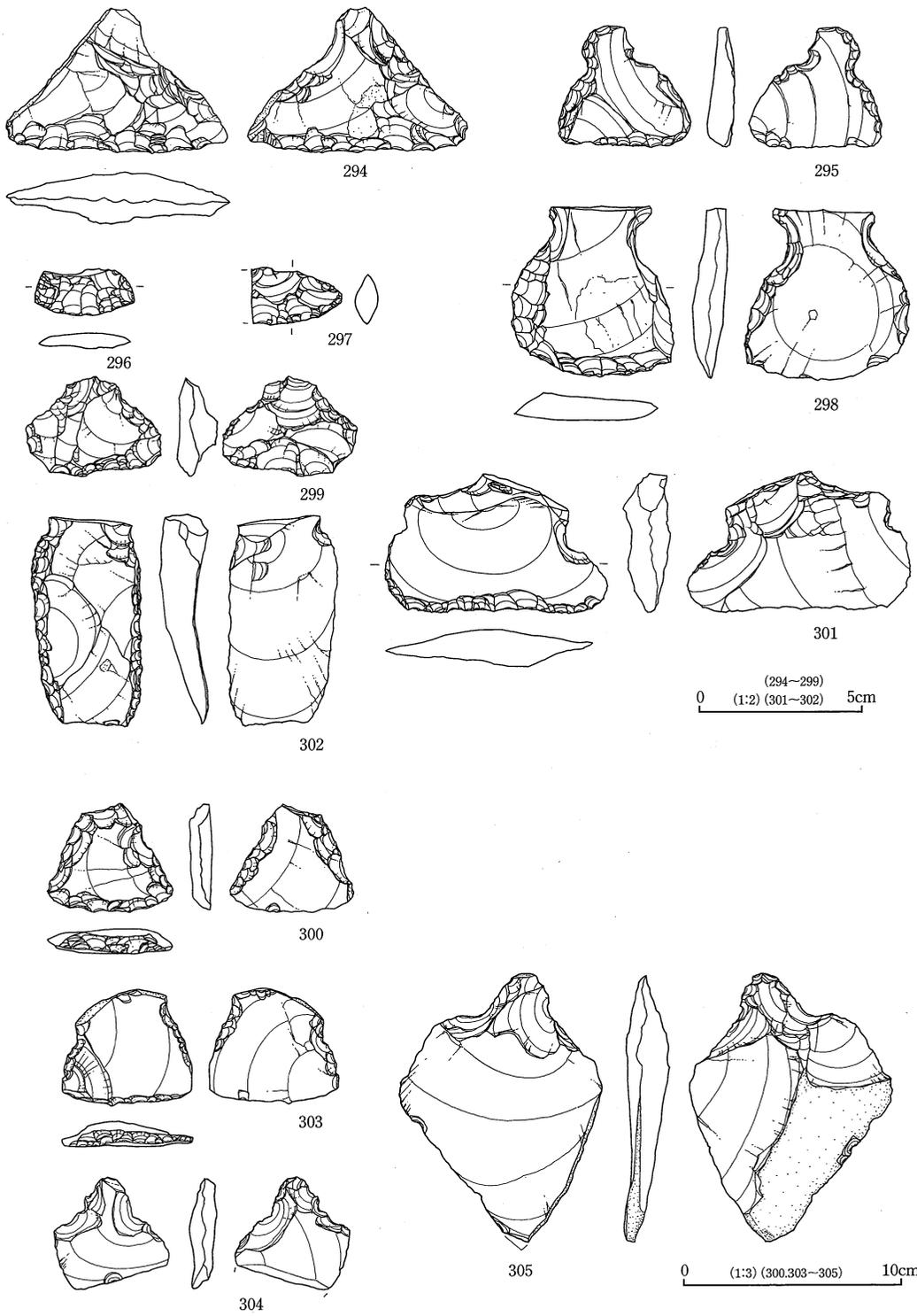
第101图 遺構外出土石器⑨



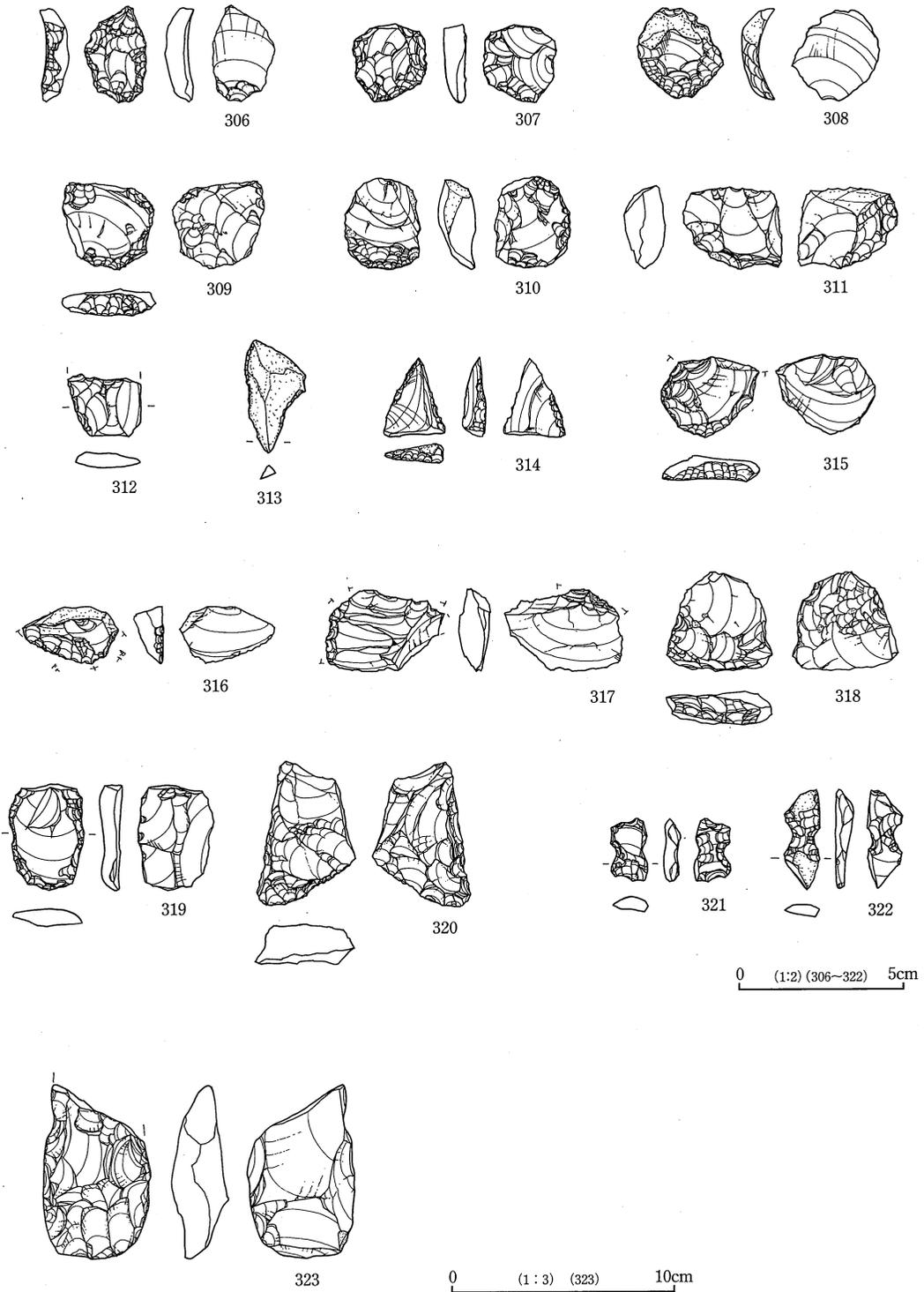
第102图 遺構外出土石器⑩



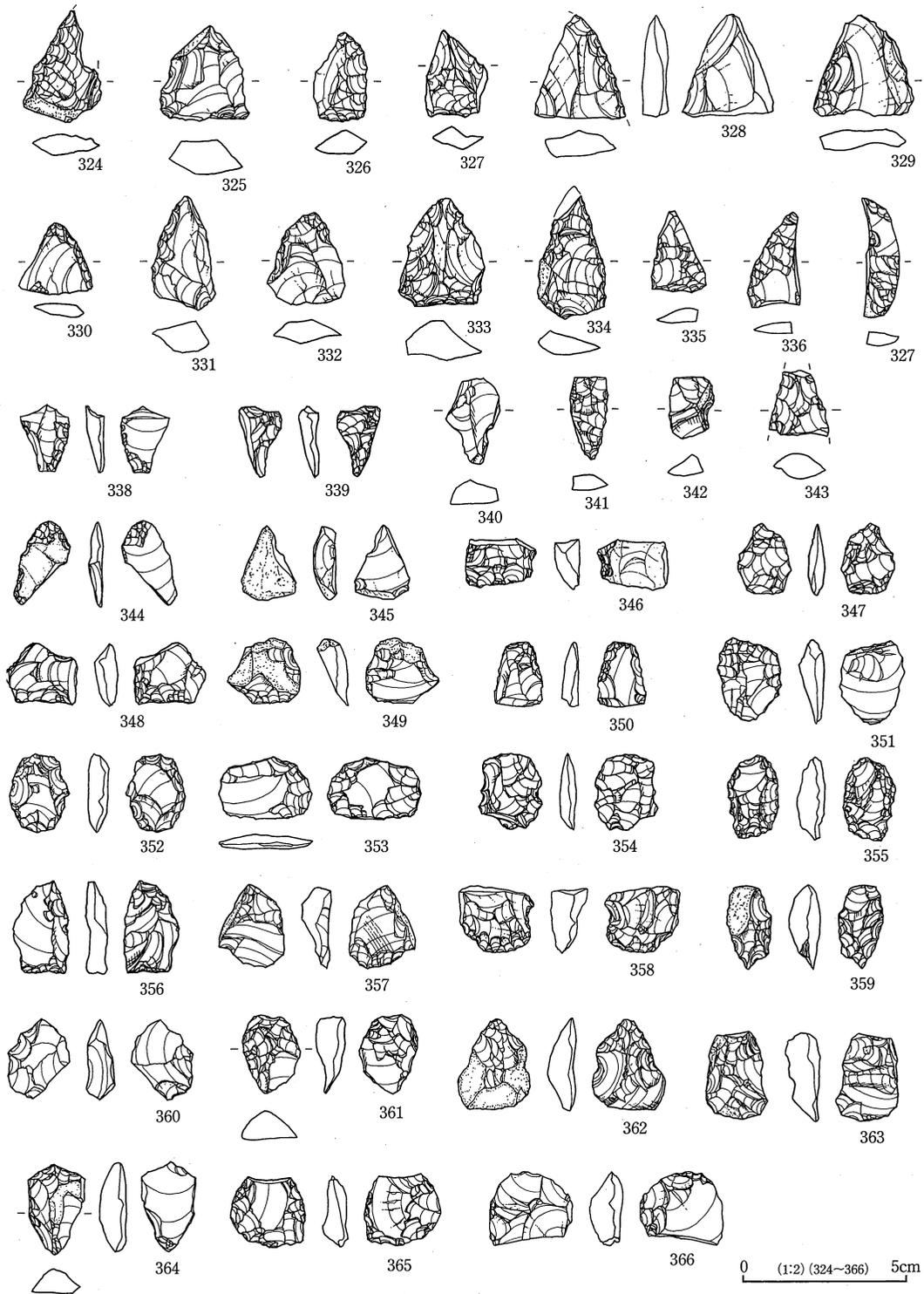
第103图 遺構外出土石器①



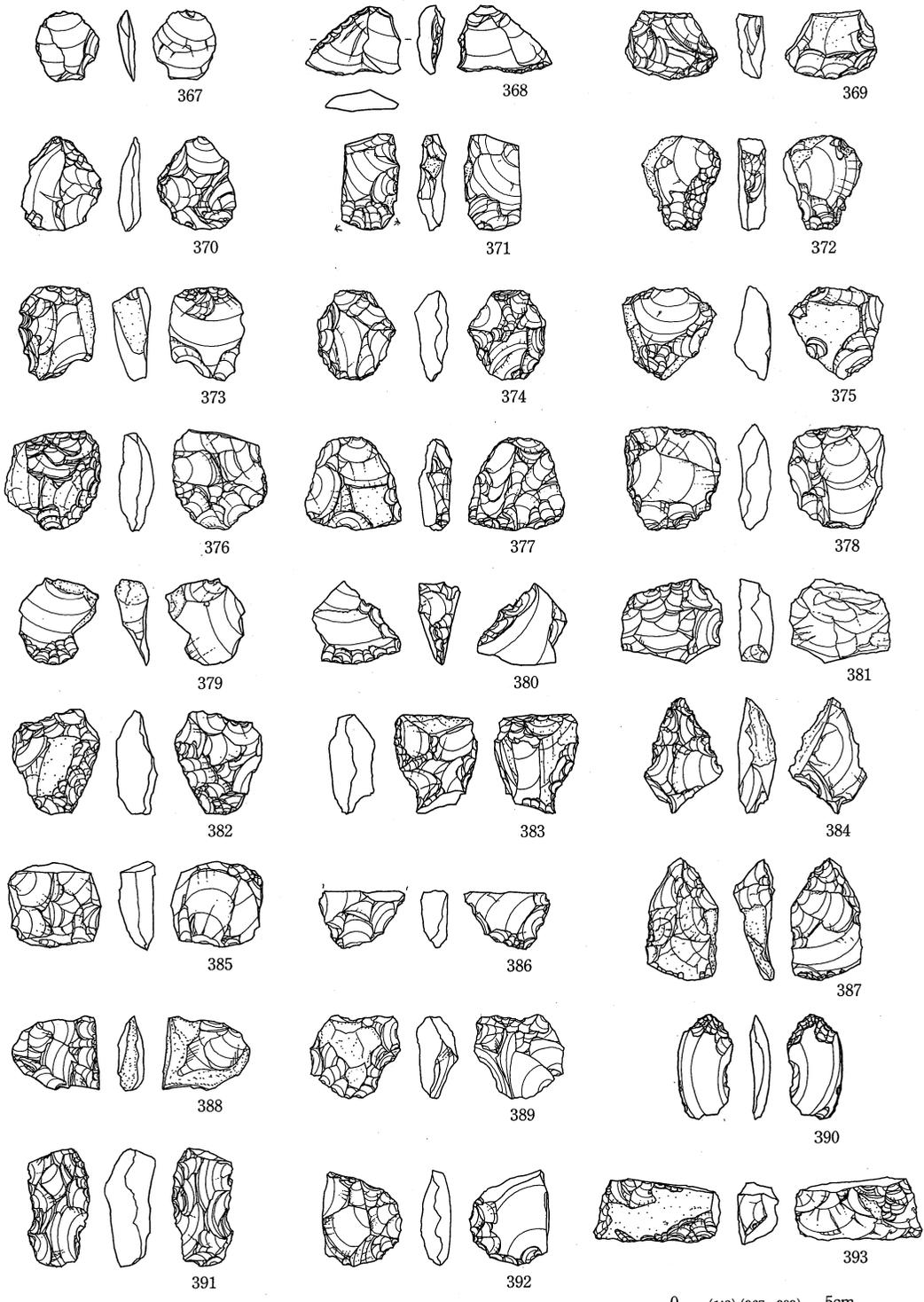
第104図 遺構外出土石器⑫



第105図 遺構外出土石器⑬

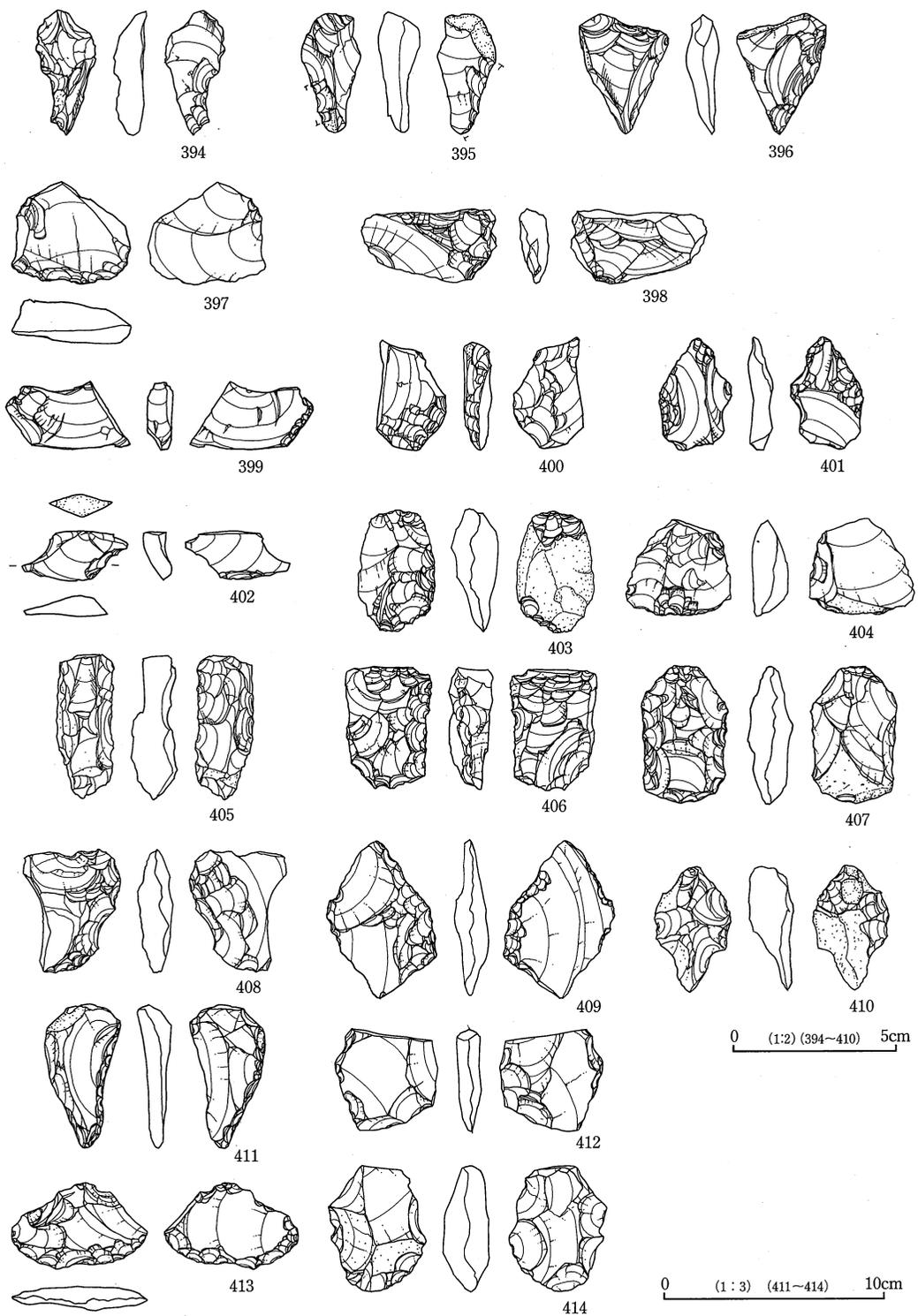


第106图 遺構外出土石器④

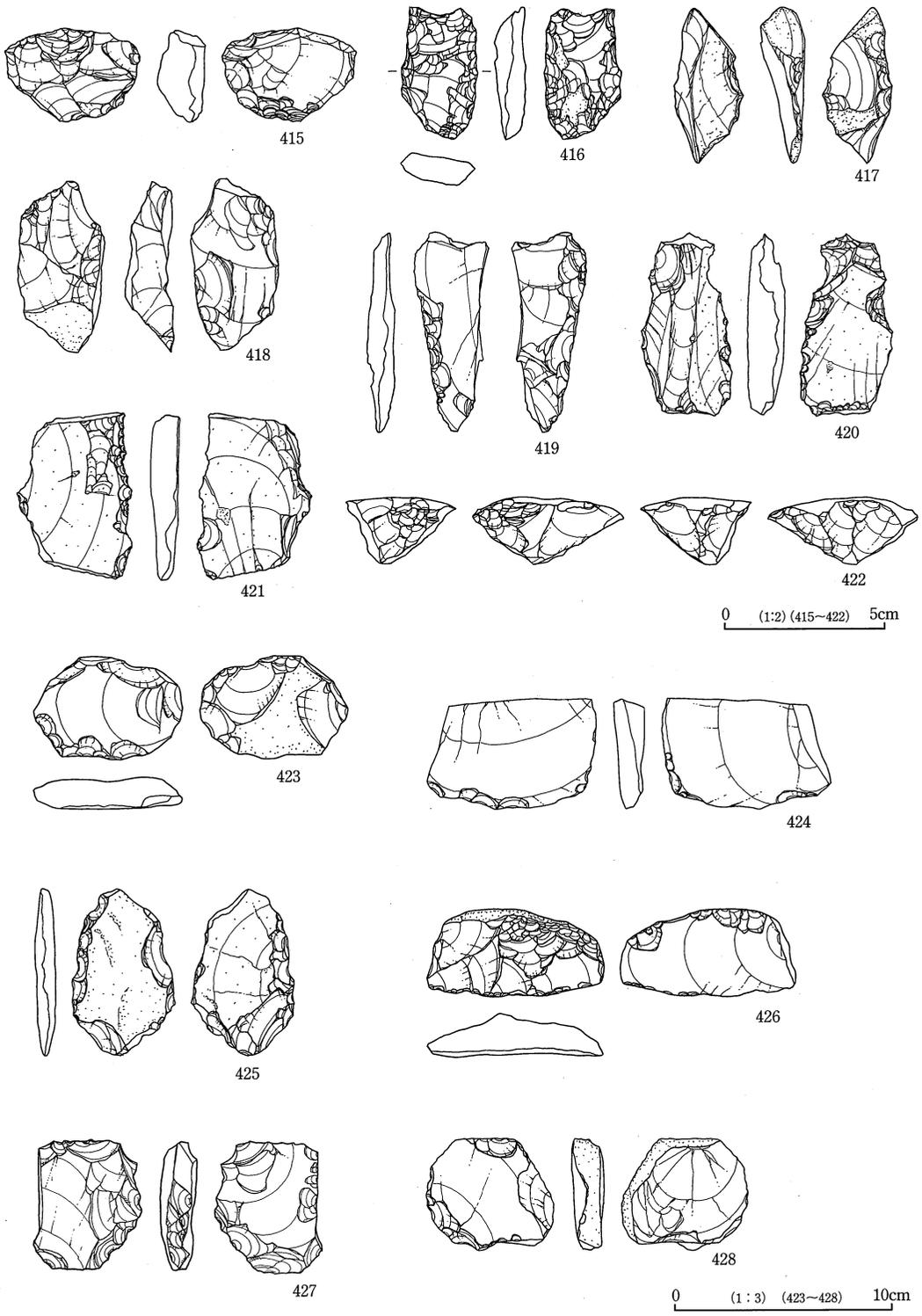


0 (1:2) (367-393) 5cm

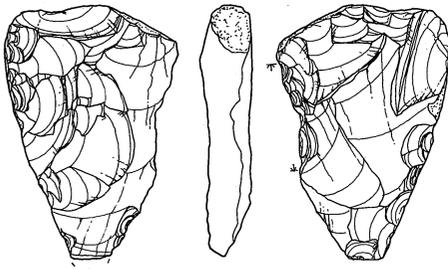
第107图 遺構外出土石器⑮



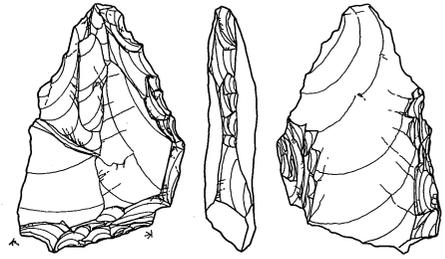
第108图 遺構外出土石器⑬



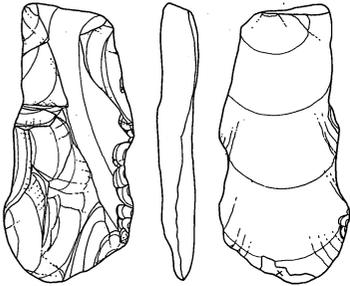
第109図 遺構外出土石器⑰



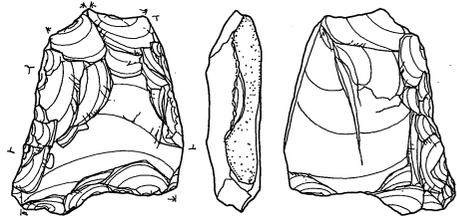
429



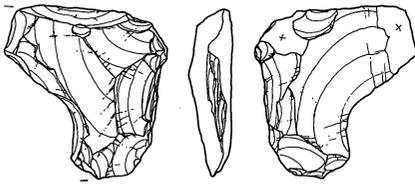
430



431



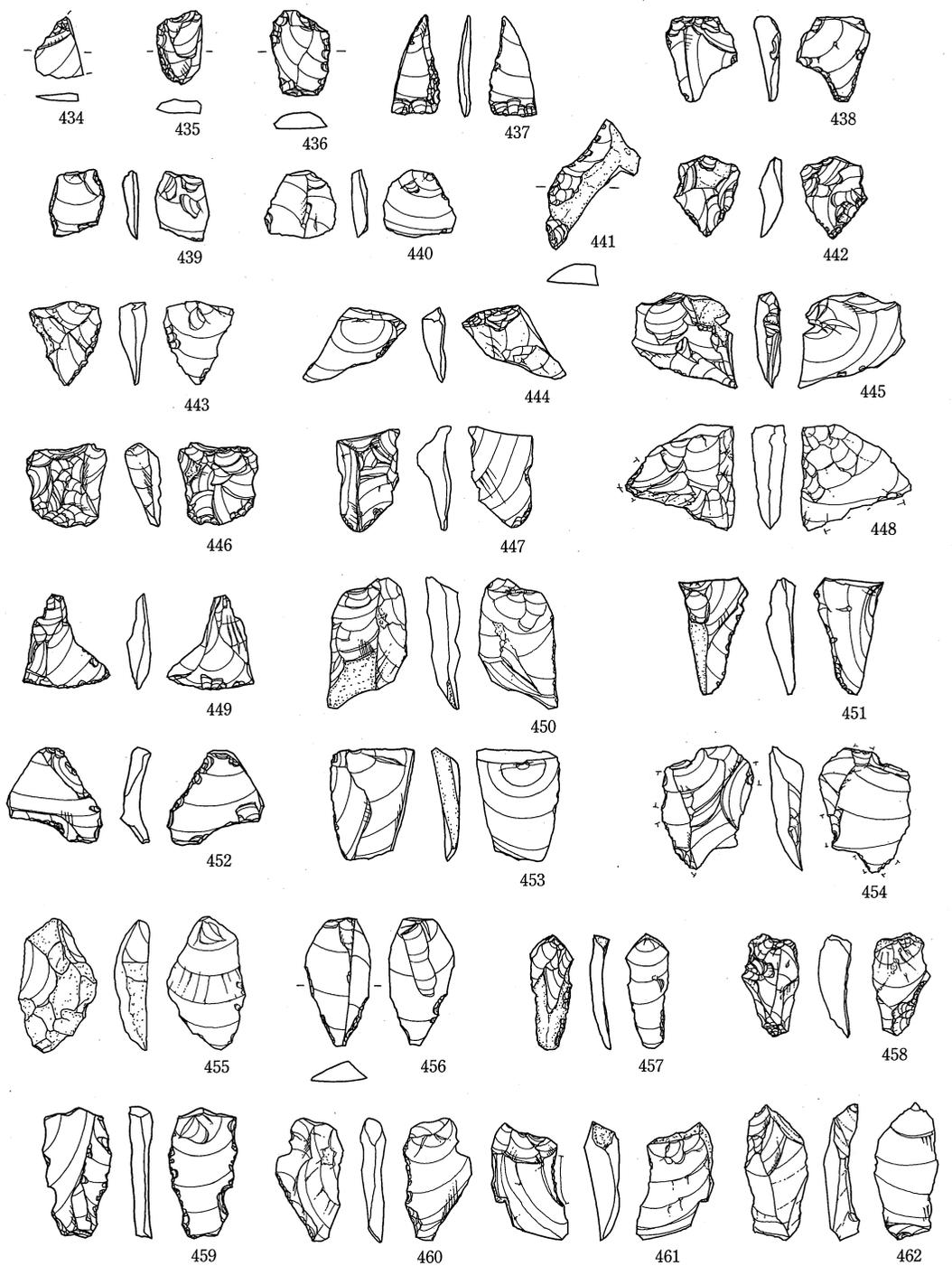
432



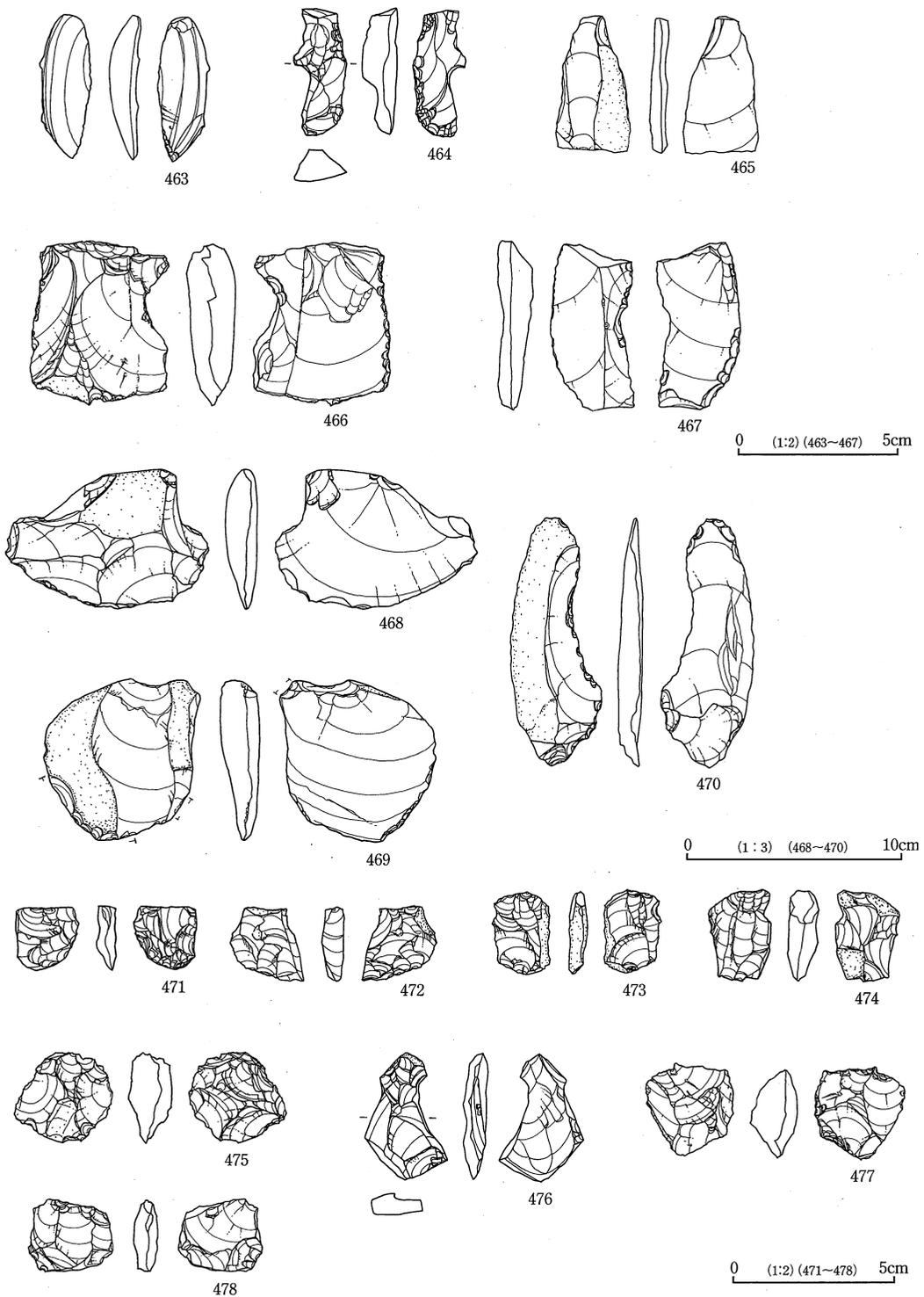
433

0 (1:3) (429~433) 10cm

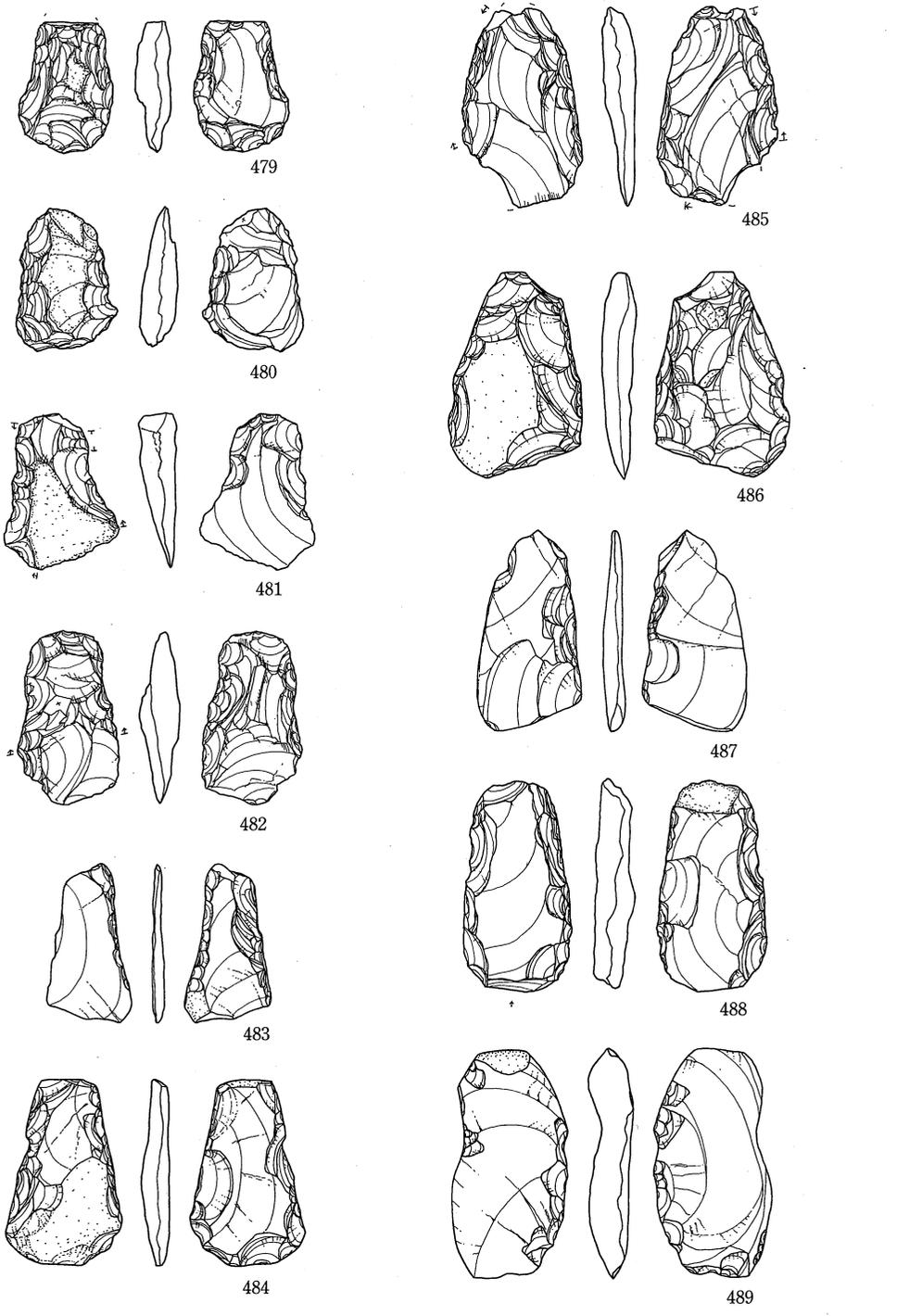
第110図 遺構外出土石器⑱



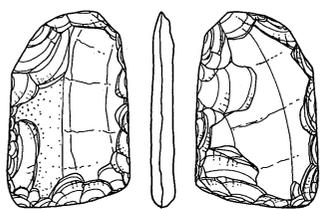
第111图 遺構外出土石器⑩



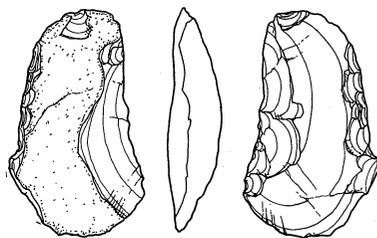
第112図 遺構外出土石器②



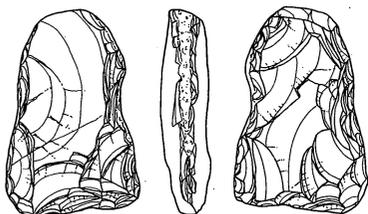
第113図 遺構外出土石器②



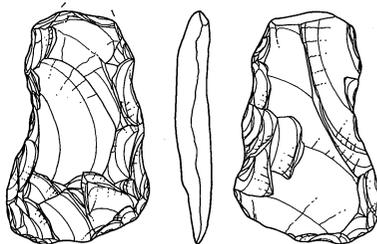
490



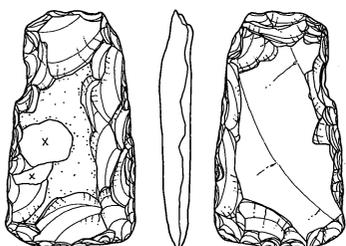
495



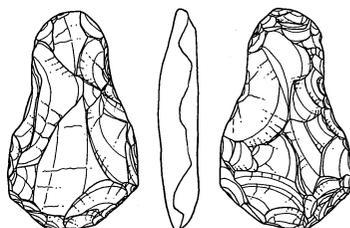
491



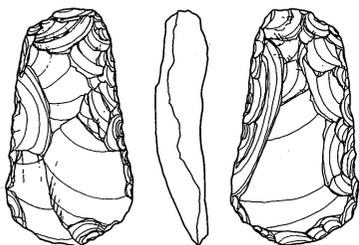
496



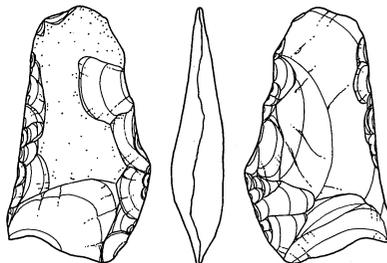
492



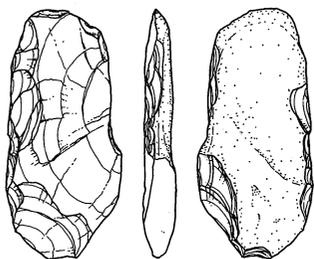
497



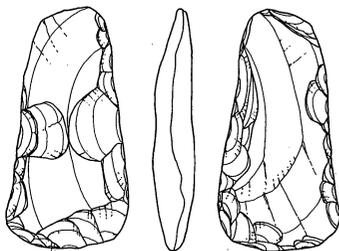
493



498



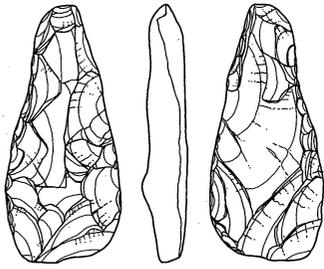
494



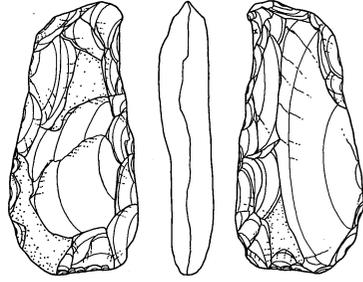
499

0 (1:3) 10cm

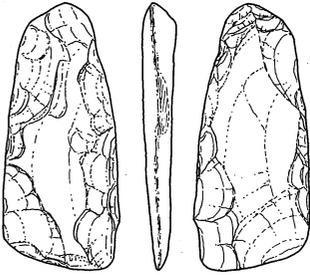
第114図 遺構外出土石器②



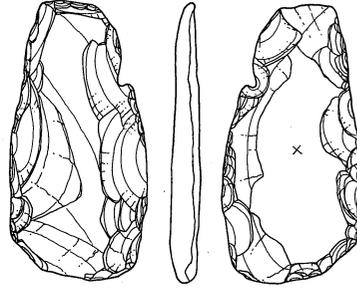
500



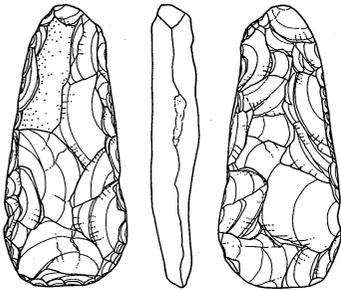
504



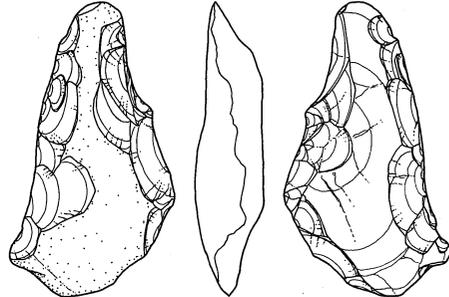
501



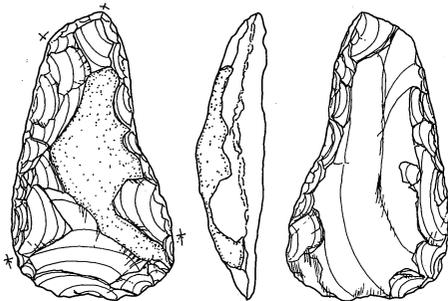
505



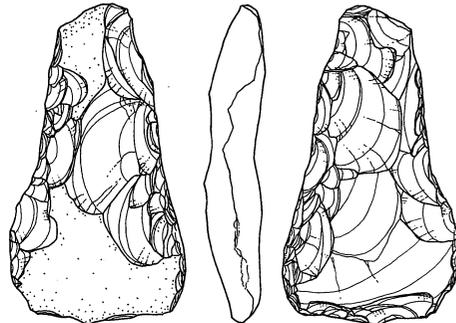
502



506



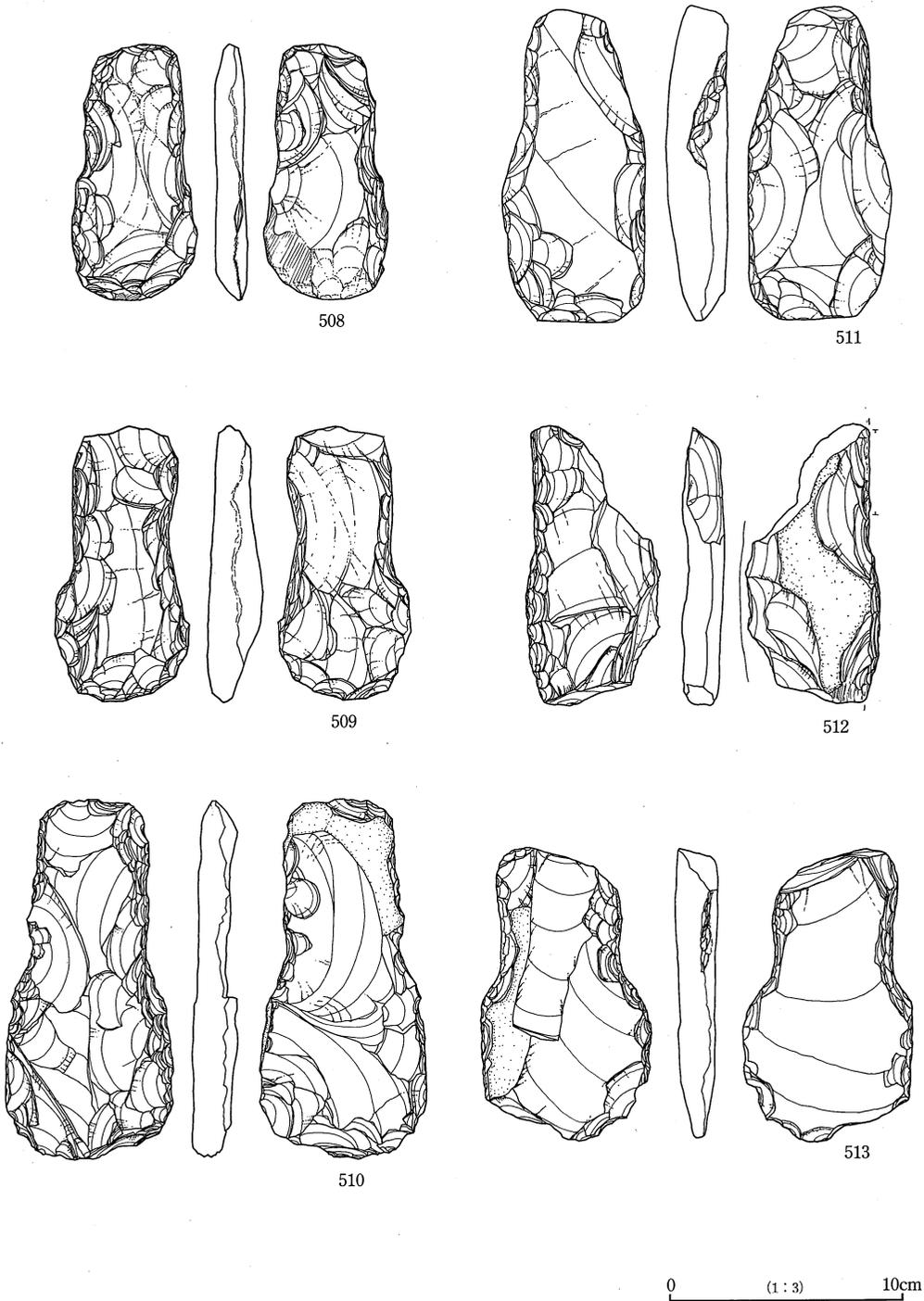
503



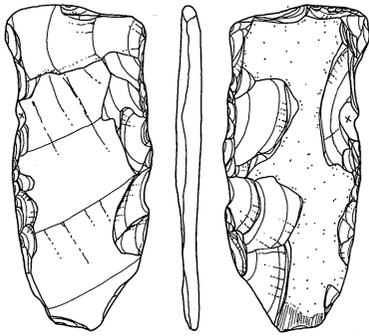
507

0 (1:3) 10cm

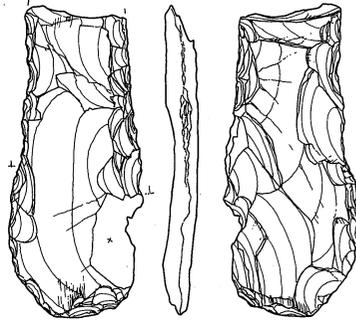
第115图 遺構外出土石器②



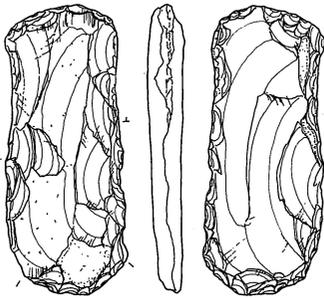
第116図 遺構外出土石器②



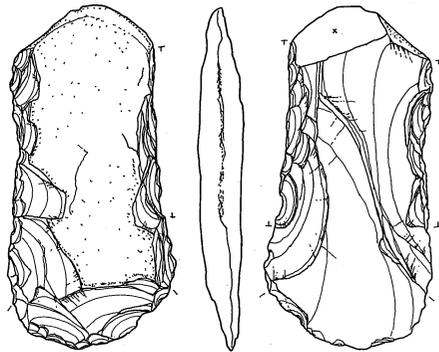
514



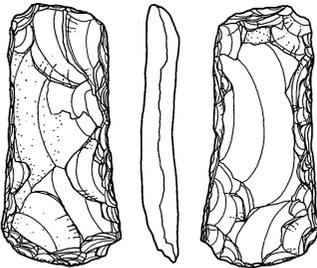
518



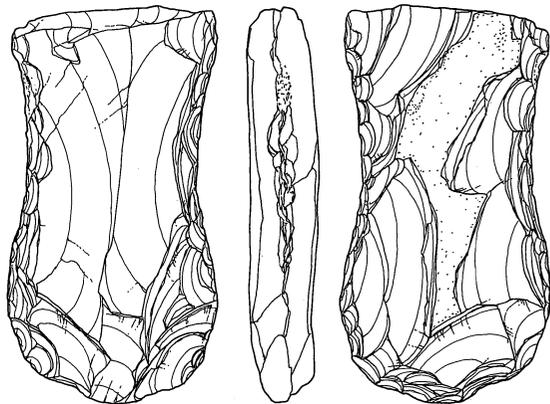
515



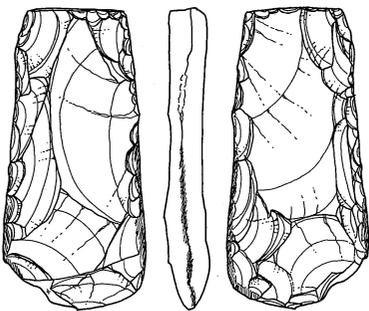
519



516



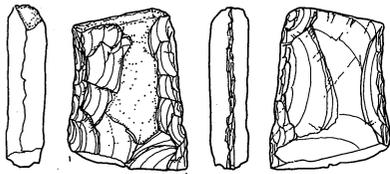
520



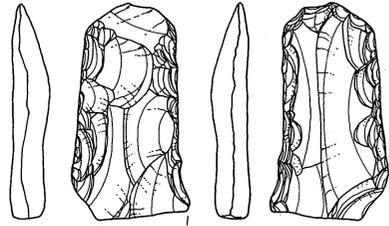
517

0 (1:3) 10cm

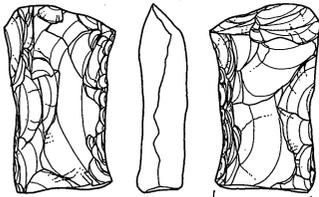
第117図 遺構外出土石器⑤



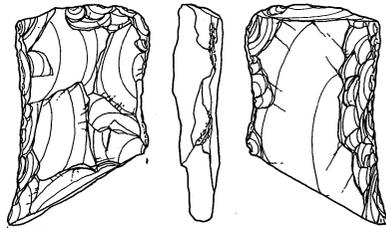
521



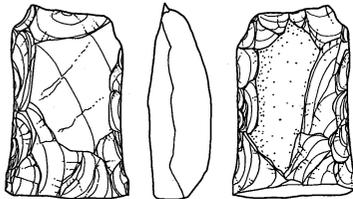
526



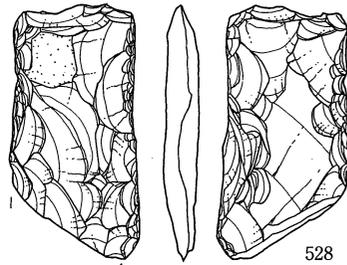
522



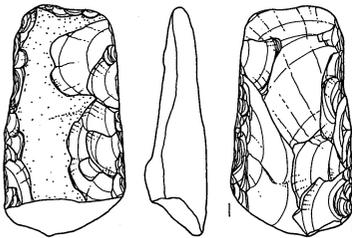
527



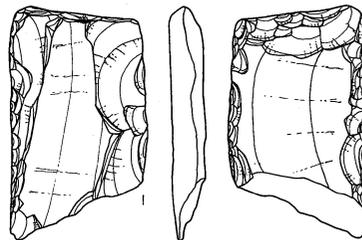
523



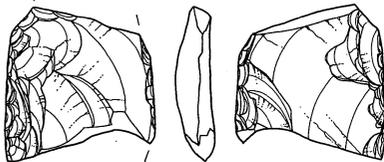
528



524



529



525

0 (1:3) 10cm

第118図 遺構外出土石器②⑥